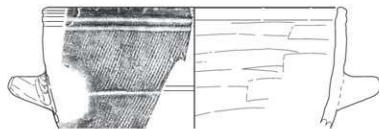


愛知県東海市

平成 25 年度
畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告書



2015 年
東海市教育委員会

愛知県東海市

平成 25 年度

畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告書

2015 年

東海市教育委員会



1 番間遺跡から常蓮寺を望む（西北から）



1 弥生土器（2地点 146SK・010SK 出土）



2 山茶碗と皿（1地点 060SK・2地点 223SK ほか出土）

序

はるか昔、万葉集の時代に「知多の浦」と歌われた遠浅の海が広がる伊勢湾に面する愛知県東海市は、北は名古屋市に接する知多半島の付け根に位置します。愛知県の語源となったとされる「あゆち湯」が広がっていた地域でもありますが、現在では海浜部の埋め立てが進み、我が国でも有数の工業地帯へとその姿を変えています。

この万葉集の時代よりもはるか以前、縄文時代から先人達は生活の足跡を残してきました。本書で報告する畠間、東畠、郷中遺跡もそうした先人達の暮らしぶりを現在に伝えている貴重な文化財です。

東海市では中心街整備事業にともない、失われてしまう埋蔵文化財を記録保存する発掘調査を平成11年度から続けてきました。本書では平成25年度に行われた調査成果を報告します。

今後、本書が既刊の報告書と合わせて地域の歴史研究に活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

なお、調査に際しては、地元の皆様ならびに関係者、関係諸機関より多大なる御理解、御協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

愛知県東海市教育委員会

教育長 加藤朝夫

例言

1. 本書は、愛知県東海市大田町に所在する畠間（はたま）遺跡・東畠（ひがしはた）遺跡・郷中（ごうちゅう）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は東海太田川駅周辺地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として、東海市教育委員会が同事業施行者である東海市長から依頼を受け、株式会社アコード名古屋営業所と業務委託契約を結び、「畠間・郷中遺跡発掘調査業務委託」として実施した。
3. 現地調査は、平成 25 年 8 月 26 日から平成 26 年 1 月 21 日まで実施し、遺物洗浄・注記等の 1 次整理作業は現地調査と併行して実施し、平成 26 年 3 月 26 日に終了した。
4. 遺物実測等の 2 次整理作業および本書の作成は、東海市教育委員会と株式会社アコード名古屋営業所が業務委託契約を結び、「畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告書作成業務委託」として実施した。
5. 報告書作成業務は平成 26 年 6 月 21 日から開始し、平成 27 年 3 月 31 日に本書を刊行した。
6. 発掘調査面積は以下の通りである。

郷中遺跡（1 地点） 313.73m²

畠間遺跡（2 地点） 630.17m²

東畠遺跡（3 地点） 25.52m²

7. 現地調査および整理作業は東海市教育委員会（社会教育課主任：宮澤浩司）監督のもと、中村毅（株式会社アコード調査技師）が担当した。
8. 現地調査における労務・安全衛生管理は大倉崇（株式会社アコード施工監理技士）が担当した。
9. 現地調査における測量業務および遺構図作成は星英司（株式会社アコード測量士）が担当し、測量助手の林貴光と稻垣耕作（株式会社アコード測量助手）がこれを補助した。
10. 遺物整理作業においてはナカシャクリエイティブ株式会社の協力を得た。
11. 本書は宮澤の監督のもと、中村が編集した。
12. 本書は第 1 章第 1 ～ 3 節を宮澤が、第 1 章第 4 節～第 4 章は中村が執筆した。
13. 付論第 1 章は大阪市立大学安部みき子氏、第 2 章は大阪府教育委員会宮崎泰史氏から玉稿を賜った。付論は平成 24 年度 7 地点出土動物骨に関するものである。
14. 本書で掲載した写真は中村が撮影した。ただし付論は除く。
15. 出土遺物と図面、写真、台帳類は東海市教育委員会が保管している。
16. 調査ならびに報告書の作成にあたって、下記の方々および機関からご指導とご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略 50 音順）

青木修 石黒立人 永井宏幸 中野晴久 中村賢太郎 畑山智史 早野浩二 坂野俊哉

愛知県教育委員会 公益財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター

東海市中心街整備事務所

凡例

- 遺跡の略称はこれまでの略称に今回の調査年度（西暦）を示す 13 を付したもので、以下の通りである。

郷中遺跡（1 地点）= G C 1 3

烟間遺跡（2 地点）= HM 1 3

東畠遺跡（3 地点）= HH 1 3

- 遺物注記や図面等の記録および本書の記述においても、上記の略称を用いている。
- 遺構番号は遺跡（調査区）ごとに通し番号を付けた。
- 遺構の種別記号は『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課編 2010 に従った。以下に主なものを記す。

S K = 土坑 S P = 柱穴（柱痕跡や形状から判断） S D = 溝 N R = 自然流路

S A = 檻列 S B = 掘立柱建物 S I = 竪穴建物 S X = 不明遺構・落ち込み等

- 本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VII系に準拠し、世界測地系にて表記している。方位は座標北を示す。標高は東京湾平均海面（T.P.）を使用した。
- 屑・遺構埋土および遺物胎土の色調は『新版標準土色帖』2006 年版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修を基準とした。
- 土質に関しては、粒子の大きさで区分し、小さいものから以下の通りとした。
粘土→シルト質粘土→粘土質シルト→シルト→砂質シルト→
極細粒砂→細粒砂→中粒砂→粗粒砂→礫砂→砂砾
- 本書で用いた遺物の年代観等に関する参考文献は本文末に記載している。
- 本書の遺構図は 1/100・1/50・1/20 を基本とし、一部にその他の縮尺を用いている。
- 遺物実測図は 1/4 を基本とし、一部にその他の縮尺を用いている。

目次

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 位置と歴史的環境	2
第3節 既往の調査	5
第4節 調査の方法	7
第5節 調査の経過	9

第2章 遺構

第1節 遺構の概要と基本層序	12
第2節 郷中遺跡（1地点）の遺構	13
第3節 畑間遺跡（2地点）の遺構	17
第4節 東畠遺跡（3地点）の遺構	30

第3章 遺物

第1節 遺物の概要	32
第2節 縄文～弥生時代の遺物	33
第3節 古墳時代後期～古代の遺物	33
第4節 中世の遺物	35

第4章 総括

第1節 包含層（Ⅲ層）について	38
第2節 中世町割り溝の検討	41
第3節 時期別の成果と課題	46
第4節 さいごに	48

遺構一覧表	51
遺物一覧表	63

付論

第1章 東海市東畠遺跡出土の埋葬馬の分析	78
第2章 東畠遺跡出土の埋葬犬について	94

挿図目次

第1図	調査地の位置	1	第16図	土坑ほか（2地点）	26
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第17図	097SK（2地点）	27
第3図	調査区配置図	6	第18図	125SK（2地点）	27
第4図	調査区・グリッド位置図	8	第19図	223SK（2地点）	28
第5図	基本層序模式図	12	第20図	233SX（2地点）	29
第6図	中世溝（1地点）	14	第21図	239SK（2地点）	29
第7図	040SD（1地点）	15	第22図	002・003SD（3地点）	31
第8図	002SK、060SK（1地点）	15	第23図	石鐵	32
第9図	土坑（1地点）	16	第24図	土製品・石製品	32
第10図	040SD（2地点）	18	第25図	縄文晩期～弥生時代前期の土器	33
第11図	130・131SD（2地点）	20	第26図	須恵器杯H	34
第12図	110・190SD、220SD（2地点）	21	第27図	239SK（2地点）出土須恵器	34
第13図	160・230SD（2地点）	23	第28図	灰釉陶器	35
第14図	170・210SD、180SD（2地点）	24	第29図	中世遺構（2地点）出土遺物	37
第15図	044SK（2地点）	25	第30図	中世町割り溝群	43

表目次

表1	既往の発掘調査報告書	5	表4	Ⅲ層出土遺物破片数	40
表2	遺構数一覧	12	表5	町割り溝群一覧	42
表3	中世遺構の出土遺物破片数	36	表6	時期区分と時期別遺構数	46

写真目次

写真1	航空写真（遺跡周辺の環境）	4	写真10	東烟遺跡調査状況	11
写真2	烟間遺跡調査前状況	9	写真11	119SP、121SP（2地点）	17
写真3	烟間遺跡西区機械掘削状況	10	写真12	040SD（2地点）	18
写真4	烟間遺跡130SD 調査状況	10	写真13	110SD、220SD 断面（2地点）	19
写真5	烟間遺跡西区調査状況	10	写真14	130・131SD 断面（2地点）	19
写真6	郷中遺跡搅乱掘削状況	10	写真15	097SK（2地点）	27
写真7	烟間遺跡中区調査状況	11	写真16	125SK（2地点）	27
写真8	烟間遺跡160SD 調査状況	11	写真17	砂層の皿状構造	30
写真9	烟間遺跡 223SK 調査状況	11			

図版目次

図版1	郷中遺跡 平面図	図版10	東烟遺跡 平面図
図版2	郷中遺跡 断面図	図版11	東烟遺跡 断面図
図版3	烟間遺跡 平面図（南西部）	図版12	弥生時代の土器
図版4	烟間遺跡 平面図（北西部）	図版13	古代の土師器・製塙土器
図版5	烟間遺跡 平面図（東部）	図版14	古代の須恵器
図版6	烟間遺跡 平面図	図版15	中世の土器・陶磁器1
図版7	烟間遺跡 断面図1	図版16	中世の土器・陶磁器2
図版8	烟間遺跡 断面図2	図版17	中世の土器・陶磁器3
図版9	烟間遺跡 断面図3	図版18	中世の土器・陶磁器4

写真図版目次

写真図版 1	1 郷中遺跡全景	写真図版 19	1 010SK
	2 郷中遺跡東部		2 010SK 出土土器
写真図版 2	1 郷中遺跡北壁断面（西側）		3 146SK 出土土器
	2 郷中遺跡北壁断面（中央）		4 146SK
	3 郷中遺跡北壁断面（東側）	写真図版 20	1 東畠遺跡第1面全景
写真図版 3	1 001SD、005SD、035SD 檢出		2 東畠遺跡第1面検出
	2 001SD、005SD、035SD	写真図版 21	1 東畠遺跡第2面全景
写真図版 4	1 035SD、001SD 断面		2 東畠遺跡第2面検出
	2 021SD、020SD 断面	写真図版 22	1 東畠遺跡南壁断面
写真図版 5	1 040SD		2 東畠遺跡西壁断面
	2 040SD 断面	写真図版 23	1 002・003SD
写真図版 6	1 040SD 檢出		2 002・003SD 断面
	2 002SK	写真図版 24	遺物 須恵器・山茶碗ほか
	3 007SK	写真図版 25	遺物 弥生土器・輸入陶磁器・ 土製品ほか
	4 009SK	写真図版 26	遺物 弥生土器
	5 060SK	写真図版 27	遺物 土師器・製塙土器・須恵器
写真図版 7	1 畑間遺跡西区全景南西部	写真図版 28	遺物 須恵器・灰釉陶器
	2 畑間遺跡西区全景北東部	写真図版 29	遺物 中世の土器・陶磁器 1
写真図版 8	1 畑間遺跡東区全景	写真図版 30	遺物 中世の土器・陶磁器 2
	2 畑間遺跡中区全景		
写真図版 9	1 畑間遺跡西区北東部検出		
	2 畑間遺跡西区南西部検出		
写真図版 10	1 畑間遺跡西区西壁断面		
	2 畑間遺跡西区北東部東壁断面		
写真図版 11	1 畑間遺跡中区北壁断面		
	2 畑間遺跡東区南壁断面		
	3 畑間遺跡東区東壁断面		
写真図版 12	1 110SD		
	2 110SD 断面		
写真図版 13	1 190SD 檢出		
	2 190SD 断面		
写真図版 14	1 160・230SD 檢出		
	2 160・230SD		
写真図版 15	1 160・230SD 断面		
	2 160・230SD 断面		
写真図版 16	1 170・210SD		
	2 170・210SD 断面		
写真図版 17	1 170SD 下層検出西側屈曲部		
	2 170SD 下層検出東側		
写真図版 18	1 223SK 遺物出土状況		
	2 233SX		

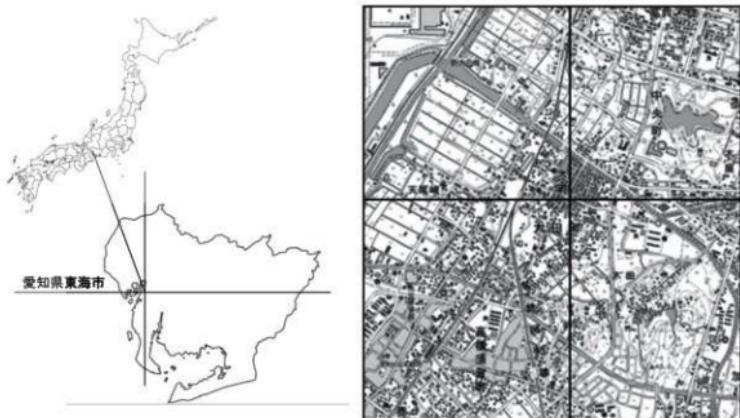
第1章 序章

第1節 調査に至る経緯

畠間遺跡、東畠遺跡及び郷中遺跡は愛知県東海市大田町に位置する（第1図）。平成8年度から10年度にかけて愛知県教育委員会が実施した知多半島遺跡詳細分布調査（註1）によると、畠間遺跡は古墳時代から中世にかけての遺物散布地、郷中遺跡及び東畠遺跡は弥生時代から中世にかけての遺物散布地とされている。

本市では、名古屋鉄道太田川駅周辺地区を中心市街地として位置づけており、平成4年度から土地区画整理事業及び鉄道高架事業を実施している。これらの事業に伴い、事業区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地について、その範囲および性格を把握するために平成8年度に試掘調査を実施した（註2）。この調査によって、事業区域内には畠間遺跡、東畠遺跡、郷中遺跡をはじめ、後田遺跡、龍雲院遺跡が存在することが確認された。この試掘調査の結果に基づき土地区画整理事業担当部局である中心街整備事務所と協議・調整をはかり、平成11年度から東海市教育委員会によって、主として道路整備用地の記録保存を目的とした緊急発掘調査を継続して実施している。平成25年度末時点での調査済み面積は18,475m²である。

平成25年度の調査は、原因者である東海太田川駅周辺地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成25年5月27日付け中第56号にて文化財保護法第94条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知があり、平成25年6月14日付け25教生第759号にて愛知県教育委員会教育長から発掘調査指示があった。これを受け、畠間遺跡、郷中遺跡範囲内の2地点940m²について、原因者である東海太田川駅周辺地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成25年6月18日付け中第77号にて発掘調査依頼があり、平成25年6月18日付け社第153号にて東海市教育委員会教育長から発掘調査を実施する旨回答し、現地調査業務及び1次整理作業について、平成25年7月25日に株式会社アコード名古屋営業所と業務委託契約を締結した。



第1図 調査地の位置

第2節 位置と歴史的環境（図2・写真1）

烟間、東畠、郷中遺跡は知多半島西岸の伊勢湾に面した海岸平地に展開する砂堆上に立地する遺跡である。知多半島西岸部には海岸部に向けて開けた海岸平地がいくつか展開するが、煙間、東畠、郷中遺跡が立地する東海市大田町周辺から、知多市北部の寺本にかけて南北に延びる海岸平地はその中でも最大のものである。この平地を構成する地層は沖積層であり、縄文海進の時期には水面下にあつたとみられる。その証左として、煙間、東畠、郷中遺跡の東側に延びる丘陵上に展開する高ノ御前遺跡が挙げられる。高ノ御前遺跡からは市内最古の縄文時代前期の土器が出土している。高ノ御前遺跡の現在の海拔高は12m程である。

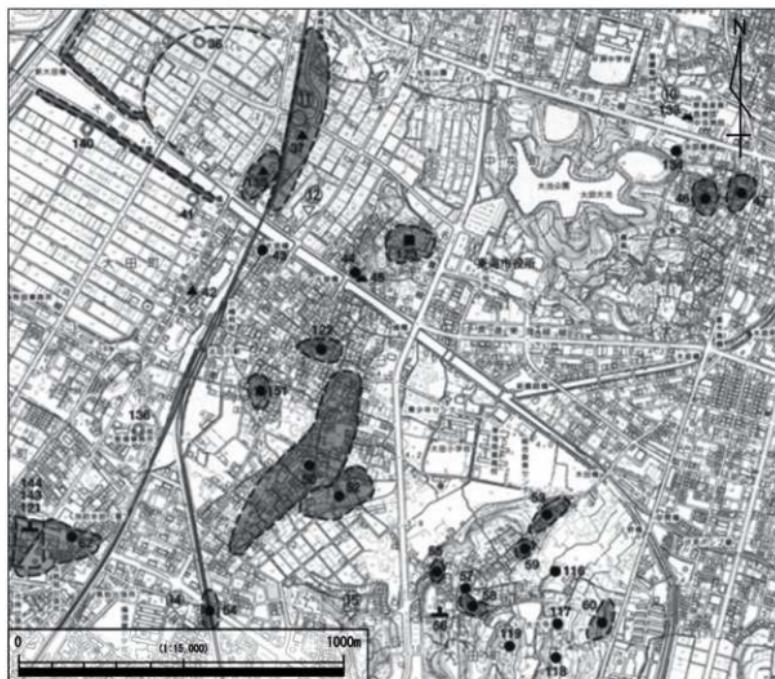
その後、煙間、東畠、郷中遺跡周辺が陸地化したのは、海面が後退する縄文時代中期から後期にかけてとみられ、東畠遺跡からは当該期の縄文土器が少なからず出土する。恐らく縄文時代中期から後期には砂堆と呼ばれる砂の高まりが形成され、現在遺跡の範囲として捉えている海岸平地が陸地化していたと考えられる。

砂堆とは、伊勢湾を河口に持つ木曾川や、知多半島の丘陵部から流れる小河川や、波による陸地の浸食等、様々な作用によって供給された砂が、伊勢湾の沿岸流等によって運ばれて海岸に沿って堆積したものと考えられており、その形成時期の違いによって本遺跡周辺では3条の砂堆群がみられる。最も海岸から奥の砂堆群から順に第1、第2、第3砂堆と呼んでおり、煙間、東畠、郷中遺跡は第1砂堆に位置する（写真1）。

第1砂堆は最も東西幅が広く大規模であるが、南北方向は丘陵部に規制され、1km程にとどまる。この丘陵部には北側の丘陵上に真言宗の古刹である弥勒寺が、南側丘陵上に天台宗の古刹である般福寺が所在しており、両者に挟まれた位置に煙間・東畠遺跡の集落が展開することは示唆的である。この他第1砂堆状には、最も北側の弥勒寺が立地する丘陵山裾に王塚古墳（古墳時代・滅失）、神宮前遺跡（古墳～中世）が所在する。王塚古墳は、昭和初期の道路拡幅の際に石室などが出土したと伝えられ、出土遺物の一部（須恵器短頸壺・杯蓋）が東海市立郷土資料館に所蔵されている他は詳らかではない。同じく神宮前遺跡についても遺物散布地として知られてはいるが、発掘調査が実施されておらず、詳細は不明である。なお、王塚古墳、神宮前遺跡の両遺跡のすぐ南を流れる大田川は、江戸時代初期に尾張藩2代藩主徳川光友により、横須賀御殿の建築に際して新たに開削された流路であり、現在では大田川によって断絶されているこれらの遺跡は、近世までは煙間、東畠遺跡とつながっていたことから、現在の景観とは異なる一体の遺跡群としてとらえる必要があろう。

第2砂堆は第3砂堆と比べて幅が狭く小規模である。名鉄太田川駅の辺りから北側の大宮神社辺りまで広がっている。この砂堆上には後田遺跡（古墳～平安）が位置する。後田遺跡周辺は宅地化が進んでいるが、製塩土器が採集されており、後述する上浜田遺跡、下浜田遺跡と密接に関連した遺跡であると考えられる。この砂堆の北端に位置する大宮神社は創建時期が不詳であるが、東海市史によると、平安時代に大郷（大田町周辺）が熱田神宮の荘園となるに伴って、荘園鎮守神として熱田から勧請されたと推定されている。

第3砂堆は形成時期が最も新しいが、最も規模が大きく、旧海岸線沿いに知多市北部まで延びている。知多市域ではこの第3砂堆上に弥生時代以降大規模な集落が形成された。本市域では古墳時代中期以降の著名な製塩遺跡として知られる松崎遺跡（古墳～平安）や上浜田遺跡（古墳～平安）、下浜田遺跡（奈良～平安）が存在する。



36 浜新田堤防	51 龍雲院遺跡	62 鳥帽子遺跡	135 上浜田遺跡
37 松崎遺跡	52 東畠遺跡	116 上前田遺跡	136 御州浜庭園跡
41 後浜新田堤防	53 高ノ御前遺跡	117 西広1号遺跡	140 川南新田堤防
42 下浜田遺跡	54 太田川敷諸切川塚	118 西広2号遺跡	143 鶴川半斎星敷
43 後田遺跡	55 庄之脇遺跡	119 山畑遺跡	144 横須賀代官所
44 神宮前遺跡	56 木田城跡	121 横須賀御殿跡	
45 王冢古墳	57 木田遺跡	122 郷中遺跡	
46 峰畠貝塚	58 下畠遺跡	123 弥勒寺遺跡	
47 北星敷遺跡	59 前畠遺跡	133 丸根古墳	
50 番間遺跡	60 北広遺跡	134 大池北貝塚	

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡



写真1 航空写真（遺跡周辺の環境）

撮影 国土地理院

年月日 1961年5月1日

高度 2000m

周辺の状況を加筆（上が北）

参考文献 1 より引用

概観すると、畠間、東畠、郷中遺跡の所在する大田町周辺では、最も奥側の第1砂堆上に中心的な集落が立地し、第2、第3砂堆が積極的に利用されるのは古墳時代以降ということになる。これは第3砂堆上に弥生集落が展開する知多市とは様相を異にする。その理由としては、大田町周辺では内陸側に奥まった、いわば谷状地形であったことから、第1砂堆が大きく発達し、居住に適していたことが考えられる。

この大田町周辺には上記の遺跡の他、主に弥生時代の集落である鳥帽子遺跡（縄文～近世）、尾張藩2代藩主徳川光友の浜御殿である横須賀御殿跡などの遺跡が所在する。また、近世には第3砂堆の先海岸部が新田開発されて埋め立てられた。川北新田、川南新田、浜新田がそれである。中でも浜新田からは圃場整備に伴って新田堤防の枠（いり）が出土している。こうした近世の新田開発や大田川の付け替えに加え、現代の埋立てによって弥生時代以来の景観は失われているが、遺跡の分布や僅かに残る砂堆の痕跡などから、かつての環境を復元することができる。

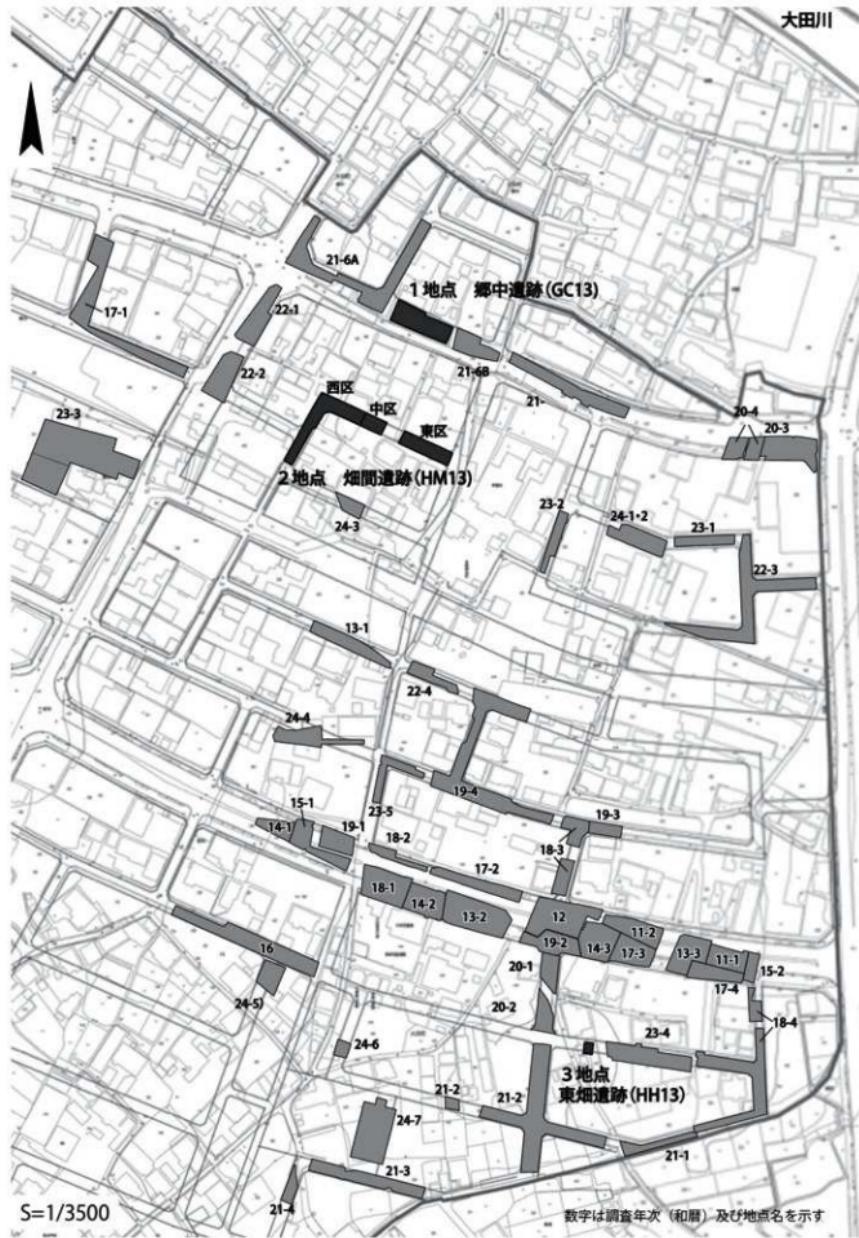
第3節 既往の調査

畠間遺跡、東畠、郷中遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてはいたが、これまで発掘調査は実施されていなかった。初めて調査されたのは、前述したとおり平成8年度に実施された中心街整備事業に先立つ試掘調査である。調査では土地区画整理事業が予定されていた区域内に20箇所のトレンチを試掘した。このうち畠間遺跡、東畠遺跡、郷中遺跡に関係するトレンチは16箇所に上る。この試掘調査によって從前範囲が不明であった各遺跡について、概略ではあるが遺跡の範囲を特定することができた。各遺跡の時期については、畠間遺跡については中世から近世の時期、東畠遺跡については弥生時代中期から古墳時代前期の時期と古代から中世の時期であることが推測された。

その後、平成11年度から中心街整備事業に伴う緊急発掘調査により畠間遺跡、東畠遺跡それぞれの発掘調査が行われ、各遺跡の様相が明らかとなってきた。既往の調査地は第3図に示した通りであるが、各年次の調査は土地区画整理事業に伴う家屋移転の進捗に応じて調査を実施しており、小規模な調査とならざるを得ない。調査開始時の平成11年度から平成19年度までは東海市教育委員会直営で調査を実施した。この間の調査成果については概要報告（註3）を行うと共に、並行して整理作業を実施し、平成25年度に報告書を刊行した。既往の調査で刊行した発掘調査報告書は表1のとおりである。

調査年次	書名	発行機関	編集機関	発行年
平成20年度	愛知県東海市畠間・東畠遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際航業株式会社	2009年(平成21年)
平成21年度	愛知県東海市畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	安西工業株式会社名古屋支店	2012年(平成24年)
平成22年度	愛知県東海市平成22年度畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	2012年(平成24年)
平成23年度	愛知県東海市畠間・東畠・龍宮院遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	2013年(平成25年)
平成24年度	愛知県東海市平成24年度畠間・東畠遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	2014年(平成26年)
平成11年度～19年度	愛知県東海市畠間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告 －平成11～19(1999～2007)年度調査－	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	2014年(平成26年)

表1 既往の発掘調査報告書



第3図 調査区配置図

第4節 調査の方法

遺跡略号・調査区・遺構番号・遺構種別

遺跡調査略号は既往調査を踏襲し、それぞれに2013年度を示す13を付し、郷中遺跡は「GC13」、畠間遺跡は「HM13」、東畠遺跡は「HH13」とした。図面や遺物注記などの記録にこの表記を用いている。

調査区は1～3地点に設定されており、1地点が郷中遺跡、2地点が畠間遺跡、3地点が東畠遺跡にあたる。2地点（畠間遺跡）は生活道の確保等の事情から調査区を3分割して行ない、現地調査時の記録ではそれぞれ西区・中区・東区（第3図）とした。

遺構番号は各地点で種別に関係なく通し番号を付けた。遺構種別は凡例に示した通りである。もっとも種別記号つまり個々の遺構の性格は様々な解釈や今後の周辺の調査結果によって変わり得るものであろう。遺構番号は作業上の絶対性があるが、遺構種別は考古学的にも相対的であると考えており、遺構表記は001SKのように、先に番号、後に種別を付した。なお、各地点ごとに番号を付けたため本報告では区別を要する際には遺構番号の後に地点名を付して区別する。

調査記録

遺構の図面記録は基本的に電子平板によるデジタル測量を行なった。重要な遺構は写真測量なども併用した詳細な測量を行っている。重要な出土遺物に関しては、出土状況図の作成に加え、出土地点を座標で計測し、それぞれの遺物に取上げ番号を付けた。

写真記録は35mmフィルムのカラーリバーサルと1000万画素以上のデジタル一眼レフカメラを使用した。作業状況の記録はデジタルカメラのみを使用した。

測量・グリッド設定（第4図）

調査における測量は2級基準点を基点とし、従来通り世界測地系座標による。また、遺物の取上げや遺構位置の記録等に、これまで同様にグリッドを5mに設定した。この5mグリッドは国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を基軸とし、7J 10tのような4ケタのアルファベットと数字で表記される。この表記は、国土座標において1000m×1000mの大区画を設定し、その中の位置を示すものである。大区画をさらに100m×100mに分割し、北～南方向を1～10の数字で、西～東方向をA～Jで示す。この一例が7Jである。次に、各100mグリッドをさらに5m×5mの小グリッドに分割し、北～南方向を1～20、西～東方向をa～tで示した。これらの業務は測量士が担当した。遺構の検出・掘削および搅乱

既往調査と同様に基本的には1面調査である。層序については第2章を参照されたいが、まず表土や客土などの近現代層（I層）と近世層（II層）の大部分を重機によって掘削し、以下包含層（III層）を人手によって掘り下げ、地山面（V層上面）を調査面とした。

ただし、完全に地山面を検出する以前の包含層掘削段階で認識出来的遺構にも対応し、調査・記録を行なっている。ゆえに各遺構の検出レベルには差がある。なお、東畠遺跡については、日程等も考慮した上で2面調査を実施した。

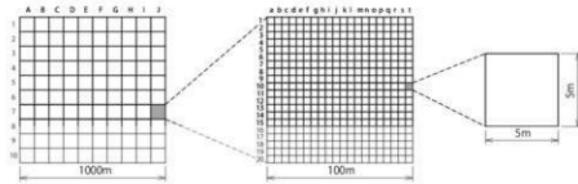
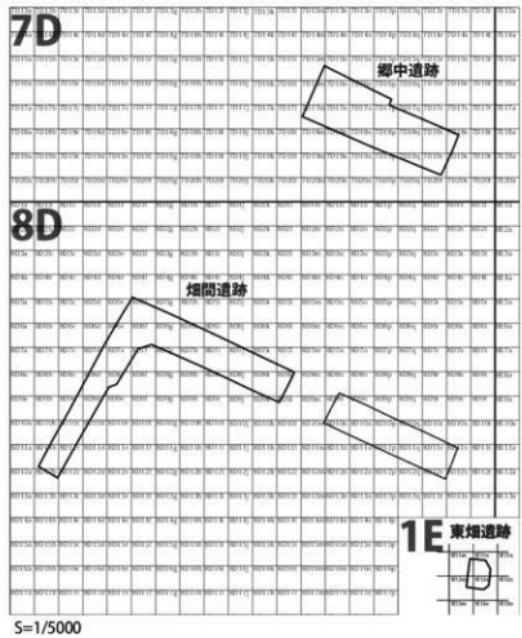
今回の調査では遺構と搅乱の分別は不明確になってしまった。II層からの掘り込みが確認できたものや18世紀後半以降の陶器や物品が出土するものは搅乱としたが、遺構とした中に原則的には搅乱とするものが含まれていることは間違いない。また、遺構として調査・記録したものが、出土遺物から後日搅乱と判明したものもある。現地調査中に判明した場合は搅乱としたが、調査終了後につい

ては近世もしくは近現代遺構として記録を残している。ただし次章以降で触れる中世溝を踏襲する近世溝については調査対象=遺構としている。

記録整理・遺物整理・報告書作成

写真や図面等の調査記録の台帳作成や整理業務は現地調査と併行して行っていたが、現地調査終了後に校正等を行ないまとめた。遺物への注記はジェットマーカーの自動注記マシン用い、遺跡番号と遺構番号・種別を注記した。先述の取上げ番号を付けた遺物は、重要遺物として、取上げ番号も注記した。

遺物の実測は通常の手測り実測であるが、トレースはデジタルトレースを行なった。報告書の作成においては、遺構図、写真図版も含め、すべてデジタル編集で行なった。



第4図 調査区・グリッド位置図

第5節 調査の経過

委託契約成立後の平成 25 年 7 月 26 日から準備作業を開始した。当初は郷中遺跡（1 地点）から調査を始める予定であったが、移転状況から先に畠間遺跡（2 地点）の西半分（以下、西区と表記）から調査を開始することになった。

現地調査は社会教育課職員の監督の下、8 月 26 日に開始した。まず畠間遺跡西区の重機による表土掘削を開始し、29 日には完了した。層序等の詳細は第 2 章を参照されたいが、II 層上面まで重機による掘削を行ない、そこから人力による掘り下げと遺構の検出・調査を併行して行ない、最終的に地山面まで到達した。砂層であるため、遺構の輪郭が崩壊しやすく、非常に注意を要する遺跡であった。9 月には調査区北西部で近代墓の埋葬人骨が 2 体見つかった（註 4）。連日 35℃ を超える猛暑が続いたが、スタッフの体調に配慮しながら調査を進め、9 月 20 日に全景撮影に至った。その後、補足調査を行い 9 月 27 日に畠間遺跡西区の調査は完了した。

続いて、郷中遺跡（1 地点）の重機による表土掘削を 10 月 2 日より開始した。この調査区は最近の盛り土が 50cm 以上あったことから、先に盛り土だけを掘削し、再度近世以降の土層を重機にて掘削した。表土掘削段階で多くの近世後半から近代の擾乱が確認され、遺構面の多くが失われていることが判明した。安全に考慮しつつ、重機掘削と併行して人力による擾乱の掘削も進めた。10 月 4 日には重機による表土掘削が終了、その後、10 月 10 日までは擾乱掘削が続いた。遺構は少なく、全景撮影は 10 月 22 日に実施、同日に補足調査も行ない、調査は完了した。

続いて、畠間遺跡東半の調査を行なったが、周辺住民の生活道の確保および埋設管の問題から調査区は 2 つに分割された。それぞれを中区と東区とした。重機による表土掘削は 10 月 30 日に開始し、11 月 1 日に終了した。多くの溝が検出され掘削土量は多かったが、過ごしやすい季節であり調査は順調に進み、11 月 19 日に全景撮影に至った。その後、補足調査を行ない、11 月 22 日に畠間遺跡中区と東区の調査を完了した。

調査中に東畠遺跡にあたる地点 25m²について、区画整理の進捗上、調査する必要が生じたことから、平成 25 年 12 月 5 日付けで変更契約を締結し、調査地点を追加した。追加した調査地点については 3 地点とし、2 地点東側の調査終了後、平成 26 年 1 月 15 日から調査を実施した。同年 1 月 21 日に現地調査は終了した。

出土遺物と図面等の整理作業および報告書作成は現地調査と併行して開始した。遺物の洗浄は現場事務所にて雨天の日等を利用して行なった。遺物の注記作業および図面の整理・校正是平成 26 年 1 月～3 月の間に行なった。同年 3 月 25 日付けでこれらの成果品を納入した。

平成 26 年度には報告書作成を行った。東海市教育委員会と株式会社アコード名古屋営業所は 2 次整理作業及び報告書作成業務について、業務委託契約を平成 26 年 6 月 20 日に締結した。その後社会教育課職員の監督の下、株式会社アコードの整理事務所において、遺物の接合や実測等の記録化作業などの 2 次整理作業及び報告書作成業務を実施し、本報告書の刊行に至った。



写真2 畠間遺跡調査前状況（西から）

《調査日誌抄録》

130826 (月) 曇り一時雨

本日より烟間遺跡（2地点西区）の調査を開始。2時から調査区東側より機械掘削を開始。

130828 (水) 晴

機械掘削は一旦方向を変え、南端から開始した。遺物は8世紀ごろの須恵器杯蓋や須恵器のタタキ窓など古代のものが含まれる。掘削と並行して壁面整形、北壁・西壁トレント振削を行った。

130830 (金) 晴時々曇り

包含層上面の精査を行った。まずは撹乱や上層（近現代層）の残る部分を順にし、その掘削を行った。この作業を全体で行い、その後、どの層上面で本調査を行うのか等、調査方針を決定する。

130905 (木) 曇り後晴

調査区南側エリアは、南端から北まで精査を再度行った。この作業は一部に残るII層の掘り下げも兼ねている。調査区西端には、ほぼ調査区と併行する落ち込みがある。当初は近代陶器等が含まれることから単純に撹乱と考えていたが、埋土が変わった（上層は汚い埋土、下層は暗灰色の中粒砂）下層には中世遺物しか含まれていない。中世の大きな溝や落ち込みによって残された堆みが近世以降に埋まつた可能性もある。落ち込み遺構 = 0405Xとした。

130910 (火) 曇り

柱穴や溝は半掘もしくはベルトを残し掘削し、順次記録を進めた。調査区北東、北壁沿いで暗色の極細粒砂層が広がっていた。この落ち込みを110として掘り下げた。その下に溝があるようだが、水が染み出てくるため詳細不明。004SKは長方形の土坑で墓の可能性を考慮し4分割で掘削調査したが、墓と考える積極的な証拠は見出せなかつた。

130917 (火) 晴

台風による雨水の排水、崩落した壁面の整形等の後始末を行なった。

130918 (水) 晴

グリッド8D5g、調査区中央北壁付近で埋葬人骨が検出された。近世以降の新しい埋葬の可能性が高い。

130920 (金) 晴

烟間遺跡（2地点西区）の全景撮影を高所作業車から行なった。電線や敷地の関係で、調査区全体を撮影することができず、南側と東側を分けて撮影した。

130925 (水) 晴

調査区中央（8D6e）あたりにやや暗色を呈し、縦まりの強い層が幅広い構状（153SX）に見られた。地山層の一部と考えていたが、確認調査として掘削したところ、弥生土器片が多く出土した。

131001 (水) 晴

郷中遺跡（1地点）の機械掘削開始。

131008 (火) 曇り

撹乱の掘削を行なった。18世紀後半～現代の撹乱が非常に多い。

131011 (金) 晴

調査区東側の検出と撹乱の掘削を行なった。調査区北東隅には2条の溝がある。09年調査のSD5が同じ方向の溝である。

131015 (火) 雨

雨天のため調査休止。台風接近のため現場養生見回り等行なった。

131022 (火) 曇り

全景撮影と北壁断面の撮影を行なった。これにて郷中遺跡の調査完了。



写真3 煙間遺跡西区機械掘削状況



写真4 煙間遺跡 130SD 調査状況



写真5 煙間遺跡西区調査状況



写真6 郷中遺跡撹乱掘削状況

131030 (水) 晴

烟間遺跡（2地点東半）の機械掘削開始。調査区の北側には110SDに続く溝があるようである。2地点東半の調査区は生活道確保等の事情によって二つに分断されている。よって、それぞれを東区と中区とする。

131105 (火) 晴

東区西端は近世の擾乱が多い。ただし、擾乱と遺構の区別が確定的でないもの、遺構（近世前半以前）の可能性のあるものは遺構として調査・記録を行なう。

131111 (月) 曇り時々晴

東区のみ作業を行なう。東西溝170の掘削を行なった。プランでは溝中央=最上層の貝殻充填層とそれ以外に分かれるだけと思われたが、断面等の観察で複数の溝の重なりであることが判明した。

131112 (火) 曇り

170SDと重なる最も古き層の溝を210として掘削した。210からの出土遺物は少なく、弥生土器や須恵器が主である。ただし、170と全く同じプランの溝であることから210だけが古い遺構とは考えにくい。

131113 (水) 晴

160SD 西端でまとめて遺物が出土した。土坑と判断し、223SKとした。この出土状況を撮影した。

131118 (月) 晴

明日の全景にむけた準備作業を行なった。中区は検出過程でいくつかの遺構を見つけ調査した。中日新聞東海通信局の取材（記者=有川正俊氏）。

131119 (火) 晴

全景撮影を行なった。中区では包含層もしくは地山の違いと考えていた土質の違うところを調査した。その結果、中区南中央の小難を含む中粒砂層は大きな土坑と判明。明日は会社業務の都合により調査休止。

131121 (木) 晴

補足調査を行なう。中区の大きな土坑（233SK）は径4m深さ50cm以上をはかる。井戸であろう。ただし、井戸枠等はまったくない。

131122 (金) 晴

東区の西壁、南壁の記録を行なった。一部確認のための撮影等を行ない調査終了。

140115 (水) 曇り

東堀遺跡（3地点）の調査開始。機械により表土から旧耕作土を掘削した。II層掘削後、III層（平成23年度調査のIII層か？）の上面で遺構検出を行ない、撮影した。2011年度調査の011SDに続く溝が検出された。報告書では、この溝は地山からの遺構であり、かつ高蔵式期の堅穴建物より古い遺構とされているが、検出した溝は明らかに包含層上面からの遺構である。

140116 (木) 晴

III層上面（第1面）の遺構調査を進めた。002SDの遺物には中世の遺物も含まれる。この溝と重なり暗褐色理土の003SDがある。当時は003SDも002と南北に並び、わずかに切り合う溝と思ったが、トレンチで確認した結果、002SDの下にも広がる幅約2m、深さ約50cmの大きな溝であることが判明した。平成23年度調査の011SDは中世遺物を含む002SDではなく（この溝は認識できなかったもしくは失われていた？）、003SDであろう。

140121 (火) 晴

午後には最終的な全景と南・西壁面断面の撮影・記録を行なった。調査終了。



写真7 番間遺跡中区調査状況



写真8 番間遺跡 160SD 調査状況



写真9 番間遺跡 223SK 調査状況



写真10 東堀遺跡調査状況

第2章 遺構

第1節 遺構の概要と基本層序

1. 遺構の概要

今回の調査で検出された遺構の総数は315基になる。調査区・種別の遺構数は表2の通りである。種別では柱穴と土坑が多い。しかし、柱穴は明確に建物を構成すると判断できるものではなく、土坑も多くの性格不明である。ただし、溝に関しては、一定量の出土遺物や主軸の方位などから時期や性格について推察することが可能である。

	郷中遺跡	畠間遺跡	東畠遺跡
SD	9	28	7
SK	20	77	13
SP	26	82	5
SX	5	31	12
遺構数	60	218	37
面積(m ²)	313	630	25
密度/m ²	0.19	0.34	1.48

表2 遺構数一覧

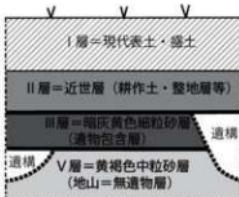
主に弥生時代（中期と終末期）、古代（奈良時代）、中世（鎌倉時代）の遺構が存在する。しかし、弥生時代や古代の遺構については、まとまって遺物が出土した遺構、竪穴建物や溝のような性格が明確な遺構は無く判断は難しい。多くの遺構は帰属時期の決め手に欠けている。近世・近代以降のものも多いと思われる。出土遺物や層位関係等から判断できたものについては、当遺跡の区分案（註5）に沿った時期を一覧表に記し、時期別遺構数は第4章第3節（表6）に掲載している。

次節から各遺跡検出の遺構について詳述してゆく。まず概要を述べ、次に重要な遺構について種別ごとに記述する。他の遺構に関しては、遺構一覧表と全体図を参照されたい。

2. 基本層序と遺構面（第5図）

基本層序は各地点とも共通であり、本節でまとめて記述する。基本的には2014年に刊行された平成11～19年度の調査報告書で示されたI～V層に分けた層序と一致する。現代表土や盛土がI層、耕作土や整地層などの近世層がII層である。II層は様々な性質の層があるが、郷中遺跡（1地点）と畠間遺跡（2地点）では多量の貝殻の存在が特徴的である。東畠遺跡（3地点）では、他の2地点に比べII層は薄く、耕作土のみである。III層は暗灰黄色～ぶい黄褐色の細粒砂層、いわゆる遺物包含層である。今回の調査区では縄文～弥生時代の包含層（IV層）ではなく、III層の下はV層である。V層はいわゆる地山（基盤層）であり、灰白色～黄褐色の中粒砂層である。

ここで問題となるのはIII層の時期である。既往調査では、III層（もしくはIV層相当の層）を中世以降に形成されたと認識し、中世遺構も地山上面からと報告されている事例がある。しかし、今回の調査で検出された中世遺構はすべてこのIII層上面からの遺構である。またIII層と遺構埋土の類似による認識の困難などからIII層上面から遺構が形成されていることが見逃されていた可能性もある（註6）。確かにIII層上面で確実に遺構を認識することは困難であり、本調査も期間等の制約も考慮した上で、III層段階で認識できた遺構は調査しつつも、基本的にはV層上面を検出面とする1面調査とした。ただし、東畠遺跡（3地点）に関してはIII層上面とV層上面の2面調査を実施した。III層の形成時期等の問題は、第4章第1節で触れており参考されたい。



第5図 基本層序模式図

第2節 郷中遺跡（1地点）の遺構

1. 概要（図版1・2）

郷中遺跡（1地点）は、あたかも佐渡島状の平面形を呈する第1砂堆西側のくびれ部付近に位置する。当時は調査出来なかった平成21年度調査6A区と6B区の中間地点である。

郷中遺跡（1地点）からは計60の遺構が見つかった。その内訳は土坑20基、柱穴26基、溝9条、その他・不明が5基である（表2）。この調査区は近世後半～近現代の開発に伴う搅乱が非常に多く、残存する遺構面は極めて狭いものであった。また、開発時の削平等の結果、包含層（Ⅲ層）の残存状況も良くなかった。調査区中央北側と南東の大きな搅乱は現代搅乱、西南側の比較的小さな搅乱は近世後半～近代のものが主であった。第1章でも述べたように、Ⅱ層からの掘り込みや明らかに新しい埋土や遺物から近世後半以降と判断出来るものは搅乱としたが、判断出来ないものは遺構として調査している。調査区西南部で検出された030SP・060SP・061SPは根石の据えられた柱穴である。これらは掘立柱建物を構成するものであるが、遺物などからその時期は近世と考えられる。遺物も無い時期不明遺構の中にも搅乱相当の新しいものもあると思われ、遺構の帰属年代の判断も難しい。しかしながら、既往の調査成果などから考えて、主な遺構の帰属年代は12～14世紀ごろを主とした中世と考えられる。弥生土器や古代の須恵器なども比較的多く出土しているが、多くは包含層や中世遺構への混入遺物である。

調査区の東北側には溝が集中して存在する。020SDは平成21年度調査のSD5と同一の溝と考えられる。ほかに数条の同方向の溝が確認できた。040SDは当初は円墳や周溝墓と思われたが、中世の溝である。調査区の中央南側で長軸1m以上の楕円形から隅丸方形の土坑が数基見つかっている。ただし、特に遺構の性質を示すような遺物や埋土の状況は観察されなかった。その多くは中世の土坑であるが、002SKと016SXは古代以前の遺構の可能性が高い。

2. 溝

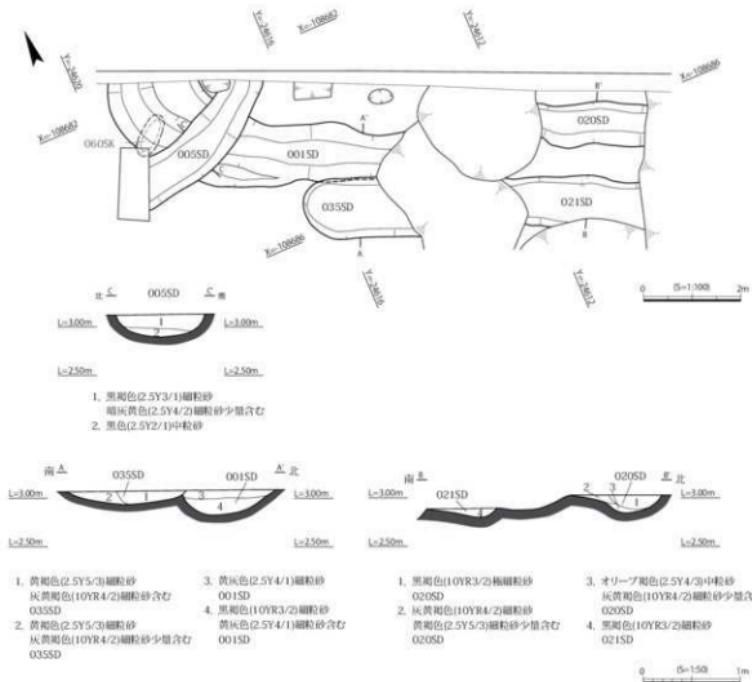
001SD、020SD、021・035SD（第6図）

調査区北東部で検出した東西方向の溝群である。主軸はE-20°-Sである。001SDは調査区中央で北壁に向かって曲がり、調査区外に延びる。搅乱を挟み東側で少し主軸がずれて位置する020SDは平成21年度調査6B地点005SDと同一溝である。

021SDは020SDの南に位置する。平成21年度調査6B地点では搅乱のため失われているようだ。035SDと021SDでは後者の方が深いが、同一溝と考えて問題無いであろう。調査時に別番号を付したため変更はしなかった。001SDと035SDは、断面観察から035SDが新しいと判断したものの、切り合う部分が極めて小さく不安も残る。

001SDと020SDの関係性についてあるが、これは主軸がずれた状態で一連の溝が続いているものと考えている。このように主軸がすれたり、隙間の空いた位置関係で溝が連続する様相は畠間遺跡（2地点）の溝群にも見られる。しかし、この‘ずれ’が当時の生活面でも見られたもので、そこが通路等の機能を有していたのか、単なる掘削単位で溝底部のみの現象に過ぎないのか、その検討は課題である。このような溝は県内の他の遺跡でも報告されている（註7）。

出土遺物はいずれの溝も少なく、001SDでは弥生土器の破片が多い。しかし、尾張型第5～7型式の山茶碗の破片が含まれており、020SDからはほぼ完形の尾張型第8型式の山茶碗（図版15-162）が出土している。また、020SDと同一溝である平成21年度の005SDからも同時期の遺物が出土しており、これらの遺構の帰属時期は13世紀～14世紀初めと考えられる（註8）。



第6図 中世溝（1地点）（001SD、020SD、021・035SD）

005SD（第6図）

調査区中央北側で検出した001SDと交差する溝である。調査区の西側では検出されなかったが、この位置で収束するならば、曲げる必要はないと思われる。西に延びていたと考え、何度も検出作業を行なったが、確認できなかった。西側は溝が浅く後世の削平で失われていた可能性もあるが、不可解である。出土遺物は少ないが、弥生土器もしくは古式の土師器片ばかりである。しかし、切り合い関係からその帰属時期は14世紀以降と考えられる。

040SD（第7図）

調査区北西部で検出した溝であり、そのプランは周溝のような弧を描く。溝の幅は約80cmほどで001SDなどよりも狭い。溝底から041・042SPの2基の柱穴が検出されたが、これが040SDと関連するのかはよく分からぬ。西に位置する平成21年度調査6A区では見つかっていない。

埋土は他の遺構に比べ黒みが強く、これは既往調査では弥生時代の遺構に特徴的な埋土とされるが、出土遺物には東濃型山茶碗片が含まれている。弥生土器などの古い遺物の方が多く、調査時は弥生時代の遺構かと考えたが、040SDに切られる055SKなどからも山茶碗が出土しており、帰属時期は14世紀以降と考えて問題ない。



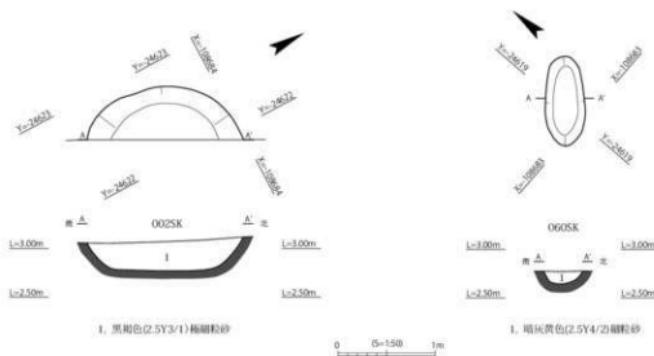
第7図 040SD (1地点)

060SK (第8図)

001SDの底で検出した楕円形の土坑である。001SD掘削時、この060SKが見つかる地点でのみ尾張型第7型式の山皿が数枚まとめて出土した。これは検出漏れの結果であり、これらの山皿は本来は060SKに帰属するものと判断している。山皿は、一定程度の集中はしていたが意図的な配置は見出されず、一括性はあるものの、無造作に廃棄したものと考えられる。

007SK、008SK、009SK、010SK、046SK (第9図)

調査区中央で検出された一群の土坑である。搅乱で部分的に破壊されているが、そのプランは隅丸長方形から楕円形、短軸が1.5m程度、長軸は2m程度であろう。007SKは中央部がピット状に深く掘られている。貝殻片が少量出土したのみである。009SKは土坑墓の可能性も想定し観察したが、特にそのような状況は認められない。8~10型式ごろの東濃型山茶碗の小破片も出土している。他の土坑からの出土遺物は無かった。帰属時期の決定は難しいが、13~15世紀、中世の土坑と考えている。



第8図 002SK、060SK (1地点)

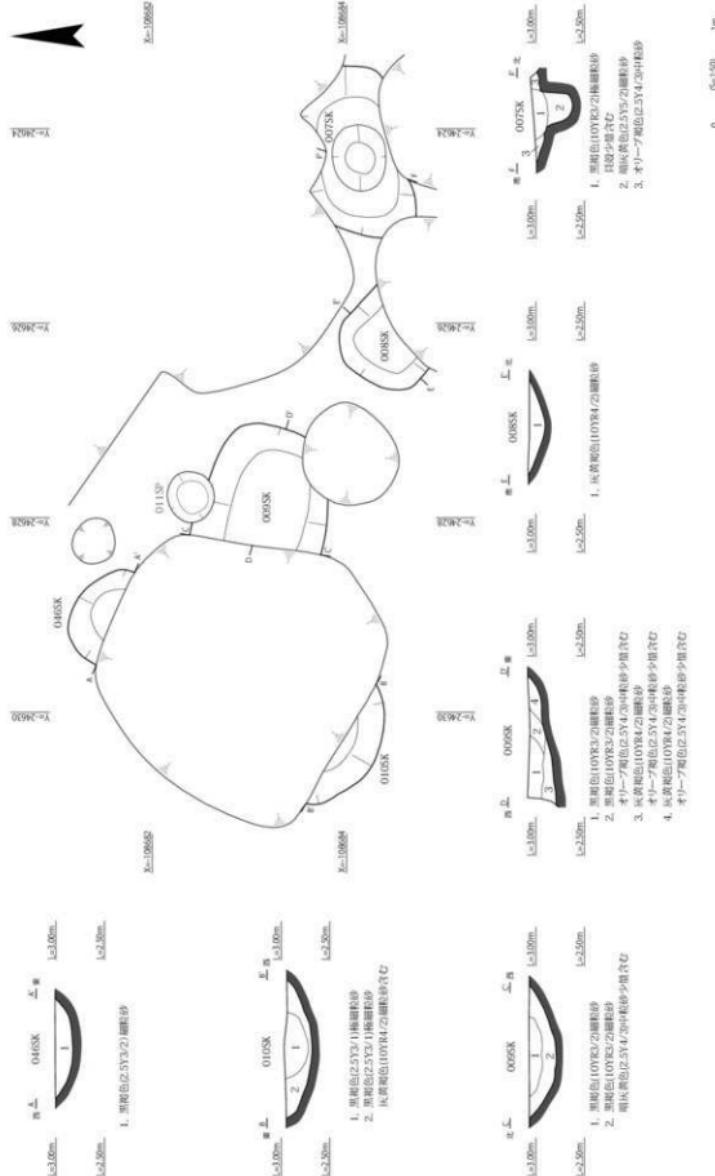
3. 土坑**002SK (第8図)**

調査区中央で検出された土坑である。多くが搅乱で破壊されているが円形プランと思われる。須恵器の壺(図版14-120)が出土している。後述する007SKなどに比べ、埋土は暗色を呈し縮まりが強いなどの違いが観察された。

また、002SKが切る016SXも弥生土器のみで中世遺物は含まない。

これらのことから、002SKは古代の、016SXは弥生時代の遺構である可能性が高いと考えている。

第四章 土壤剖面与地层剖面



第9图 土坑(1地点) (0075K、0085K、0095K、0105K、0465R)

第3節 畠間遺跡（2地点）の遺構

1. 概要（図版3～9）

畠間遺跡（2地点）は、1地点の南約50mほど、佐渡島状の平面形を呈する第1砂堆西側のくびれ部付近に位置する。畠間遺跡は第一砂堆の南西側を中心に広がっており、今回の調査地はその北西側縁辺である。

畠間遺跡（2地点）からは計218の遺構が見つかった。その内訳は土坑77基、柱穴82基、溝28条、その他・不明が31基である（表2）。これらの遺構の帰属時期は12～14世紀ごろを主とした中世と考えられる。その中で010SK、146SK、150SK、153SXは弥生時代の遺構である。既往の調査では、弥生時代の遺構は黒色の強い埋土を特徴としているが、010SKなどの理土は地山層（V層）に類似し明るい。010SKと146SKは土坑の底部から残存率の高い1個体の土器が出土した。とともに弥生終末期の土器であった。弥生時代の竪穴建物や溝など、生活の場を示すような遺構は無く、今回の調査区は集落の中心からは外れた場所なのだろう。他に調査区西南端で古代の須恵器が、西北端では灰釉陶器が比較的多く出土していることは注意を要する。郷中遺跡同様に近世以降の遺構も多いと思われるが、古い遺物が少量だけ出土する遺構については判断が難しい。

畠間遺跡の調査成果の主たるものは中世溝群である。これらの中世溝群は調査区の方向性、つまり現在の町割り（E-20～30°-S）にほぼ沿った方向で掘削されている。このような溝は既往調査でも検出されており、この地域の区画の方向性が中世以来のものであることが指摘されていたが、今回の成果はそれを補強するものとなった。溝の底面レベルは基本的に東→西（海岸方向）に下がる傾向を示す。方向性も底面レベルも地形に沿った事象であろう。

今回の調査では、わずかに間が空いて同方向に再度掘削された溝や、近接もしくは重なり合う同方向の溝群といった状況が多く確認された。これらの各溝の単位をどのように解すべきか、その点は検討を要する。また、これらの溝のうち、東から延びる170SDと西から延びる190SDの二つの溝がほぼ同じ地点で南に曲がっている。西区から続く110SDは190SDが同一溝であり、160SDは別溝と考えられる。160SDやその南の170SDなどは東側に延びて平成24年度調査1・2区のSD2070と連なる可能性がある。一方、南北方向の溝は調査区西壁際で検出した040SDのみである。これらは屋敷地の区画溝と考えられる。なお、これらの溝の帰属時期についてであるが、出土する遺物の多くが尾張型山茶碗5～7型式を中心とすることから13世紀と考えられる。また、上層に同じ方向の近世溝が再掘削されていることも注意を要する。中世以来の町割りが近世再開発において踏襲されたことを示すものであろう。溝群については第4章で触れており参考されたい。

土坑については、その多くは性格不明である。233SKや144SK、239SKなどは大きさ等から井戸の可能性もある。

柱穴は西区の北西部に多かった。025SP、121SP、122SP、123SPなどは1間×1間の建物もしくは竪穴建物の主柱穴と見なすことは可能であり、他にも3基程度が並ぶものはあるが、積極的に建物と判断出来る事例は無い。また、その時期も判定は困難である。



写真11 119SP、121SP（2地点）（南から）

2. 溝

040SD（第10図）

調査区西端で検出された溝である。西側の肩は調査区外のため当初は遺構種別を不明遺構（SX）としていたが、調査区内のプランや110SDなどの東西方向の溝に直交する方向性などから溝と判断した（註9）。この溝は多量の近世陶器が出土した上層と、中世の遺物だけを含む下層に分かれる。主軸はN-26°Eである。なお、040SD以北の019・037SXはこの溝に伴う浅い落ち込みであり、040SD上層相当の遺構と考えている。

下層の遺物は第7型式の山茶碗など13世紀後半、上層は14～15世紀の古瀬戸から18世紀の近世陶磁器までを含み、かなりの時期差がある。13世紀後半に埋まった後も、浅い窪みが残り、区画や境界として機能し続け近世に再掘削されたのである。後述する110SDや170SDもほぼ重なる位置に近世溝が掘削されており、これは本遺跡に共通する状況と考えている。なお、040SDは上下層とも近世溝で、下層は偶然に近世陶器が含まれなかつたという可能性もある。しかし、後述する他の溝の事例から考えて、中世溝の跡地に近世溝が再掘削されたと判断した。

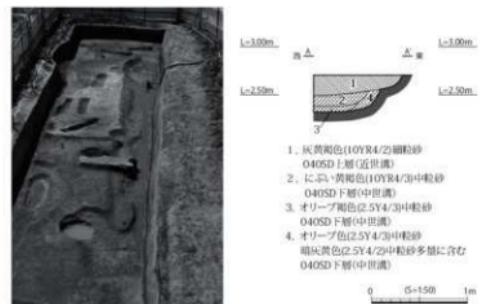
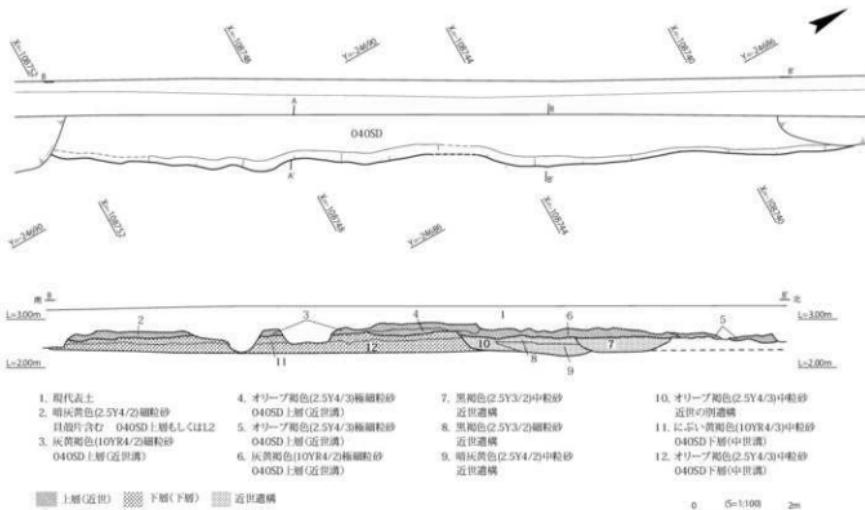


写真12 040SD（2地点）（北から）



第10図 040SD（2地点）

110・190SD、220SD（第12図）

西区の北壁際から東区の南壁際に延びる東西溝である。主軸はE-33°-Sである。110SDと190SDは調査区が離れており、別番号を付けたが、測量成果から同一溝と考えて間違いない。調査出来なかった部分も含め40mの長さを確認した。ただし、後述する130・131SDも同一溝の可能性が高い。別構造として検出したが、掘削単位を示すのものとも考えられる。ただし、わずかに主軸はズレており、断面形状や深さも異なり断定は出来ない。

一方、東側の190SDは後述の170SDの直前で南に曲がり、調査区外に延びていく。底面レベルは190SD一帯はT.P.2.65m前後、110SD西端ではT.P.2.50m程度で大きくなっている。

110SDの上には近世溝（002SDと220SD）が掘削されている。中区の110SD調査時は、湧水のため詳細な観察が困難であった上、110SDが北壁に沿っているとの思い込みのため220SDの存在を認識出来ず110SDと220SDを同時に掘削してしまった。調査途中、壁面観察等で110SDが北壁から離れて南に向かっていること、110SDを上から切り込む溝（220SD）が存在していることに気付いた。この220SDは110SDとわずかに主軸をはずす近世溝である。220SDは東区西壁で観察され、後述の160SD・230SDの上に延びていく（第13図を参照）。ただし、東区東壁では確認できない。220SDの西端は中区の中央辺り、東端は不明であるが東区の半ばと推定して、東西30～40m程度の溝であったと考えられる。また、220SDの上には貝殻片を含みオリーブ色を呈する埋土が特徴的な002SDが存在する。002SDは部分的に幅30cm、深さ10cm程度が残るのみである。

110SDの出土遺物には、上述の不備のため一部（中区）で近世陶器片が含まれているが、190SDは第6～7型式の山茶碗など中世遺物のみである。110・190SDの帰属時期は13世紀の中に収まると考えられる。220SDは18世紀、002SDは18世紀後半以降であろう。

130・131SD（第11図）

調査区西端北壁際、2条の並ぶ溝である。上部は搅乱があり、底部のみが検出された。110SDが収束する辺りから存在する。方向性はほぼ同じであることから一連の溝かもしれないが、110SDとは断面形状が異なり、130・131SDはどちらもV字状を呈する。主軸は110SDより少し北に傾くが、E-30°-Sである。

出土遺物はともに少ない。131SDからは第7型式の山茶碗などの小片が出土しているが、一方、130SDからは大窯期の小皿が出土した。遺物も少なく、範囲も狭いことから帰属時期の決め手は欠くが、13世紀に掘削され、以後埋没と掘削を繰り返したと思われる。

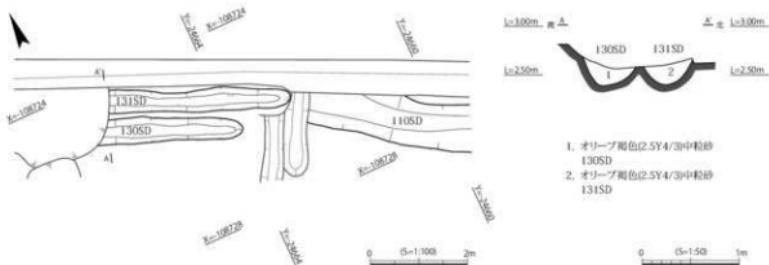
これらの溝は何度も掘り返されており、その時間的な関係性を厳密に把握するのは困難である。しかしあく見ればやはり130・131SDと



写真13 110SD、220SD 断面（西から）



写真14 130・131SD 断面（2地点）（南から）



第11図 130・131SD (2地点)

110SDは同じ溝と言ふべきであり、110SDとの断面形状の違いも掘削時期・単位が異なるゆえであろう。元来は110・190SDから130・131SDへと連続する長い溝があったが、110SD以東は13世紀に埋没して以後には再掘削されなかつたが、130・131SDは14世紀以降に再掘削されたのではないだろうか。これらの溝については第4章でも触れており参考されたい。

160・230SD (第13図)

東区北壁側で検出された溝である。主軸は160SDでE-21°-S、230SDでE-24°-Sである。160SDは230SD埋没後に再掘削された溝であり、主軸もわずかにずれているが、遺物に時期差もなく大きくは同一溝と捉えている。東西ともに調査区外に延びている。東端では多くの遺構を検出したが、これらは1地点の001SDや020SDなどと同様にわずかに主軸がずれた同一溝群の一部かもしだれない。底面レベルは110SD西側でT.P.2.65m程度、東側ではT.P.2.82m前後であり、西に下がっている。160・230SDの南には同方向の溝(170SD・210SDと180SD)がある。160・230SDに比べて170・210SDと180SDは遺物が少なく、これらの前後関係を判断するのは難しい。なお、これらの溝は平成24年度調査のSD2070と同一溝の可能性がある。

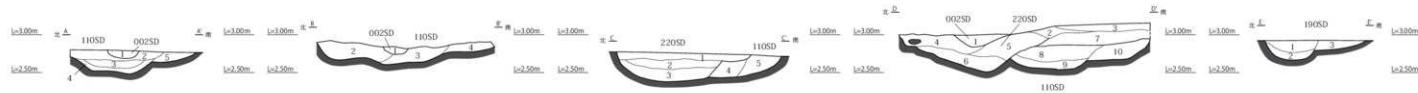
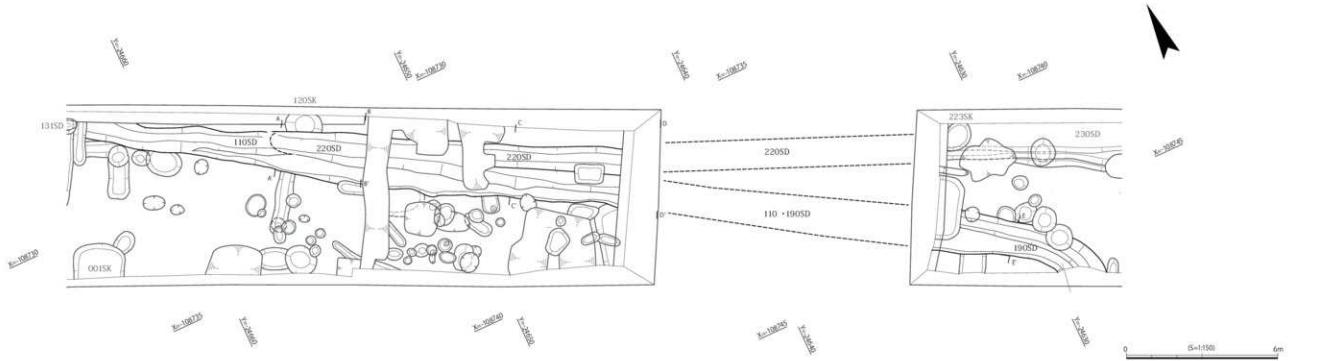
溝群の中では出土遺物が最も多く、出土した山茶碗の多くは第7~8型式のものである。遺構の帰属時期は他の溝同様に13世紀後半であろう。

170・210SD (第14図)

東区で検出した東西方向の溝である。主軸はE-15°-S、110SDや160SDに比べ主軸はわずかに北に傾く。掘削時には黒色埋土と貝殻片が特徴的な170SD(これを上層と下層)と淡い色調を呈する北側部分=210SDに分けたのみであり、詳細に掘削が出来なかつた。しかし、断面観察から少なくとも6つの溝もしくは掘削段階があることが分かった。また、その様相は底部で平面的に明瞭に検出され観察できた(写真図版17)。

最も新しい溝は170SDaとした。断面図では中央ベルトのみに見られる。大部分は近代以降の削平等で失われている。170SDbは多量の貝殻を含む。これらを調査時には上層とした。170SDaは近世遺物を含む。170SDbとcは出土遺物は少ないが中世遺物のみである。層位的にはII層からの遺構つまり近世溝の可能性もある。

170cは東壁から数mで収束しており、他よりも少し深い。次に170SDdが下層に存在する。底部しか残っていないため埋土は地山層を多く含む。平面的には南側に掘削されている。一方、北側に掘削



1. 黄オリーブ色(SY5/2)細粒砂
002SD
2. にぶい黄褐色(IYR4/3)中粒砂
105SD
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂
105SD
4. 黄オリーブ色(SY5/2)中粒砂
105SD
5. にぶい黄褐色(IYR4/3)中粒砂
105SD

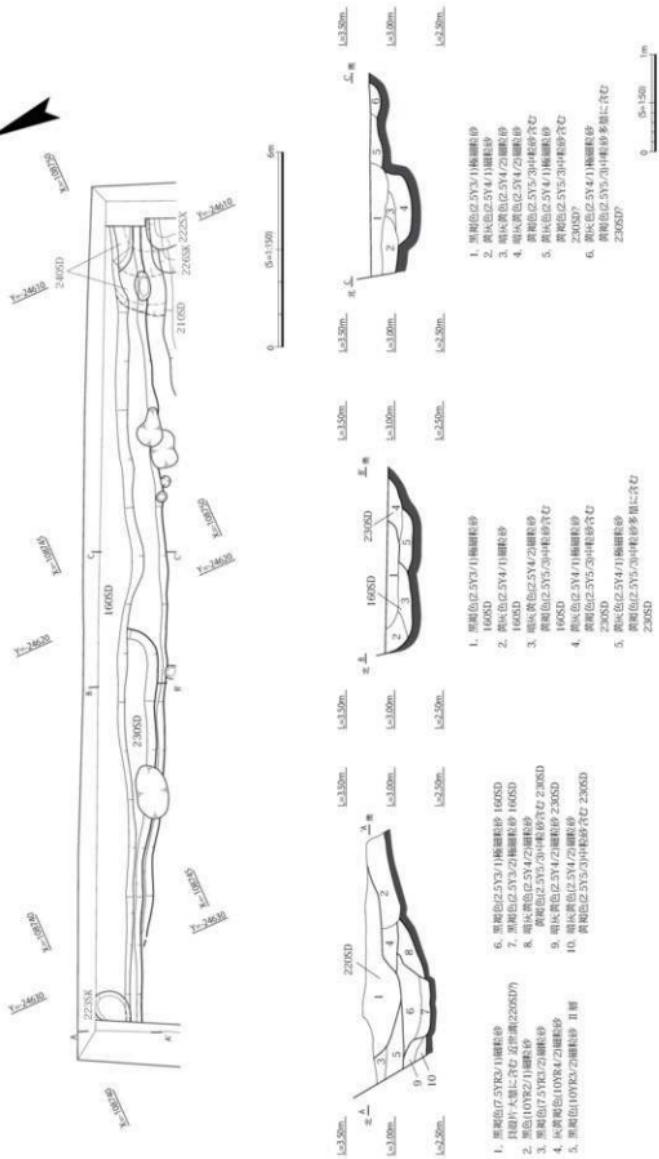
1. 黄オリーブ色(SY5/2)細粒砂
貝殻片含む
002SD
2. にぶい黄褐色(IYR4/2)中粒砂
105SD
3. 黄褐色(2.5Y4/2)中粒砂
105SD
4. にぶい黄褐色(IYR4/3)中粒砂
105SD

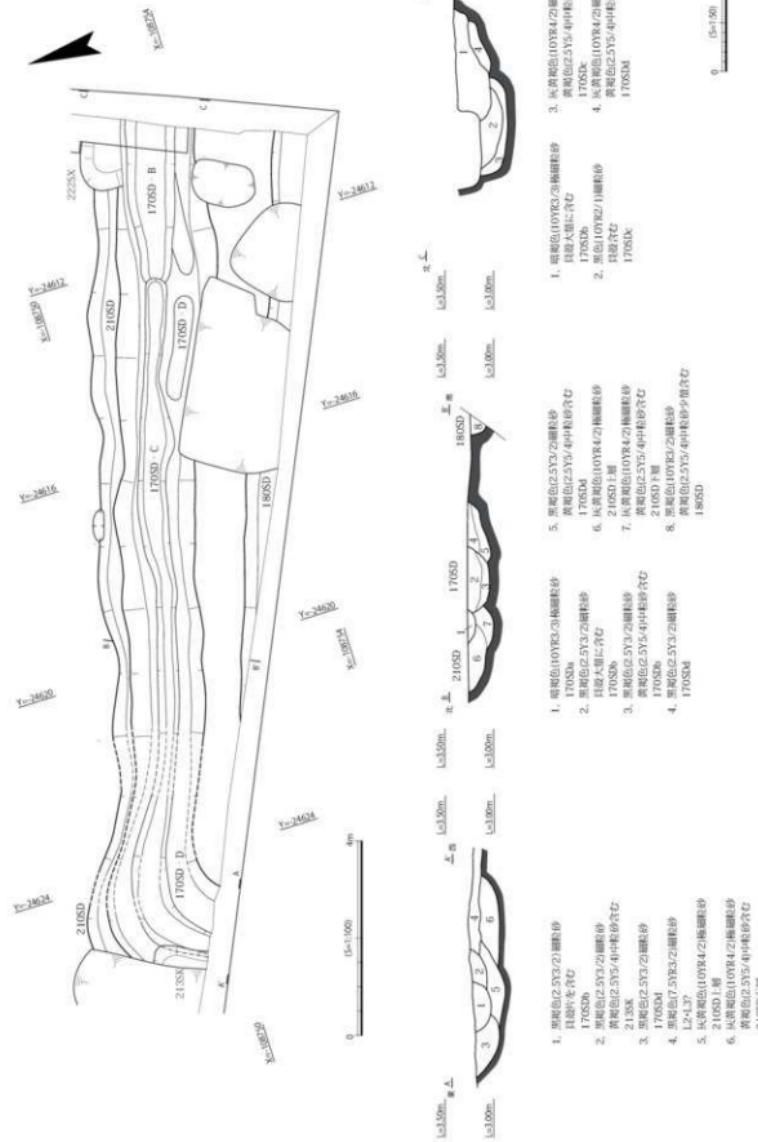
1. 灰色(SY4/1)極細粒砂～細粒砂
貝殻片含む
220SD
2. 黑褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
灰褐色(SY4/1)極細粒砂少含む
220SD
3. 黑褐色(2.5Y3/1)極細粒砂
110SD
4. 灰色(SY4/1)中粒砂
220SD
5. 黑褐色(2.5Y3/1)中粒砂
中粒砂含む
110SD
6. 黃褐色(SY5/2)細粒砂
110SD

1. 細粒砂(IYR3/3)細粒砂
貝殻片含む
220SD
2. 黑褐色(2.5Y3/2)細粒砂
貝殻片含む
12SD
3. 黑褐色(2.5Y3/3)細粒砂
貝殻片含む
110SD
4. 黄褐色(SY4/1)細粒砂
貝殻片含む
220SD
5. オリーブ褐色(SY3/1)極細粒砂～細粒砂
貝殻片含む
220SD
6. 黑褐色(2.5Y3/1)細粒砂
220SD
7. 黑褐色(2.5Y3/2)
12SD
8. 黄褐色(SY4/1)細粒砂
貝殻片含む
110SD
9. 黄褐色(SY4/2)細粒砂
灰褐色(2.5Y5/1)中粒砂含む
220SD
10. 黄褐色(Y4/1)中粒砂
貝殻片含む
110SD

第12図 110+190SD, 220SD (2地点)

第13图 160~230SD (2地点)





第14图 170·210SD、180SD (2地点)

されているのが210SDである。ともに中世の溝である。170SDdと210SDの前後関係は切り合い等からは不明である。170SDb～dおよび210SDの出土遺物は少なく、210SDでは弥生土器や須恵器など古い遺物が多い。しかし、主として第6～7型式の山茶碗が出土しており、これらが埋没時期を示すものと考えられる。おそらく古い混入遺物の多い210SDが最も最初に掘削され、その後170SDd→bと山茶碗1型式程度の時間幅の中で埋没と掘削が繰り返されたのであろう。その後、再開発にあたり、窪地化もしくは何らかの区画として残っていた同じ位置に170SDaが再度掘削されたと考えられる。

これらの溝は東区の中央、190SDの手前で同じように南に屈曲している。この二つの溝はもう少し南で合流しているかもしれない。いずれにせよ、両溝が曲がるこの位置は中世から近世に至るまで、何らかの境界を示す位置であったことは間違いない。また、160・230SDと同じく、170・210SDも平成24年度調査のSD2070と同一溝の可能性がある。なお、底部のレベルは170SDcを除き、基本的には西に下がっているが、差異は小さい。

180SD (第14図)

東区南壁際で北側の肩だけが検出された遺構である。大部分が調査区外であり断定は出来ないが、170・210SDと同じ主軸方向の溝と考えられる。出土遺物は少ないが、出土している山茶碗は第4型式である。しかし、切り合い関係から180SDより古ないと判断した遺構(225SP)から細片であるが古瀬戸が出土しており、時期の決定は保留しておきたい。

3. 土坑・その他の遺構

010SK、150SK (第16図)

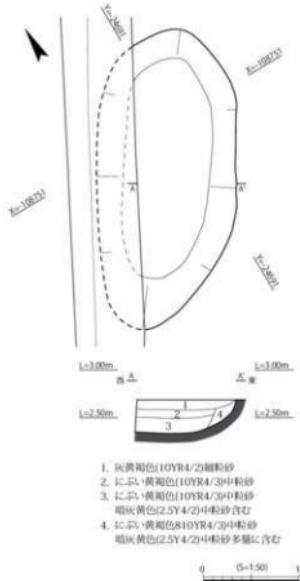
010SKは西区東側で検出した円形土坑である。010SKの底部中央からは残存率約90%の廻問式期のひさご形壺(図版12-41)が出土した。口縁部を意図的に打ち欠いているかもしれない。壺内部には何も無かった。出土状況に特異な様相は見出されないが、埋納土坑の可能性もある。

150SKは010SKに切られる浅い土坑である。バレス壺(図版12-40)が出土した。破片資料であり非常に磨滅していた。

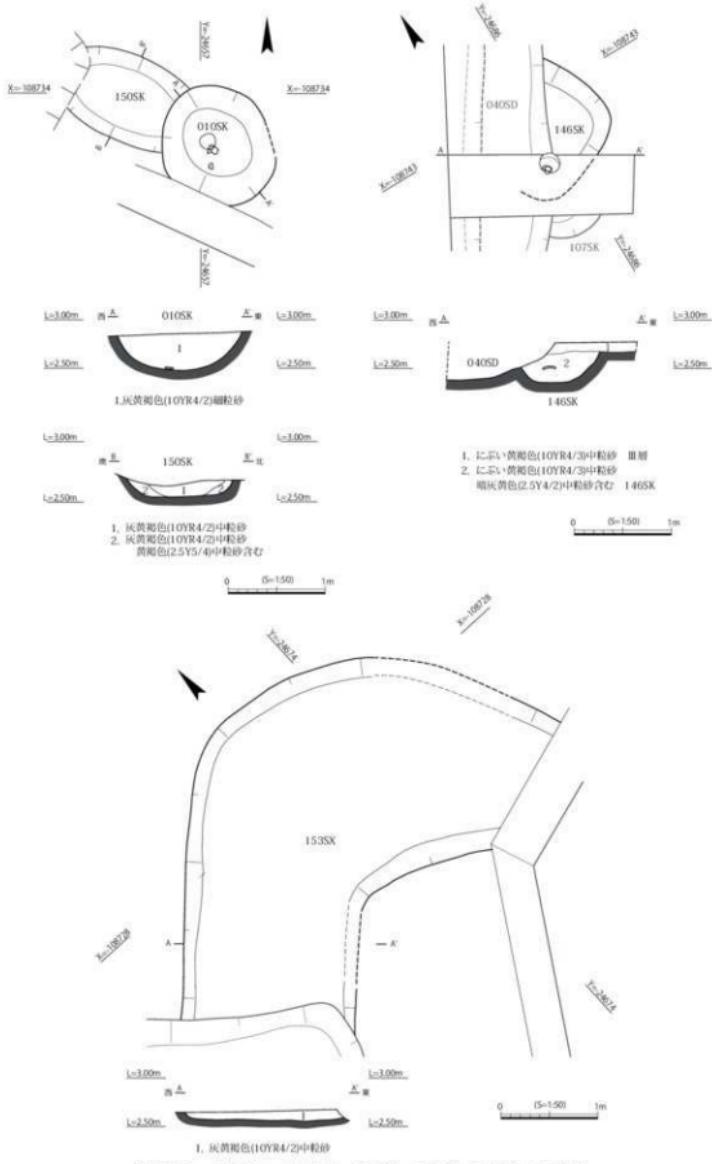
044SK (第15図)

西区南西隅、040SDの南端、040SD上層の底=下層の上面で検出した。西側はトレンチ掘削のため記録出来なかったが、壁に達していないことから梢円形土坑と考えられる。

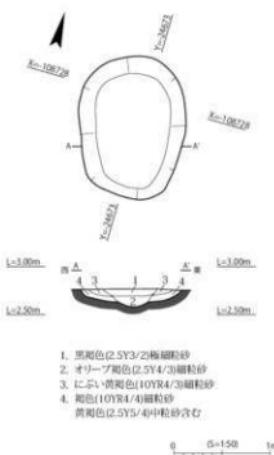
尾張型第7型式の山茶碗や常滑焼が出土した。常滑焼壺の破片が比較的多かった。040SDの南端に位置すること、遺物の時期差も無いことから埋没後すぐに窪地を利用して掘削された廃棄土坑であろう。出土遺物から、その帰属時期は13世紀後半と考えられる。



第15図 044SK (2地点)



第16図 土坑ほか（2地点）(010SK、150SK、146SX、153SX)



第17図 097SK (2地点)

097SK (第17図)

西区北西部で検出した楕円形土坑である。8世紀頃の須恵器が少量であるが出土している。中世遺物は含まれないことから古代の遺構の可能性がある。

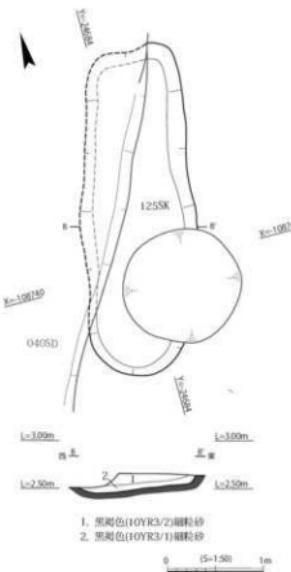
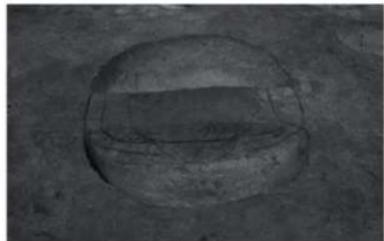
125SK (第18図)

西区西部で検出した隅丸長方形土坑である。プランから墓坑の可能性等も考えられたが、何ら積極的な根拠は無い。

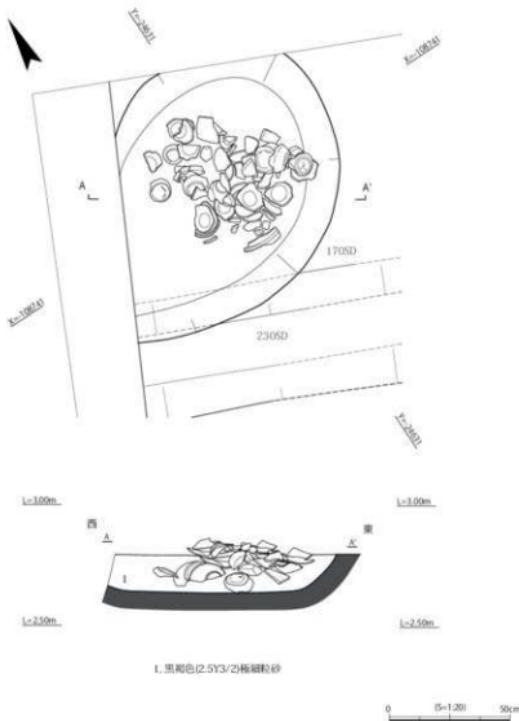
出土遺物は小破片のみであるが、尾張型6型式ごろの山茶碗がある。ただし隣接する同様の土坑115SKからは近世陶器が出土しており、125SKの帰属時期を13世紀と断定するのは躊躇を覚える。

146SK (第16図)

040SDに切られる土坑である。隅丸方形プランの土坑と思われる。遅間式期の壺(図版12-42)が底部中央から出土した。その他に出土遺物はわずかであり、壺内部からも何も無かった。出土状況は特に意図的な配置を窺わせるものではないが、01OSKなど同様の事例から何らかの意味をもつ遺構かもしれない。



第18図 125SK (2地点)



第19図 223SK（2地点）

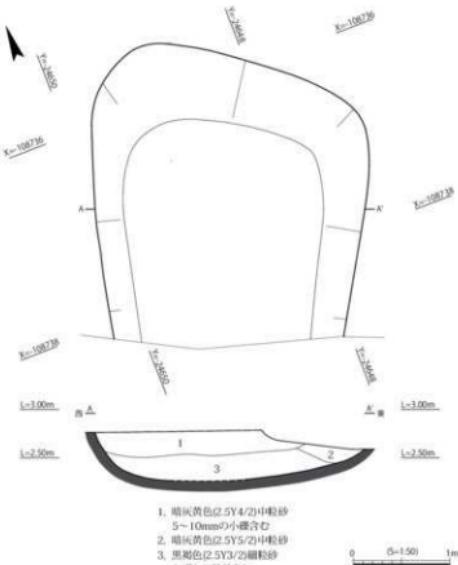
153SX（第16図）

西区西部で検出された不定形の落ち込みである。深さは5～10cm程度である。弥生土器片が出土した。埋土は非常に地山層に類似し、わずかに暗く締まりが強いだけであった。プランを検出し掘削したところ遺物が出土し、遺構と判断した。ただし、人為的に掘削された遺構と言うべきか疑問である。溝の底部だけが残った可能性もあるが、浅い窪みに遺物が残っただけかもしれない。

223SK（第19図）

東区東北際で検出した円形土坑である。160・230SD埋土内に掘削された土坑である。出土遺物の詳細は第3章を参照されたいが、山茶碗を主とし、常滑焼の羽釜と伊勢型鍋で構成されており、饗宴後の一括廃棄の可能性がある。

山茶碗は第7～8型式である。160・230SDの出土遺物と時期差がないことから、まだ浅い窪み状であった埋没途中に掘削されたのではないだろうか。



第20図 233SX (2地点)

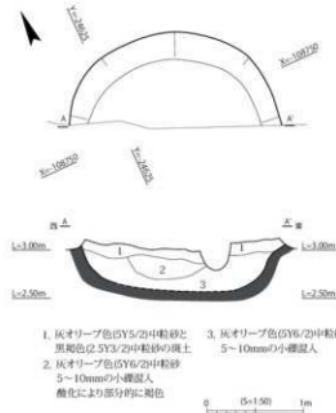
233SX (第20図)

中区南壁際で検出した。調査区外に統くため正確なプランは不明であるが丸形である。湧水による崩落のため底面レベルの記録は不正確で、図の記録よりも深いと思われる。大きさから井戸掘方の可能性が考えられる。ただし、埋土の堆積状況や井戸枠等の検出など積極的な根拠はない。埋土は地山と類似しており、認識しづらかったが、遺物を含み地山よりも小礫を含む点で判別できた。第7型式の山茶碗や常滑焼窯の体部片などが出土しており、遺構の帰属次期は13世紀後半と考えられる。

239SK (第21図)

東区南壁際で検出した。調査区外に統くため正確なプランは不明であるが円形土坑であろう。壁際のため底まで調査できていない。

折戸10号窯式期の須恵器が数点出土しており、8世紀後半の遺構と考えられる。



第21図 239SK (2地点)

第4節 東畠遺跡（3地点）の遺構

1. 概要（図版10・11）

今回の調査区は平成23年度調査4地点の西側に位置する。この平成23年度調査では弥生時代の堅穴建物や土器排列、方形周溝墓などが見つかっており、今回の調査でも貴重な弥生時代の遺構の存在が期待された。この成果を受け、包含層（Ⅲ層）の残存状況が良好なことや調査日程なども考慮した上で、東畠遺跡においては包含層（Ⅲ層）上面と地山（V層）上面との計2面の調査を行なった。しかしながら、期待に反し、堅穴建物や墓のような遺構は無く溝と小さな土坑だけであった。出土遺物も非常に少ない。土器は小破片が多く、石器は石鏃1点のみであった。特記すべき遺構・遺物は無かつたものの、遺構密度が今回の調査区の中で最も高い点だけは注意を要する。

東畠遺跡からは計37の遺構が見つかった。その内訳は土坑13基、柱穴5基、溝7条、その他・不明が12基である（表2）。他の調査区と同じく、柱穴に建物を構成するものは無く、土坑は性格不明である。006SXは浅い不整円形の土坑である。西壁面の観察では端部がやや深くなっている一見堅穴建物の壁溝とも思えるが、緩やかな掘り込みや規模、床面らしき層の不在など、その可能性は低い。調査区北西部には多くの遺構が密集している。小土坑群と判断し調査したが、その一部は人為的に形成された層、例えば方形周溝墓の盛土や整地層の可能性も考えられる。これについては、隣接地のさらなる調査に期待するほかに無い。調査区南東部では平成23年度調査で見つかっている砂層の皿状構造（写真17）が同様に存在した。これは水分の過飽和状態下で振動（地震か）が加わることによって発現する構造とのことである。確認のため掘削したが、無遺物層であった。

遺構の年代は判断する材料に乏しいが、やはり中世と弥生時代中期が主と思われる。個別遺構としては002SDと003SDのみ報告し、他の遺構については調査区平面図・断面図および遺構一覧表を参照されたい。

2. 溝

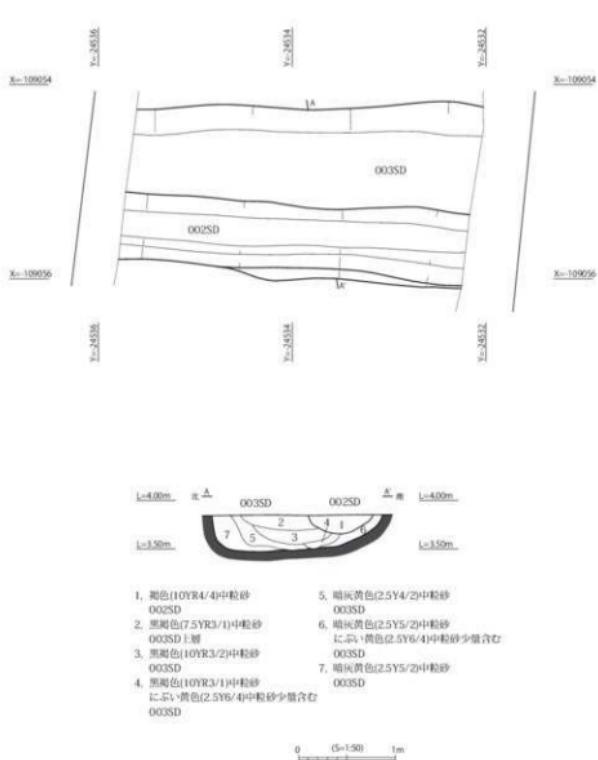
002・003SD（第22図）

調査区の中央を貫く溝で、ほぼ重なる位置に掘削された2条の溝である。ともにⅢ層上面からの遺構である。002SDからは小片であるが大窯期の碗が出土している。一方、003SDからは石鏃（第23図）が出土したが、他は弥生土器の小破片ばかりである。遺物からの帰属時期の判断は難しい。

002・003SDは平成23年度調査4地点の011SDと同一溝であることは間違いない。しかし、層位や認識に大きな齟齬がある。平成23年度調査では断面図などの記録からみれば、この溝は地山面（V層上面）からの掘り込みと認識されている（註10）。しかし、今回の調査では、002・003SDは平面および断面の観察とともにⅢ層上面からの存在が確認できた（写真図版20参照）。よって、この溝は弥生時代の遺構ではなく中世の溝と考えられる。



写真17 砂層の皿状構造



第22図 002・003SD（3地点）

第3章 遺物

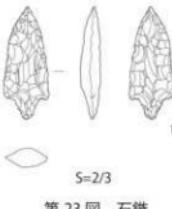
第1節 遺物の概要

出土した遺物は整理用コンテナ 26 箱分であった（註 11）。調査区ごとの箱数は、郷中遺跡（1 地点）が 2 箱、畠間遺跡（2 地点）が西区 8 箱、中区と東区で 15 箱の計 23 箱、東畠遺跡（3 地点）が 1 箱である。調査地点による出土遺物の傾向に大きな差はない。ただ、2 地点では東側の方が出土量が多く、弥生土器については 1、2 地点は終末期、3 地点は中期が多いと言える。

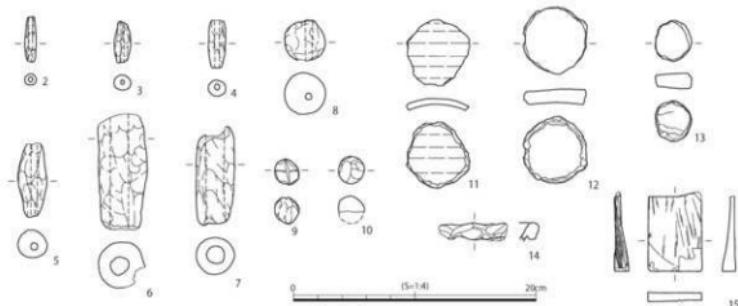
遺物の年代は縄文時代から近世まで多岐にわたるが、大部分が中世、特に 13 世紀を中心とした時期（山茶碗第 5～8 型式）のものである。第 2 章でも述べたように、弥生時代から古代の遺物が一つの遺構からまとまって出土した事例は無かった。古墳時代前期～中期の遺物は確実なものではなかった。縄文～弥生時代および古代の土器は少量の破片資料も出来るだけ多く掲載した。古代の遺物は 8 世紀ごろの須恵器や製塙土器が比較的多く出土している。

土器・陶磁器以外の遺物は極めて少ない。よって、ここでまとめて報告しておく（第 23、24 図）。石器は 1 点のみである。003SD（3 地点）から下呂石製の有茎石鏃（1）が出土した。石製品は砥石（15）があり、ほかに数点出土している。木製品・金属品は報告するような製品はなかつた。瓦の出土は少なく近世以前の軒瓦はなかった。土製品は土鍤（2～8）、陶丸（9、10）、加工円盤（11～13）などが出土している。土鍤は球形のもの（8）もある。9 は 2 地点から出土した陶丸、「+」の刻み目がある。同じものが平成 23 年度調査でも出土している。加工円盤は、11 は天目茶碗、12、13 が常滑焼を素材とする。14 は不明土製品。甕や鉢の口縁突帯かもしれない。

次節からは、縄文～弥生時代終末期・古墳時代後期～古代・中世の 3 時期にわけて土器・陶磁器を報告する。本文では個々の土器の形状や調整技法等の詳述は避け、これらは実測図による表現と観察表に委ね、出土状況や全体の傾向を中心に記述した。中世遺物が一定量の遺物が出土している 2 地点の 044SK、110・190SD、160・230SD、223SK については遺構単位で報告する。土器・陶磁器の年代観等については文末掲載の基本参考文献に基づく（註 12）。



第 23 図 石製品



第 24 図 土製品・石製品

第2節 繩文～弥生時代の遺物（図版12）（第25図）

時期的には主に縄文時代晚期から弥生時代前期、弥生時代中期後半、弥生時代後期～終末期（註13）の3つの時期の土器があり、この傾向は既往調査の成果に類する。郷中遺跡（1地点）と畠間遺跡（2地点）からは弥生時代後期～終末期の土器が多く、東畠遺跡（3地点）からは弥生時代中期後半の土器が多い。最も注目すべき土器は円窓付土器（30）、東海市から出土例である。

縄文晚期から弥生時代前期の土器（第25図）は少量である。16～19は縄文晚期から弥生前期の条痕文系深鉢の口縁部である。いずれも畠間遺跡（2地点）の包含層や新しい時期の遺構からの出土である。16～18は口縁内面が肥厚する形状が特徴的である。20、21は尖底状の甕底部、近接する鳥帽子遺跡で類似のものが報告されている（註14）。

22～29（図版12）は弥生時代中期～終末期の土器である。22～25は中期の甕口縁部である。22～24は条痕文系、25は瓜郷式の口縁部である。これらはいずれも口縁内面が施される。22と23は刺突文、24は押圧文、25は波状文を施す。26は凹線紋系の甕、28は壺の頭部、瓜郷式系の大型壺であろう。29は古井式の鉢か。尾張および三河の多様な系統のものがみられる。これらの多くは3地点から出土したものである。

30～42は弥生時代後期から終末期のものである。1地点と2地点からの出土が多い。円窓付土器（30）は1地点の中世溝から出土した。やや外方向に張る肩部の形状から山中式期のものと思われる。31は外面に赤彩円紋が施された小型の壺である。35と37は畠間I式の台付甕である。32～34は高杯、山中式期のものであろう。

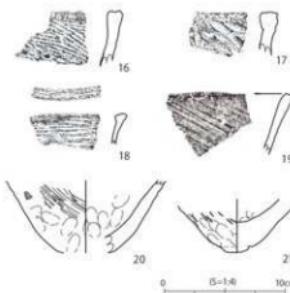
38～42は畠間I式の壺である。38～40はパレス壺、39と40は外面の赤彩が一部残る。39は153SX（2地点）から出土した。図の印象と異なり残存率は低い破片資料である。40は150SK（2地点）から出土したものである。これらのパレス壺はいずれも表面が磨滅している。

41は010SK（2地点）、42は146SK（2地点）、それぞれ土坑の底部中央からほぼ完形で出土した。41は口縁部の一部がU字状に失われているが、これは意図的に打ち欠いている可能性がある。

第3節 古墳時代後期～古代の遺物（図版13、14）（第26～28図）

古墳時代後期から古代の遺物は中世の遺構やII・III層から出土している。特に8世紀を中心とする時期、猿投窯編年では岩崎17～折戸10号窯様式期の須恵器を主とする。土師器は甕が多く、皿や碗は確認できなかった。製塙土器も同じく8世紀ごろの知多式4類の脚部片が多く出土した。8世紀の遺構はわずかであったが、本来は遺構が存在していたことを示すものであろう。前後する時期の遺物は少ないが、須恵器の杯Hや灰釉陶器は出来る限り抽出・図示した。

43～55（図版13）は古代の土師器である。42～47は濃尾型甕。底部に木葉痕のみられるものがある。46は磨滅しており不鮮明であるが「×」のような線刻がみられる。49～52は口縁端部のつまみ上げが特徴的な尾張伊勢型甕、52は10世紀ごろのものである。53～55は三河系の長胴甕であろう。口縁部の外反は弱くハケ調整が見られることから7世紀～8世紀前半のもの。



第25図 縄文晩期～弥生時代前期の土器

56～67（図版13）は製塙土器である。いずれも知多式3～4類の脚部である。56～58はやや胎土が粗い。出土した製塙土器の多くは4A類である。57、63～65は成形時の指オサエがみられるところから3類とすべきものであろう。

須恵器は1、2地点の包含層や中世遺構などから出土している。既往の調査では報告事例少なく、今回の1、2地点は比較的須恵器が多いようだ。特に1地点は杯H（68～72）や97、116など比較的古相の須恵器が多く出土しているように思われる。

68～72（第26図）は須恵器の杯Hとその蓋である。68が最も古相のものである。径10cmを超えるが天井部の稜は弱く、東山44号窯式期に属するものと考えられる。69は東山44号窯式、70～72は小型化した法量や杯身の内傾した低い口縁部などから7世紀後半の岩崎17号窯式期のものか。すべて1地点からの出土である。

第27図の73～77は239SK（2地点）から出土した須恵器である。杯蓋はわずかに屈曲し陣笠状を呈する。折戸10号窯式期の土器群であろう。

図版14（78～120）は包含層や中世遺構などから出土した須恵器である。その多くは奈良時代、猿投編年では岩崎41号窯式～折戸10号窯式期に属するが、一部には先行する時期のものも含まれる。78～87は有台杯である。高台の断面形状は、78のような端部の丸みのあるもの、79のように端部が外に反するようなもの、80のように方形で外端面が接地するものなど多様である。89～93は無台の碗杯。90と91は底部にヘラ記号が刻まれている。91は90に比べ腰に張りのある形状をなす。

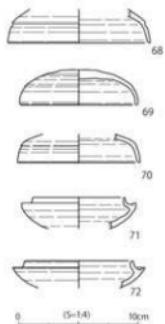
95の双耳杯、96の盤とともに高台端面の中央が窪む形状をなす。O-10号窯式期の製品である。

杯蓋（97～106）はかえりの無いもの、扁平なツマミのものが多い。端部にかえりがある97や宝珠ツマミの98は古相の製品で7世紀後半、岩崎17号窯式期ごろ。その他の杯蓋は岩崎25号窯式～鳴海32号窯式のものである。239SK出土の杯蓋に比べ扁平で直線的な形状である。107は天井部の平らなタイプのものであろう。

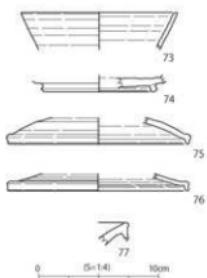
108～111は高杯である。108は東山50号窯式、109～111は岩崎17～岩崎41号窯式期にごろと思われる。

115と116は大甕の口縁部である。115は3条の沈線とクシ状工具による列点文が、116は波状文を施す。7世紀後半の製品か。図示はしていないが、甕の胴部片も出土している。

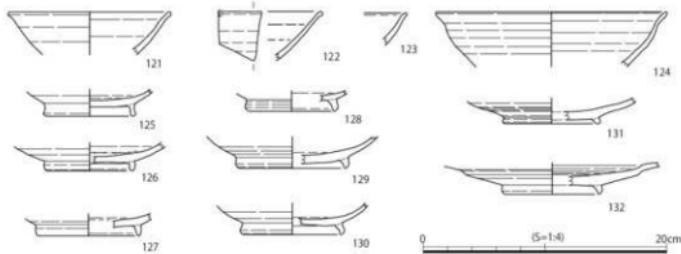
117は陶臼と呼ばれる器種の底部である。118は甕の底部であるが、切断面を丁寧に磨いており碗のような形状で再利用したものである。119は把手であろうが、良く分からぬ。120は1地点の002SKから出土した甕である。口縁端部に丁寧なナデと2条の沈線を施す。体部外面にはタタキ目がみられ、1条



第26図 須恵器杯H



第27図 239SK（2地点）出土須恵器 の沈線が施されている。



第28図 灰釉陶器

第28図(121～132)は灰釉陶器である。黒窯90号窯式期のものが主である。121～124は楕の口縁部、端部が外反し薄手である。122は輪花椀であろう。125～132はいずれも椀皿類の高台部のみの資料である。高台部の形状はいわゆる三日月高台のものが多い(128～130、132)。132は段皿である。

黒窯90号窯式期のものが多いが、高台の高い125は東山72号窯式期のものと考えられる。なお、15点中4点が2地点の西端(040SDと144SK)から出土している。

第4節 中世の遺物

今回出土した遺物の大部分がこの時期のものである。畠間遺跡(2地点)からの出土が大半を占め、その中でも最も多くの遺物が出土した遺構は160・230SDである。同調査区の110・190SDは最も長い溝であり、ここからの遺物も多かった。土坑では畠間遺跡の044SKと223SKが出土遺物が多い。これら4つの遺構については、破片数計測データ(註15)も提示し、遺構単位で報告する。

畠間遺跡(2地点) 044SK出土遺物(図版15)(表3)

133～149は044SK出土の土器・陶磁器である。044SKは040SDの南端、040SD下層埋土上面で検出した土坑である。223SKに比べ各個体の残存率は低い。出土遺物で最も多いのは山茶碗であるが、50%を超えておらず、破片数計測を行った他の4遺構の中でもっとも山茶碗比率が低い。破片の大きな常滑焼が破片数比率でも1/3を超えており、常滑焼甕の目立つ遺構であった。

133～135は山茶碗、136～139は山皿、尾張型第7型式に属する。140は山茶碗系の鉢、片口部分である。外面に不定方向の指ナデが施されている。141～142は山茶碗系の鉢である。142は山茶碗より古い時期のものである。143と144は常滑焼の鉢、145と146は常滑焼の甕である。147は古瀬戸前期様式の壺底部である。加工円盤(148、149)が2点出土している。148は常滑焼甕の胴部片、149は土師器皿の底部を加工したものである。

畠間遺跡(2地点) 110・190SD出土遺物(図版15)(表3)

最も長く検出した溝である。破片数約7割が山茶碗である。つづいて2割ほどが常滑焼の甕、そして数%の土師器の鍋があり、これは後述する160・230SDとほぼ一致する数値である。ただし、160・230SDに比べ残存率の低いものが多い。山茶碗(153～158)と山皿(159～161)は尾張型第6型式ごとのものである。片口鉢は163と164の二つの型式のものがある。後者は15世紀の製品である。162は土師器皿、回転糸切り痕が底部にみられる。一部に時期差のある遺物が存在するが、13世紀の中に収まる遺物が主である。

器種	器形	044SK		110・190SD		160・230SD		223SK	
山茶碗	碗	73	47%	303	68%	369	71%	82	79%
	皿	11	7%	12	3%	9	2%	2	1.9%
	鉢	6	4%	3	0.6%	8	1.5%	2	1.9%
常滑焼	壺	55	36%	95	21%	94	18%	3	2.9%
	蓋	0	0	0	0	1	0.9%		
	鉢	0	0	0	0	2	0.3%	2	1.9%
古瀬戸	羽釜	0	0	0	0	0	0	8	7.7%
	碗皿類	1	0.6%	0	0	0	0		
	鉢盤類	0	0	2	0.4%	1	0.15%	0	
輸入陶磁器	壺	1	0.6%	0	0	0	0		
	碗皿類	0	0	0	0	2	0.3%	0	
	ほか	0	0	0	0	0	0		
土師器	碗皿類	0	0	1	0.2%	0	0		
	鍋釜	7	5%	33	7%	30	6%	3	2.9%
	ほか	0	0	0	0	1	0.15%	0	
		154	100%	449	100%	516	100%	103	100%
弥生土器	壺	5	6	3	3	0	0		
古式土師器	壺	0	11	0	0	0	0		
須恵器	杯碗類(蓋含む)	35	39	41	3				
	壺	0	2	0	1				
	壺	11	11	8	0				
灰釉陶器	碗皿類	0	1	3	0				
製塙土器	製塙土器	0	2	2	0				
不明		30	30	3	0				
		235	552	576		107			

表3 中世遺構の出土遺物片数

細間遺跡（2地点）160・230SD出土遺物（図版16）（表3）

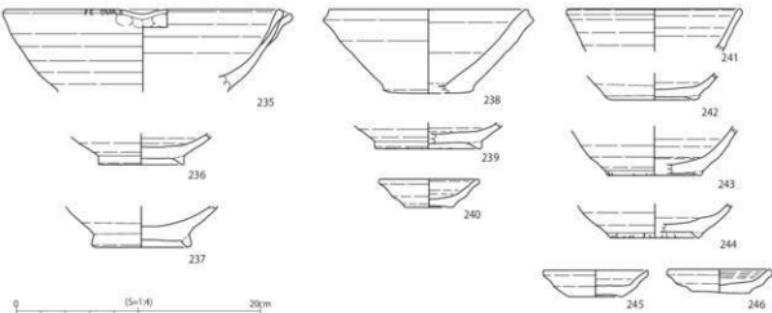
最も多くの遺物が出土した溝である。遺構や出土遺物の検討の結果、掘削もしくは埋没単位と考え、一つの溝として扱う。破片数計測の結果については、先述の110・190SDとほぼ同じ結果である。ほぼ7割が山茶碗、つづいて2割ほどが常滑焼の壺、そして数%の土師器の鍋である。1点のみ龍泉窯青磁碗（203）が出土している。輸入陶磁器が1点あるものの、破片数の様相からは、110・190SDとは同じ土地利用、社会階層に由来する遺物群と考えられる。ただし、110・190SDよりも残存率の高い個体が多い。176～191は山茶碗である。体部の形状はやや丸みのあるものから、直線的なものまでがみられ第6～7型式のものが主である。176～178は古相の製品である。188～191は白色が強く長石などを多く含む胎土から瀬戸産の可能性が高い。187は無高台化したものである。無高台のものは尾張型の第8型式とされるが、生産地でも同じ窯で有台のものと無台のものが出土している事例が多く、常滑窯編年の6a型式は両者を含むものとされている（註16）。193のような高台のない山茶碗の存在が時期差や時期幅を示すものと単純には言えないようと思われる。

196と197は山茶碗系、199は常滑焼系の片口鉢である。200～203は常滑焼の壺と甕。200と203は口縁帯が頭部と一緒に化してあり、胴部の形状も含めて15世紀ごろのものと考えられる。198の古瀬戸中期の盤も同時期のものである。これらの遺物に関しては、溝が浅い状態で残っていたものと考え、埋没最終段階の遺物と解したい。

細間遺跡（2地点）223SK出土遺物（図版17）（表3）

170・230SD 埋土上面から検出された廐土坑である。残存率の高い個体が多い。常滑焼甕は少なく、山茶碗がほぼ8割を占める。被熱痕は見当たらないが、常滑焼の羽釜（231、232）と土師器伊勢型鍋（228）の3個体の煮炊具が出土している。飲食や饗宴後の一括廐棄と考えている。

204～226は山茶碗、多くは尾張型第7型式に属する。口縁部のナデが強く、端部が玉縁状や外反



第29図 中世遺構（2地点）出土遺物

するものも多い。204～206は高台径が大きく、腰部に丸みがあり、第4～5型式に属する他よりも古相のものである。221～226は瀬戸産の可能性が高いものである。

229と230は常滑焼の鉢である。231と232は常滑焼の羽釜である。出土例の少ない製品であり、甕と異なり流通範囲は生産地周辺に限られるという。12世紀後半から末ごろのものである。233も常滑焼、小型の壺である。

その他の遺構・包含層からの出土遺物（図版15、18）（第29図）

図版15の162～175は1地点の中世遺構（001SD、021SD、060SKなど）から出土した山茶碗、山皿である。168～175は060SKから出土した山皿、尾張型第6～7型式に属する。

第29図の遺物は畠間遺跡（2地点）の180SD（235～237）、170・210SD（238～240）、233SX（241～246）からの出土遺物である。180SD（235～237）は第3～4型式、12世紀の製品である。236と237は内面が摩耗している。170・210SD出土の238は常滑焼の鉢、小ぶりな製品である。外面全体に非常に厚い釉が掛っている。233SXは井戸の可能性がある遺構である。241～246は第6～7型式ごろのもの。

図版18はその他の遺構および包含層から出土した中世の土器・陶磁器である。13世紀のものが多いが、14～16世紀の遺物も含まれている。

山茶碗は尾張型第6～8型式のもの（247～252）が多い。251と252は瀬戸産の可能性が高い。253～255は東濃型である。東濃型の出土は少なかった。

261は染付の盤である。輸入品と思われるが产地、時期は不明。わずかに褐色を帯びた乳白色で磁器としては軟質の胎土が特徴的である。262は玉縁白磁の口縁部である。輸入陶磁器は、この2点と203の龍泉窯青磁碗および1地点出土の能泉窯青磁碗の破片を含め計4点である。

263～267は瀬戸の施釉陶器である。263は古瀬戸後期の四耳壺、二次的に熱を受けて釉が溶けてしまっている。264と265は130SD（2地点）からの出土である。264は古瀬戸後期の鉛釉小皿、265は大窯期の灰釉小皿である。267は古瀬戸後期の折縁深皿。

268～270は土師器皿でいずれも底部に回転糸切り痕がみられる。268は底部に焼成前に穿孔されている。269と270は口縁部に煤が付着し、燈明皿として利用されたものであろう。271は内耳鍋、272は上師器の羽釜、前者は16世紀、後者は15世紀後半に位置づけられる。

第4章 総括

第1節 包含層（Ⅲ層）について

1.はじめに

基本層序は第2章で述べたように遺跡全域でほぼ共通する。しかしながらⅢ層とされる遺物包含層については、その形成時期や上面遺構の帰属時期などの点が不明確なままであり、検討すべき課題である。Ⅲ層は平成11～19年度調査報告（文献6）において、『縄文時代～中世の遺物包含層、暗褐色砂層または黒褐色砂層。出土遺物は地区によって中心となる時代・時期は異なる』とされている。ただし、主たる報告対象が古墳時代以前の遺構であり、これらの遺構がV層上面からということもあってⅢ層の形成時期や中世遺構との関係には触れていない。

本年調査において、Ⅲ層は中世以前に形成された層であり、中世遺構はその上面から存在すると判断した。先に結論を述べれば、Ⅲ層は遺物・遺構ともに少ない10～11世紀の間に堆積し、12～13世紀に攪拌を受けて形成された層と考えている。しかし、既往調査においてこの結論と矛盾する報告もあり、これらを検討する必要がある。次節で述べる中世溝群を考える上でもⅢ層の問題は前提条件となるので本章の初めに論じておきたい。

2.既往調査成果の検討

ここでは既往調査から数地点の層序について取り上げて検討する。なお、括弧内の層位は今回の基本層序との対応関係を推定して示したものである。各調査地点の位置は第3図を参照されたい。

平成20年度調査3・4地点（畠間遺跡）（文献1）

基本層序は表土層（I層）→遺物包含層（II・III層）→基盤層（V層）の3層に分けられている。遺物包含層は2つに分かれるようだが詳細には触れていない。この調査区では包含層上面との2面調査が実施された。上面で検出された遺構は帰属時期の不確定なものが多いが、少なくとも大窯期以降のようである。おそらくII層上面であろう。15世紀以前の遺構はすべて下面（V層上面）からの遺構として調査されている。しかし、断面記録からは、15～16世紀の土師器皿集積遺構のある034SDや12～13世紀と比定されている038SEなどは包含層上面からの遺構と読み取れる。よって作業上の検出面は別として、中世遺構は層位的には、遺物包含層のうち中世遺物を主としている層つまりⅢ層からの遺構と考えられる。

平成21年度調査5地点（畠間遺跡）・6地点（郷中遺跡）（文献2）

東西に連続する調査区で本年1地点の東西に位置する。基本層序は表土層（I層）→遺物包含層（II・III層）→基盤層（V層）の3層に分けられている。包含層は弥生時代から近世の遺物を含むとされ、弥生時代から中世に到る遺構すべてが基盤層からのことである。しかし、本年1地点同様に近世以降の搅乱が多く、層位や遺構面の詳細な検討は困難である。

平成22年度調査1・2地点（郷中遺跡）（文献3）

本年2地点の50mほど西に位置する。基本層序は表土層（I層）→遺物包含層（II・III層）→基盤層（V層）の3層に分けられており、包含層は近世の遺物を含むとされる。基盤層上面の1面調査であるが、検出された遺構は包含層上面からの遺構であり、その年代は主に17世紀と報告されている。しかし、中世遺物のみが出土する遺構（SD2036）の存在を指摘し、包含層の正確な時期決定の必要性と上面遺構からの遺物混入のためにそれが困難であることが述べられている。

平成 23 年度調査 4 地点（東畠遺跡）（文献 4）

基本層序は表土層（I 層）→中世～近世の遺物包含層（II 層）→弥生時代の遺物包含層（III 層）→皿状構造の層（V 層）→基盤層（V 層）の 5 層に分けられている。この調査区に関しては、隣接する本年 3 地点の報告（第 2 章第 4 節）のところでも触れているが、基盤層上面からの遺構と報告されていた溝（23 年度 011SD）が、今回 III 層上面から検出することができ、出土遺物からも中世溝と判明した（3 地点の 002・003SD）。のことから、23 年度報告において弥生時代の遺物包含層とされていた層が、弥生時代以降に形成された層、つまり III 層であることが明らかになった。

平成 24 年度調査 1・2 地点（畠間遺跡）（文献 5）

基本層序は客土（I 層）→耕土（I 層）→耕土または堆積層（II 層）→耕土または堆積層で中世の遺物包含層（II・III 層）→地山（V 層）の 5 層に分けられている。地山より上には江戸時代以前の堆積は全くみられないとされるが、断面記録からは中世に比定されている遺構（SD2010 や SD2077 など）が包含層上面から掘削されている状況が読み取れる。層序の理解と遺構の時期決定に明らかな混乱が生じている。

平成 24 年度調査 5 地点（畠間遺跡）（文献 5）

基本層序は表土（I 層）→近世～近代包含層（II 層）→耕土（II 層）→中世以降の遺構ベース土（III 層）→地山（V 層）の 5 層に分けられている。中世の遺構は中世以降の遺構ベース土上面から掘削されていたと報告されており、この層は中世に堆積していたと述べられている。本年調査の見解と一致する。

問題点と課題

既往調査成果を再検討すれば、以下の事柄が浮かび上がった。1 つは多くの調査地点で基盤層直上の包含層上面から中世の遺構が存在する可能性が極めて高いことである。また III 層とその上面からの遺構埋土の類似ゆえに認識が困難であり、その結果、包含層の形成時期が中世以降と誤認されてきた可能性も示された。確かに平成 20 年度調査報告では弥生時代と中世の遺物包含層の分離が困難であること、平成 22 年度調査報告では包含層として取り上げた遺物に本来の包含層遺物より新しい時期の遺物を含んでいる可能性について触れられており、既に問題は指摘されていた。しかしながら、次節で取り上げる中世溝群のように多くの調査地点の成果を合わせて検討する機会がなかったため指摘だけに留まっていた。

3. 出土遺物と III 層の形成時期

通常、包含層の時期はそこから出土する遺物の年代によって決定される。包含層に含まれる遺物は層形成以前の地上に存在した遺物（包含層遺物 A）、形成過程で含まれた遺物（包含層遺物 B）、形成後の擾乱・攪拌作用の結果混入した遺物（包含層遺物 C）があると考える。遺物 C は層上面で人間活動が行なわれ遺構が形成されてゆく中で、自然・人為の様々な擾乱・攪拌作用（窓みへの遺物の埋没、小動物や植物の動き）によって混入する。

本年の調査においては、包含層遺物の取り上げの際、II 層からの擾乱が多いことや II 層下層と III 層の分別が掘削時には困難であることを考慮し、大部分は II～III 層として取り上げた。II 層の掘削が完了したと判断した場合のみを III 層として取り上げた（註 17）。その上で 2 地点の III 層出土遺物の破片数を計測したのが表 4 である。この結果、中世遺構では 5～7 割を占める山茶碗は 3 割に満たず、須恵器と弥生土器が多いことが判明した。また、古瀬戸は 1 点もなく、14 世紀以降の遺物は含まれていない。III 層出土の山茶碗は第 7 型式までのものであり、包含層遺物 C と考えられる（一部には遺構埋土との類似

による認識漏れ遺構に由来するものが含まれよう）。少なくとも古瀬戸や東濃型山茶碗など14～16世紀の遺物がないことから、Ⅲ層の堆積がそれ以前に遡ることは間違いない。Ⅲ層は中世以前、おそらく遺構・遺物とともに少ない10～11世紀の間に堆積し、12～13世紀の開発行為に伴う搅拌作用を経て形成された層と考えられる。

既往調査においては、Ⅲ層相当の包含層を中世以後に形成されたものとし、中世遺構をⅣ層上面からと判断しているような報告事例があったわけだが、その根拠となる遺物は包含層と遺構埋土の類似に由来する検出漏れ遺構と少量の包含層遺物Cの可能性が非常に高い。

本調査の成果と既往調査の再検討から、包含層=Ⅲ層は古代～中世にかけて形成され、中世遺構の多くがその上面から存在している可能性が高いと考えられる。

4. 包含層の変遷

古代以前の遺構はⅣ層上面に形成されたと考えられる。

ただしⅣ層の多くは古代～中世にかけて失われたようである。Ⅳ層が失われた原因として大規模な削平は考えられない。風や流水などの自然による流失であろう。

10～11世紀は人間活動の痕跡があまり見出せない状況となり、この時期にⅢ層が堆積したと考えている。そして、12世紀後半になりⅢ層上面に区画溝の開削など多くの遺構が残されるようになる。その後、14世紀以降は遺構・遺物が減少し、活動の縮小が窺える。しかし、既往調査における14～16世紀の遺構もⅢ層上面からとみられ、この時期にⅡ層が堆積したとは考えられない。

Ⅱ層は近世に形成された層である。近世層であるⅡ層は包含層遺物Bとして多くの中世遺物を含んでおり、これまで中世遺物包含層とされた層の多くはⅡ層にあたるのではないだろうか。近世再開発時には盛り土が行われ、Ⅱ層はそれが基盤となって形成された可能性が高い(註18)。なお近世再開発の結果、中世の堆積が失われたとの見解(註19)が示されているが、大規模な削平を行なって地面を下げる利点は少なく、同じ労力を用いるなら上を盛った方が合理的である。しかし、盛り土が行われずⅢ層上面で近世の人間活動が行われた場合、包含層遺物CとしてⅢ層に近世遺物が混入し、その結果、Ⅲ層のⅡ層化とも言うべき事象が起り、結果として中世の堆積が失われることは考えられる。その場合、Ⅲ層とⅡ層の分離は非常に困難となる。層序の問題の背景にはこの事象を考える必要もあるかもしれない。

5. 今後の課題

Ⅲ層の細分は当然可能であり、今後の課題である。Ⅲ層のすべてが10～11世紀に形成されたわけではなく、前後の時期に形成された包含層も部分的には存在すると思われるが、大筋としては間違いないと考えている。また本節の見解は、主として1・2地点および周辺の既往調査区の成果による。3地点周辺の南側については、古代～中世の包含層があることは間違いないが、今回の調査成果から詳細を検討することはできない。遺構の展開も含め南北での差異があるように思う。包含層の時期決定は様々な実際上の困難が伴うが、これらの課題に対応するために基本層序と遺構の関係性をより把握することに努める必要がある。

器種	器形	Ⅲ層
山茶碗	碗	159 26%
	皿	3 0.5%
	鉢	5 0.8%
	甕	29 5%
	壺	1 0.2%
常滑焼	鉢	1 0.2%
	羽釜	0
	碗皿類	0
	鉢盤類	0
古瀬戸	壺	0
	碗皿類	0
	鉢	0
輸入陶磁器	碗皿類	0
	ほか	0
	鉢盤類	0
土師器	鍋釜	22 3.6%
	ほか	0
	壺	0
弥生土器	甕壺ほか	162 26%
	甕壺ほか	26 4.2%
	杯盤類	98 16%
	壺	27 4.4%
	甕	25 4.1%
灰釉陶器	碗皿類	13 2%
	塗埴土器	19 3%
	不明	25 4%
		615 100%

表4 Ⅲ層出土遺物片数

第2節 中世町割り溝の検討（第30図・表4）

1. はじめに

今回の調査で現在の町割りと方向性が一致する複数の中世溝が検出された。これらの溝は近世に再度掘削されており、中世に成立した町割りが近世を経て踏襲されてきたことが明らかとなった。同様の事例は既往調査でも指摘されている。例えば、平成23年度の龍雲院遺跡で検出された020SX（12～15世紀の流路もしくは溝群）の位置は江戸時代以来続いている旧家の敷地境と一致していたとのことである。今回は、これらの溝について既往の成果と合わせて、簡単にまとめておきたい。

中世溝は数多く検出されているが、その中から、方位が現在の町割りに沿っている溝、南北溝であれば方位がN-20°～30°-E、東西溝であれば、E-20°～30°-S程度の溝を同一群に属する溝とし、中世の町割り溝と判断した。中世町割り溝は主に第一砂堆北部（畠間遺跡の北部と郷中遺跡一帯）に展開している。表5は各溝の概要をまとめたもので、これを現在の都市計画図上に図示したのが第30図である。これらの溝は幅が1～2m程度、断面形状は碗形といった点もおおよそ共通する。畠間遺跡や東畠遺跡の南部にも同時期の溝はあるが、方位が異なる。このことから、現状では砂堆北部で検出される溝群とは別と考えたい。

2. 距離と区画

中世町割り溝は条里制の基本単位でもある1町（約109m）を基準としている。例えば170・210SDの屈曲地点と24年度調査1・2区の南北溝SD2077間の距離（第30図のD-F間）が約109mである。さらに2地点の040SDと110・190SDの屈曲地点（B-C間）の距離が約55mである（註20）。他に、平成21年度調査の6地点のSD5が南に屈曲する地点と同じ21年度調査の南北溝SD2(I-J間)との距離が約50mである。さらにSD2をそのまま南に延ばすと、先述の170・210SDの屈曲地点と24年度調査1・2区の南北溝SD2077の中間に位置し、それぞれへの距離（C-E・E-F）は55m前後である。21年度調査の南北溝SD2は方針的には110・190SDや044SDと関連する可能性の方が高いが、この場合（B-E）も距離は約110mである。少し前後の距離になる事例もあるが、当初は1町を基本として区画が設定されていたと考えられる。その後に、分割や再掘削の中で微妙な距離のズレが生じたのであろう。

3. 出土遺物と溝の帰属時期

まず本年調査で検出した溝の帰属時期は110・190SDと160・230SDは尾張型山茶碗第6～7型式=13世紀後半である。他の溝は出土遺物が少なく決めて欠ける。少し先行する可能性もある。既往調査の溝については、表5にまとめたが、やはり尾張型山茶碗5～7型式、12世紀後半～13世紀後半が主となっている。これらの溝が最初に掘削された時期を決めるのは難しいが、180SDなどで第3～4型式の山茶碗などがみられることから12世紀前半と考えている。また、15世紀前後の遺物が少量出土する事例があり、この頃まで浅い状態で残っていたのではないだろうか。

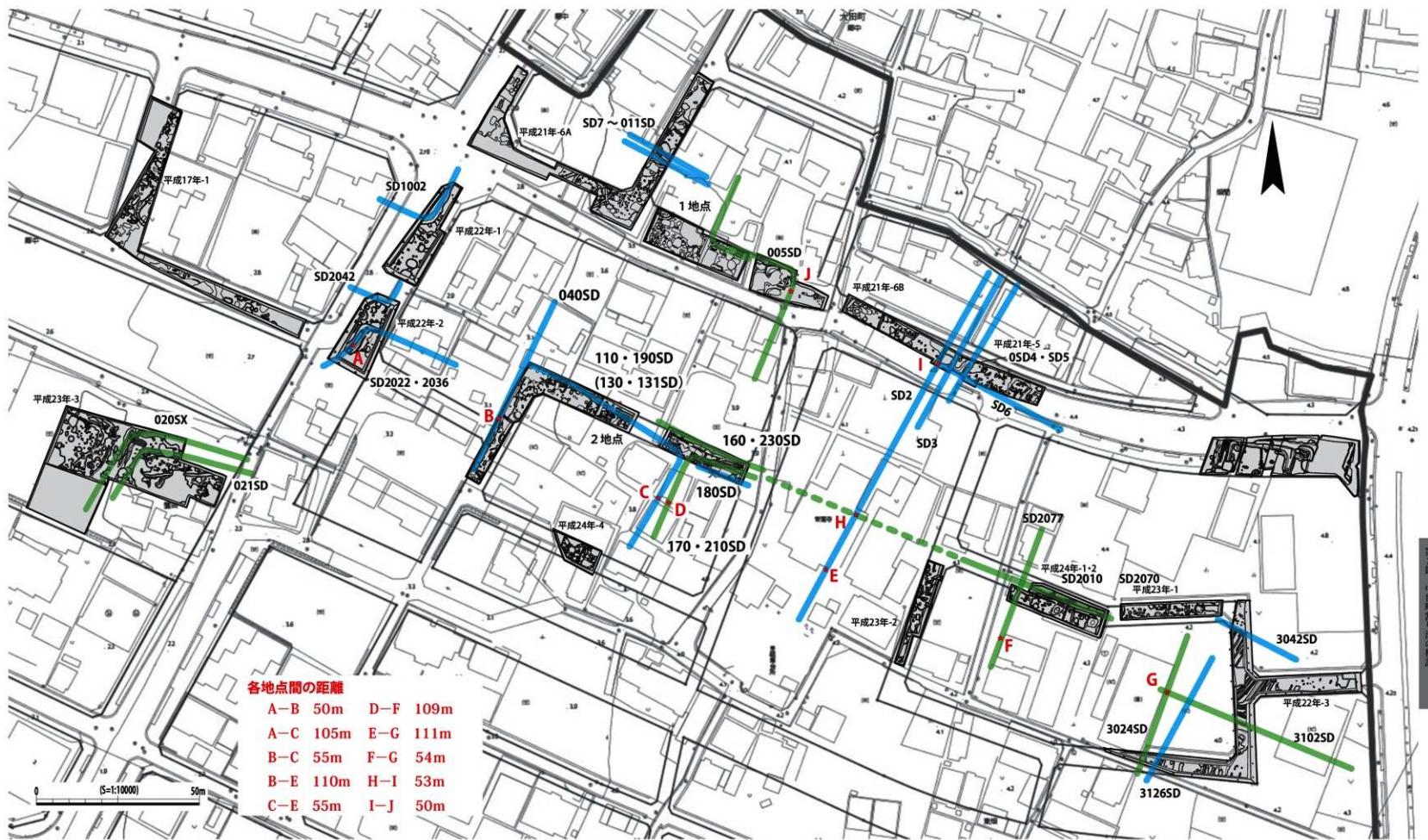
4. 溝の再掘削

近世の再掘削とは別に、多くの溝が中世段階（尾張型山茶碗第5～7型式の範囲内）で同じ場所もしくは少し軸をずらした位置で何度も掘削されている。基盤層が砂や土に埋まりやすいためであろうか。しかし、なぜ主軸を少しずらして掘削されるのかは分からぬ。また、一度収束した溝が少し離れた位置から掘削されている事例、つまりわずかに間のある溝がある。ただし、これは掘削単位であって当時は1条の溝として機能していた可能性が高い。同様の事例は他遺跡でもみられる（註21）。これは溝の

年度	調査区	遺構番号	方位	出土遺物と埋蔵時		備考
				出土遺物	埋蔵時	
H21	5地点	S02	N27°-E	尾張型山茶碗5~6型式		
		S03	N30°-E	尾張型山茶碗6型式		
		S04	N34°-E	尾張型山茶碗4~6型式		
		S05	N34°-E	尾張型山茶碗4型式		
		S06	E-27°~29°-S → N-28°~34°-E E-19°-S	尾張型山茶碗6型式 尾張型4型式~車輪型1型式	第020SDと同一層	
	6地点	S07	E-29°~30°-S	尾張型山茶碗5~6型式		
H22	1地点	S08	E-29°~30°-S	尾張型山茶碗5~6型式		
		S09	E-29°-S	詳細不明 SD7を切る最も新しい層		
		S010	E-29°-S	詳細不明 SD7とSD100に切られる最も古い層		
		S011	N-30°-E	詳細不明 SD9とSD11を切る。		
		SD1002	N-30°-E → E-30°~35°-S	17世紀の陶磁器		
	2地点	SD2022	N-30°-E	少量の近世陶磁器		
		SD2036	N-30°-E	少量の山茶碗や高滑ぎ		
		SD2042	E-30°-S	少量の中世遺物		
		SD3042	E-29°-S	詳細不明		
		SD3024	N-19°-E	少量の山茶碗や高滑ぎ		
H23	3地点	SD3102	E-23°-S	詳細不明		
		SD3126	N-31°-E	少量の山茶碗や高滑ぎ		
		020SD	N-19°~21°-E → E-10°-S	尾張型4型式~車輪型1型式	1軒の屋敷地の区画溝か	
		021SD	N-19°-E → E-10°-S	詳細不明	SD200の再掘削溝	
		SD2010	E-19°-S	常滑片方が多い、16世紀大衆製品もあり	2地点170SDなどと同一層か	
H24	1、2地点	SD2077	E-19°~10°-S	12世紀後半~13世紀前半の山茶碗。		
		SD2077	N-20°-E	少量の山茶碗や高滑ぎ		
		001SD	E-20°-S	尾張型山茶碗6~7型式		
		021・035SD	E-20°-S	尾張型山茶碗6~7型式		
		040SD	N-26°-E	尾張型山茶碗6~7型式		
H25	2地点	110・190SD	E-33°-S	尾張型山茶碗6~7型式か		
		130・131SD	E-27°-S	14~16世紀の陶製品		
		160・230SD	E-21°~24°-S	尾張型山茶碗6~8型式		
		170・210SD	E-15°-S	尾張型山茶碗6~7型式		
		180SD	E-16°~18°-S	尾張型山茶碗3~4型式		

主軸方位が30° 前後のもの
主軸方位が20° 前後のもの

表5 町割り溝群一覧



機能・目的が排水や防御ではなく、区画とする溝ならば問題ないと思われ、逆にこれが溝の機能・目的を区画と考える根拠ともなる。なお、少し離れた位置に溝が並ぶ場合も想定されるが、その間を道とするには狭く、同時期に側溝として機能していた可能性は低いと考えている。

5. 方位

方位は基本的には地形に沿ったものである。溝の方位は 20°～30° の幅の中というよりは、N-20°-E・E-20°-S に近い A 群と N-30°-E・E-30°-S に近い B 群に分かれ。しかし、それぞれに何か共通する要素はない。新旧で対応することもなければ、どちらも同じ位置に何条もの溝が掘削された事例、近世に再掘削された事例もある。

方位については、興味深い事実がある。都市計画図に示されている現代の建物もこの二つの主軸方位のものがあり、それは地下に眠っていた中世溝に対応している。例えば、21 年度調査の 002～005SD の南北にある建物は同じ N-20°-E である。HM-110・190SD と 170・210SD が南に曲がる地点にあった 2 件の住宅は、北側が 170・210SD と同じ N-30°-E、南側は 110・190SD と同じ N-20°-E なのである。どちらの主軸方位も現代に受け継がれていることから、前後関係はないよう思う。

6. 溝の変遷と評価

これらの町割り溝はいわゆる屋敷地の区画溝と考えられる。溝の開削時期を判断するのは難しいが、出土遺物からみて、山茶碗 5～7 型式にかけての時期（12 世紀後半～13 世紀後半）が最も盛んに周辺が利用された時期と考えられる。この時期には愛知県内で多くの中世集落が形成されており、それらは溝によって区画された屋敷地を特徴とする（註 22）。よって畠間・郷中遺跡における状況は地域の傾向に一致するものである。建物などの情報がほとんど無いために各区画の土地利用については全く不明であり、その性格等を考察るのは難しい。出土遺物からみれば一般的な中世村落を考えるのが妥当であろう。しかし、町割り溝が 1 町を単位とし、規格が高いことは特徴的である。

これだけ整然と町割りを施した集落も 14 世紀には衰退に向かうのであろうか、溝は埋没してしまう。今回の調査区に限らず 14 世紀以降の遺物・遺構はそれ以前に比較して少ない。常滑窯に関する論考の中で畠間遺跡を窯業生産者の居住域や出荷地の一つではないかと指摘がある（註 23）。規格の高さは特定の産業に関連する集落のイメージには合うだろう。また常滑窯業生産と関連する遺跡であるのならば、その衰退は常滑窯第 7 型式以降の縮小と軌を一にするものと言えよう。しかし、14 世紀の衰退という現象も県内の他の中世集落において同様の事例が多い（註 24）。

遺跡のある大田町はかつて大里村と呼ばれ、文和 3 年（1354 年）の『熱田社領注進目録』に記された大郷郷がこの地に比定されている。大郷郷の記録は正安元年（1299 年）の『熱田社領大郷百姓等陳状案』という文書にもあり、この頃には熱田社領であったわけだが、熱田社領となった時期については分からぬ（註 25）。町割り溝を伴う開発行為が熱田社領になったことを契機としているとすれば興味深い。もっとも積極的な根拠はないうえ、文献が記されている時期は溝が埋没した段階である。

14 世紀の集落の衰退という現象は、山茶碗の激減に伴う遺物編年の問題もあり（註 26）、本当に衰退したと言えるのかという根本的な問題もある。しかも近世において再度この区画溝が掘削されていることからは、何らかの形で区画・境界として継続されたことは間違いない。遺物の減少ほど衰退傾向を強調すべきではないのかもしれないが、溝が埋没し再度の掘削が無いことから、土地の維持管理体制の弱体化があったと判断しておきたい。

第3節 時期別の成果と課題

今回の調査における成果と課題を時期別にまとめておく。時期区分は2014年刊行の平成11～19年度調査報告において提示されており、これに従う。時期区分は表6の通りであるが、古代と中世にあたるⅣ期とⅤ期については、細分されていなかった。今回の調査では遺物では古代、遺構は中世を主とした成果を得たことから、Ⅳ・Ⅴ期をそれぞれ1～3期に細分した。また、江戸時代を暫定的にⅥ期として設定しておく。1～3の細分については、猿投窓などの生産地陶磁器編年を軸とし、既往調査成果も参考に設定した。

時期別遺構数は表6の通りである。表6の各地点遺構数の右欄は細分不可なものの数値である。なお、大多数の遺構は時期不明である。

I期（縄文時代～弥生時代前期）

遺構はなく、土器も数点出土したのみである。既往調査でも明確な遺構の存在は認められていない。散発的な活動が行われただけであったのだろう。

II期（弥生時代中期）

1地点と2地点では遺構はなく、土器が少量出土したのみである。3地点の第2面遺構は当該期のものと考えている。遺物は小片ばかりだが、中世遺物が含まれないことや周辺の成果からのそのように判断した。ただし、遺構の性格などは不明である。

III期（弥生時代後期～古墳時代中期）

当該期の遺物としては、円窓付土器が東海市で初めて出土したことが特筆される。山中式期のものである。ただし、同時期の土器はあまり出土していない。むしろ主体となるのはⅢ-2期にあたる弥生時代終末期（廻間式期）である。2地点では残存率の高い土器が各1点出土した010SKと146SKが検出された。2地点では153SXのように当該期の土器片が出土する遺構が他にもあったが、竪穴建物や溝のような明確な遺構もなく、その時期判定についても不安が残る。既往調査と合わせて考えれば、1地点と2地点一帯は、集落（居住域）の西側縁辺であったと考えられる。Ⅲ-3期にあたる古墳時代中期については遺構・遺物とも無かった。この時期の遺構・遺物が少ないことは既往調査の成果においてもみられる傾向である。

時期	時代・土器型式	1地点	2地点	3地点	計
I	縄文時代晩期以前				
I	縄文時代晩期末～弥生時代初頭	0	0	0	0
II	弥生時代前期（櫻玉式期～水神平式期）				
II	1 弥生時代中期前半（岩滑式期）	0	0	0	0
II	2 弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）	0	0	0	0
III	1 弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）	0	0	0	0
III	2 弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸I式期）	0	1	5	0
III	3 古墳時代中期（松河戸II式期～宇田式期）	0	0	0	0
IV	1 古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）	0	0	0	0
IV	2 奈良時代（東山50号窯式期～黒垂14号窯式期）	3	0	20	2
IV	3 平安時代前期（黒垂90号窯式期～東山72号窯式期）	0	1	0	0
V	1 平安時代後期（山茶碗第2～4型式期）	0	0	0	0
V	2 鎌倉時代（山茶碗第5～8型式期・常滑窯3～6b型式期）	13	6	46	16
V	3 室町時代（山茶碗第9型式期～瀬戸大窯式期）	2	3	2	0
VI	江戸時代	6	26	1	33

表6 時期区分と時期別遺構数

IV期（古墳時代後期～平安時代）

IV期は今回初めて細分した。古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）をIV-1期、奈良時代を中心とした7世紀半ば～9世紀初め（東山50号窯式期～黒窓14号窯式期）をIV-2期、9世紀～11世紀（黒窓90号窯式期～東山72号窯式期）をIV-3期とした。IV-3期は包含層（Ⅲ層）の形成時期と考えている。

当該期の遺構の多くはIV-2期のものと考えている。IV-2期についても確実性の高い遺構は、折戸10号窯式期の須恵器が数点出土した2地点の229SKくらいである。しかし、出土遺物と切り合い関係などから可能性のあるものを含めれば、表6の通りの数となる。また、包含層などから多くの須恵器や知多式4類の製塩土器が出土している。須恵器は主として岩崎41号窯式期～折戸10号窯式期など8世紀代を中心とする時期のものが多い。既往調査ではIV-2期の中でも後半の8世紀後半から9世紀前半の鳴海32号窯式期～黒窓14号窯式期が主体であったが、今回の遺物には7世紀代を含め、少し先行する時期のものが比較的多くみられた。

IV-3期は既往調査も含め遺構・遺物ともに極めて少ない。先述のように包含層が堆積した時期と考えている。IV-3期に衰退する様相は隣接する松崎遺跡などで製塩活動の盛衰とも重なる（註27）。このことから本遺跡の展開はそれらと関連している可能性があると考えている。

V期（中世）

V期も今回初めて細分した。平安時代後半（山茶碗第2～4型式期）をV-1期、鎌倉時代（山茶碗第5～8型式期・常滑窯3～6b型式期）をV-2期、室町時代（山茶碗第9型式期～瀬戸大窯期）をV-3期とした。

この時代の主要な成果は町割り溝の検出であり、その様相については前節で述べている。IV-1期の遺構は極めて少なく先行するⅢ-3期とともに本遺跡の空白期である。しかし遺物は一定量みられ、IV-1期の終わり頃に町割り溝の開削が始まったと考えている。そして、IV-2期には盛期を迎えることとなる。

IV-3期はIV-2期と比較すれば遺構・遺物とも少ないが、既往調査では一定量の遺構・遺物が見つかる地点もあり、その評価は難しい。特にIV-3期の出土遺物の少なさは山茶碗生産の縮小による見せかけのものかもしれない。なお、既往調査報告で12～13世紀は山茶碗を主とする供膳形態、14～16世紀は土器・師鉢などを主とする調理形態の上器が主となることから、後者の方が生活の中心となつた結果と述べられている（註28）が、13世紀以前と14～16世紀の遺物組成の比較において、後者で調理形態の比率が高くなることは愛知県内の一般的傾向（註29）であり、その見解は同意できない。この問題は土器・木器・金属器も含めた食器構成の中で考えるべき大きな問題である。この問題ゆえに本遺跡においても14世紀以降を衰退期とすることには少し躊躇を覚えるわけであるが、13世紀後半に溝が埋没していることから、土地の維持管理体制の弱体化があったと理解したい。

VI期（近世）

中世溝の再掘削を伴う開発行為が行われている。浅い窪地のように残っていた事例に加え、簡易な杭や柵によって継続して境界として機能していたのだろう。この近世再開発の時期や背景についても課題である。17世紀初頭であれば、安定した近世社会の成立の中で自然発生的に行なわれたもの、17世紀半ば～後半であれば横須賀御殿造営時の大田川付け替えに伴うもの、18世紀ならば干拓地拡大を背景にしたものと考えられる。

第4節 さいごに

繰り返しになるが、本年調査成果から考えられる遺跡の変遷とその背景について一調査担当者としての見解を総括しておく。

I～Ⅲ期については、新しい所見を述べるような成果は得られなかった。縄文時代から弥生時代前期は第一砂堆が形成される時期、V層の形成時期である。散発的に利用されるだけの場所であったのだろう。その後、弥生時代中期に至り、集落が成立する。居住域と墓域が確認されている。古墳時代初頭まで居住域や墓域の移動はあったが大きな変化はなかった。古墳時代中期から後期にかけて遺構・遺物が減少するが、この背景はまったく不明である。本遺跡の南西、すぐ近く第二砂堆に位置する鳥帽子遺跡も同様の傾向がみられる。この時期における遺構・遺物の減少の背景を考えるには他遺跡も含めて地域全体の動向を探ってゆく必要がある。

その後、7世紀後半から9世紀初めは調査地点による差異はあるが、遺構・遺物が再度みられるようになる。この時期はちょうど知多式製塙土器4A類の時期と重なる。知多式製塙土器4A類は土器製塙の最盛期のものであり、その衰退期はIV～Ⅲ期としたK-90号窯式期からである。つまり、土器製塙の盛衰と本遺跡の状況が軌を一としており、製塙遺跡である松崎遺跡の発展と関連する可能性がある。とはいっても、製塙遺跡に対応する主たる集落とは考えられない。衛星的に利用された小規模な居住域であったのではなかろうか。

その後12世紀まで無人の野とは言わないが、人間活動の痕跡の薄い時期が続く。12世紀以降の町割り溝群の開削を伴う中世の再開発の背景は何であったのだろうか。熱田神宮による莊園化であったのだろうか。個人的には溝の規格の高さや常滑窯山茶碗生産の縮小期である13世紀後半に集落の衰退傾向が読み取れることから、窯業生産と関連する可能性はあると思う。ただし、工人の居住域であったのか、出荷地などであったのかは分からぬ。

IV期とV期の過程は非常に類似する。ともに地域の主要産業が発展するに伴ってこの地に残される人間活動の痕跡が多くなる。現在の東海市の発展が鉄鋼業という主要産業によっていることと共通性を感じる。製塙→製陶→製鉄と物づくりが栄えるごとにこの地に人が集まるのは歴史の巡り合わせであろうか。またどちらの時期についても周辺の遺跡との有機的な関連性を含めて検討してゆく必要があり、本遺跡の成果だけで歴史を語ることは出来ない。この点が今後の課題である。

今回の調査成果の主となるものは中世町割り溝であった。この溝は近世に再開削され、その町割りは現代まで引き継がれた。そして、その事が新しい町割りを造る現代の区画整理に伴う発掘調査で明らかとなつたことに歴史の繋がりを感じるとともに、これらの歴史が未来へと引き継がれ活かされることを願う。

註

第1章

- (註 1) 愛知県教育委員会 1999 年『愛知県知多半島遺跡詳細分布調査報告書』
(註 2) 東海市教育委員会 1997 年『愛知県東海市東畠遺跡等試掘調査報告』
(註 3) 永井伸明・宮澤浩司 2007 年「伊勢湾を望む海辺の遺跡－東畠遺跡等発掘調査概報－」
『研究報告とうかい』創刊号 東海市教育委員会
宮澤浩司 2009 年 「伊勢湾を望む海辺の遺跡（2）－平成 19 年度畠間・東畠遺跡発掘調査の概要－」
『研究報告とうかい』第 2 号 東海市教育委員会
- (註 4) 近隣の古者の話から想定された位置で見つかった。化学分析の結果も近代墓であることを示した。化学分析は株式会社パレオ・ラボに依頼し、その分析結果は東海市教育委員会にて保管している。

第2章

- (註 5) 参考文献 6 にて提示されたものを今回細分した。第 4 章を参照。
(註 6) 第 4 章第 1 節で触れているが、3 地点の 002・003SD に続く平成 23 年度 4 地点（東畠遺跡）の 011SD はそのような誤認例である。（文献 4）
(註 7) 稲沢市の下津宿遺跡で類例がある。
樋上昇ほか 2013 年 『下津宿遺跡』
(公財) 法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
(註 8) 平成 21 年度 6B 地点 SD5 の帰属時期については報告書の記述に混乱がみられる。出土遺物は尾張型 4～6 型式の山茶碗を主としつつも、東濃型 11 型式のものもあるとし、一方でこの溝の埋土に攝削されている SK30 を 12 世紀の遺構としている。SK30 は新しい遺構の可能性が高く、東濃型 11 型式は埋没最終段階の遺物と考え、SD5 開削→埋没は基本的には 13 世紀～14 世紀初めの中に収まるものと考えたい。（文献 2）
(註 9) 本調査の翌年（平成 26 年度）に、2 地点の西側が調査され並行する同方向の中世溝が確認された。
(註 10) 註 6 参照（文献 4）

第3章

- (註 11) 洗浄・接合前の量であり、コンテナは内寸 414 × 314 × 101mm のものである。
(註 12) 土器編年等については参考文献 7～22 を参考とした。
(註 13) 繩引式期の遺物については、その一部は古墳時代のものとすべきかもしれないが、本調査に関しては、前代からの連続性の中で弥生終末期としておく。
(註 14) 石黒立人ほか 2003 年『鳥帽子遺跡Ⅱ』(財) 愛知県埋蔵文化財センター
鳥帽子遺跡からの出土遺物は弥生時代以降も含めて本遺跡と類似の状況がみられる。
(註 15) 様々な計量分析方法があるが、もっとも単純でデータ蓄積と比較が可能な破片数計測が優れていると考えている。ただし、筆者の知識不足から正確さの不安は残る。
(註 16) 中野晴久 2013 年 『中世常滑窯の研究』 愛知学院大学学位請求論文

第4章

- (註 17) II 層と搅乱は攝削除去しても III 層と埋土が類似する遺構に関しては困難であった。
(註 18) 客土による整地が行われている場合、II 層に含まれる遺物の評価には注意を要する。
(註 19) 文献 5
(註 20) このことから 110・190SD が 130・131SD に続き、一連の溝であったと考えることができる。
(註 21) 註 7 文献
(註 22) 鈴木正貴ほか 2002 年 『東海の中世集落を考える』 東海考古学フォーラム
(註 23) 註 16 文献
(註 24) 註 22 文献
(註 25) 東海市史編さん委員会編 1990 年 『東海市史 通史編』 東海市
『熱田社領注進目録』に記された同じ知多郡の社領のうち御幣田郷は記録から建久 2 年（1191 年）には
熱田社領であったことが分かり、大郷郷も同様であれば、溝の開削と時期が合うかもしれない。
(註 26) 尾野善裕 1996 年 『東海地方の尾張地域を中心とした中世の土器・陶磁器組成について』
『中近世土器の基礎研究 11』 中世土器研究会
註 22 文献
(註 27) 考古学フォーラム編 2010 年 『東海土器製塙研究』 考古学フォーラム
(註 28) 文献 5
(註 29) 川井啓介 2000 年 『三河地域の中世集落』
『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第 1 号 (財) 愛知県埋蔵文化財センター
註 26 文獻

参考・引用文献

既往調査

- 1 桐山秀穂・宮澤浩司ほか 2009年 『畠間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会
- 2 有馬啓介・宮澤浩司ほか 2012年 『畠間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会
- 3 篠和也・宮澤浩司ほか 2012年 『畠間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会
- 4 坂野俊哉・宮澤浩司ほか 2013年 『畠間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会
- 5 篠和也・宮澤浩司ほか 2014年 『畠間・東畑遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会
- 6 永井伸明ほか 2014年 『畠間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告 - 平成11~19年度調査』
東海市教育委員会
- 7 遺物の年代観・用語等
- 8 愛知県史編さん委員会編 2003年 『資料編2 考古2 弥生』愛知県
- 9 愛知県史編さん委員会編 2005年 『資料編3 考古3 古墳』愛知県
- 10 愛知県史編さん委員会編 2010年 『資料編4 考古3 飛鳥～平安』愛知県
- 11 愛知県史編さん委員会編 2007年 『別編 窯業2 中世・近世瀬戸系』愛知県
- 12 赤塚次郎 1990年 『V 考察』『廻間遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 13 赤塚次郎 1997年 『廻間I・II式再論』『西上免遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 14 赤塚次郎・早野浩二 2001年 『松河戸・宇田様式の再編』
『愛知県埋蔵文化財センター紀要』第2号 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 15 赤塚次郎・永井宏幸ほか 『朝日遺跡Ⅷ 総集編』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 16 石黒立人・加納俊介編 2002年 『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社
- 17 尾野善裕 1997年 『東海』『古代の土器5-1 7世紀の土器(近畿東部・東海編)』
古代の土器研究会
- 18 考古学フォーラム編 1996年 『鍋と甕 そのデザイン』考古学フォーラム
- 19 考古学フォーラム編 2010年 『東海土器製塙研究』考古学フォーラム
- 20 小林達雄編 2008年 『総覧 繩文土器』総覧縄文土器刊行委員会
- 21 城ヶ谷弘 1991年 『古代尾張の土師器』『年報2』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 22 中世土器研究会編 1995年 『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
その他
- 23 小野正敏編 2001年 『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 24 高橋学 2003年 『平野の環境考古学』古今書院
- 25 東海市史編さん委員会編 1990年 『東海市史 通史編』東海市
- 26 横須賀町史編纂委員会編 1969年 『横須賀町史』横須賀町

遺構一覧表

・遺構一覧表凡例

長軸、短軸、深さの単位は cm である。

() で記した数値は調査区外に続くものなど、調査時に計測できた部分の数値である。

平面形状・断面形状は下記の図による

埋土と出土遺物は主たるものを見た。

時期は下記の本遺跡の時期区分で記した。

断面形状



平面形状



時期区分表

時期	時代・土器型式
I	1 繩文時代晚期以前
	2 繩文時代晚期末～弥生時代初頭
	3 弥生時代前期（櫻玉式期～水神平式期）
II	1 弥生時代中期前半（岩滑式期）
	2 弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）
III	1 弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）
	2 弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸 I 式期）
	3 古墳時代中期（松河戸 II 式期～宇田式期）
IV	1 古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）
	2 奈良時代（東山50号窯式期～黒笹14号窯式期）
	3 平安時代前期（黒笹90号窯式期～東山72号窯式期）
V	1 平安時代後期（山茶碗第2～4型式期）
	2 鎌倉時代（山茶碗第5～8型式期・常滑窯3～6 b型式期）
	3 室町時代（山茶碗第9型式期～瀬戸大窯式期）
VI	江戸時代

地中道路（1地点）道標一覧表

番号	記号	クリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
001	SD	T017n・17・18g・18r	(581)	134	279	直角+一段	楕形	第6回形	山形、富士山形	V.2	
002	SK	T017p・18p	(157)	34	-4明	楕形	第8回形	須恵器(楕) ほか	山形、富士山形	V.2	
003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	矢面
004	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	矢面
005	SD	T007q	(345)	96	35	弧状	楕形	第6回形	争生土器 土器底	V.2	
006	SD	T008p	(181)	50	22	蛇形	楕形	第8回形(2.2)4回	須恵器	V.2	
007	SK	T017p	172	(88)	49	不規則	楕形	第9回形	日鏡片	V	
008	SK	T017o	98	(58)	19	不規則	楕形	第9回形	無し	V	
009	SK	T017o	(126)	124	27	不規則	楕形	第9回形	山形(東濃型)	V.3	
010	SK	T017n・17o	142	(40)	25	不規則	楕形	第9回形	無し	V	
011	SP	T017o	51	41	15	直角	楕形	第9回形(2.2)3回	須恵器	V.2	
012	SK	T017o	120	(71)	17	不規則	楕形	第9回形(2.2)3回	須恵器	V	
013	SP	T017m	34	(29)	9	円形	楕形	第9回形(2.2)3回	須恵器	V	不明
014	SK	T018o	(52)	19	4明	楕形	第9回形(2.2)3回	須恵器	無し	V	
015	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	矢面
016	SK	T017p・18p	98	(74)	24	不規則	楕形	第9回形(2.2)3回	無し	V	
017	SK	T017q	60	36	14	直角	楕形	第9回形(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
018	SP	T017p	38	(34)	14	円形	楕形	第9回形(2.2)3回	須恵器	V	不明
019	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	矢面
020	SD	T018s・18s	(215)	84	24	直角	楕形	第6回形	山形、富士山形	V.2	
021	SD	T018s	(253)	102	14	直角	楕形	第6回形	山形、富士山形	V.2	
022	SP	T017q・18q	50	46	12	円形	楕形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V.2	
023	SP	T017q・18q	28	28	15	円形	U字形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
024	SP	T017q・18s	31	28	10	円形	楕形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
025	SK	T017q・18s	118	(37)	22	不規則	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
026	-	-	51	(41)	13	円形	楕形	須恵器(7.5Y8/4)	須恵器	V	不明
027	SK	T019q	52	26	16	直角	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
028	SP	T017m	59	(26)	7	不規則	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
029	SK	T017m	91	(53)	13	不規則	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
030	SP	T017m	82	62	21	直角	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
031	SP	T017m	46	45	20	円形	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
032	SK	T016n・16n	124	(105)	39	円形	楕形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
033	SD	T016n	136	39	41	直角	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
034	SP	T018q	36	(23)	12	円形	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
035	SD	T018q・18s	(188)	124	13	直角	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V.2	
036	SP	T017m	33	32	12	円形	U字形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	
037	SK	T015n	(54)	26	9	不規則	楕形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
038	SK	T016n	(64)	60	21	不規則	楕形	須恵器(10YR3-(2))	須恵器	V	不明
039	SD	T016s	(71)	45	30	不規則	楕形	須恵器(2.2)3回	須恵器	V	不明
040	SD	T015n・16s	(497)	79	31	弧状	楕形	第7回形	山形(山形)	V.3	

番号	記号	クリップ	鉢輪			溝文	平面形状	断面形状	土	地質	出土遺物	備考
			長軸	短軸	高さ							
041	SP	T015n・16n	49	34	11	円形	圓形	圓形	土黄色(10Y7/4-2) 磨耗少	無し	無し	不明
042	SP	T016n	29	28	20	円形	U字形	U字形	土黄色(2.5Y3/1) 磨耗少	無し	無し	不明
043	SP	T018n	52	40	16	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/4-2) 磨耗少	無し	無し	不明
044	SP	T018n (2.5Y3/2)	33	(21)	19	円形	U字形	U字形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	不明
045	SP	T018n	39	37	16	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/4-2) 磨耗少	無し	無し	N-2
046	SK	T017n	102	(42)	17	円形	橢形	橢形	20.0mm厚黒	無し	無し	山脈層 V-2
047	SP	T016n (2.5Y2/1)	46	40	26	円形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y2/1) (2.5Y4/3) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
048	SP	T016n・17n	51	46	8	円形	橢形	橢形	土リード複色(10Y8/4-2) 磨耗少	無し	無し	不明
049	SP	T017m	(51)	45	13	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/4-2) 磨耗少	無し	無し	不明
050	SK	T016n	69	(64)	9	円形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 分生土層
051	SP	T017m	50	42	9	円形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	不明
052	SK	T017m (2.5Y2/2)	(93)	(82)	15	円形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y2/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
053	SK	T016n・16n	(96)	(46)	23	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/3-2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 分生土層は少
054	SP	T015n・15n	41	32	13	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/3-2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
055	SK	T015n・15n	(100)	(58)	19	円形	橢形	橢形	土黄色(10Y8/3-3) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
056	SP	T017m	30	25	15	円形	U字形	U字形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
057	SP	T016n	30	26	12	円形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
058	SK	T016n (55)	(38)	18	4-9	橢形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層 V-2
059	SK	T018n・10n	—	—	—	橢形	橢形	橢形	—	—	—	山脈層
060	SK	T017n	92	42	14	橢形	橢形	橢形	土脉層	無し	無し	V-2 (Ooids帶土)から存在
061	SP	T017n	79	58	22	橢形	橢形	橢形	土黄色(3.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	V
062	SP	T017n	45	(40)	13	橢形	橢形	橢形	土黄色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	V
063	SK	T017n	—	—	21	—	橢形	橢形	土-灰-黄褐色(10Y8/4-3) 磨耗少	無し	無し	山脈層と北界層との間に
064	SK	T018n	—	—	18	—	橢形	橢形	土リード複色(2.5Y3/2) 磨耗少	無し	無し	山脈層と北界層との間に

地質調査（2地点）遺構一覧表

番号	記号	クリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物	時期	備考
001	SK	S8Dg-7h	203	(115)	17	4-円	直壁式	-	圓筒形 山形窓 遠世陶器	V	
002	SD	S8Dg-7h	(816)	38	9	直壁式	圓形	長キヨリーカ色 (515/5) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓 遠世陶器	V	HGSD上2の近世層
003	SK	S8Dg-h	85	83	33	円形	長キヨリーカ色 (534/2) 中丸砂	圓筒形 山形窓 遠世陶器	圓筒形 山形窓	V	
004	SK	S8Dg-h	(115)	79	30	直方形	長キヨリーカ色	圓筒形	圓筒形 山形窓	V	
005	SK	S8Dg-h・6i	145	(94)	15	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
006	SP	S8Dg-1	34	30	8	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
007	SK	S8Dg-1	70	46	28	橢円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	不明
008	SD	S8Dg-1	(246)	59	16	直壁式	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	不明
009	SP	S8Dg-1	55	54	11	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	無し
010	SK	S8Dg-1/8i	124	(110)	40	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	角半十周 (15/2) ほか	V	
011	SK	S8Dg-1	89	71	5	円形	直壁式	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	無し	V	不明
012	SP	S8Dg-1	59	53	12	円形	直壁式	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形	V	
013	SK	S8Dg-h	131	(62)	24	4-円	圓筒形	直壁式なし	圓筒形 山形窓	V	
014	SD	S8Dg-h	(331)	41	20	直壁式	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
015	SD	S8Dg-h	(173)	46	24	直壁式	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
016	SP	S8Dg-g	44	36	24	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
017	SP	S8Dg-h	41	35	21	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	無し
018	SP	S8Dg-g	50	45	29	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
019	SK	S8Dg-w (w=7e)	(608)	(617)	13	4-円	直壁式	長黄褐色 (2 SY5/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
020	SK	-	(81)	72	28	橢円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 中丸砂	圓筒形 山形窓 遠世陶器	V	
021	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
022	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
023	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
024	SP	S8Dg-f	29	(19)	15	円形	七子型	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
025	SP	S8Dg-f	30	29	13	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	不明
026	SP	S8Dg-f	44	33	22	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
027	SP	S8Dg-f	44	41	18	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
028	SP	S8Dg-f	41	36	12	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
029	SD	S8Dg-f	46	(28)	17	円形	圓筒形	長黄褐色 (10YR3/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
030	SD	S8Dg-f・6i・5g	(764)	(49)	26	直壁式	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
031	-	S8Dg-f	(1502)	(633)	24	直壁式	圓筒形	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
032	-	S8Dg-f	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
033	-	S8Dg-f	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
034	SK	S8Dg-f・6h	286	136	14	不規則	直壁式	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
035	SP	S8Dg-f	59	(49)	29	円形	上二三之模様色 (10YR4/3) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V		
036	-	S8Dg-f	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
037	SK	S8Dg-f・7e・8d	(661)	(204)	14	不規則	直壁式	長黄褐色 (10YR4/2) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V	
038	SP	S8Dg-f	51	49	28	円形	上二三之模様色 (10YR4/3) 楕円柱砂	圓筒形 山形窓	V		
039	-	S8Dg-f	-	-	-	-	-	-	-	-	欠痕 開口上開口
040	SD	S8Dg-c-11b	(1658)	(106)	41	不整形状	圓形	第10回影写	圓筒形	V	

番号	記号	クリップ	長軸	短軸	溝文	平面形状	断面形状	出土遺物	時期	備考
041	SP	SD10e	47	47	8	円形	U字型	骨灰(10YR4/2) 梅鉢形	令和十期	V
042	SP	SD10e	42	40	29	円形	U字型	骨灰(10YR4/2) 梅鉢形	山形窓 常滑焼	V.2
043	SP	SD10e	40	37	17	円形	楕円	骨灰(10YR4/2) 梅鉢形	楕円	不明
044	SK	SD10b	317	146	35	楕円	楕円	骨灰(10YR4/2) 梅鉢形	山形窓 常滑焼 平底丸分	V.2
045	SD	SD10d	(340)	74	21	直線状	楕円	木下一鶴色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器 露出鉢付	V.2
046	SK	SD10e-Be	(222)	(100)	23	4-9形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器 露出鉢付	V.3
047	-	SD10d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
048	-	SD10d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
049	-	SD10d-9d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
050	-	SD10d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
052	-	SD10d-9d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
053	-	SD10d	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
054	SK	SD10c+10d	138	(64)	17	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器	V.2
055	SK	SD10c+10d	61	(22)	21	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器	不明
056	SK	SD10e+10c	92	(64)	20	円形	楕円	上部黄褐色(10YR4/2) 梅鉢形	山形窓 土師器	不明
057	-	SD10c	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
058	SK	SD10c	59	(27)	14	方型	楕円	上部玉・黄色(10YR4/3) 梅鉢形	角付・土窓	V
059	SP	SD10c	32	30	19	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器	V
060	SD	SD10c	(228)	(44)	21	直線状	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	山形窓 土師器	V
061	SD	SD10c	178	46	12	蛇行状	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	五世陶器 山形窓 土師器	V
062	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
063	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
064	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
065	SK	SD10c+11c	172	57	32	方形	楕円	黒褐色(2.5Y3/2) 梅鉢形	五世陶器 山形窓 平底丸分	V
066	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
067	SP	SD10c	29	(16)	11	円形	楕円	赤褐色なし	楕円	不明
068	-	SD10c	-	-	-	-	-	-	-	欠番
069	SK	SD10c	53	(38)	8	円形	楕円	黒褐色(2.5Y3/2) 梅鉢形	五世陶器 土師器	V.2
070	SK	SD10b+11c	(75)	(50)	15	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	楕円	不明
071	SK	SD10b+11c	(55)	(31)	11	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	楕円	不明
072	SK	SD10b	59	(25)	17	円形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	楕円	不明
073	SD	SD10b-2b	(121)	53	9	長方形	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	五世陶器 土師器	R.2
074	SK	SD10b+12b	(104)	(43)	12	不規則	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	五世陶器 土師器	V
075	SD	SD10b	(147)	58	19	直線状	楕円	黒褐色(10YR3/2) 梅鉢形	五世陶器 土師器 山形窓	V
076	SK	SD10b+11c	(219)	(59)	26	4-9形	楕円	黒褐色(10YR4/2) 小鉢	山形窓 常滑焼 上師器	V.2
077	SK	SD10b+11c	50	49	9	円形	楕円	黒褐色(10YR4/2) 梅鉢形	楕円	不明
078	-	SD10b	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
079	-	SD10b	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
080	-	SD10c	-	-	-	-	-	-	-	欠番 鮑貝・骨明
081	SD	SD10f	(97)	49	21	直線状	楕円	上部玉・黒褐色(10YR4/3) 梅鉢形	山形窓 常滑焼 里側出目付	V.2

番号	記号	クリップ	埴輪			平面形状	断面形状	出土遺物	地圖	備考
			長軸	短軸	溝さ					
123	SP	SD06f	45	43	8	円形	圓形	山形窓 上-左-黄褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.2
124	SP	SD06f-9d	41	37	8	円形	圓形	黒褐色 左-右-黑褐色	無し	不明
125	SK	SD06d-9d	3356	121	16	長方形	圓形	黒褐色 左-右-黑褐色	山形窓	V.2
126	SP	SD06f	42	38	11	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.2
127	SK	SD06f	63	47	11	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
128	SP	SD06f	35	33	16	円形	U字型	黒褐色 (10YR4/3) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
129	SK	SD06e	73	61	5	円形	圓形	上-左-黄褐色 (10YR4/3) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.3
130	SD	SD05g-6h	(275)	50	21	直線状	圓形	上-左-圆彎形	古墳地 山形窓	V.3
131	SD	SD05g-6h	(371)	39	23	直線状	圓形	上-左-圆彎形	古墳地 山形窓	V.3
132	SP	SD06e	39	35	11	円形	圓形	上-左-黄褐色 (10YR4/3) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
133	SP	SD06e	37	32	12	円形	圓形	上-左-黄褐色 (10YR4/3) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
134	SP	SD06e	36	33	11	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
135	SP	SD06e	28	26	11	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
136	SP	SD06f	35	34	6	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.2
137	SP	SD06f	52	40	10	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	R.2
138	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
139	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
140	-	SD05g	-	-	-	-	-	-	-	近代地
141	-	SD05g	-	-	-	-	-	-	-	近代地
142	SK	SD07e	277	83	8	蛇形	圓形	上-左-黄褐色 (10YR4/3) 梅園紋	五角形 山形窓	V
143	SK	SD05g-6g	(74)	53	12	不明	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.3
144	SP	SD06d	180	65	20	不明	圓形	上-左-黄褐色 (10YR4/3) 梅園紋	火炎向右 山形窓	火炎向右 山形窓
145	SP	SD06d	35	33	19	円形	U字型	黒褐色 (2.5Y3/2) 梅園紋	先生土器	不明
146	SK	SD06c	(194)	(48)	26	不明	圓形	上-左-圆彎形	五角形 山形窓	R.2
147	SP	SD01b-11c	(231)	34	37	直線状	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	五角形 山形窓	R.2
148	SP	SD07i	60	54	30	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
149	-	SD06d-9d	-	-	-	-	-	-	-	欠番と判明
150	SK	SD07i	(101)	89	8	橢円形	圓形	上-左-圆彎形	先生土器 (火炎X直)	山形窓
151	-	SD01c	-	-	-	-	-	-	-	欠番と判明
152	-	SD01c	-	-	-	-	-	-	-	欠番と判明
153	SK	SD06e-6f	(346)	(323)	17	不規則	圓形	上-左-圆彎形	先生土器 (火炎X直)	山形窓
154	SP	SD06f	41	38	21	円形	U字型	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	N.2
155	SP	SD06f	37	34	16	円形	U字型	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
156	SD	SD06f-7f	42	35	12	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.2
157	SK	SD05g	221	58	3	長方形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	M
158	SK	SD05g-6g	(121)	(77)	24	直線状	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	不明
159	SK	SD05g	(82)	(47)	17	不明	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	V.2
160	SD	SD01o-11s	(2482)	(216)	42	直線状	圓形	上-左-圆彎形	山形窓 先生土器	山形窓 先生土器
161	-	SD05o-9p	-	-	-	-	-	-	-	欠番と判明
162	SK	SD05o	100	96	20	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	山形窓 先生土器
163	SK	SD05o	100	97	20	円形	圓形	黒褐色 (10YR3/2) 梅園紋	山形窓 先生土器	M

番号	記号	タリード	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	埋土		地質	時期	
								横形	縦形			
164	SX	SD05n	250	(95)	17	方形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	平底	平底	V-1	
165	SX	SD10n	103	(74)	9	直線状	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
166	SX	SD05n	64	56	25	円形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
167	SX	SD05o	46	40	14	円形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
168	SP	SD05p	52	46	15	円形	横形	オリーブ色 (2.5 Y3/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
169	SK	SD05p-5m-10s-10n	(80)	(77)	22	円形	横形	黄褐色 (2.5 Y3/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
170	SQ	SD10o-11s	(1703)	(166	50	26	直線状	横形	第4号層	山形底	常滑地	V-2
171	SX	SD10o	(103)	(97)	26	円形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
172	SP	SD10p	57	56	11	円形	横形	黒褐色 (109 R2/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
173	SP	SD10p	41	38	9	円形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
174	SP	SD10p	41	(29)	15	円形	U7型	黒褐色 (109 R2/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
175	—	SD05o	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
176	SP	SD10o	45	26	14	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
177	SK	SD10p-8s	115	77	26	長方形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/4) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
178	SK	SD10p	(033)	(54)	14	不規	横形	黒褐色 (109 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
179	SK	SD10p	49	(42)	7	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
180	SQ	SD10p-11s-12s	(680)	(61)	23	直線状	横形	第4号層	山形底	常滑地	V-1	
181	SP	SD05p	67	44	11	横形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
182	SP	SD05p	38	30	14	U7型	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
183	SK	SD05p	53	(42)	24	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
184	SP	SD05p	33	30	10	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
185	SP	SD05p	58	(52)	12	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
186	SP	SD05p	23	19	15	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
187	SK	SD05p	107	(73)	40	横形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
188	SP	SD05p	61	53	14	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
189	SK	SD10p-8s	125	53	14	横形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
190	SQ	SD10p-10s	(693)	(144	23	直線状	横形	第2号層	山形底	常滑地	V-2	
191	SP	SD05p	(41)	(21)	3	不規	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
192	SK	SD10p-8s-8s	(208)	(57)	16	不規	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
193	SF	SD05k	54	40	20	横形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
194	SQ	SD05k	(95)	(89	20	不規	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
195	SK	SD05k	115	(51)	9	不規	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
196	SQ	SD05k	34	32	10	直線状	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
197	SK	SD05k	76	39	27	横形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
198	SK	SD05k	(85)	(39	16	横形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/4) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
199	SK	SD05k	(70)	(67	29	方形	横形	黒褐色 (2.5 Y3/4) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
200	SK	SD05k-8s	(240)	(94)	41	不規	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
201	SP	SD05k	36	35	7	円形	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
202	SQ	SD10t-8s	(101)	(38	30	直線状	横形	黒褐色 (079 R2/2) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	
203	SK	SD05k	103	84	21	不規	横形	H色 (5 Y5/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-2	
204	SK	SD05k	109	99	14	円形	横形	黒褐色 (5 Y5/1) 棚縫織物	山形底	常滑地	V-1	

番号	記号	クリップ	長袖	渡辺	平野形状	断面形状	土	出土遺物	時期	備考	
205	—	SD011p	—	—	—	—	—	—	—	久慈 地点と判明	
206	SK	SD011p	(70)	10	不明	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	無し	—	久慈 地点と判明	
207	—	SD010q	—	—	—	—	—	—	—	久慈 地点と判明	
208	SP	SD011r	36	30	12	円形	無地(黄色 (2.5YV3/2) 粗砂)	無し	—	久慈 地点と判明	
209	SK	SD011r	91	48	21	楕円形	褐色 (オリーブ色 (5Y3/3)) ショルダーパン	粗地 土師燒 蒸煮器	V.2	—	
210	SD	SD010o~11a	(154)	(93)	22	直角形	圓形	無地 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
211	SK	SD010o	62	(61)	21	円形	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
212	SP	SD010q	35	30	16	円形	U字型	無地 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
213	SK	SD010o	(110)	(42)	19	不明	圓形	無地色 (2.5YV3/2) 粗砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	不明	
214	SP	SD010o~10p	(63)	16	円形	圓形	無地 (10YR3/2) 粗砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2		
215	SK	SD010p	82	62	13	円形	圓形	無地 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
216	SP	SD010o	(38)	38	11	円形	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
217	—	SD011p	—	—	—	—	—	—	—	久慈 地点と判明	
218	SK	SD011r	(122)	(67)	22	直角形	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
219	—	SD011r	—	—	—	—	—	—	—	久慈 地点と判明	
220	SD	SD011r~8i	(548)	107	20	不明	圓形	圓形 (20cm) 圓形	五世高輪 山形 土師燒 蒸煮器	V.2	
221	—	SD018k	—	—	—	—	—	—	—	久慈 地点と判明	
222	SK	SD011r~11s	(96)	(96)	40	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	不明	
223	SK	SD010n	(113)	(90)	13	円形	圓形	無地 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
224	SP	SD012v	39	34	13	円形	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V	
225	SP	SD012v	(38)	(38)	36	不明	圓形	無地色 (10YR3/1) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	不明	
226	SK	SD011r~11s	(65)	(65)	36	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	生糸 山形 土師燒 蒸煮器	不明	
227	SK	SD012v	(58)	(31)	21	不明	圓形	無地色 (10YR3/1) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V	
228	SK	SD011r~12v	(98)	(67)	15	不明	圓形	無地色 (10YR3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
229	SP	SD018k	41	23	円形	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	無し	—	不明	
230	SD	SD010n~10p	(1182)	(921)	19	直角形	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
231	SP	SD018k	(57)	49	18	円形	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	無し	—	不明
232	SP	SD018k	46	37	11	円形	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
233	SK	SD012v	(380)	288	47	円形	圓形 (20cm) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2		
234	SK	SD011r~8i	(87)	77	34	円形	圓形	無地色 (10YR4/1) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
235	SK	SD010j	202	(139)	12	不規則	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
236	SK	SD010n	73	(55)	8	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
237	SK	SD011r~11s	(130)	(57)	21	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	無し	—	不明
238	SP	SD010o	(44)	40	10	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
239	SK	SD010o~10p~11p	217	(36)	(28)	円形	圓形 (20cm) 圓形	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2		
240	SD	SD011r~11s	(286)	(146)	26	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	不明	
241	SK	SD010o	(72)	48	9	不明	圓形	上二三・黄色 (10YR4/3) 圓形	無し	—	不明
242	SK	SD011r~8i	185	154	44	円形	圓形	上二三・黄色 (2.5YV3/2) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
243	SP	SD012v	(36)	(17)	25	不明	七字型	無地色 (10YR3/1) 極細砂	無し	—	不明
244	SK	SD012v	40	(23)	9	不明	圓形	無地色 (10YR3/1) 極細砂	山形 土師燒 土師燒 蒸煮器	V.2	
245	SK	SD010o~10p~11q	(98)	(803)	32	円形	圓形	無地色 (10YR4/3) 圓形	—	—	—

番号	記号	クリヤフ	直角	直角	深さ	平面形状	断面形状	埋土	出土遺物		特徴	備考
									横幅	縦幅		
246	SX 805e	—	—	—	24	—	直角色(2.5Y3/2) 直角斜 直角色(2.5Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(2.5Y3/2) 斜面にて埋入
247	SX 803d/e	—	—	—	20	—	直角色(2.5Y3/2) 直角斜 直角色(2.5Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(2.5Y3/2) 斜面にて埋入
248	SX 805g	—	—	—	48	—	直角色(2.5Y3/2) 直角斜 直角色(2.5Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(2.5Y3/2) 斜面にて埋入
249	SX 803b-h, -6	—	—	—	28	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
250	SX 807f	—	—	—	21	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
251	SX 807f	—	—	—	19	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
252	SX 803h, i	—	—	—	22	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
253	SX 803h, i	—	—	—	14	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
254	SX 803h, i	—	—	—	22	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
255	SX 803h, i	—	—	—	27	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
256	SX 803h, i	—	—	—	28	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
257	SX 803h, i	—	—	—	22	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
258	SX 803h, i	—	—	—	21	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
259	SX 803h, i	—	—	—	15	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
260	SX 807f	—	—	—	22	—	直角色(2.5Y3/2) 直角斜 直角色(2.5Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(2.5Y3/2) 斜面にて埋入
261	SX 807f	—	—	—	19	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入
262	SX 803m	—	—	—	35	—	直角色(10Y3/2) 直角斜 直角色(10Y3/2) 直角斜	無	無し	無し	不明	直角色(10Y3/2) 斜面にて埋入

東畠遺跡（3地点）造構一覧表

番号	記号	グリッド	長軸	短軸	深さ	平面形状	断面形状	特徴	出土遺物	時期	備考
001	SD	[E]1[n]・12n	(350)	46	25	直角形	U字状	外生・土器 外生・土器	美濃焼(手造)	V-I	目矧・土器
002	SD	[E]2[n]・12n	(355)	70	22	直角形	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(手造)	V-3	目矧・土器
003	SD	[E]1[n]・11n・12n・12n	(358)	173	46	直角形	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(手造)	V	目矧・土器
004	SP	[E]2[n]	44	38	20	円形	U字状	外生・土器 外生・土器	美濃焼(手造)	V	目矧・土器
005	SP	[E]1[2n]	33	30	16	円形	U字状	外生・土器 外生・土器	美濃焼(7.5P2-2)	V	目矧・土器
006	SK	[E]1[n]・11n	171	(109)	13	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
007	SP	[E]2[n]	53	(28)	15	円形	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
008	SK	[E]1[n]	(39)	21	不規	不規	不規	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
009	SD	[E]1[n]	(243)	(77)	20	不規	U字状	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
010	SK	[E]2[n]・12n	(76)	65	24	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
011	SK	[E]1[2n]	(42)	(42)	16	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(10P2-1)	V	目矧・土器
012	SK	[E]2[2n]	(33)	54	14	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y3-2)	V	目矧・土器
013	SK	[E]2[n]	(49)	15	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y3-2)	V	目矧・土器	
014	SP	[E]1[n]	65	55	44	円形	U字状	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V-3	目矧・土器
015	SD	[E]1[n]	(85)	29	8	直角形	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
016	SK	[E]1[n]・11n	(110)	93	16	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
017	SK	[E]1[2n]	(89)	64	21	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
018	SK	[E]2[2n]	(67)	(45)	20	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
019	SD	[E]2[n]・12n	(40)	38	14	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
020	SK	[E]1[2n]・12n	(59)	(54)	17	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
021	SK	[E]1[2n]	(66)	(26)	13	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
022	SK	[E]1[2n]	(68)	(38)	20	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
023	SK	[E]1[2n]	(59)	(44)	15	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
024	SK	[E]1[2n]	(45)	(45)	17	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
025	SK	[E]1[2n]	(65)	(26)	14	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
026	SD	[E]1[n]・11n	(205)	38	13	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
027	SK	[E]1[2n]	(80)	(40)	19	不規	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-3)	V	目矧・土器
028	SK	[E]1[2n]	—	—	—	—	—	外生・土器 外生・土器	—	—	—
029	SP	[E]1[n]	19	18	9	円形	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
030	SK	[E]1[2n]	—	—	26	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
031	SK	[E]1[2n]	—	—	27	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
032	SK	[E]1[2n]	—	—	20	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
033	SK	[E]1[2n]	—	—	20	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
034	SK	[E]1[n]	—	—	17	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
035	SK	[E]1[n]	—	—	18	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
036	SK	[E]1[2n]・12n	—	—	27	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器
037	SK	[E]1[2n]	—	—	20	—	圓形	外生・土器 外生・土器	美濃焼(2.5Y4-2)	V	目矧・土器

遺物一覧表

・遺物一覧表凡例

口縁等の残存率は円形ゲージを用い計測し 12 分割で記した。

残存率は径計測の基準とした部位であり、底部や脚部の場合は明示している。

器高のうち（ ）で記したものは残存部分の数値である。

色調は全体的に主たるものをしてし、内外面および断面で著しく異なる場合のみ別に記した。

時期は下記の本遺跡の時期区分で記した。

時期区分表

時期	時代・土器型式
I	1 繩文時代晚期以前
	2 繩文時代晩期末～弥生時代初頭
	3 弥生時代前期（櫻玉式期～水神平式期）
II	1 弥生時代中期前半（岩滑式期）
	2 弥生時代中期後半（貝田町式・瓜郷式期～凹線紋系・古井式期）
III	1 弥生時代後期（八王子古宮式期～山中式期）
	2 弥生時代終末期～古墳時代前期（廻間式期～松河戸Ⅰ式期）
	3 古墳時代中期（松河戸Ⅱ式期～宇田式期）
IV	1 古墳時代後期～終末期（東山10号窯式期～東山44号窯式期）
	2 奈良時代（東山50号窯式期～黒笹14号窯式期）
	3 平安時代前期（黒笹90号窯式期～東山72号窯式期）
V	1 平安時代後期（山茶碗第2～4型式期）
	2 鎌倉時代（山茶碗第5～8型式期・常滑窯3～6b型式期）
	3 室町時代（山茶碗第9型式期～瀬戸大窯式期）
VI	江戸時代

番号	基準	様形	調査区	測量・層位	残存率	口径 cm	高さ cm	直径 cm	柱等の特徴	施土	色調	時期	その他・備考
1	石面	有茎石藻	3	0003SD	12/12	長:3.5	幅:1.4	厚:0.6	—	—	—	III	石材～下石臼 磨さ2448
2	土製品	土焼	2	12+1.3	12/12	長:3.7	幅:0.9	厚:0.9	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	7.5/86/4にない焼	III-N	瓦(6.4cm) 磨さ2.96%
3	土製品	土焼	2	1.3	11/12	長:3.4	幅:1.4	厚:1.2	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	5/86/1 白	III-N	瓦(6.4cm) 磨さ2.07%
4	土製品	土焼	2	14+1.2	11/12	長:3.9	幅:1.4	厚:1.3	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	10/86/4にない 黄焼	III-N	瓦(6.4cm) 磨さ6.7%
5	土製品	土焼	2	1.3	11/12	長:6.1	幅:2.4	厚:2.3	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	10/87/4にない 黄焼	III-N	瓦(6.6cm) 磨さ28.5%
6	土製品	土焼	2	12+1.3	8/12	長:3.5	幅:3.8	厚:1.7	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	2.5/86/1にない 黄	III-N	瓦(8.5cm) 磨さ103.3%
7	土製品	土焼	2	12+1.3	10/12	長:4.2	幅:3.4	厚:1.0	外縁～内縁+ナフ	砂粒・墨を含む	2.5/87/3 黄焼	III-N	瓦(8.5cm) 磨さ59.02%
8	土製品	土焼	2	1.3	11/12	長:5.3	幅:3.4	厚:1.4	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	2.5/86/2 黄焼	III-N	瓦(8.5cm) 磨さ34.9%
9	土製品	陶丸	2	12+1.3	12/12	長:2.1	幅:2.0	厚:1.2	外縁～内縁+ナフ	砂粒・墨を含む	5/86/1 白	V	+ナフの複数あり 磨さ5.6%
10	土製品	陶丸	3	11+1.2	7/12	長:2.3	幅:2.1	厚:1.3	外縁～内縁+ナフ	砂粒を含む	10/86/6も白	V	磨さ2.4%
11	土製品	陶丸	1	11+1.2	12/12	長:5.4	幅:3.1	厚:0.5	内縁～外縁+ナフ	砂粒を含む	2.5/86/2 白	V	素材～天井焼 磨さ21.3%
12	土製品	陶丸	2	12+1.3	12/12	長:5.5	幅:3.1	厚:1.2	内縁～外縁+ナフ	砂粒・墨を含む	10/87/4にない 黄焼	V	素材～窓焼 磨さ41.1%
13	土製品	陶丸	2	11+1.2	12/12	長:2.3	幅:3.0	厚:1.3	内縁～外縁+ナフ	砂粒・墨を含む	5/85/4も白	V	素材～窓焼 磨さ16.4%
14	土製品	不明	2	1.3	11/12	—	(1.5)	—	内縁～外縁+ナフ、施本サエ	砂粒を含む	10/86/4にない 黄焼	V	裏などの状態が不明
15	石製品	礫石	2	162SK	現存状況:半欠	26/5	幅:4.4	厚:0.8	内縁～ナフ	—	—	V	石材～泥引 磨さ39.3%
16	争生土器	甕	2	12+1.3	11/12	—	(4.5)	—	内縁～ナフ	砂粒・墨を含む	2.5/77/4 黄	I-2	
17	争生土器	甕	2	0008SD	11/12	—	(3.5)	—	内縁～ナフ	砂粒を含む	10/87/4にない 黄焼	I-2	
18	争生土器	甕	2	153SK	1/12	—	(2.5)	—	内縁～ナフ	砂粒を含む	10/85/4にない 黄焼	I-2	
19	争生土器	甕	2	12+1.3	1/12	(5.0)	—	内縁～ナフ	砂粒を含む	10/87/3にない 黄焼	I-2		
20	争生土器	甕	2	12+1.3	8/12	—	(4.4)	—	内縁～ナフ、施本サエ、条綴	砂粒・墨を含む	10/87/3にない 黄焼	I-2	矢絣
21	争生土器	甕	2	12+1.3	2/2/12	—	(5.9)	—	内縁～ナフ、条綴	砂粒・墨を含む	10/87/3にない 黄焼	I-2	矢絣
22	争生土器	甕	3	0003SD	1/12	—	(4.0)	—	内縁～ナフ、口縁剥離突出(4)	砂粒・墨を含む	2.5/75/2 粘灰焼	I-2	
23	争生土器	甕	3	1.2	1/12	—	(4.3)	—	内縁～ナフ、口縁剥離突出(4)	砂粒・墨を含む	2.5/83/4にない 黄	I-2	
24	争生土器	甕	3	1.2	1/12	—	(2.6)	—	内縁～ナフ、口縁剥離突出(4)	砂粒を含む	7.5/86/6 相 底-2.5/4/2 錆化黄	I-2	

番号	名稱	形態	測量区	測量・観察	口径 cm	透徑 cm	高さ cm	透鏡 cm	透鏡 cm	柱等の特徴		施土	色調	時間	その他・備考
										内	外				
25	争生土路	渠	3	0215K	1/12	—	(3.5)	—	内	内面-骨子ア、山口屋ク、圓頭状又、外縁-ナメル、ヨリナメ	内-10/86/4に5-1-3 外-7/5/86/6 機	II-2			
26	争生土路	渠	2	L3	1/12	14.8	(7.1)	—	内	内縁-ナメル、ナメル-ナメル、ナメル-骨子ア	10/85/2 長筒窓	II-2			
27	争生土路	渠	2	12+1.3	85/12	—	(2.7)	5.2	内	内縁-骨子ア、板ナメル、輪埴輪	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
28	争生土路	渠	3	L2	85/12	—	(10.3)	—	内	内縁-骨子ア、板ナメル、輪埴輪 外縁-ミヨウガア、ヘーネ曲	内縫-骨を含む	II-2			
29	争生土路	渠	3	0035D	1/12	(27.6)	(3.1)	—	内	内縁-ナメル、1種類底面位置複数 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	II-2			
30	争生土路	渠	1	0055D	42/12	—	(6.7)	—	内	内縁-骨子ア、板ナメル、輪埴輪	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
31	争生土路	渠	2	12+1.3	86/12	—	(6.0)	—	内	内縁-ナメル、ナメル-ナメル 外縁-骨子ア、ガラ生	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
32	争生土路	高杯	2	12+1.3	1/12	27.6	(3.0)	—	内	内縫-骨子ア、ガラ生 外縁-骨子ア、底面不規	内縫-骨を含む	II-2			
33	争生土路	高杯	1	0055D	36/12	—	(5.0)	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-骨子ア	内縫-骨を含む	II-2			
34	争生土路	高杯	3	0035D	35/12	—	(4.8)	—	内	内縫-骨子ア、ガラ生 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
35	争生土路	渠	1	0025K	2/12	20.1	(8.1)	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	II-2			
36	争生土路	渠	2	1535K	36/12	—	(7.0)	8.6	内	内縫-骨子ア、ナメル 外縁-骨子ア、ナメル	内縫-骨を含む	III-2			
37	争生土路	渠	2	渠瓦	1/12	—	(3.9)	7.3	内	内縫-骨子ア、ナメル 外縫-ナメル	内縫-骨を含む	III-2			
38	争生土路	渠	2	1105D	1/12	20.6	(3.5)	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
39	争生土路	渠	2	1535K	通5/12/12	—	(23.0)	5.7	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-ナメル、ナメル-ナメル	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
40	争生土路	渠	2	1525K	1/12	15.9	(9.4)	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-骨子ア、ナメル	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
41	争生土路	渠	2	0105K	1/12/12	9.2	24.1	3.5	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	II-2	透過強光		
42	争生土路	渠	2	1465K	1/17/12	12.8	6.8	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縁-ナメル、ナメル-ナメル	内縫-骨を含む	II-2			
43	土供路	渠	2	2105D	3/12	18	(0.9)	—	内	内縫-骨子ア、ナメル 外縁-ナメル	内縫-骨を含む	IV-2			
44	土供路	渠	2	L3	1/12	22.8	(2.4)	—	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縫-ナメル	内縫-骨を含む	IV-2			
45	土供路	渠	2	L3	2/12	20.3	(2.0)	—	内	内縫-骨子ア、ナメル 外縫-ナメル、ナメル-ナメル	内縫-骨を含む	IV-2			
46	土供路	渠	2	渠瓦	通3/12	—	(0.5)	5.7	内	内縫-骨子ア、輪埴輪 外縫-骨子ア、ナメル	内縫-骨を含む	IV-2	風景写真		
47	土供路	渠	2	2265P	1/12/12	—	(2.1)	3.9	内	内縫-骨子ア、輪ナメル 外縫-ナメル	内縫-骨を含む	IV-2			
48	土供路	渠	1	11+1.2	85/12/12	—	(0.1)	7.4	内	内縫-骨を含む	内縫-骨を含む	IV-2	風景写真		

番号	樹種	樹形	開花区	過溝・漏位	残存率	口径 cm	標高 cm	直径 cm	枝条等の特徴	地土	色調	時期	その他・備考
49	土蜘蛛	灌	3	02158	4/12	19.4	(4.3)	—	内面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	
50	土蜘蛛	灌	2	根見	1/12	18.2	(3.2)	—	外面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	2,578/2月白	N.2	
51	土蜘蛛	灌	2	0765X	2/12	23	(6.6)	—	内面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	10YR8/2月白	N.2	
52	土蜘蛛	灌	2	12+1.3	1/12	16	(4.1)	—	外面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.3	
53	土蜘蛛	灌	2	12+1.3	1/12	19.8	(4.9)	—	内面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	内-2,575/2月白	N.2	
54	土蜘蛛	灌	1	11+1.2	1/12	—	(5.6)	—	内面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	2,578/2月白	N.2	
55	土蜘蛛	灌	1	11+1.2	1/12	—	(7.0)	—	内面-板サエ、ヨコナナデ	砂利・礫を含む	10YR7/3にない現地	N.2	
56	—	被毛土蜘蛛	3	00353D	残存部位・樹上部	長:4.4	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR6/4にない現地	N.3	付近は82.8cm 4cm
57	—	被毛土蜘蛛	1	11+1.2	残存部位・樹上部	長:5.5	—	—	内面-板サエ、板ナナデ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.3	付近は82.5cm 3.5cm
58	—	被毛土蜘蛛	2	1.3	残存部位・樹上部	長:4.4	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	付近は82.2cm 4.6cm
59	—	被毛土蜘蛛	2	根見	残存部位・樹上部	長:6.1	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	5YR6/6 痕	N.2	付近は82.2cm 4.6cm
60	—	被毛土蜘蛛	2	12+1.3	残存部位・樹上部	長:5.1	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	付近は82.2cm 4.6cm
61	—	被毛土蜘蛛	2	1.1	残存部位・樹上部	長:4.1	—	—	内面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	付近は81.8cm 4.6cm
62	—	被毛土蜘蛛	2	11+1.2	残存部位・樹上部	長:8.2	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	2,577/3 痕	N.2	付近は81.5cm 4.6cm
63	—	被毛土蜘蛛	2	根見	残存部位・樹中間	長:5.8	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	3.5cm
64	—	被毛土蜘蛛	2	2335X	残存部位・樹上部	—	—	—	内面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR8/3 痕	N.2	付近は81.8cm 3.5cm
65	—	被毛土蜘蛛	2	1.3	残存部位・樹上部	長:7.1	—	—	内面-板サエ	砂利・礫を含む	10YR7/4にない現地	N.2	付近は81.5cm 3.5cm
66	—	被毛土蜘蛛	2	根見	残存部位・樹下端	長:6.4	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	2,577/2月黄	N.2	4.6cm
67	—	被毛土蜘蛛	2	01058	残存部位・樹中間	長:4.2	—	—	外面-板サエ	砂利・礫を含む	2,578/2月白	N.2	4.6cm
68	圓柱蟲	杆H蟲	1	1.3	1/12	11.8	(2.8)	—	内面-板サエ	砂利・礫を含む	5YR6/1 灰	N.1	
69	圓虫類	杆H蟲	1	0355D	2/12	9.7	2.9	—	内面-板サエ	砂利・礫を含む	2,576/1 灰	N.2	
70	圓虫類	杆H蟲	1	11+1.2	3/12	10.2	(2.4)	—	内外面-ロクロナナデ	砂利・礫を含む	5Y5/1 灰	N.2	
71	圓虫類	杆H蟲	1	11+1.2	2/12	7.6	(2.6)	—	内外面-ロクロナナデ	砂利・礫を含む	5Y6/1 灰	N.2	空け面約4cm
72	圓虫類	杆H蟲	1	11+1.2	1/12	9	(2.3)	—	内外面-ロクロナナデ	砂利・礫を含む	5Y4/2灰4.9cm	N.2	空け面約11.0cm

番号	名稱	樹形	園芸区	通稱・原生	種子率	口徑 cm	樹高 cm	莖径 cm	枝葉等の特徴	施肥	色調	時期	その他・備考
73	須虫路	秆	2	2355X	1/12	12.8	(3.1)	—	内外面-クロコナデ 外側-ロコナデ、内側-ヘタケアリ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	7.5/6/1 黄 8-2.5/8/2 黄白	N-2	
74	須虫路	有台秆	2	2355X	通3/12	—	(1.4)	9.4	内側-ロコナデ 外側-ロコナデ、内側-ヘタケアリ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	N-2		
75	須虫路	茎	2	2355X	2/12	14.9	(2.2)	—	内外面-クロコナデ 外側-ロコナデ、内側-ヘタケアリ	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	10.8/6/1 黄白	N-2	
76	須虫路	茎	2	2355X	1/12	14.9	(1.4)	—	内外面-ロコナデ 外側-ロコナデ、内側-ヘタケアリ	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	7.5/5/1 黄	N-2	
77	須虫路	茎	2	2355X	1/12	—	(1.9)	—	内外面-クロコナデ	肥料を含む 内-2.5/7/2 黄淡	2.5/7/2 黄淡	N-2	
78	須虫路	有台秆	2	L1-L2	2/12	13.5	3.7	9	内側-ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	N-2		地成不良
79	須虫路	有台秆	2	L2-L3	2/12	14.2	4.0	9.9	内外面-ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	内-2.5/8/1 黄白 8-2.5/8/1 黄白	N-2	
80	須虫路	有台秆	2	1605D	2/12	17.1	3.6	13.5	内外面-ロコナデ 外側-ヘタケアリ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	N-2		
81	須虫路	有台秆	2	1545P	通3/12	—	(2.0)	13.1	内側-ロコナデ 外側-ヘタケアリ、軸付高行、ナダ	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	N-2		
82	須虫路	有台秆	2	1105D	通3/12	—	(2.1)	11.2	内外面-ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	内-2.5/8/1 黄白 8-2.5/8/1 黄白	N-2	
83	須虫路	有台秆	2	1905D	通3/12	—	(2.2)	10.6	内外面-ロコナデ、軸付高行、ナダ	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	5/7/1 黄白	N-2	
84	須虫路	有台秆	1	L1-L2	通3/12	—	(1.3)	9.7	内外面-ヘタケアリ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	N-2		
85	須虫路	有台秆	1	L1-L2	通3/12	—	(1.3)	11.2	内外面-ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	2.5/8/1 黄白	N-2	
86	須虫路	有台秆	1	L1-L2	通3/12	—	(1.6)	14.2	内外面-ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	2.5/8/2 黄淡	N-2	
87	須虫路	有台秆	2	1605D	通6/12	—	(1.6)	8.3	内外面-ヘタケアリ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	5/7/1 黄白	N-2	
88	須虫路	有台秆	2	L1-L2	5/12	9.9	6.6	内外面-ロコナデ 外側-ヘタケアリ、軸付高行、ナダ	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	2.5/8/2 黄 8-10/7/8 黄淡	N-2		
89	須虫路	有台秆	2	1375P	3/12	13.1	4.0	6.7	内外面-クロコナデ	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	2.5/8/2 黄白	N-2	
90	須虫路	無台秆	2	2235X	5/12	10.4	4.0	1.3	内外面-クロコナデ 外側-ヘタケアリ、ロコナデ	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	2.5/5/1 黄白 8-2.5/8/1 黄白	N-2	
91	須虫路	無台秆	2	0443K	9/12	9.9	4.3	7.1	内外面-ヘタケアリ、ロコナデ	肥料を含む 内-2.5/8/2 黄白	8-2.5/8/2 黄白	N-2	
92	須虫路	茎	2	1605D	通12/12	—	(1.4)	7	内外面-ロコナデ 外側-ヘタケアリ	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	10/6/1 黄 N-2		
93	須虫路	茎	2	2355X	1/12	12.3	(3.5)	—	内外面-ロコナデ 外側-ロコナデ	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	内-2.5/8/1 黄白 8-2.5/8/1 黄白	N-2	
94	須虫路	秆	1	L1-L2	1/12	13.3	(6.4)	—	内外面-ロコナデ 外側-ヘタケアリ、ロコナデ	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	5/5/1 黄白	N-2	
95	須虫路	秆	2	2355D	2/12	12.5	3.9	5.8	内外面-ロコナデ 外側-ヘタケアリ、ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/8/1 黄白	2.5/5/1 黄白 8-2.5/8/1 黄白	N-2	
96	須虫路	秆	2	L2-L3	2/12	13.4	2.0	7.1	内外面-ヘタケアリ、ロコナデ、軸付高行	肥料を含む 内-2.5/7/1 黄白	N-2		

番号	種類	樹形	開花期	過熟・熟期	残存率	口径 cm	標高 cm	直径 cm	株高等の特徴	施肥	色調	時期	その他・備考
97	須恵樹	直	11-1-2	1/12	—	17.3	(1.7)	—	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、クロロナデ	肥料・薬を含む	5/5/1 黄	N/2	
98	須恵樹	瘤み直	2-1105D	2/12	—	(3.0)	—	(3.0)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、クロロナデ、施み點付	肥料を含む	10/8/8 黄白	N/2	施肥2.1cm
99	須恵樹	瘤み直	2-2105D	瘤3/3/12	—	(1.8)	—	(1.8)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、施み點付	肥料を含む	内-3/9/4 黄 外-3/8/8 白	N/2	施肥2.4cm
100	須恵樹	瘤み直	2-2335X	瘤4/12/12	—	(1.5)	—	(1.5)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、ナデ、施み點付	肥料を含む	N/6 黄	N/2	施肥2.1cm
101	須恵樹	瘤み直	2-2335X	瘤5/11/12	—	(2.1)	—	(2.1)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、施み-タグナデ	肥料を含む	2/5/6 黄白	N/2	施肥2.4cm
102	須恵樹	瘤み直	2-13	3/12	—	20.5	3.9	—	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、クロロナデ、施み點付	肥料・薬を含む	N/6 黄	N/2	施肥3.1cm
103	須恵樹	直	2-0763X	1/12	18.7	(2.0)	—	(2.0)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ	肥料を含む	5/18/6 黄 内-5/18/7 黄 外-10/8/6 黄白	N/2	
104	須恵樹	瘤み直	2-0975X	3/12	17.4	(2.2)	—	(2.2)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、クロロナデ	肥料を含む	N/6 黄	N/2	施肥2.2cm
105	須恵樹	直	2-0265X	3/12	16	(2.2)	—	(2.2)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、クロロナデ	肥料・薬を含む	N/7 黄白	N/2	
106	須恵樹	直	2-1763D	1/12	16.8	(1.6)	—	(1.6)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ	肥料を含む	2/5/7/1 黄白	N/2	
107	須恵樹	直	1-11-1-2	1/12	20	(2.2)	—	(2.2)	外輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	2/5/6/1 黄白	N/2	
108	須恵樹	高杯	1-11-1-2	3/12	14.0	(3.2)	—	(3.2)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、施み-タグナデ	肥料・薬を含む	5/6/1 黄	N/2	
109	須恵樹	高杯	2-2235X	瘤4/12	—	(2.6)	—	(2.6)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	内-5/6 黄 外-1/5/5/1 黄	N/2	
110	須恵樹	高杯	2-13	瘤4/12	—	(3.0)	10.8	—	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	N/7 黄白	N/2	
111	須恵樹	高杯	1-11-1-2	杆-脚5/12	—	(7.2)	—	(7.2)	外輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	5/6/1 黄	N/2	
112	須恵樹	林	2-1905D	1/12	18.5	(7.1)	—	(7.1)	外輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	N/6 黄 内-5/8/4 黄白	N/2	
113	須恵樹	直	2-11-1-2	1/12	9.9	(3.9)	—	(3.9)	外輪-ロコロナデ	肥料を含む	N/7 黄白 内-2/3/6 黄白	N/2	
114	須恵樹	直	3-00015D	1/12	10.9	(3.7)	—	(3.7)	外輪-ロコロナデ	肥料・薬を含む	2/5/6/2 黄白	N/2	
115	須恵樹	大腹	2-12-1-3	1/12	—	(6.1)	—	(6.1)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、花辦、網文	肥料を含む	2/5/6/1 黄白	N/2	
116	須恵樹	直	1-11-1-2	1/12	—	(4.1)	—	(4.1)	外輪-タグナデ 内輪-ナデ、網文	肥料を含む	5/6/1 黄	N/2	
117	須恵樹	胸F1	2-13	第3/12	—	(1.9)	—	(1.9)	外輪-ロコロナデ	肥料を含む	5/4/1 黄	N/2	
118	須恵樹	直	2-0025D	胸-底4/12	—	(3.6)	3.7	—	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、施み-タグナデ	肥料を含む	2/5/6/1 黄白	N/1	二次加工あり
119	須恵樹	把手	2-2235X	—	—	(7.0)	—	(7.0)	外輪-把手サエ	肥料を含む	5/8/1 黄白	N/2	
120	須恵樹	直	1-0025X	4/12	31	(12.9)	—	(12.9)	外輪-ロコロナデ 内輪-ロコロナデ、ナデ、沈胞、把手把手	肥料・薬を含む	2/5/7/3 黄白	N/2	

番号	名稱	形態	調査区	通幅・層位	透仔率	口徑 cm	断面高 cm	透深 cm	枝葉等の特徴	施肥	色調	時期	その他・備考
121	火薙植物	裸	2	0.0530	1/12	—	13.3 (3.5)	—	内外面-クロナデ	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	N-2~3	
122	火薙植物	裸	2	0.0530	1/12	—	(4.0)	—	内外面-クロナデ	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	N-2~3	輪花斑
123	火薙植物	裸	4	0.0538	1/12	—	(2.0)	—	内外面-クロナデ	年輪を含む	2.5/6/3 に点状斑	N-2~3	
124	火薙植物	裸	2	1.3	2/12	18.8 (4.5)	—	(2.2)	内外面-クロナデ	年輪を含む	2.5/8/2 黄白	W-3	
125	火薙植物	裸	2	0.0538	1/12	—	(2.2)	7	外側-ベニケイロナデ, 新芽有り	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	W-3	
126	火薙植物	裸	2	1.3	8/2/12	—	(2.3)	7	外側-ベニケイロナデ, 新芽有り	年輪を含む	N8/1 黄白	W-3	
127	火薙植物	裸	2	0.0530	8/1/12	—	(1.8)	8.1	外側-クロナデ, ベニケイロ, 新芽有り	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	W-3	
128	火薙植物	裸	2	14.58	底3/12	—	(1.7)	7.1	外側-クロナデ, ベニケイロ, 新芽有り	年輪・樹を含む	2.5/8/2 黄白	W-3	
129	火薙植物	裸	2	11.05	底3/12	—	(2.6)	8.6	外側-クロナデ, ベニケイロナデ, 新芽有り	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	W-3	
130	火薙植物	裸	2	19.59	底4/12	—	(2.5)	8	外側-クロナデ, 新芽有り	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	W-3	
131	火薙植物	葉	1	11-12	底2/12	—	(2.2)	8	外側-クロナデ, ベニケイロ, 新芽有り	年輪を含む	内-2.5/8/1 黄白 外-2.3/7/2 黄青	R-2~3	
132	火薙植物	葉	2	1.3	底2/12	—	(2.6)	7.7	外側-クロナデ, 新葉-ベニケイロナデ, 新芽有り	年輪を含む	2.5/8/1 黄白	W-3	月桂
133	山茶園	裸	2	0.0458	3/12	12.4 (4.6)	—	9.6	外側-クロナデ	年輪・樹を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	
134	山茶園	裸	2	0.0458	3/12	14.2 (4.7)	5.2	5.2	外側-クロナデ, 新葉有り, 新芽有り	年輪を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	輪斑
135	山茶園	裸	2	0.0458	底4/12	—	(2.4)	5.9	外側-クロナデ, 新葉有り, 新芽有り	年輪を含む	2.5/7/2 黄白	V-2	輪斑
136	山茶園	葉	2	0.0458	4/12	8	1.4	4.9	外側-クロナデ, 新葉有り	年輪・樹を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	
137	山茶園	葉	2	0.0458	5/12	8.6 (5.0)	5.3	9.6	外側-クロナデ, 新葉有り	年輪・樹を含む	2.5/8/1 黄白	V-2	
138	山茶園	葉	2	0.0458	11/12	9.1 (6.6)	6.0	12.2	外側-クロナデ, 新葉有り	年輪を含む	2.5/7/2 黄白	V-2	
139	山茶園	葉	2	0.0458	5/12	9	2.6	5.1	外側-クロナデ, 新葉有り	年輪を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	
140	山茶園	片口H	2	0.0458	1/12	—	(5.0)	—	外側-クロナデ, 新葉	年輪・樹を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	
141	山茶園	葉	2	0.0458	1/12	34 (6.6)	0.5	—	外側-クロナデ, 新葉ベニケイロ	年輪を含む	2.5/7/1 黄白	V-2	
142	山茶園	葉	2	0.0458	8/2/12	—	(6.6)	12.2	外側-クロナデ, 新葉有り, 新芽有り	年輪・樹を含む	2.5/8/1 黄白	V-2	
143	茶樹	葉	2	0.0458	2/12	29.3 (5.8)	—	9.6	外側-クロナデ, 新葉ベニケイロナデ, ベニケイロナデ, ヨコナデ	年輪・樹を含む	2.5/5/1 黄白	V-2	
144	茶樹	葉	2	0.0458	1/12	30 (5.2)	—	9.6	外側-クロナデ	年輪を含む	2.5/8/3 に点状斑 無-N7/7 黄白	V-2	

番号	種類	樹形	開花期	過熟・熟期	残存率	口径 cm	標高 cm	直径 cm	枝条等の特徴	施肥	色調	時期	その他・備考
145	落葉	速	2	04/58	1/12	—	(4.8)	—	外表面-クロコナデ	肥料・薬を含む	5/8/1 黄	V.2	
146	落葉	速	2	04/58	8/2/12	—	(5.6)	12.5	外表面-横干子デ	肥料・薬を含む	7.5/8/4 黄	V.2	
147	古樹化	速	2	04/58	8/6/12	—	(6.0)	10	外表面-ロコロナデ、内表面-ヘタケダシ	肥料・薬を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
148	上製品	速	2	04/58	12/12	長:1.3	幅:4.0	厚:1.2	外表面-干子頭	肥料を含む	7.5/8/2 黄	V.2	糞木-茎葉堆 重さ19.4kg
149	上製品	速	2	04/58	12/12	長:1.3	幅:5.5	厚:0.7	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	5/8/7/6 黄	V.2	糞木-土壌混用 重さ22.3kg
150	山茶園	圓	2	10/50	1/12	17	(4.8)	—	外表面-クロコナデ	肥料・薬を含む	5/8/1 黄白	V.2	
151	山茶園	圓	2	10/50	8/3/12	—	(2.5)	8.1	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り、輪状注溝	肥料を含む	5/8/1 黄白	V.2	剪邊用
152	山茶園	圓	2	10/50	8/3/12	—	(1.7)	7.6	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料・薬を含む	5/8/8 黄白	V.2	糞便用
153	山茶園	圓	2	11/50	8/5/12	—	(2.8)	8.6	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	剪邊用
154	山茶園	圓	2	11/50	8/6/12	—	(2.8)	7.2	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料・薬を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
155	山茶園	圓	2	11/50	9/12/12	—	(4.4)	7.5	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	剪邊用
156	山茶園	圓	2	11/50	10/12	7.1	1.8	3.8	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
157	山茶園	圓	2	11/50	6/12	7.3	1.6	4.9	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
158	山茶園	圓	2	11/50	11/12	7.9	1.6	4.9	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	2.5/8/5.8 黄	V.2	
159	土動植物	圓	2	11/50	10/12	8.4	1.6	4.9	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料を含む	5/8/7/6 黄	V.2	底部に虫食痕
160	落葉	林	2	11/50	1/12	—	(6.4)	—	外表面-板-ヨコナデ	肥料・薬を含む	5/8/4 黄	V.2	
161	落葉	林	2	11/50	1/12	—	(4.5)	—	外表面-ヨコナデ	肥料・薬を含む	10/8/5.8 黄	V.2	
162	山茶園	圓	1	02/50	8/12	13.4	4.6	7.2	外表面-ヨコナデ	肥料・薬を含む	2.5/7/2 黄白	V.2	
163	山茶園	圓	1	00/50	3/12	—	(2.7)	8.0	外表面-5/12/12	肥料・薬を含む	2.5/7/1 黄	V.2	
164	山茶園	圓	1	02/50	8/2/12	—	(1.7)	7.4	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料を含む	5/8/1 黄白	V.2	剪邊用
165	山茶園	圓	1	02/50	8/6/12	—	(2.1)	6.9	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料・薬を含む	2.5/7/2 黄	V.2	
166	山茶園	圓	1	02/50	8/6/12	—	(1.9)	6.1	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面、筋有り	肥料・薬を含む	2.5/7/1 黄白	V.2	
167	山茶園	圓	1	02/50	12/12	8.2	1.8	5.2	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	2.5/7/1 黄白	V.2	
168	山茶園	圓	1	06/58	12/12	7.6	2.3	4.2	外表面-ロコロナデ、内表面-切り面	肥料・薬を含む	2.5/7/6 黄	V.2	

番号	品種	樹形	園芸品目	通称・原産地	鉢径・高さ	鉢径 cm	鉢高 cm	直径 cm	枝葉等の特徴		施肥	色調	時期	その他・備考
									葉面	葉裏				
169	山茶桜	直	1	06058	12/12	7.8	1.9	4.2	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	10YR6/2灰青	V-2		
170	山茶桜	直	1	06058	12/12	8.0	2.0	4.5	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y6/2灰青	V-2		
171	山茶桜	直	1	06058	12/12	7.6	1.7	4.5	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y6/2灰青	V-2		
172	山茶桜	直	1	06058	12/12	8.0	2.2	4.5	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y6/2灰青	V-2		
173	山茶桜	直	1	06058	12/12	8.2	1.8	5.4	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2		
174	山茶桜	直	1	06058	12/12	8.2	1.6	5.4	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y6/1灰灰	V-2		
175	山茶桜	直	1	06058	12/12	7.9	1.8	4.5	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y7/1灰白	V-2		
176	山茶桜	直	2	16050	3/12	14.9	4.8	7	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
177	山茶桜	直	2	16050	5/12	14.8	5.2	6.4	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
178	山茶桜	直	2	23050	8/5/12	—	(3.3)	7.9	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	内面厚毛	
179	山茶桜	直	2	16050	6/12	—	(2.8)	6.5	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2		
180	山茶桜	直	2	16050	3/12	14.6	4.6	6	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y7/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
181	山茶桜	直	2	23050	3/12	14.2	5.3	5.6	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
182	山茶桜	直	2	16050	3/12	13.9	5.2	5.1	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	5Y6/2灰-灰-灰	V-2	背後側 内面厚毛	
183	山茶桜	直	2	16050	3/5/12	—	(3.9)	5.1	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y7/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
184	山茶桜	直	2	16050	2/12	13.1	(3.7)	5.8	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2		
185	山茶桜	直	2	16050	2/12	14.8	5.4	5.4	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y6/1灰灰	V-2		
186	山茶桜	直	2	16050	3/12	14.9	5.4	7	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y7/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
187	山茶桜	直	2	16050	3/12	14.3	5.3	6.8	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
188	山茶桜	直	2	16050	1/12	13	5.9	5.3	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
189	山茶桜	直	2	16050	3/12	13.4	5.7	5.4	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
190	山茶桜	直	2	16050	11/12	13.1	5.2	5.3	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
191	山茶桜	直	2	16050	11/12	12.8	5.4	5.2	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y8/1灰白	V-2	背後側 内面厚毛	
192	山茶桜	直	2	16050	6/12	8.1	2.0	4.7	外縁一ロコロナデ、筋状葉脈	筋状葉脈	2.5Y7/1灰白	V-2		

番号	樹種	樹形	開花期	過熟・熟期	残存率	口径 cm	標高 cm	経年 cm	枝葉等の特徴	地土	色調	時期	その他・備考
193	山茶樹	直	2	16/05	5/12	8	1.6	4.5	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	7.5/7/1 黄白	V.2	
194	山茶樹	直	2	16/05	11/12	7.9	1.9	5.1	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	5/8/6/4 にぶい碧	V.2	
195	山茶樹	直	2	16/05	12/12	9.0	1.8	6.5	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
196	山茶樹	株	2	16/05	2/12	26	9.6	9	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
197	山茶樹	直	2	16/05	底 6/12	—	(4.0)	9.4	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
198	古蘭芋	株	2	16/05	1/12	29.2	(6.5)	—	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/2 黄白	V.3	
199	苦柑	株	2	16/05	1/12	32.2	(6.1)	—	外輪一ヨコナデ 内輪一ヨコナデ	砂利・礫を含む 無一10/7/1 黄白	10/7/1 黄白	V.2	PLD
200	苦柑	直	2	16/05	2/12	22	(22.1)	—	外輪一ヨコナデ, 頭輪 内輪一ヨコナデ, 頭輪	砂利・礫を含む	5/8/25/6 黄褐	V.3	
201	苦柑	直	2	16/05	1/12	40	(4.5)	—	外輪一ヨコナデ 内輪一ヨコナデ	砂利・礫を含む 内一5/8/6/4 にぶい碧	5/8/6/4 にぶい碧	V.2	
202	苦柑	直	2	16/05	1/12	35.4	(13.5)	—	外輪一ヨコナデ, 頭輪 内輪一ヨコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む 無-NS/ 黄	5/8/3/3 にぶい碧	V.3	
203	青磁	直	2	16/05	1/12	—	(1.6)	—	外輪一ヨコナデ 内輪一ヨコナデ	砂利・礫を含む	N/8/1 黄白	V.2	能楽堂三番作文庫
204	山茶樹	直	2	22/3/8	7/12	16	5.1	7.7	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む 板状紅	7.5/8/2 黄褐	V.2	釋迦祖
205	山茶樹	直	2	22/3/8	底 4/12	—	(3.8)	9.2	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
206	山茶樹	直	2	22/3/8	底 12/12	—	(4.5)	6.1	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
207	山茶樹	直	2	22/3/8	4/12	14.8	(5.1)	6.3	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	5/8/1 黄白	V.2	
208	山茶樹	直	2	22/3/8	底 12/12	—	(3.1)	7.0	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
209	山茶樹	直	2	22/3/8	底 6/12	—	(3.4)	7	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/2 黄白	V.2	丹波摩尼
210	山茶樹	直	2	22/3/8	7/12	13.4	4.9	7.1	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
211	山茶樹	直	2	22/3/8	底 12/12	14.3	(5.7)	6.6	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
212	山茶樹	直	2	22/3/8	4/12	14.5	5.3	7	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	10/8/8/1 黄白	V.2	
213	山茶樹	直	2	22/3/8	4/12	14.8	5.1	7.1	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	
214	山茶樹	直	2	22/3/8	底 12/12	—	(2.7)	7.2	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	10/8/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
215	山茶樹	直	2	22/3/8	底 12/12	—	(2.6)	8.0	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖
216	山茶樹	直	2	22/3/8	2/12	14.5	5.6	7.4	外輪一ロコナデ, 頭輪 内輪一ロコナデ, 頭輪 外輪一頭輪	砂利・礫を含む	2.5/8/1 黄白	V.2	釋迦祖

番号	名稱	形態	叢生区	通稱・原名	種子室	口徑 cm	體長 cm	體高 cm	性別	枝葉の特徴		施肥	時期	その他・備考
										外縁-口部コロナデ	内縁-口部コロナデ			
217	山茶樹	裸	2	22358	9/12	14	5.6	7.1	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	5/8/1 黄白	V-2 育成期
218	山茶樹	裸	2	22358	5/12	13.8	(5.6)	5.8	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2 育成期
219	山茶樹	裸	2	22358	9/12	13.8	4.9	6.3	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2 育成期
220	山茶樹	裸	2	22358	延1/12	—	(4.9)	6.8	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	5/8/1 黄白	V-2 育成期
221	山茶樹	裸	2	22358	4/12	14.2	5.2	6.3	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2 育成期・漸開花
222	山茶樹	裸	2	22358	3/12	13.7	5.3	5.6	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	10/8/1 黄白	V-2 育成期・漸開花
223	山茶樹	裸	2	22358	3/12	13.1	5.4	5.7	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2 育成期・漸開花
224	山茶樹	裸	2	22358	3/12	14.0	6.4	5.8	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	5/8/1 黄白	V-2 漸開花
225	山茶樹	裸	2	22358	延12/12	—	(3.8)	6.6	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/10/1 黄紅 無10/10/1 黄紅	V-2 育成期・漸開花
226	山茶樹	裸	2	22358	延11/12	—	(3.2)	6	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋、輪行高行	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2 育成期・漸開花
227	山茶樹	果	2	22358	12/12	7.9	1.7	5.3	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/8/1 黄白	V-2
228	土師器	裸	2	22358	2/12	22.5	(7.2)	—	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	10/8/2 黄紅變	V-2 伊勢型圖
229	落葉	片口1枚	2	22358	2/12	30.4	(6.5)	—	—	外縁-口部コロナデ	—	無粒・種を含む	10/8/2 黄紅變 無10/8/6 黃紅	V-2
230	常綠	林	2	22358	延5/12	—	(4.9)	11.1	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	5/8/6/1 黄紅 無2.5/5/1 黄紅	V-2
231	常綠	羽葉	2	22358	2/12	28	(12.0)	—	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	内-3/6 黃 外-3/6/2 黄紅 無10/8/1 黄紅	V-2 黑斑燒到達
232	常綠	羽葉	2	22358	2/12	25.4	(10.5)	—	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/5/1 黄紅	V-2 黑斑燒到達
233	常綠	葉	2	22358	2/12	—	(8.1)	—	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/8/6 黄紅 無10/8/1 黄紅	V-2
234	常綠	裸	2	22358	3/12	—	(0.8)	—	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	5/7/1 黄白	V-2
235	山茶樹	片口1枚	2	18050	1/12	22.3	(6.8)	—	—	外縁-口部コロナデ	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	5/8/1 黄白	V-1
236	山茶樹	裸	2	18050	3/12	—	(2.5)	6.8	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/7/1 黄白	V-1 内部變紅
237	山茶樹	裸	2	18050	延10/12	—	(3.3)	7.5	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/7/2 黄紅	V-1 内部變紅
238	常綠	林	2	21050	3/12	16	6.9	6.8	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	10/8/5 黄紅 無2.5/8/5 黄紅	V-2
239	山茶樹	裸	2	17050	延3/12	—	(2.1)	8.4	—	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	外縁-口部コロナデ、内縁-口部コロナデ、内縁系切口筋	無粒・種を含む	2.5/7/1 黄白	V-2 育成期

番号	樹種	樹形	開花期	過熟・腐熟位	残存率	口径 cm	標高 cm	直径 cm	枝葉等の特徴	地土	色調	時期	その他・備考
240	山茶樹	直	2	170SD	4/12	7.9	2.3	3.7	外輪一ロコロナデ, 外輪未切り輪	砂粒・礫を含む	5/7/1 緑白	V.2	
241	山茶樹	直	2	235SX	1/12	14.1	(3.5)	—	外輪未一ロコロナデ	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	
242	山茶樹	直	2	235SX	8/11/12	—	(2.2)	6.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	内山摩丸
243	山茶樹	直	2	235SX	8/3/12	—	(4.0)	7.5	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	5/8/4 緑白	V.2	斜坡地
244	山茶樹	直	2	235SX	8/3/12	—	(2.8)	7.2	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/7/1 緑白	V.2	斜坡地 内山摩丸
245	山茶樹	直	2	235SX	4/12	8.5	2.2	4.3	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	
246	山茶樹	直	2	235SX	12/12	8.3	2.0	4.9	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	5/8/4 緑白	V.2	
247	山茶樹	直	1	040SD	1/12	15	(4.2)	—	外輪未一ロコロナデ	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	
248	山茶樹	直	1	032SX	7/12	14.4	5.1	6.2	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/7/1 緑白	V.2	斜坡地
249	山茶樹	直	2	12	12/12	13.6	5.0	5.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	内-10/8/2 にぶい 黄緑	V.2	斜坡地
250	山茶樹	直	2	11-12	7/12	13.3	4.7	6	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	
251	山茶樹	直	2	11-12	11/12	11.9	4.9	4.1	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/7/1 緑白	V.2	斜坡地 溝戸裏
252	山茶樹	直	2	11-12	10/12	12.2	4.7	5.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/7/1 緑白	V.2	黒石尾
253	山茶樹	直	2	040SD	1/12	14.2	4.3	5.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/2 緑白	V.3	氣燭型
254	山茶樹	直	2	12-13	2/12	13.3	4.6	5.8	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/2 緑白	V.3	氣燭型
255	山茶樹	直	2	11-12	8/12	11.1	3.0	4	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端,	砂粒・礫を含む	2.5/8/2 緑白	V.3	氣燭型
256	山茶樹	直	1	11-12	8/12/12	8.3	2.7	4.2	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/7/2 緑白	V.2	斜坡地
257	山茶樹	直	2	248SX	5/12	8.3	2.6	4.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.2	
258	山茶樹	直	2	040SD	5/12	8.5	2.5	4.5	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端	砂粒・礫を含む	2.5/7/1 緑白	V.2	
259	山茶樹	直	1	11-12	12/12	7.9	2.0	4.7	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端	砂粒・礫を含む	10/8/2 にぶい 黄緑	V.2	
260	山茶樹	林	2	11-12	延7/12	—	(8.5)	14.0	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端, 銀葉輪	砂粒・礫を含む	2.5/8/3 緑白	V.1	内山摩丸
261	鶴付	直	1	11-12	延7/12	—	(1.6)	1.3	外輪一ロコロナデ, 銀葉輪未切り端, 銀葉輪	砂粒・礫を含まない	10/8/3 にぶい 黃緑	V	輸入か
262	白蘭	直	1	11-12	1/12	18	(2.5)	—	外輪未一ロコロナデ	砂粒・礫を含む	2.5/8/1 緑白	V.1	玉林白蘭園
263	古漸江	四叶樹	2	11-12	延4/12	—	(13.0)	—	外輪一ロコロナデ, ハケヅキ, ハケヅキ, 呑木沈脂	砂粒・礫を含む	2.5/8/3 緑白	V.3	

番号	名稱	形状	調査区	通幅・層位	透仔率	口径 cm	體高 cm	透深 cm	柱等の特徴		地土	色調	時期	その他・備考
									外縁	内縁				
264 古窓口	直	2	1305D	4/12		8.5	1.8	4.8	外縁一ロコロナナ, 亂れ面 内縁一ロコロナナ, 亂れ面	乱れを含む	7.5R7/4に亘る相	V.3		
265 美濃窓口	直	2	1305D	透6/12		—	(1.3)	5.8	外縁一ロコロナナ 内縁一乱れ・ラグス, 前出透行	乱れを含む	2.5R8/1 白	V.3		
266 美濃窓口	直	1	11~12	透10/12		11	2.3	6.6	外縁一ロコロナナ, 亂れヘラゲアリ	乱れを含む	2.5R8/2 白	V.3		
267 古窓口	林	2	12~13	1/12		28.4	(3.7)	—	外縁一ロコロナナ 内縁一ロコロナナ	乱れを含む	7.5R8/1 白 黒—2.5R7/1 黑	V.3		
268 土師窓	直	2	0405D	4/12		(8.2)	1.8	3.8	外縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面 内縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面	乱れを含む	7.5R7/6 相	V	地盤に穿孔あり	
269 土師窓	直	2	0405D	9/12		8.8	2.0	4.9	外縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面 内縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面	乱れを含む	7.5R7/6 相	V	口縁急傾斜付有	
270 土師窓	直	2	12~13	11/12		8.9	2.0	4.8	外縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面 内縁一ロコロナナ, 亂れ未切り面	乱れ・巣を含む	7.5R6/6 相	V	口縁急傾斜付有	
271 土師窓	直	2	0405D	2/12		36	(4.9)	—	外縁一板子・ナナ, ヨコナナ 内縁一板子・ナナ, ヨコナナ	乱れ・巣を含む	10/6R3浅黄	V.3		
272 土師窓	直	2	11~12	2/12		41	(22.7)	—	外縁一板子・ナナ 内縁一板子・ナナ	乱れ・巣を含む	10/6R7/3に亘る相 10/6R1 黒	V.3		

付論

第1章 東海市東畑遺跡出土の埋葬馬の分析

大阪市立大学大学院医学研究科

安部みき子

東海市東畑遺跡の中世の土坑（14～15世紀）から、骨の保存状態が比較的良く埋葬時の姿勢を留めたウマの全身骨格が出土した。埋葬の方角は頭部を北に向け、左側を下にした側臥位であった。中世のウマの全身骨格の出土は極めて少なく、ウマの埋葬の位置づけを知るうえで貴重な資料である。

<出土状況>

出土状況は、頸部と左前肢の一部、体幹の後部から後肢にかけての骨格が遺存しており、遺存していない部位は頭骨、胸椎、右側の肋骨、右側の前肢、左側の肩甲骨と上腕骨ならびに、後肢の左右の末節骨で、失われていた骨格も多かった。しかし、遺存している部位は埋葬時の姿勢を良く保存していた（図1、写真1、図版1・2、表1）。

遺存状況は、頭部では体幹の前方に散乱していた上顎の切歯5点以外はまったく出土していない。また、頭骨と関節している環椎（第1頸椎）は遺存しており、解体痕などは見られなかった。

椎骨は環椎から第6頸椎までと腰椎の椎体が6点出土しており、出土状況の図面と写真から交連状態で出土していることが確認された。胸椎は全てが失われており、肋骨も半数以上が喪失し、遺存している肋骨の保存状態は悪かったため左右の判定は出来なかった。しかし、後位にある9点の肋骨は出土時の写真から埋葬時の状態を保っていると考えられる。

四肢骨では、前肢の右側の骨格はほとんどが喪失し、基節骨と中節骨のみが前方に散乱していた。一方、左側の骨格は肩甲骨、上腕骨と末節骨は欠くが、前腕から遠位まで交連状態で出土した。後肢は両側とも末節骨を欠くがほぼ完全に遺存し、埋葬時の状態を保っていた。

全身の出土状況から、埋葬後比較的早い時期に頭骨と胸郭の前部を中心とした体幹の右側が攪乱されたと推測できる。

埋葬姿勢は、頸椎が体幹にほぼ直角に位置し、頭部を非常に後方にそらせ、左前肢の基節骨が左後肢の基節骨の下に位置していることから、四肢を足先で縛った状態で、左側を下にしていると推察される。

<年齢の推定>

遺跡から出土するウマの年齢の推定は、臼歯の遺存率が高いため歯の高径で行なわれる場合が多いが、本遺跡では臼歯が全く出土していないため、現生のウマの切歯を用いた年齢推定法を用いた。すなわち、切歯は崩出、成長、磨滅、そほかの特徴的变化が規則的であるため年齢推定に用いることができ、高齢になるに従い歯の磨滅による变化は食性などの影響で幼少期より推定年齢の精度が多少落ちるが有効な手段である（カラーアトラス獣医解剖学編集委員会 2010）。また、ウマの寿命は数十年であることを考慮すると、時代差や飼育環境は推定年齢に大きな影響を与えるものではないと考えられ



写真1 埋葬馬の出土状況と骨の取り上げ番号

る。本遺跡から出土したウマの上顎切歯は永久歯のため、摩耗による咬合面の形態と歯ロートの状態で行った。切歯の咬合面は三角形を呈し歯ロート底が見られたため、18~24歳と推定した。

性は、頭骨が遺存していないため判定できなかった。

<計測の方法>

出土した骨の計測はDriesch (1976) の骨計測法を基本とし、各骨に特徴がみられる項目を追加して行った(図2~5)。計測の結果を表2~4に示した。なお、計測図中の番号は計測表の計測項目番号である。

骨の計測にはミツトヨ製デジタルノギスを使い、1.01mmまで測った。

<体高の推定>

体高の推定に用いた部位は、桡尺骨、第Ⅲ中手骨、第Ⅲ基節骨(前肢)、大腿骨、脛骨、第3中足骨、第3基節骨(後肢)である(表5)。推定体高は各部位の最大長を林田ら(1957)の3通りの推定式にてはめ、この3つの式の平均値を各部位の推定値とした。さらに、本遺跡のウマの体高の推定値は各部位の推定値の平均をとり、この値を本遺跡のウマの推定体高とした。各部位の推定体高の最小値は第Ⅲ中足骨が132.5cmで、最大値は第Ⅲ中節骨(前肢)の139.1cmであり、平均値は136.5cmであった。

<古代馬および在来馬との比較>

本遺跡から出土したウマは頭骨を欠いており、頭骨の形態学的比較はできなかったが、推定体高を古代馬ならびに現存する在来馬と比較した(表6)。古墳時代の藤原北遺跡からは埋葬馬が1個体と

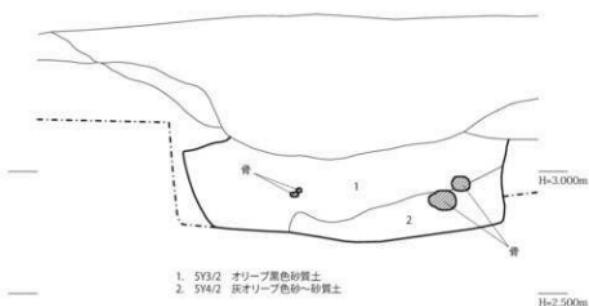
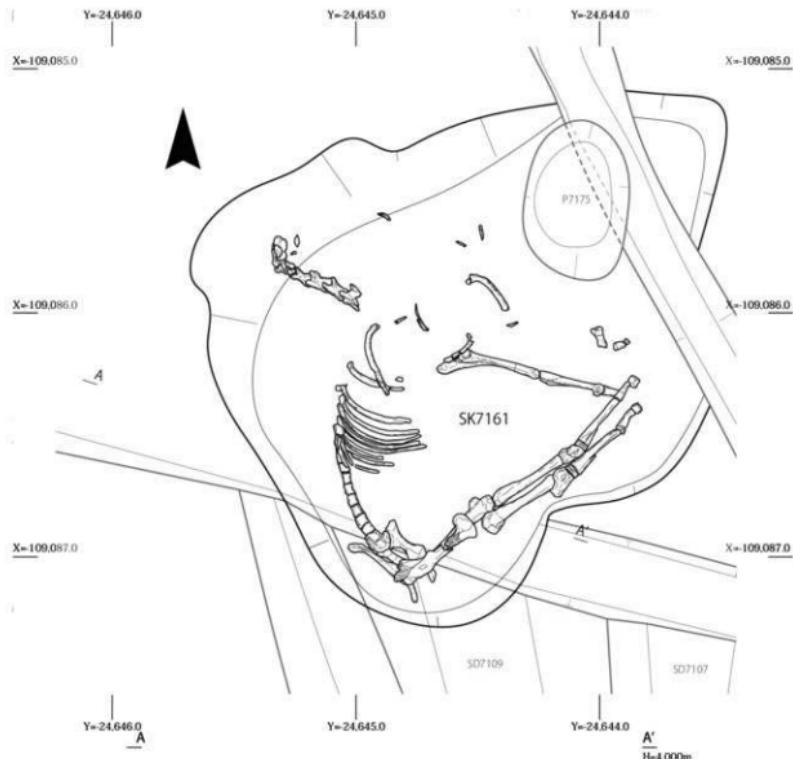


図1 埋葬馬の出土状況 (1/20)

埋葬されていない個体が多数出土しており、埋葬馬の体高は127cmであり、埋葬されていないものの平均が約126cmである（安部 2010）。また、大坂冬の陣で埋め立てられた大坂城二ノ丸の堀（安部 2006）から出土したウマ（資料番号1424）の体高は約123cmであり、同遺跡の別個体（資料番号2614）の推定体高は約127cmで（安部 2006）、いずれも本遺跡のウマより約10cm小さい。一方、林田ら（1957）は在来馬の体高は28才の北海道和種のオスが133.5cm、11才の御崎馬のオスが136cmとしており、本遺跡のウマはほぼ同等の大きさである。

古墳時代から近世まで土坑に埋葬されたウマの例は全国でも少数であり、その理由は解明されていない。本遺跡のウマは中世の社会の中で飼育されていた平均的なウマより大きく、特別な存在であった可能性が考えられる。今後、土坑に埋葬されたことの意味を検討する手掛かりとなる資料である。

＜まとめ＞

- ・中世の土坑から、頭部を後方に反らし、四肢を基節骨の位置で縛ったと推測される埋葬姿勢のウマが出土した。
- ・出土したウマは、頭骨、右の前肢、胸椎や肋骨の一部が喪失していた。
- ・年齢は、上顎切歯の形態でを行い、18歳以上と推定した。また、性は頭骨が遺存していないため、判定できなかった。
- ・体高は、遺存していた長骨最大長でを行い、136cmと推定した。
- ・体高を古墳時代から近世まで飼育されていたウマと比較すると本遺跡のウマの方が約10cmほど高く、また、在来馬の中でも大きい部類の品種とよく似た体格であった。

参考文献

- ・安部みき子 2006 大坂城跡03-1調査区出土の獣骨、『大坂城址Ⅲ』（財）大阪府文化財センター 調査報告書 第144集 470-504
- ・安部 みき子 2010 郡屋北遺跡出土の動物遺体、『郡屋北遺跡Ⅰ』大阪府教育委員会 249-324
- ・Angela. D. Driesch 1976 A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Harvard University
- ・林田重幸、山内忠平 1957 ウマにおける骨長より体高の推定法、鹿児島大学農学部学術報告 6: 146-156
- ・カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳 2010 カラーアトラス獣医解剖学 上巻 チクサン出版 東京
- ・小浜 成 2009古墳時代馬の骨格復元-展示模型製作記録-、『大阪府立近つ飛鳥博物館館報12』大阪府立近つ飛鳥博物館
- ・競走馬総合研究所 1979 馬の解剖図譜 Schmaltz I 東亞印刷 東京

表 1-1 出土部位取り上げ番号の一覧表

取り上げ番号	部 位	左 右	詳 紹	計測表	図版
5 上頸第1切歯		右			図版1-16
56 上頸第2切歯		右			図版1-15
4 上頸第3切歯		右			図版1-14
56 上頸第1切歯		左			図版1-17
1 上頸第2切歯		左			図版1-18
16 頸椎		—			図版1-19
18 胸椎		—			
17 第三？腰椎		—			
16 第四？腰椎		—			
14 腰椎					
15 腰椎					
47 第VII腰椎		—			
22 腰椎		—	椎体のみ		
23 腰椎		—	椎体のみ		
24 腰椎		—	椎体のみ		
25 腰椎		—	椎体のみ		
26 腰椎		—	椎体のみ		
29 腰椎		—	椎体、椎弓の破片		
30 腰椎		—			
31 腰椎		—			
47 第I仙椎		—			
2 効骨		不明			
3 効骨		不明			
6 効骨		不明			
7 効骨		不明			
8 効骨		不明			
9 効骨		不明			
20 効骨		不明			
21 効骨		不明			
27 効骨		不明			
28 効骨		不明			
29 効骨		不明			
40 効骨		不明			
41 効骨		不明			
42 効骨		不明			
43 効骨		不明			
44 効骨		不明			
45 効骨		不明			
46 効骨		不明			
51 尺骨・桡骨		左	表3		図版1-1
52 第Ⅲ手根骨		左			図版1-11
53 第Ⅳ手根骨		左	表3		図版1-12
53 指側手根骨		左			図版1-13
53 中間手根骨		左	表3		図版1-7
53 尺側手根骨		左	表3		図版1-8
53 副手根骨		左			図版1-9
54 第Ⅱ中手骨		左	兼旨中手骨と結合、遺位線確認		図版1-2

取り上げ番号は写真1の番号に対応する

表 1-2 出土部位取り上げ番号の一覧表

取り上げ番号	部 位	左右	詳 細	計測表	図版
54 第Ⅱ中手骨		左		表3	図版1-2・3
54 第Ⅲ中手骨		左	遺難	表3	図版1-4
10 第Ⅱ基節骨(前肢)		右		表3	
55 第Ⅱ基節骨(前肢)		左		表3	図版1-5
11 第Ⅱ中節骨(前肢)		右		表3	
55 第Ⅲ中節骨(前肢)		左		表3	図版1-6
38 肘骨		右		表4	図版1-20
48 肘骨		左		表4	図版1-21
47 黄骨		不明	椎骨翼の一部?	表4	
32 大腿骨		右		表4	
49 大脛骨		左	近位部後面破損、遠位端の骨端浅造存	表4	
33 小脛骨		右			図版2-21
47 骶骨		左	開節面のみ造存		
34 肋骨		右	該骨は破損	表4	図版2-1
50 肋骨		左		表4	図版2-2
35 肋骨		右		表4	図版2-3
35 肋骨		右		表4	図版2-4
36 中心足根骨(舟状骨)		右		表4	図版2-5
51 中心足根骨(舟状骨)		左	一部破損	表4	図版2-11
36 第Ⅰ・Ⅱ足根骨		右			図版2-6
51 第Ⅰ・Ⅱ足根骨		左			
36 第Ⅲ足根骨(外側楔状骨)		右		表4	図版2-7
51 第Ⅲ足根骨(外側楔状骨)		左	中央部破損	表4	図版2-10
36 第Ⅳ足根骨(立方骨)		右			図版2-6
51 第Ⅳ足根骨(立方骨)		左			図版2-9
37 第Ⅴ中足骨		右	遺難、遠位端わずかに破損		図版2-14
51 第Ⅴ中足骨		左		表4	図版2-16
37 第Ⅵ中足骨		右	遠位端の滑車窓より外側部破損	表4	図版2-17 73-15
51 第Ⅵ中足骨		左	遠位部破損	表4	図版2-17
37 第Ⅶ中足骨		右	遺難、遠位端わずかに破損		図版2-12
51 第Ⅶ中足骨		左	遠位端破損	表4	図版2-18
38 基節骨(後肢)		右		表4	図版2-19
52 基節骨(後肢)		左		表4	
38 中節骨(後肢)		右		表4	図版2-20
52 中節骨(後肢)		左		表4	
52 中足骨?		不明	滑車の一部?		
38 横子骨					
52 横子骨		一	2点		
54 横子骨		一	2点		
11 骨片			2点		
12 骨片					
13 骨片					
19 骨片					
37 骨片			3点		

取り上げ番号は写真1の番号に対応する

表2 上顎切歯の計測値

	右			左	
	第1切歯	第2切歯	第3切歯	第1切歯	第3切歯
歯高	56.34	61.51	52.51-	-	55.14
近遠心径	13.93	15.91	19.13	14.93	18.72
頬舌径	13.13	12.32	11.58	12.84	11.29

単位はmm

表3 前肢骨の計測値

項目 番号	計測項目	R	L	
地尺 骨	RU-1 従尺骨最大長	SL	-	418.45
尺 骨	U-1 最大長	SL	-	-
	U-2 肘頭長	LD	-	86.30
	U-3 肘頭基小窪	SDO	-	47.76
	U-4 肘突起矢状径	DPA	-	61.64
	U-5 游離切歎程	SPC	-	33.24
橈 骨	R-1 最大長	SL	-	338.45
	R-2 中央長	PL	-	324.25
	R-3 外側長	LI	-	323.95
	R-4 骨幹横径	SD	-	37.51
	R-5 骨幹前後径	SD	-	26.99
	R-6 近位端横径	Sp	-	80.72
	R-7 近位端開閉面幅	SFp	-	75.19
	R-8 遠位端前後径	Sp	-	50.21
	R-9 遠位端横径	Sd	-	67.58
	R-10 遠位端開閉面幅	SFd	-	61.73
	R-11 遠位端前後径	Sd	-	42.45
茎 骨	1 最大幅	SD	-	39.76
	2 最大深	SD	-	28.45
橈 手 指 骨	1 最大幅	SD	-	26.64
	2 最大深	SD	-	29.30
中 指 手 指 骨	1 最大幅	SD	-	29.95
	2 最大深	SD	-	37.03
中 指 手 指 骨	1 最大長	SL	47.56	46.33
	2 骨幹横径	SD	44.53	43.94
	3 骨幹前後径	SD	22.79	25.97
	4 遠位端横径	Sp	51.08	49.24
	5 遠位端前後径	Sp	31.48	31.40
	6 遠位端横径	SD	46.71	-
	7 遠位端前後径	SD	24.40	-

単位はmm

* は計測部位がわざかに錯接

表4 後肢骨の計測値

項目 番号	計測項目		R	L
対 骨	1	最大長	GL	—
	2	閉鎖孔最大長	LFe	—
	3	鶲骨結合部長	LS	—
	4	宮骨口長	LA	70.48
	5	月状面長	LAR	63.87
	6	鶲骨体最小高	SH	45.58
	7	鶲骨体最小幅	SB	24.13
大 脛 骨	1	最大長	GL	—
	2	大腿骨長	GLC	—
	3	骨幹横径	BD	—
	4	骨幹前後径	DD	—
	5	近位端横径	Bp	110.66
	6	近位端前後径	Dp	—
	7	遠位端横径	Bd	—
	8	遠位端前後径	Dd	110.29
胫 骨	1	最大長	GL	354.52
	2	外側長	LI	324.49
	3	骨幹横径	BD	40.41
	4	骨幹前後径	DD	35.59
	5	近位端横径	Bp	—
	6	近位端前後徑	DP	77.98
	7	遠位端横径	Bd	72.18
	8	遠位端前後徑	Dd	45.06
距 骨	1	最大高	GH	60.34
	2	外側高	Lst	62.35
	3	最大幅	GB	58.04
	4	遠位関節面幅	Wd	51.07
	5	最大深	GD	53.10
踵 骨	1	最大長	GL	109.47
	2	最大幅	GB	52.22
	3	最大高	GH	49.15
中心 足根 骨	1	最大幅	GB	50.99
	2	最大深	GD	41.14
	3	最大長	GL	—
	4	骨幹横径	BD	—
	5	骨幹前後徑	DD	—
	6	遠位端横径	Bd	—
	7	遠位端前後徑	Dd	—
第5中 足根 骨	1	最大長	GL	—
	2	最大幅	GB	47.24
	3	最大深	GD	42.92
	4	最大長	GL	—
	5	骨幹横徑	BD	—
	6	骨幹前後徑	DD	—
	7	遠位端横徑	Bd	—
第2中 足根 骨	1	最大長	GL	268.35
	2	外側最大長	GL	—
	3	外側長	LI	259.6
	4	内側長	LI	263.24
	5	骨幹横徑	BD	30.35
	6	骨幹前後徑	DD	29.35
	7	近位端横徑	Bp	48.83
	8	近位端前後徑	Dp	37.91
	9	遠位端横徑	Bd	—
	10	遠位端前後徑	Dd	—
第3中 足根 骨	1	最大長	GB	—
	2	遠位端前後徑	Dd	* 105.09
基 節 骨 Ⅲ	1	最大長	GL	85.06
	2	骨幹横徑	BD	32.62
	3	骨幹前後徑	DD	24.05
	4	近位端横徑	Bp	50.68
	5	近位端前後徑	Dp	35.25
	6	遠位端横徑	Bd	38.95
	7	遠位端前後徑	Dd	23.59
中 節 骨 Ⅲ	1	最大長	GL	—
	2	骨幹横徑	BD	—
	3	骨幹前後徑	DD	—
	4	近位端横徑	Bp	46.06
	5	近位端前後徑	Dp	29.79
	6	遠位端横徑	Bd	—
	7	遠位端前後徑	Dd	—

単位はmm

* は計測部位がわずかに被接

表5 長骨の最大長から求めた推定体高

部位		計測長 (cm)	推定体高
橈尺骨	I式	41.8	135.85
	II式	41.8	136.12
	III式	41.8	129.71
	平均値		133.89
桡骨	I式	33.8	134.19
	II式	33.8	134.48
	III式	33.8	138.37
	平均値		135.68
第Ⅲ中手骨	I式	22.6	134.47
	II式	22.6	135.22
	III式	22.6	137.98
	平均値		135.89
第Ⅲ基節骨(前肢)	I式	8.7	136.76
	II式	8.7	137.13
	III式	8.7	142.11
	平均値		138.67
第Ⅲ中節骨(前肢)	I式	4.7	136.25
	II式	4.7	138.65
	III式	4.7	142.28
	平均値		139.06
大脛骨	I式	40.2	136.68
	II式	40.2	137.05
	III式	40.2	137.13
	平均値		136.95
胫骨	I式	35.7	135.30
	II式	35.7	135.29
	III式	35.7	142.00
	平均値		137.53
第Ⅲ中足骨	I式	26.6	132.47
	II式	26.6	133.03
	III式	26.6	131.98
	平均値		132.49
第Ⅲ基節骨(後肢)	I式	8.5	137.79
	II式	8.5	138.13
	III式	8.5	139.62
	平均値		138.51
各部位の平均値の平均			136.52

単位はcm

推定式は林田ら(1957)による。

表6 古代馬の長骨の最大長計測値

	藤屋北遺跡			大坂城III	
	C-3928	D-3820	H-0084-01	1424-1	2614-1
	右	左	左	左	右
橈尺骨	—	—	—	384.56	—
尺骨	—	—	—	315.24	—
橈骨	—	—	—	306.61	—
中手骨	—	—	—	207.8	—
大腿骨	—	—	—	—	376.91
脛骨	—	—	—	—	333.80
中足骨	260.86	250.9	266.29	—	251.75
基節骨（後肢）	—	—	—	—	76.17

単位はmm

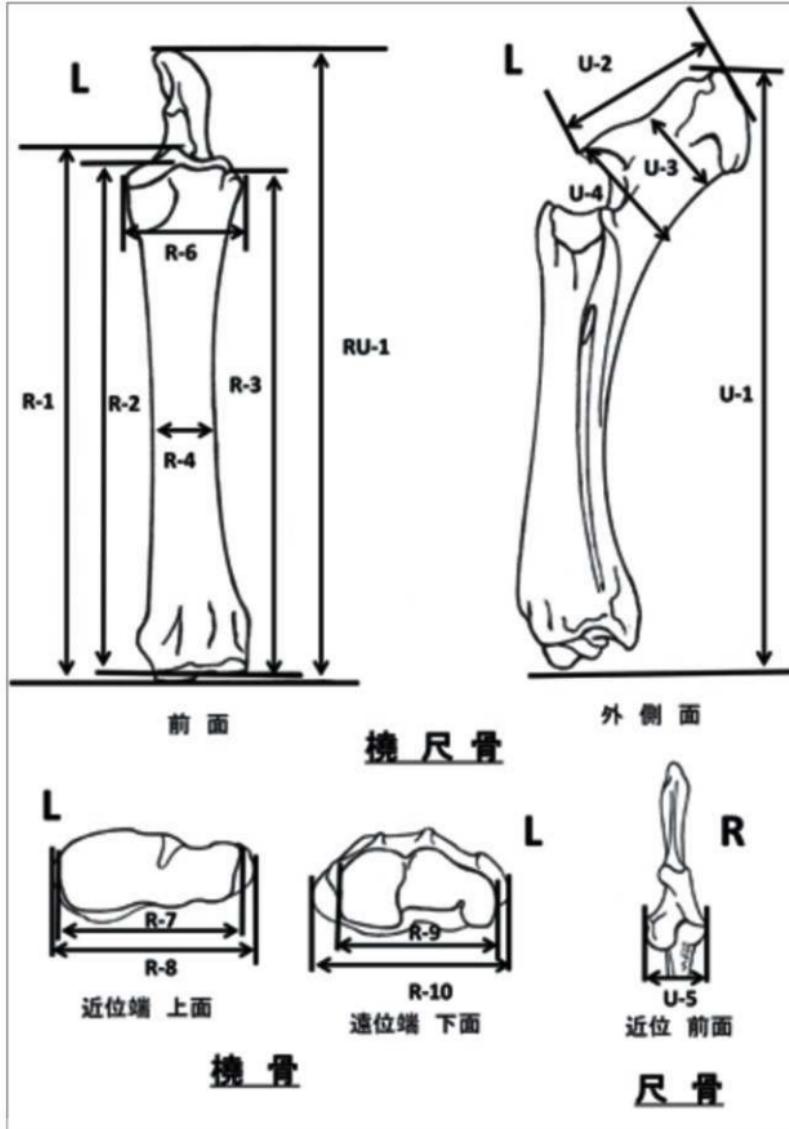


図2 桡尺骨の計測図

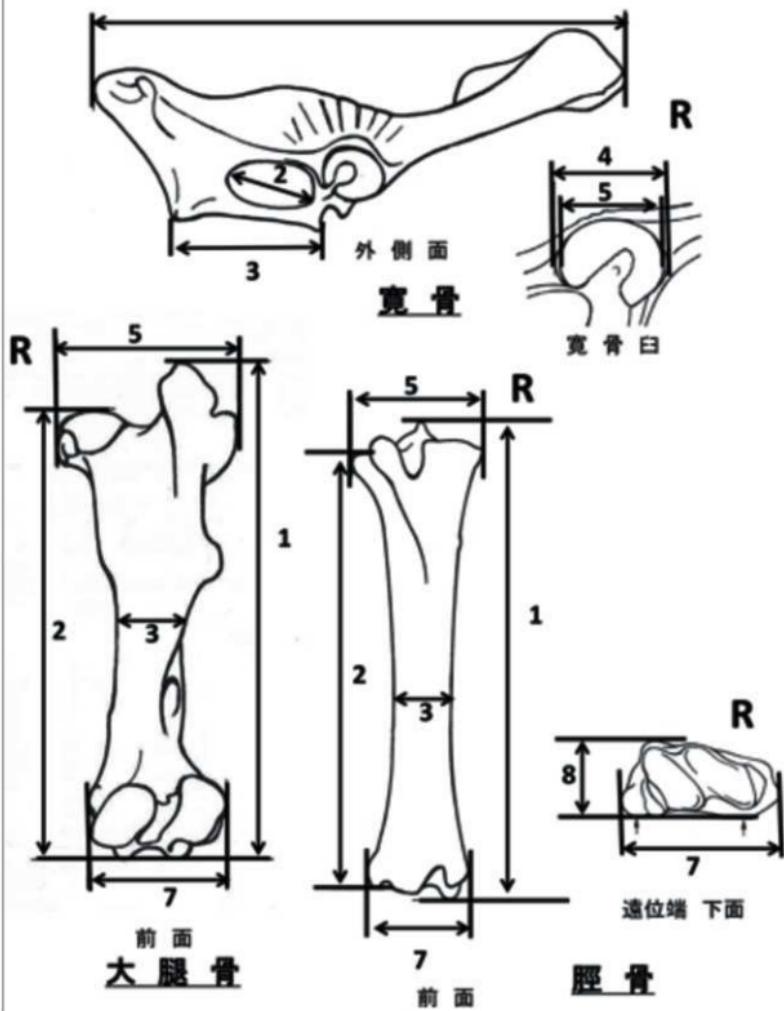


図3 寛骨・大腿骨・胫骨の計測図

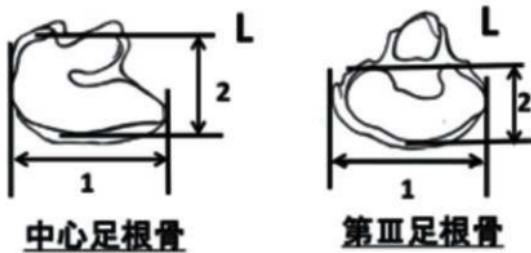
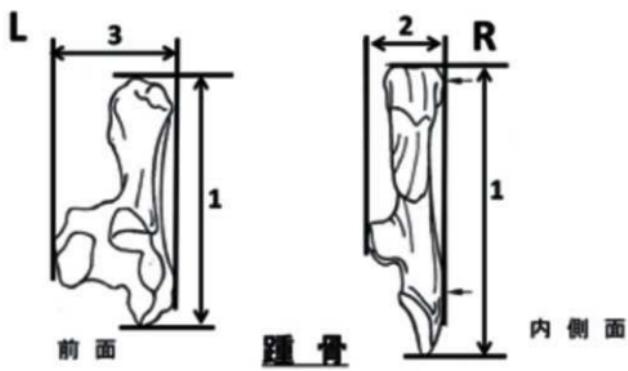
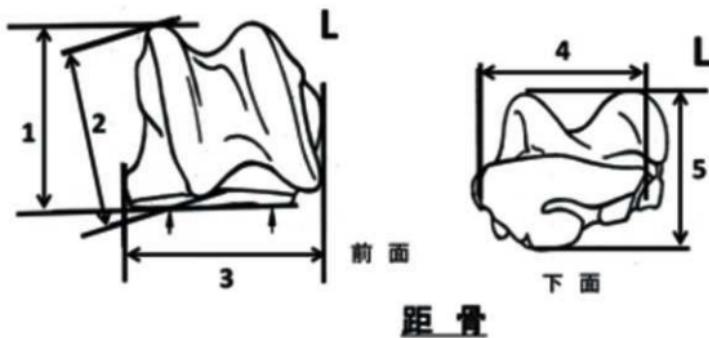


図4 距骨・踵骨・中心足根骨・第III足根骨の計測図

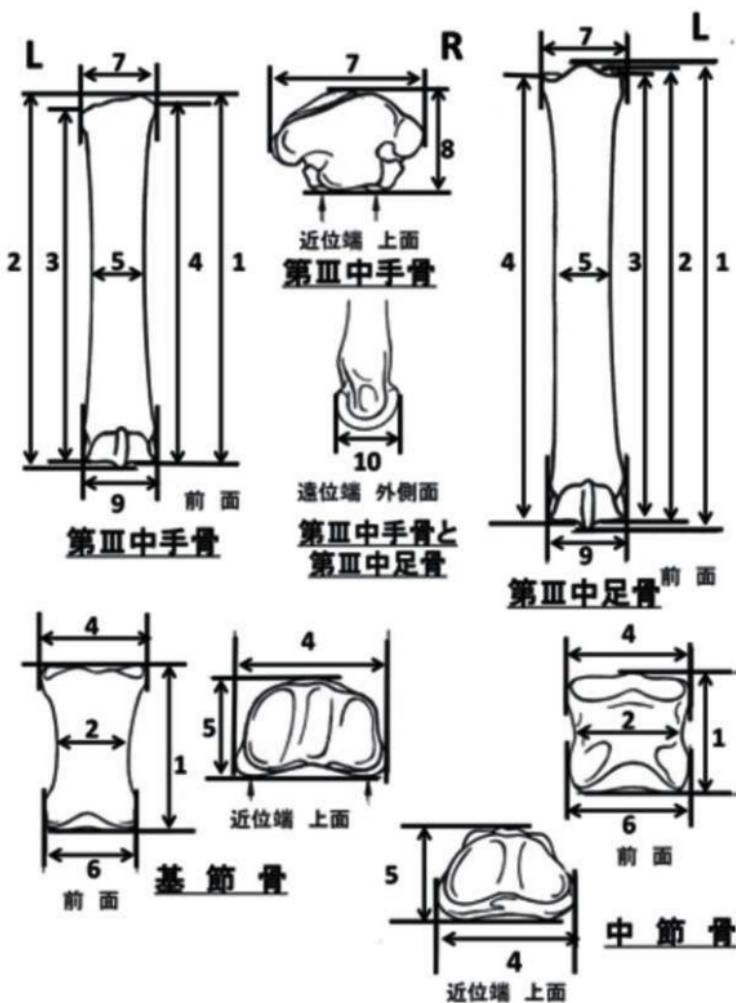
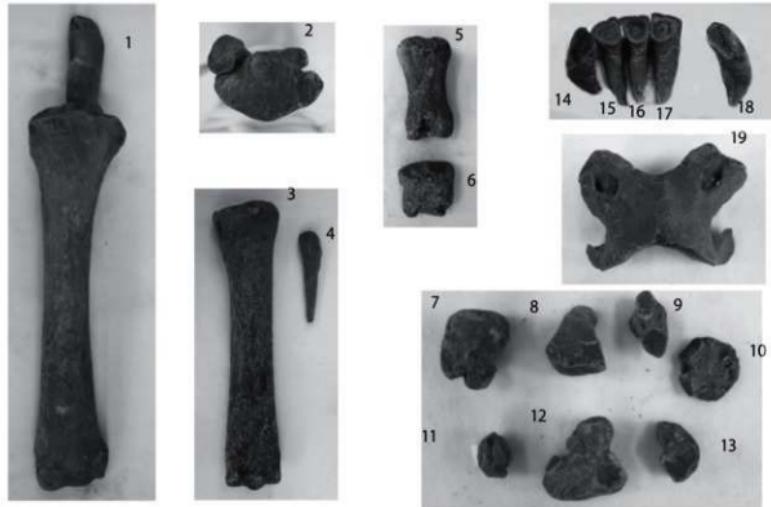
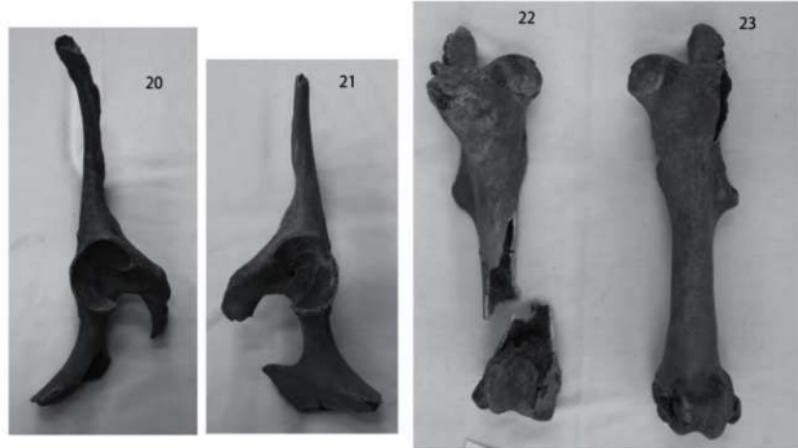


図5 第III中手骨・第III中足骨の計測図



1 槍尺骨 2 第II+III中手骨 3 第III中手骨 4 第IV中手骨 5 第III基節骨 6 第III中節骨
 7 槍側手根骨 8 中間手根骨 9 尺側手根骨 10 副手根骨 11 第II手根骨 12 第III手根骨
 13 第IV手根骨 14・18 上頸第3切歯 15 上頸第2切歯 16・17上頸第1切歯 19 環椎
 1～13、17、18は左側 14～16は右側 1、3～6、19は前面 2、7～13は上面、14～18は下面



20, 21 寬骨 22, 23 大腿骨 20, 22は右側 21, 23は左側 全て前面

図版1 東畠遺跡 動物遺存体 ウマの前肢と後肢



1、2 腰骨 3 跗骨 4 距骨 5 中心足根骨 6 第IV足根骨 7 第III足根骨 8 第I+II足根骨
9 第IV足根骨 10 第III足根骨 11 中心足根骨
1、3～8は右側 2、9～11は左側 1～4は前面 6～11は上面



12、18 第IV中足骨 13、15、17 第III中足骨 14、16 第II中足骨 19 第III基節骨 20 第III中節骨
21 膝蓋骨

12～15、19～21は右側 16～11は左側 12～14、16～21は前面 15は上面

図版2 東畠遺跡 動物遺存体 ウマの後肢

第2章 東畠遺跡出土の埋葬犬について

大阪府教育委員会

宮崎泰史

第1節 はじめに

今回、報告する資料は愛知県東海市東畠遺跡の調査によって出土した埋葬犬で、一部骨が遺漏しているものもほぼ全身骨格が揃っていた。時期は室町時代に比定され、全体像を知ることの出来る全身骨格は日本犬の形質を知るうえで、非常に良好な資料といえる。資料を詳細に分析、形態的特徴を把握することで、今後、中世の犬の形質や日本在来犬の系統を明らかにしていく上でも、基準資料としてきわめて重要な位置を占めるものと考えられる。

しかし、出土した犬骨には脆弱な部分もあり、骨の保存処理をしなければ消失してしまう状況が考えられたため、保存を最優先とし、分析（部位の同定や計測等）を行う前に、すべての骨について保存処理を行い、今後の研究材料を提供することを第一義とした。

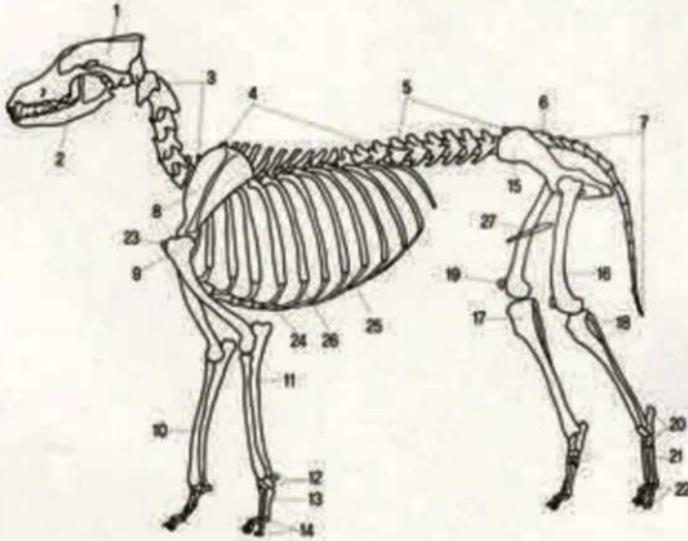
第2節 資料の整理方法と記載について

I. 資料化の方法とその手順

- ①資料の保存状況、出土点数の確認。現況は12ブロックに分割（No1～12）して取り上げられ、1つのコンテナに納められていた。
- ②取り上げ番号（No1～12）ごとに現状の写真撮影を行う。骨一つ一つに資料番号（1～86）を与える。
- ③骨に資料番号を与えるのと並行して、1点づづ骨をビニール袋にいれる。この時、ビニール袋の表面に資料番号、部位名を油性のマジックで記入する。さらに、ビニール袋の中には鉛筆で記入したラベルを入れて、各々の骨が混同しないよう慎重に心がけた。
- ④保管されていた資料は、劣化が進行しているものも認められた。このため、表面が脆弱な骨については保存処理として、エチルアルコールで洗浄後、硬化剤としてパラロイドB72（アセトン5%）を塗布・含浸した。
- ⑤硬化後は、破片の骨については接合し、骨に直接、資料番号をマーキングした。
- ⑥部位の同定を行い、解体痕跡（カットマーク）や骨折、病的変異について調べる。④の作業と平行して行った場合もある。
- ⑦原則としてすべての部位の骨を計測した（付表1～49）。
- ⑧写真撮影をおこなう。

II. 計測の方法

イヌの計測方法については「犬科動物骨格計測法」（斎藤1963）に従っている。ただし、出土した資料には頭蓋骨の吻端、下顎骨の先端や角突起、関節突起などが欠けている場合が多いので、これらの資料も出来るだけ他の犬骨と比較できるよう、新たに計測点を設け、計測項目を追加し、計測する上



1 頭蓋骨	耳介骨	10 槍骨	立骨	19 腹蓋骨	会陰骨
2 下顎骨	下顎骨	11 尺骨	前腕骨	20 足櫛骨	舟月骨
3 頸椎	颈椎	12 手櫛骨	手舟骨	21 中足骨	中足骨
4 胸椎	胸椎	13 中手骨	中指骨	22 趾骨	趾骨
5 腰椎	腰椎	14 指骨	指骨	23 胸骨柄	胸骨柄
6 仙骨	仙骨	15 宽骨	蹠骨	24 胸骨片	胸骨片
7 尾椎	尾椎	16 大脛骨	腓脛骨	25 肋軟骨	鷲頭骨
8 肘甲骨	膝蓋骨	17 稜骨	蹠骨	26 肋軟骨	鷲頭骨
9 上腕骨	上腕骨	18 桡骨	前腕骨	27 短掌骨	舟形骨

図1 イヌの全身骨格（宮崎 2011）

でのポイントについても詳述している（図6～12）。新規の計測点については、斎藤（1963）で使用している計測点の最終番号に続けて番号を付けている（宮崎2008・2011）。なお、左右の骨がある場合、いままで一方の骨のみの計測値を載せている例が大半であったが、骨折などの影響により、四肢骨や前肢肢端や後肢肢端にどのような変化があるかを知るために原則的にすべての骨を計測することとした。

また、今回報告する資料の特徴を明確化するために、同時代の資料ではないが、良好な全身骨格のデーターが報告されている大阪府亀井遺跡（宮崎1994）出土の資料（亀井1号犬・2号犬）の計測値を合わせて併記した（付表1～49）。亀井犬は弥生時代中期後半（紀元前1世紀頃）の資料で、長谷部（1945）の5級区分で表示すると、1号犬は「中級の大」、2号犬は「中級の小」の大きさである。頭蓋骨の示数については（茂原信生1986）、解剖学用語については「犬の解剖学」（Miller 1979）、「新編家畜比較解剖図説」（加藤嘉太郎・山内昭二2003）を参考にしている。

III. 記載の方法

第3節のイヌの記述にあたっては、まず現況について触れている。次に頭蓋骨（舌骨を含む）、下頸骨、脊柱、肋骨、胸骨片、前肢、前肢肢端、後肢、後肢肢端の順に残存部位・大きさ・骨の特徴などについて触れ、主要な計測値を掲載している（表1）。イヌの大きさは、長谷部（1945）の5級区分で表記している（表2）。体高（地面から肩の最高点までの高さ）については、山内（1958）の推定式I式～III式で算出し、その平均値を採用している。

なお、脊柱には7個の頸椎、13個の胸椎、7個の腰椎、仙骨、約20個の尾椎がある。通常、第1頸椎は環椎、第2頸椎は軸椎と呼称されている。肋骨には通常13対の肋硬骨と肋軟骨があるが、一般に肋骨という場合は肋硬骨のことをさしている。ただし、肋軟骨が遺跡から出土する場合はきわめてまれである。胸骨片は第1～8胸骨片の8個で、第1胸骨片は胸骨柄、第8胸骨片は剣状突起とも呼称されている。今回は胸骨片を確認できなかった。

前肢には肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨がある（図10）。前肢肢端の骨には手根骨、中手骨、指骨、種子骨がある（図12）。手根骨には橈側手根骨、尺側手根骨、副手根骨、第1～4手根骨、長母指外転筋の種子骨がある。中手骨には第1～5中手骨がある。指骨には第1～5基節骨、第2～5中節骨、第1～5末節骨がある。種子骨は背側種子骨4個、掌側種子骨9個が中手骨と基節骨の間にある。

後肢には寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨がある（図11）。後肢肢端の骨には足根骨、中足骨、趾骨、種子骨がある（図12）。足根骨には距骨、蹠骨、中心足根骨、第1～4足根骨、種子骨がある。中足骨には第2～5足手骨がある。趾骨には第2～5基節骨、第2～5中節骨、第2～5末節骨がある。種子骨は背側種子骨4個、底側種子骨8個が中足骨と基節骨の間にある。

図版については、頭蓋骨、下頸骨、脊柱（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）、尾椎、前肢肢端、後肢肢端、舌骨、陰茎骨は縮尺2/3、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨は縮尺1/2とし、同一部位での大きさの比較検討ができるよう配慮している（図版1～7）。

第3節 東畠犬の分析

<出土状況と現況>（図2、写真1）

平成24年度調査7地点の北東コーナー寄りで検出された土坑SK7032に埋葬されていた。土坑は径0.77×0.56mの平面卵形を呈し、深さ約16cmをはかる。埋土は上下2層に分かれ、イヌの骨は下層から出土した。北東5mのところにはウマが埋葬されていた。

埋葬姿勢は頭位を西南西に置き、腹側を北に向（右側を上）、顔は北西を向いている。前・後肢は

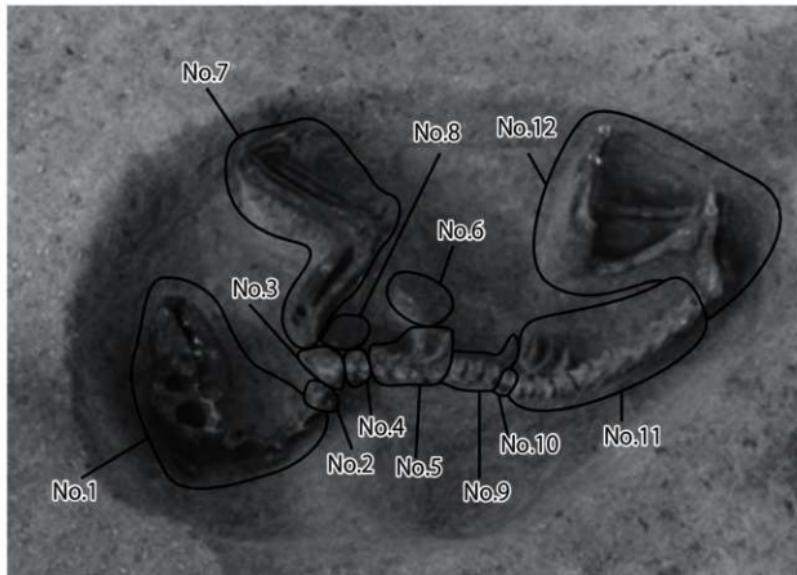


写真1 犬埋葬土坑（SK7032）の取り上げ番号

軽く屈曲させた状態で、ほぼ全身骨格が出土している（図2）。尾椎、胸骨片、肋骨の大半、前肢肢端の一部、後肢肢端は未確認であるが、埋葬時の状態を維持していた。おそらく、後世の攪乱及び調査時の採集漏れであろう。頭蓋骨の海拔高度は3.103mである。

陰茎骨（図版7 a-76）の存在から、成犬の雄で、歯牙の咬耗程度、縫合がほとんど閉鎖していることから老犬と考えられた。

現況は12ブロックに分割（No.1～12）して取り上げられ（写真1）、1つのコンテナに納められていた。そのうちNo.4（第6・7頸椎、第1胸椎、左肩甲骨）、No.5（第2頸椎～第6胸椎、右第4・5肋骨）は土ごと取り上げられ、交連した状態であった。砂層中に埋葬されていたにもかかわらず、骨の保存状況はやや不良で、肋骨をはじめとして、表面が破損している部分については脆弱な状態であった。なお、個々の骨の取り上げ番号については図2、詳細については表3～6を参照。

＜頭蓋骨＞（図版1、付表1・2）

大きさは、最大頭蓋骨長183.48+mmで、「中級の大」に相当する。外後頭隆起の後端、左右の鼻骨先端、左右の前頭骨頰骨突起端、後頭骨大孔上縁の一部、右頭頂骨・側頭骨・前頭骨の一部、右頸静脈突起、右頸骨、左右の翼突鈎は破損している。外前頭稜下方の隆起は頭著で、外前頭稜はNasion（前頭鼻骨縫合と正中線の交叉点）の3.6cm後方で矢状稜と合し、矢状稜は後方にいくにしたがい発達し、頭頂間突起に続く。外後頭隆起は後方に大きく突出する。鼻先から前頭骨にかけての凹み、すなわち額段（ストップ）はかなり小さい。

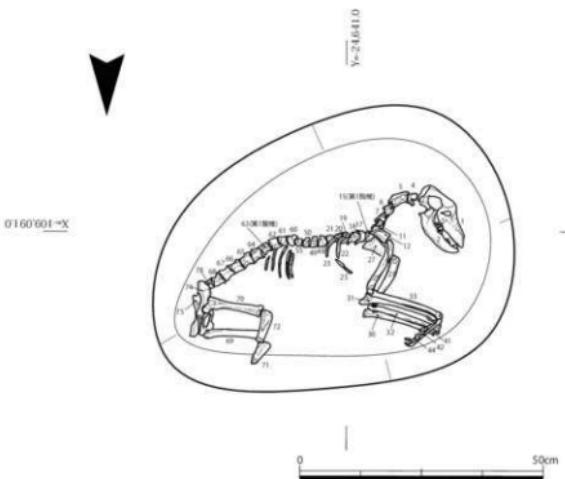


図2 SK7032 平面図 (1/10)、埋葬犬の資料番号

歯牙については、歯槽面の残存状況が不良のため詳細に観察することは困難であった。左の歯牙は、第3切歯は釘植し、第3前臼歯、第1・2後臼歯は生前に脱落し、歯槽は閉鎖している。なかでも第1後臼歯の歯槽面はクレーター状に大きく窪んでいる。おそらく、第1後臼歯の脱落後、左の下顎第1後臼歯歯冠部が直接にふれることにより窪んだものと推測される。犬歯、第1前臼歯、第2前臼歯については、現状では歯冠は観察されず、失歯（後天的に脱落）、欠損であるのかは不明であるが、歯根は一部残存している。

右の歯牙は、第3切歯は遊離し、第1・2切歯、犬歯、第1～4前臼歯（歯槽面の残存状況が不良なため、正確ではないが、第4前臼歯の歯根は残存？）は生前に脱落し、歯槽は閉鎖している。舌骨は上舌骨2点を確認している（図版7a-8・9）。

歯牙の摩耗状況及び、冠状縫合、上頸切歯縫合などの縫合がほとんど閉鎖（図6の1・brは確認できない）していることから、老犬と推定される。

体高は、最大頭蓋骨長から48.15cmと推定される。

＜下顎骨＞（図版2、付表3）

左の下顎骨は筋突起後縁、角突起後端、切歯歯槽部前端が破損する。第3切歯、犬歯、第3・4前臼歯、第1・2後臼歯は釘植し、第3後臼歯は歯槽中より脱落。第1・2切歯、第1・2前臼歯は脱落（歯根は残存？）し、歯槽はほぼ閉鎖。第1後臼歯後位、第2後臼歯の頬側面及び舌側面の歯槽骨は退縮（クレーター型の骨吸収）し、歯根が露出する。第3切歯、犬歯、第3前臼歯（近・遠心頬側後頭）、第4前臼歯（近・遠心頬側咬頭）、第1後臼歯（近・遠心及び頬・舌側咬頭）、第2後臼歯（近・遠心及び頬・舌側咬頭）、第3後臼歯（近心頬側咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯、第1後臼歯

表1 東畠犬の主要な計測値一覧 (mm)

計測項目	計測次	計測値	計測項目	計測次	計測値			
頭蓋骨 1								
1 最大顎長	i-pr	183.48+	1 全長	1-2	142.49			
3 基底顎長II	b-pr	160.89	2 上端最大幅	3-4	15.49			
6 基底顎長IV	2s-pr	168.82	3 上端最大前後径	5-6	11.04			
8 総骨弓最大幅	zy-zy	105	6 体中央横幅	12-13	13.47			
9 脳窓蓋長I	i-n	102.61+	8 下端最大幅	15-16	21.55			
12 頭骨骨長	b-n	—	8 下端最大前後径	17-18	12.68			
17 頭長II	pr-n	86.34	頭蓋骨L 32					
24 頭蓋幅I	en-en	45.44	1 頭骨長	1-2	122.88			
25 頭蓋幅II	en-en	44	5 頭骨最大幅	7-8	18.58			
26 是小頭頸幅	fa-fa	33.83	6 頭骨裏蓋大厚	43-41	12.07			
27 頭蓋骨頭骨突起端距離	ect-ect	42.65	7 頭骨最小幅	13-14	18.52			
28 最小顎高幅	est-est	38.08	9 頭骨臼蓋前後径	3-17	19.51			
30 牙槽I	7-7	39.71	犬歯骨R 70					
37 バジオン・ブレグマ高	br-br	—	1 全長I	1-2	158.47			
39 頭蓋高I	br-bo	—	2 全長II	34-33	158.95			
40 牙長I	pr-oo	29.31	3 上端最大横径	3-4	35.68			
41 牙長III	pr-oo	58.48	6 体中央横径	15-16	13.61			
43 硬口蓋最大幅	pr-st	86.87	8 下端最大幅	17-18	28.32			
54 上顎歯槽最大幅	67-67	62.76	頭骨L 71					
55 後頸三角高II	ct-ct	46.66	1 全長	1-2	178.15			
60 後頸三角高II	1-o	—	2 上端最大前後径	6-7	29.53			
63 後頸三角高I	i-b	—	3 上端最大横径	8-9	28.66+			
64 牙槽I	n-	—	5 体中央横径	13-14	12.08			
75 上臼歯開口長	78-93	—	6 下端最大幅	15-16	—			
F頭骨L 2								
1 下顎骨全長I	gov-id	132.41++	7 下端最大前後径	17-18	—			
2 下顎骨全長II	cm-id	132.34+	第2中手骨R 40					
9 下顎枝高I	gov-cr	56.09	1 全長	1-2	47.63			
11 下顎枝幅	3-32	35.46	2 上端横径	4-5	5.56			
19 下顎体高III	10	29.19	3 上端前後徑	6-7	9.58			
22 下顎体高VI	13	22.68	4 中部横径	8-9	6.09			
25 下顎体厚I	37-38	13.47	6 遊位部最大横径	3-3	10.22			
26 吻筋距離	n-	9.25	7 下端横径	12-13	7.77			
27 下臼歯開口長	39-51	68.45	8 下端前後徑	14-15	6.53			
斜牙骨R 12								
1 全長	1-2	49.04	1 全長	1-2	54.95			
7 開閉歯長	12-1	22.56	2 上端横径	4-5	7.01			
8 開閉幅度	14-15	16.64	3 上端前後徑	6-7	10.41			
上胸骨L 28								
1 全長I	1-2	144.44	4 中部横径	8-9	5.75			
2 全長II	33-2	140.37	6 遊位部最大横径	3-3	8.18			
3 上端最大前後徑	3-4	34.33	7 下端横径	12-13	7.29			
4 上端最大幅	5-6	24.69	8 下端前後徑	14-15	7.87			
6 体中央横径	14-15	12.92	第4中手骨R 42					
8 下端最大幅	17-18	29.88	1 全長	1-2	42.51			
尺骨R 31								
1 全長	1-2	166.52	2 上端横径	4-5	6.01			
2 体前後徑	3-4	21.51	3 上端前後徑	6-7	9.88			
7 領部厚	13-14	11.32	4 中部横径	8-9	5.79			
数値の+は級幅小 数値の-は級幅大 数値の土は級幅小で、復原値 斜体は病変部での計測値								

(近心舌側、近・遠心頬側咬頭)、第2後臼歯（歯頸部付近まで）の摩耗は著しい。右の下顎骨に比べて歯牙（特に第1～2後臼歯）の摩耗は進行している。第1後臼歯は後方が内側に捻転し、近遠心径20.32mm、前位の頬舌径7.26mmを有する。

筋突起の後面は内湾して、後方に立ち上がる。咬筋窩はよく発達し、筋突起の筋稜、関節稜は明瞭である。下顎底は滑らかな曲線を描き、歯槽面は第3後臼歯から犬歯にかけて弓なりに立ち上がる。

右の下顎骨は下顎枝、切歯歯槽部前端が破損する。第2・3切歯、犬歯、第1・2～4前臼歯、第1後臼歯は釘植。第3前臼歯は歯根以外は破損（歯根は骨体に残存）。第1切歯、第2・3後臼歯は脱落し、歯槽は閉鎖。X線撮影を実施していないので、第2・3後臼歯が生前に脱落したかは断定できない。第4前臼歯後位、第1後臼歯周辺の歯槽骨は退縮（クレーテー型の骨吸収）し、歯根が露出する。第3切歯、犬歯、第2前臼歯（近心頬側咬頭）、第4前臼歯（近心頬側咬頭）、第1後臼歯（パラコニッド、近心頬側咬頭）の摩耗は象牙質に及ぶ。特に、犬歯の摩耗は著しい。第4前臼歯は外側に捻転するなど歯列の乱れが認められた。第2前臼歯は近遠心径8.24mm、頬舌径4.06mmを有する。

年齢については、X線撮影を実施していないものの、歯牙の咬耗程度から老犬と考えられる。大きさは中級の大で、下顎骨最大長から推定体高は46.27cmを有する。下顎骨は、同じ「中級」の大きさの亀井1号犬はもとより慶州1号犬「大級」（宮崎2011）よりも下顎体高及び体厚は大きいのが特徴である。

<脊柱>（図版3～5、付表4～31）

頸椎（図版3）、胸椎（図版4）、腰椎・仙骨（図版5）はすべて揃う。ただし、第9胸椎は年代測定試料としてコラーゲン抽出を行ったため、粉碎され、現存しない（放射性炭素年代測定の結果、1302～1412年）。尾椎については1点を確認している。

頸椎は、第5頸椎の椎体の後縁が病的変異により、2～3mmほど下方および左右に膨隆し、第6頸椎の椎体前端をわずかに覆う。第6頸椎の椎体の前・後縁は病的変異により、1～3mmほど下方および左右に膨隆し、隣接する頸椎の椎体前・後端をわずかに覆う。第7頸椎の椎体の前縁は病的変異により、1～3mmほど下方および左右に膨隆する。

胸椎は、第1胸椎の椎体腹面前縁、第2胸椎の椎体腹面後縁、第3～8・10～13胸椎の椎体の腹面前縁～後縁は病的変異により、2～6mmほど下方および前後に膨隆し、隣接する胸椎の椎体前・後端をわずかに覆う。第2胸椎の後関節面、第3～8・10胸椎の前・後関節面は前方及び内外に肥大化し、第12・13胸椎の前関節面は前後上下に肥大化する。前後の胸椎（第2～13胸椎）が密着することで、肋骨頭が挟まれ、その影響で第2～8胸椎の前・後肋骨窩がわずかに窪む。なかでも第5胸椎の椎窓、第6・10胸椎の椎頭は圧迫によって摩耗し、海綿質が一部露出する。

腰椎は、頸椎、胸椎と同様に、棘突起、横突起はいずれも二次的に破損している。いずれの乳頭関節突起上端も内側に反る。そのため前位の腰椎の後関節突起幅は圧迫によって狭くなってしまっており、上下左右の動きはかなり限定されていたと考えられる。第1～5腰椎の椎体の腹面前縁から後縁、第6腰椎の椎体の腹面前縁は病的変異により、3～5mmほど膨隆する。

<肋骨・胸骨>

肋骨は細片化が著しいので、ほとんど復元することができなかった。左は9点、右は4点を確認して

いるが、右第4・5肋骨以外は部位の同定は不可能であった。胸骨片は未確認である。採集漏れの可能性もあるが、元々遺存することがまれであるため、物理的に消滅した可能性も考えられた。

＜前肢＞（図版6a、付表33～36）

肩甲骨、上腕骨、桡骨、尺骨は左右とも揃っている。左肩甲骨は近位端が破損し、関節窓内縁は病的変異により、骨増殖によって、内側面に膨隆する。右肩甲骨は遠位部の関節上結節周辺のみ遺存している。左上腕骨は小結節が破損し、上腕骨頭と上腕骨頭の境の外面は病的変異により、骨増殖によって、膨隆。右上腕骨は三角粗面の一部が破損する。右桡骨は遠位端の前位が一部破損する。左尺骨は遠位部が破損している。

大きさは「中級の大」で、体高は、上腕骨（144.44mm）及び桡骨（142.49mm）、尺骨最大長（166.52mm）から約45cmと推定される。

＜前肢肢端＞（図版7a、付表37～44）

左の前肢肢端は副手根骨、右の前肢肢端は桡側手根骨、尺側手根骨、副手根骨、第3手根骨、第1～4中手骨、第2・3基節骨を確認している。右尺側手根骨は内側の一部、右第4中手骨は遠位端の一部が破損する。右第2・3中手骨骨幹部下端の内外縁、右第2基節骨近位端の内外縁はいずれも病的変異により、骨増殖がみられ、膨隆する。

＜後肢＞（図版6b、付表45～49）

寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨は左右とも揃っているが、膝蓋骨は左のみ遺存。左寛骨は腸骨背面の一部、腸骨稜、恥骨櫛・結節、座骨の後縁が破損する。右寛骨は腸骨腹面の一一部、腸骨稜、恥骨櫛・結節、小座骨切痕、座骨の後縁が破損する。左大腿骨の膝蓋面は内外縁上位、小転子、大転子の外面が破損し、右大腿骨は膝蓋面内・外縁上位が破損している。脛骨の遠位部は二次的に破損している。腓骨はいずれも骨幹部のみ遺存している。大腿骨、脛骨の大きさは「中級の大」で、大腿骨最大長（158.47mm）から推定体高は、約46cmとなる。

＜後肢肢端＞

いずれも未確認である。おそらく、採集もれと考えられる。

第4節 小結

・SK7032から出土した埋葬犬は、老犬で、性別は雄である。時期は放射性炭素年代測定の結果、室町時代（1302～1412年）と考えられる。

・大きさは長谷部言人氏の区分（表2）の「中級」の大で、推定体高は頭蓋骨最大長から48.45cm、下頸骨最大長から46.27cm、前肢骨（上腕骨・桡骨・尺骨）最大長から約45cm、大腿骨最大長から約46cmをはかる。頭蓋骨、下頸骨の最大長から推定した体高に対して、四肢骨長から推定した体高はやや小さい値を示す。

・時代は異なるが、同程度の大きさの亀井1号犬と対比すると頭蓋骨、下頸骨の最大長は四肢骨長をやや上回り、頭の大きいタイプといえる（図3）。また、亀井1号犬と比べて全体的に胸椎の前関節突起間全幅及び後関節突起間全幅・椎弓根長・椎体横径・前端最大幅は大きく、椎窓の横径、高径、前端最大幅は小さな値を示す。さらに腰椎は第1腰椎以外は後関節突起間全幅については大きい。

- ・脊柱（頸椎、胸椎、腰椎）、肋骨の一部、左肩甲骨、左上腕骨、右第2・3中手骨、右第2基節骨に病的変異による骨増殖が認められた。
- ・下頸骨は、同じ「中級」の大きさの亀井1号犬はもとより慶州1号犬「大級」（宮崎2011）よりも下頸体高及び体厚は大きいのが特徴である。
- ・各示数のうち、頭蓋示数、頭骨基底示数、吻長示数は亀井犬と同程度の示数を示すものの、横頭顎示数Ⅱ、眼窓後示数、顎面示数、口蓋示数に変異幅が認められ、顎幅がやや広く、顎付きの短いタイプといえる（図4・5）。
- ・骨表面は斑紋状に黒色物質が薄く付着（炭化？）している。火を受けたのであろうか。

参考・引用文献

- ・加藤嘉太郎・山内昭二 2003「新編家畜比較解剖図説」株式会社養賢堂
- ・斎藤弘吉 1963『犬科動物骨格計測法』私家版
- ・茂原信生 1986『東京大学総合研究資料館所蔵長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ』東京大学総合研究資料館標本資料報告第13号
- ・東亜大学校博物館 2008「勒島遺跡C地区 埋葬犬骨と包含層出土の犬骨」『酒川 勒島CII』古蹟調査報告書第三十九冊
- ・長谷部言人 1945「石器時代日本犬」（解説・茂原信生 2009「動物考古学」第26号 動物考古学研究会
- ・長谷部言人 1952「犬骨」「吉胡貝塚」文化財保護委員会
- ・宮崎泰史 1994「亀井遺跡出土のイヌについて（II）」『亀井遺跡II』財団法人大阪文化財センター
- ・宮崎泰史 2008「勒島遺跡C地区埋葬犬と包含層出土の犬骨」『酒川 勒島CII』古蹟調査報告書第三十九冊
- ・宮崎泰史 2011「国立慶州博物館内連絡通路内井戸出土犬骨」「国立慶州博物館内井戸動物遺体」国立慶州博物館学術調査報告第25冊
- ・Miller, M. E.（訳者代表 和栗秀一） 1970『犬の解剖学』学窓社
- ・山内忠平 1958「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』第7号 鹿児島大学

表2 イヌの頭骨、下頸骨、および四肢骨の級別（mm）（長谷部1945）に一部加筆

項目＼形種	小	中小	中	中大	大	本書の項目・計測点
最大頭骨長	~155	156~170	171~185	186~200	201~	最大頭骨長 I-pr
底方頭骨長	~140	141~153	154~166	167~179	180~	底方頭骨長I I-pr
脳頭骨長	~83	84~93	94~103	104~113	114~	脳頭骨長I I-n
脳頭骨底長	~83	84~92	93~100	101~108	109~	
最大顎骨幅	~54	55~59	60~64	65~69	70~	顎幅II II-n
脳頭骨高	~48	47~50	51~54	55~58	59~	顎高II II-ho
後頭幅	~57	58~62	63~67	68~72	73~	後頭三角幅 II-dx
顎長	~76	77~84	85~92	93~100	101~	顎長II II-n
上顎幅	~52	53~57	58~62	63~67	68~	上顎骨槽縫最大幅 II-dx
吻長(底座)	~64	65~72	73~80	81~83	89~	吻長II II-n
前吻長	~47	48~53	54~59	60~65	66~	
吻幅	~32	33~36	37~40	41~44	45~	吻幅II II-n
吻高	~26	27~30	31~34	35~38	39~	吻高II II-ho
鼻骨長	~43	49~59	56~62	63~69	70~	鼻骨長II II-n
鼻孔幅	~18	19~21	22~24	25~27	28~	
鼻骨槽高	~28	27~30	31~34	35~38	39~	
外口盡長	~77	78~84	85~91	92~98	99~	
口蓋長	~72	73~79	80~86	87~93	94~	
上臼齒列長	~52	53~57	58~62	63~67	68~	
下顎骨長(小頭)	~113	114~124	125~135	136~146	147~	
枝高	~47	48~52	53~56	57~60	61~	下顎枝高II pr-st
枝幅	~27	28~31	32~35	36~39	40~	下顎枝幅II 63~64
体高M2後	~21	22~24	25~27	28~30	31~	上臼齒列長II 78~93
同M1位	~20	21~23	24~26	27~29	30~	下顎骨全長II cm-id
同M1前	~19	20~22	23~25	26~28	29~	下顎枝高II gov-cr
下臼齒列長	~60	61~65	66~70	71~75	76~	下顎枝幅II 3~32
上膊骨最大長	~120	121~135	136~150	151~165	166~	下顎体高II 9
橈骨最大長	~115	116~130	131~145	146~160	161~	下顎体高III 10
尺骨最大長	~140	141~155	156~170	171~185	186~	下顎体高IV 11
股骨最大長	~135	136~150	151~165	166~180	181~	下臼齒列長II 39~51
胫骨最大長	~130	131~145	146~160	161~175	176~	上胸骨全長I 1~2
						橈骨全長I 1~2
						尺骨全長I 1~2
						大腿骨全長II 34~33
						胫骨全長I 1~2

長谷部彦人 1945「石器時代日本犬」(解説:茂原信生2009)『動物考古学』第36号 動物考古学研究会)

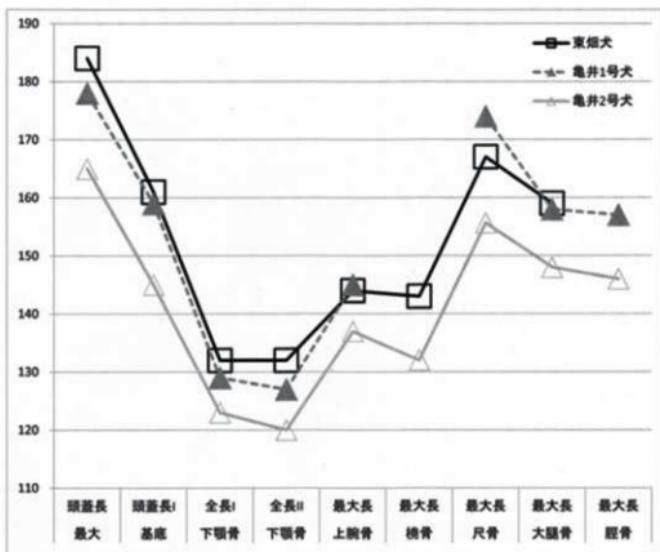


図3 東畑犬、亀井犬の主要な骨の最大長の比較（単位はmm）

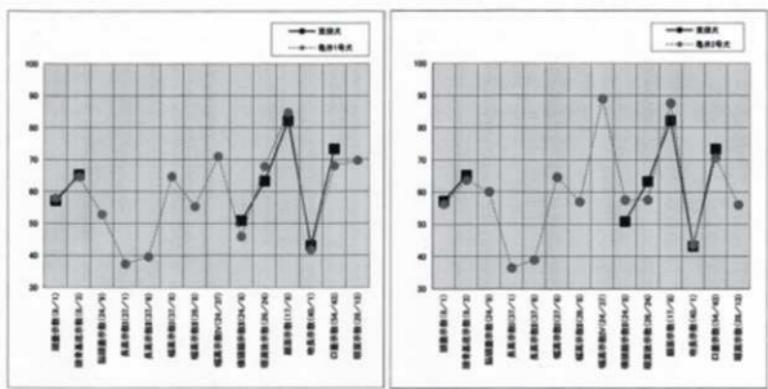
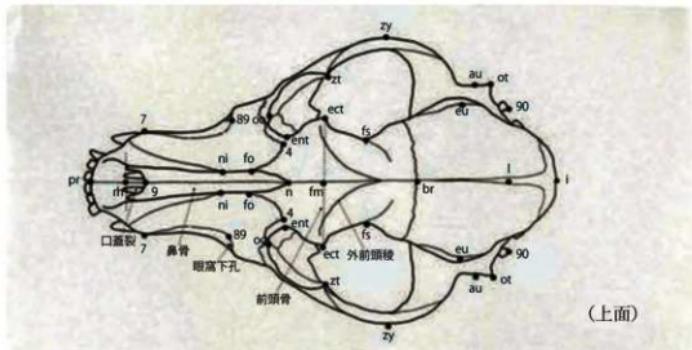


図4 東畑犬と亀井1号犬(♂)の頭蓋骨の示数比較

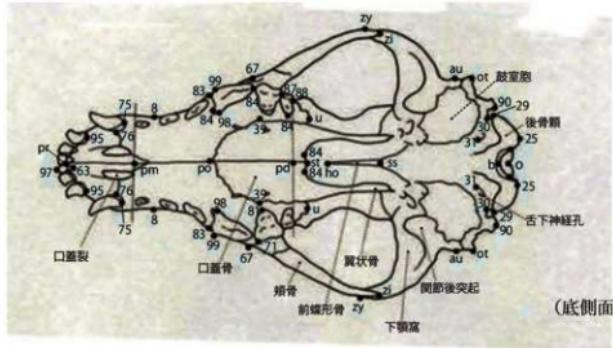
図5 東畑犬と亀井2号犬(♂)の頭蓋骨の示数比較



(上面)



(左侧面)



(底側面)

図6 イヌの頭蓋骨計測点

(上面)

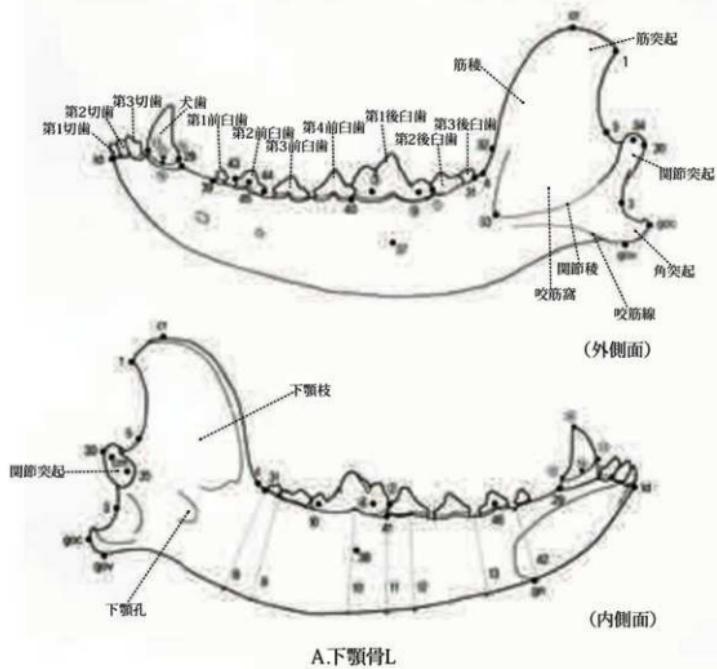
- pr. 左右の第1切歯槽最前端を結ぶ線と正中線の交叉点 (Prosthion) プロスチオン
l. 外頭後隆起の後端 (Inion) イニオン
l. 人字縫合 (三角縫合) と矢状縫合が交わる点 (Lambda) ラムダ
br. 帽状縫合と矢状縫合が交わる点 (Bregma) ブレグマ
ot. 乳様突起の最下端 (Otion) オティオン
au. 外耳孔上線の中央点 (Auriculare) アウリクルーレ
eu. 頭頂側頭 (鱗状) 縫合上の最外側端 (Euryon) エウリオն
fs. 前頭骨の頸骨 (顎骨) 突起の後方の最狭点 (Frontostenion)
zy. 頸骨 (顎骨) 突起の最外側端 (Zygion) ジギオն
ect. 前頭骨の頸骨 (顎骨) 突起の最外尖端 (Ectorbital) エクトオルビターレ
ent. 明窓線の上線の最内側点 (Entorbital) エントオルビターレ
oo. 眼窓線の前線 (Orbitale) オービターレ
fm. 左右の前頭骨骨突起の最外端を結ぶ線と前頭間縫合との交叉点 (Frontomediale)
fo. 前頭鼻骨縫合の前端 (Frontorale)
n. 前頭鼻骨縫合と正中線との交叉点 (Nasion)
ni. 切歯 (顎間) 骨の鼻骨突起の後尖端 (Nasointermaxillare)
rh. 左右の鼻骨の鼻骨突起を結ぶ線と正中線と交叉する点 (Rhinion) リニオン
zt. 頸骨 (顎骨) の前頭突起の先端 (Zygomaticotemporale superior)
4. 前頭上頭縫合の最後方縫
7. 大齒の齒槽外縫
9. 鼻骨間縫合側における前縫端
89 眼窓下孔の上縫
90 頸静脉突起の最後方点

(左側面)

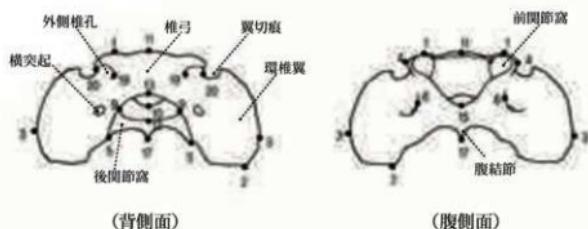
- mo. 上頭切歯 (顎間) 縫合の最前端 (Maxillorale)
if. 眼窓下孔外側後縫中央点 (Infraorbitale)
zmi. 頸 (頸) 骨上頭縫合の最下点 (Zygomaticallare inferior)
as. 人字縫 (後頭三角縫) と頭頂側頭縫合との交叉点 (Asterion) アステリオն
22 上頭骨の頸骨突起端
25 後頭頸の最後方縫
69 第2後臼歯の前突起齒槽外縫
78 第1前臼歯の齒槽前縫
83 第1前臼歯の外側齒槽前縫
91 頸骨の眼窓縫最凹部
92 頸骨の眼窓縫最凹部に対応し、眼窓縫～咬筋縫までの最短距離を計測する咬筋縫の計測点
93 第2後臼歯の頸側透心根の齒槽後縫
94 第4前臼歯の齒槽後縫および第1後臼歯の齒槽前縫
96 第3前臼歯の齒冠前縫
100 第1後臼歯の齒槽外縫

(底面)

- pm. 左右の第1前臼歯齒槽前縫を結ぶ線と正中線との交叉点 (Pramolare)
po. 口蓋上頭縫合前縫と正中口蓋縫合との交叉点 (Palatinoorale)
pd. 左右の第2後臼歯の齒槽後縫を結ぶ線と正中線との交叉点 (Postdentale)
st. 口蓋骨の鼻棘の後尖端 (Staphylinum) スタフィリオն
ho. 前蝶形骨体部の最前端 (Hormion)
ss. 蝶間軟骨結合と正中線との交叉点 (synsphenion)
zl. 頸 (頸) 弓底面の頭頂側頭骨縫合の最後点 (Zygomaticoparietalis inferior)
b. 後頭骨大孔の鶴嘴間前中央部 (大後頭孔の下縫の正中点) (Basion) バジオն
o. 後頭骨大孔上縫の中央部 (Opisthion) オピスティオն
u. 上頭骨の翼状突起後尖端 (Urnion)
8. 上頭骨の齒槽外縫最狭部
29 後頭頸の最外縫
30 後頭頸の頭部最狭部 (腹顆窓の外縫最狭部)
31 舌下神経孔の内縫
39 口蓋骨の最外縫
59 後頭骨大孔の外縫
63 第1切歯の齒槽後縫
64 口蓋骨の骨口蓋後縫
67 第4前臼歯と第1後臼歯間の齒槽骨外側面
71 第1後臼歯の前突起外縫
75 大齒の齒槽後縫
76 大齒の齒槽内縫の縫合部
80 第4前臼歯の齒冠後縫及び第1後臼歯の齒冠外側前縫
81 第1後臼歯の齒冠内側縫
82 第2後臼歯の齒冠内側縫
84 第4前臼歯の内側齒冠前縫
87 第1後臼歯の齒冠外側後縫及び第2後臼歯の齒冠外側前縫
88 第2後臼歯の齒冠外側後縫
95 第3切歯の齒槽後縫
97 第1切歯の齒冠前縫
98 第4前臼歯の齒冠内側縫
99 第4前臼歯の齒冠外側縫



A.下顎骨L



B.環椎（第1頸椎）

図7 イヌの下顎骨、環椎 計測点

A. 下頸骨L

(外側面)

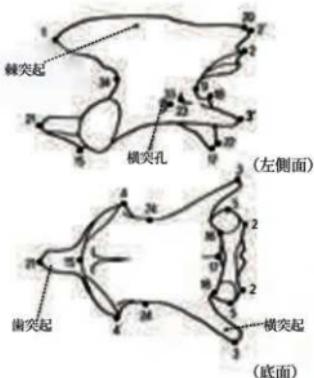
- goc. 角突起の最後方尖端 (Gonion caudale) ゴニオンカウダーレ
gov. 角突起の下縁最下端 (Gonion ventrale) ゴニオンベントラーレ
cr. 筋突起の最高点 (Corouion) コロニオン
id. 左右の第1切歯の歯槽最前端を結ぶ線と正中線の交叉点 (Infradentale) インフラデンターレ
1 筋突起の後端
3 関節突起より角突起に至る線の最凹点
4 下頸枝の前縁下部
5 下頸切痕下方の内縁
29 犬歯の歯槽後縁
30 関節突起最高点
31 第3後臼歯の歯槽後縁
32 下頸枝の前縁
33 吻筋窓前縁
34 関節突起外端
37 第1後臼歯中央下方における下頸体の外端
39 第1前臼歯の歯槽前縁
40 第4前臼歯の歯槽後縁
43 第2前臼歯の歯冠前縁
44 第2後臼歯の歯冠後縁
45 第2臼歯の歯冠外縁
① 第1後臼歯の歯冠後縁
③ 第1後臼歯の前根部に属する歯冠外縁
⑨ 第1後臼歯の後歯根部に属する歯冠外縁
⑪ 犬歯の歯冠前縁
⑫ 犬歯の歯冠後縁
⑬ 犬歯の歯冠外縁
⑮ 犬歯の歯頭部外縁中央点

(内側面)

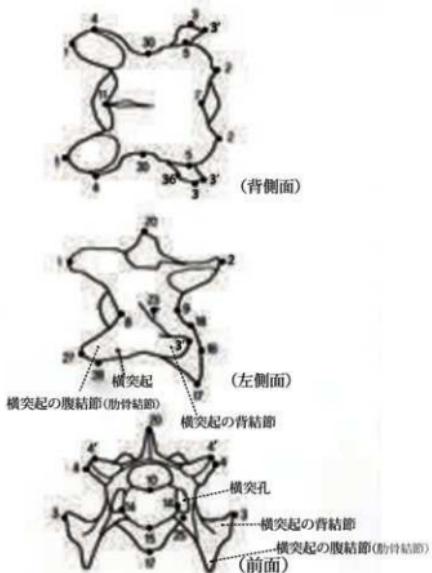
- cm. 関節突起の後面中央点 (Condylion mediale) コンディリオンメディアーレ
gn. 下頸体下縁の下面前端 (すなわち下頸連合面) の後方下点 (Gnathion) グナティオン
8 第3後臼歯の歯槽後縁での下頸体の高さ
9 第2後臼歯の歯槽後縁での下頸体の高さ
10 第1後臼歯の中央歯槽の上縁での下頸体の高さ
11 第1後臼歯・第4前臼歯間の中央歯槽上縁での下頸体の高さ
12 第4前臼歯の中央歯槽上縁での下頸体の高さ
13 第2後臼歯・第3前臼歯間の中央歯槽上縁での下頸体の高さ
35 関節突起内端
38 第1後臼歯中央下方における下頸体の内端
41 第1後臼歯の歯槽前縁
42 第1前臼歯・第2前臼歯間の中央歯槽上縁での下頸体の高さ
46 第2後臼歯の歯冠内縁
② 第1後臼歯の歯冠前縁
④ 第1後臼歯の前根部に属する歯冠内縁
⑩ 第1後臼歯の後歯根部に属する歯冠内縁
⑪ 犬歯の歯冠前縁
⑫ 犬歯の歯冠後縁
⑬ 犬歯の歯冠内縁
⑮ 犬歯の歯冠上縁

B. 環椎 (第1頸椎)

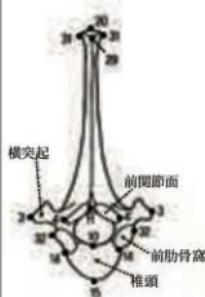
- | | |
|-------------|------------|
| 1 前関節窓上縁最前端 | 11 背弓の前縁中央 |
| 2 環椎翼の後縁端 | 12 後椎孔の下縁 |
| 3 環椎翼の外縁 | 13 背弓の後縁中央 |
| 4 前関節窓の外端 | 15 腹弓の前縁中央 |
| 5 後関節窓の外端 | 17 腹結節の後端 |
| 6 椎体の最狭部 | 19 外側椎孔の内縁 |
| 9 後椎孔の外縁 | 20 翼切痕の内縁 |
| 10 前椎孔の下縁 | |



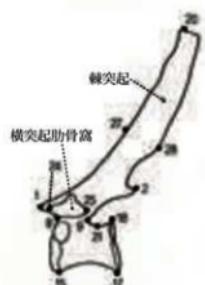
A. 軸椎(第2頸椎)



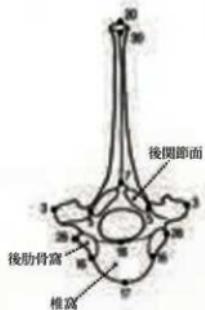
B. 第5頸椎



(前面)



(左側面)



(背面)

C. 胸椎

図8 イヌの軸椎、第5頸椎、胸椎 計測点

A. 軸椎(第2頸椎)

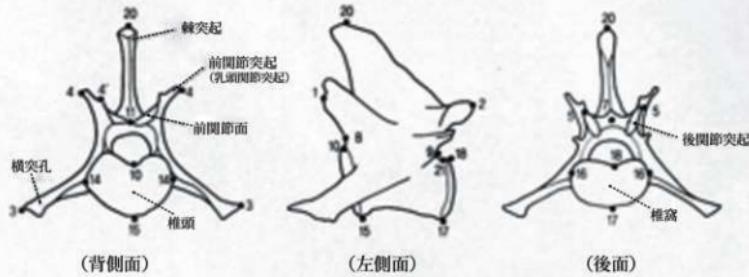
- 1 犁突起の前端
- 2 後関節突起の後端
- 2' 犀突起の後端
- 3 横突起の外端
- 3' 横突起の後端
- 4 前関節突起の外端
- 5 後関節突起の外端
- 8 前椎孔の前端の外縁
- 9 後椎孔の後端の外縁
- 15 椎頭の下縁
- 16 椎窓の外縁
- 17 椎窓の下縁
- 18 椎窓の上縁
- 20 犀突起の後方最上端
- 21 衛突起の最前端
- 22 椎窓の後端
- 23 横突孔の後方の外縁最凹点
- 24 横突起の基部
- 33 横突孔の前方の外縁最凹点
- 34 前椎孔の前端の最凹点

C. 胸椎

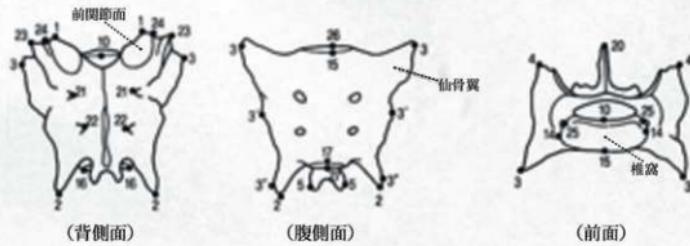
- 1 前関節突起の前端
- 2 後関節突起の後端
- 3 横突起の外端
- 4 前関節突起の外端
- 4' 前関節面外端
- 5 後関節突起外端
- 7 椎弓最後方点中央
- 8 前椎孔の前端の外縁
- 9 後椎孔の後端の外縁
- 10 椎頭の上縁
- 11 椎弓最前方点中央
- 14 椎頭の外縁
- 15 椎頭の下縁
- 16 椎窓の外縁
- 17 椎窓の下縁
- 18 椎窓の上縁
- 20 犀突起の最高端
- 21 椎体の後位の最狭点
- 22 横突起の前縁の最凹部点
- 23 横突起の後縁の最凹部点
- 24 横突起の前端
- 25 横突起の後
- 26 椎体後端の外縁
- 27 犀突起の最大前後径を計測する位置での犀突起前縁
- 28 犀突起の最大前後径を計測する位置での犀突起後縁
- 29 犀突起上端の前縁
- 30 犀突起上端の後縁
- 31 犀突起の前端の外縁
- 32 椎体前端の外縁

B. 第5頸椎(第3~7頸椎にも適用)

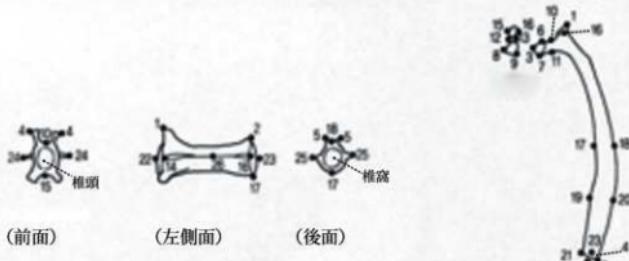
- 1 前関節突起の前端
- 2 後関節突起の後端
- 3 横突起(背結節)後位の外端
- 3' 横突起(背結節)後位の後端
- 4 前関節突起外端
- 4' 前関節面の外端
- 5 後関節突起外端
- 7 椎弓板の後縁の中央点
- 8 横突孔の前方の外縁最凹点
- 9 後椎孔後方の外縁最凹点
- 10 椎頭の上縁
- 11 椎弓板の最前端
- 14 椎頭の外縁
- 15 椎頭の下縁
- 16 椎窓の外縁
- 17 椎窓の下縁
- 18 椎窓の上縁
- 20 犀突起の最高端
- 23 横突孔の後方の外縁最凹点
- 25 横突起の前縁の最凹部点
- 26 横突起の後縁の最凹部点
- 27 横突起腹結節前位の前端
- 28 横突起腹結節前位の外端
- 29 横突起腹結節後位の外端
- 30 椎弓板の上面中央の最狭点
- 31 椎体の後位の最狭点
- 35 横突起(腹結節)後位の後端
- 36 横突起(背結節)の前端



A. 腰椎(第1～5尾椎にも適用)



B. 仙骨



C. 尾椎(第6尾椎以降)

D. 肋骨

図9 イヌの腰椎、仙骨、尾椎、肋骨計測点

A. 腰椎（第1～5尾椎にも適用） C. 尾椎（第6尾椎以降）

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 前関節突起の前端 | 1 前関節突起の前端 |
| 2 後関節突起の後端 | 2 後関節突起の後端 |
| 3 横突起の外端 | 3 横突起の外端 |
| 4 前関節突起の外端 | 4 前関節突起の外端 |
| 4' 前関節面の外端 | 5 後関節突起の外端 |
| 5 後関節突起外端 | 10 椎頭の上縁 |
| 7 椎弓最後方点中央 | 14 椎頭の外縁 |
| 8 前椎孔の前端の外縁 | 15 椎頭の下縁 |
| 9 後椎孔の後端の外縁 | 16 椎窓の外縁 |
| 10 椎頭の上縁 | 17 椎窓の下縁 |
| 11 椎弓最前方点中央 | 18 椎窓の上縁 |
| 14 椎頭の外縁 | 22 椎頭の前端 |
| 15 椎頭の下縁 | 23 椎窓の後端 |
| 16 椎窓の外縁 | 24 前横突起の外端 |
| 17 椎窓の下縁 | 25 後横突起の外端 |
| 18 椎窓の上縁 | 26 椎体の中央外端の最狭点 |
| 20 犬突起の最高端 | |
| 21 椎体の後位の最狭点 | |

B. 仙骨

- | |
|----------------|
| 1 横突起の前端 |
| 2 横突起の後端 |
| 3 仙骨翼の前位の外端 |
| 3' 仙骨翼の中位の外端 |
| 3'' 仙骨翼の後位の外端 |
| 4 前関節突起外端 |
| 5 後関節突起外端 |
| 10 椎頭の上縁 |
| 14 椎頭の外縁 |
| 15 椎頭の下縁 |
| 16 椎窓の外縁 |
| 17 椎窓の下縁 |
| 18 椎窓の上縁 |
| 20 犬突起最高端 |
| 21 前位の背側仙骨孔の内縁 |
| 22 後位の背側仙骨孔の内縁 |
| 23 前関節突起基部外端 |
| 24 前関節面外端 |
| 25 椎頭外端の小孔内縁 |
| 26 椎頭の前縁 |
| 27 椎窓の後縁 |
| 24 中央部の前縁 |
| 25 中央部の後縁 |

D. 肋骨

- | |
|--------------------|
| 1 肋骨結節の上端 |
| 2 肋軟骨との関節面の外方最下端 |
| 3 肋骨頭関節面中央 |
| 4 肋骨側関節面中央 |
| 6 肋骨頭関節面の上縁 |
| 7 肋骨側関節面の下縁 |
| 8 肋骨頭関節面の前縁 |
| 9 肋骨頭関節面の後縁 |
| 10 肋骨頭の上縁 |
| 11 肋骨頭の下縁 |
| 12 肋骨頭の前縁 |
| 13 肋骨頭の後縁 |
| 15 助結節関節面の前縁 |
| 16 助結節関節面の後縁 |
| 17 中央部の内縁 |
| 18 中央部の外縁 |
| 19 最大幅径を計測する部位での内縁 |
| 20 最大幅径を計測する部位での外縁 |
| 21 肋軟骨との関節面の内方最下端 |
| 22 下端の後端 |
| 23 下端の前端 |

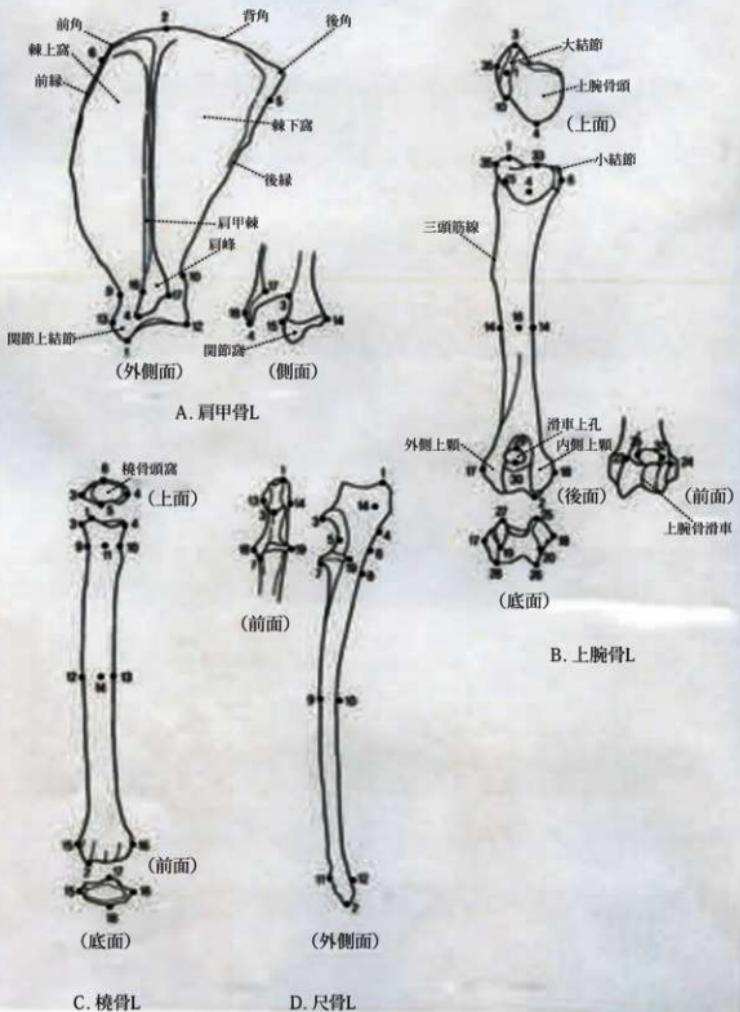


図10 イヌの肩甲骨、上腕骨、桡骨、尺骨 計測点

A. 肩甲骨

- 1 関節上結節最下端および関節窓の前縁
- 2 肩甲棘の基部頂点
- 3 肩峰基部下縁端
- 4 肩峰面最下端
- 5 後角の後縁
- 6 前角の前縁
- 9 肩甲切痕の前縁
- 10 肩甲切痕の後縁
- 12 関節窓の後縁端
- 13 烏口突起の基部外縁端
- 14 関節窓の内縁
- 15 関節窓の外縁
- 16 肩峯面前縁
- 17 肩峯面後縁
- 18 肩峯面最高点

B. 上腕骨

- 1 大結節の最上端
- 2 内側上顎の最下端
- 3 大結節の最前端
- 4 上腕骨頭の後端
- 5 上腕骨頭の外縁端
- 6 小結節の内縁端
- 10 大結節の後縁端
- 14 体中央部の内外端
- 15 体中央部の前端
- 16 体中央部の後端
- 17 外側上顎の最外端
- 18 内側上顎の最内端
- 19 上腕骨滑車の下端面の外側縁の急に内側に狭くなるとする頂点
- 20 上腕骨滑車の下端面の内側縁
- 23 上腕骨滑車の前面の上縁内側縁
- 24 上腕骨滑車の前面の上縁外側縁
- 25 上腕骨滑車の内側縁前端
- 26 内側上顎の後縁
- 27 上腕骨滑車の外縁前端
- 28 外側上顎の後縁
- 33 上腕骨頭の最上端
- 35 大結節の最外点

C. 桡骨

- 1 頭窓の前縁最高端
- 2 茎状突起最下端
- 3 桡骨頭の内縁
- 4 桡骨頭の外縁
- 5 桡骨頭の前縁
- 6 桡骨頭の後縁
- 9 桡骨頭の内縁
- 10 桡骨頭の外縁
- 11 桡骨頭の前縁
- 12 体中央部の内縁
- 13 体中央部の外縁
- 14 体中央部の前縁
- 15 遠位端の内端
- 16 遠位端の外端
- 17 遠位端の前端
- 18 遠位端の後端

D. 尺骨

- 1 肘頭の頂点
- 2 茎状突起の下端
- 3 肘突起の前端
- 4 体後縁
- 5 滑車切痕の中央縁
- 6 体後縁
- 7 内側鈎状突起端
- 8 体後縫
- 9 体中央部の前縁
- 10 体中央部の後縫
- 11 下端前縫
- 12 下端後縫
- 13 肘頭の内端
- 14 肘頭の外端
- 18 滑車切痕の外縫
- 19 外側鈎突起端

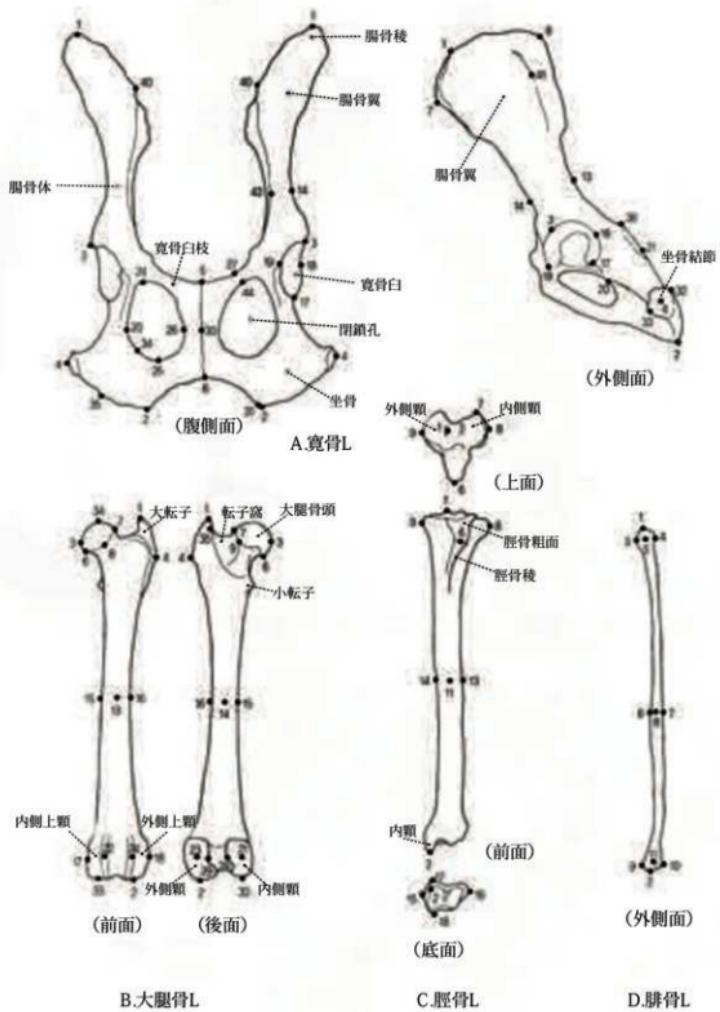


図 11 イヌの寛骨、大腿骨、胫骨、腓骨 計測点

A. 宽骨

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 腓骨稜の前縁 | 24 閉鎖孔の前縁 |
| 2 坐骨の恥骨部の最後方点 | 25 閉鎖孔の後縁 |
| 3 寛骨臼窩の前縁 | 26 閉鎖孔の内縁 |
| 4 坐骨結節の外端 | 27 寛骨臼枝最小幅での恥骨髄前縁 |
| 5 恥骨結節の恥骨結合面前端 | 30 恥骨結合枝最小幅での恥骨結合面 |
| 6 坐骨弓中央の結合面後端 | 31 坐骨結節内角外端 |
| 7 腹側腸骨棘の前端 | 32 坐骨結節の後端 |
| 8 背側腸骨棘の前端 | 33 坐骨結節の前端 |
| 13 腓骨の最小幅での後縁 | 34 坐骨体長での閉鎖孔後縁 |
| 14 腓骨の最小幅での前縁 | 35 坐骨体長での坐骨板の後縁中央点 |
| 17 寛骨臼窩の後縁 | 36 坐骨棘の後方中央点 |
| 18 寛骨臼窩横径での寛骨臼窩上縁 | 40 腹骨翼の最大厚での内端 |
| 19 寛骨臼窩横径での寛骨臼窩下縁 | 41 腹骨翼の最大厚での外端 |
| 20 閉鎖孔外縁 | 43 腹骨体腹側面の最小厚径での内縁 |
| 21 寛骨臼窩後方の小坐骨切痕の中央縁 | 44 寛骨臼枝最小幅での閉鎖孔の前縁 |

B. 大腿骨

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 大転子の頂点 | 18 外側上顎の外端 |
| 2 外側頸の下端 | 21 内側頸後端 |
| 3 大腿骨頭の内側端 | 22 膝蓋面内縁前端 |
| 4 大転子の外端 | 23 外側頸の後端 |
| 6 大腿骨頭下縁 | 24 膝蓋面外縁前端 |
| 7 大腿骨頭上縁および外縁 | 28 内側頸の外縁 |
| 8 大腿骨頭前縁 | 29 外側頸の内縁 |
| 9 大腿骨頭後縁 | 33 内側頸の下端 |
| 13 体中央部の前縁 | 34 大腿骨頭の頂点 |
| 14 体中央部の後縁 | 35 転子窩の上端幅での大転子内縁端 |
| 15 体中央部の内縁 | |
| 16 体中央部の外縁 | |
| 17 内側上顎の内端 | |

C. 股骨

- | |
|---------------|
| 1 内側頸間結節の頂点 |
| 2 内頸の下端 |
| 6 股骨稜の前縁 |
| 7 外側頸の後端 |
| 8 外側頸の外縁端 |
| 9 内側頸の内縁端 |
| 11 体中央部の前縁 |
| 12 体中央部の後縁 |
| 13 体中央部の外縁 |
| 14 体中央部の内縁 |
| 15 内頸の内側突起端 |
| 16 股骨切痕の外側突起端 |
| 17 下端の最前端 |
| 18 下端の最後端 |

D. 肱骨

- | |
|-----------|
| 1 肱骨頭頂点 |
| 2 遠位端の最下点 |
| 3 肱骨頭の前縁 |
| 4 肱骨頭の後縁 |
| 5 肱骨頭の外端 |
| 6 体中央部の前縁 |
| 7 体中央部の後縁 |
| 8 体中央部の外縁 |
| 9 下端の前縁 |
| 10 下端の後縁 |
| 11 下端の外端 |

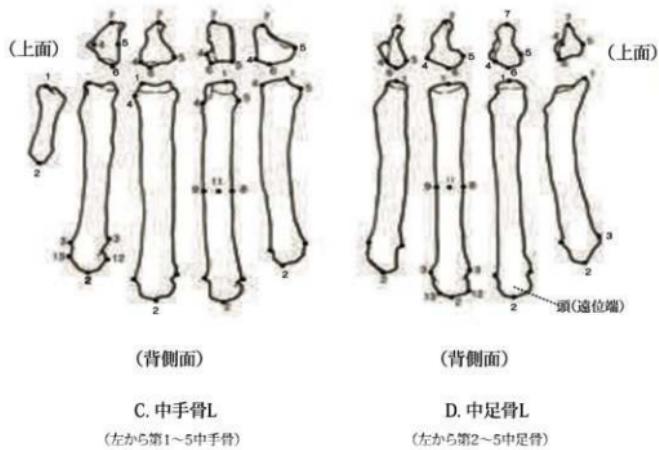
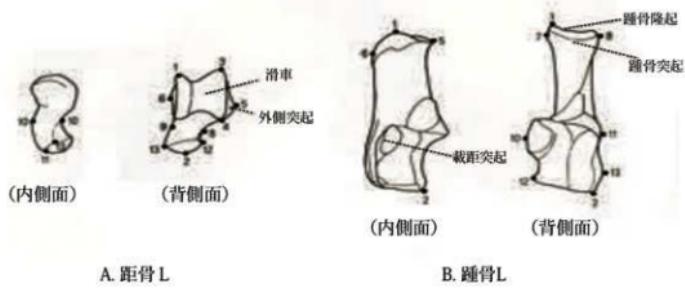


図 12 イヌの距骨、踵骨、中手骨、中足骨 計測点

A. 距骨

- 1 滑車内側縁頂点
- 2 舟状（中心）骨関節面の最下点
- 3 滑車外側縁頂点
- 4 滑車外側縁最下端
- 5 滑車内側面突端
- 6 外側突端
- 8 頭部の外側
- 9 頭部の内側
- 10 頭部の背側面・底側面
- 11 下端の最大長を計測する部位での後縁端
- 12 下端の最大長を計測する部位での前縁端
- 13 下端の最大厚さを計測する部位での内外縁端

B. 跖骨

- 1 跖骨隆起の内側突起頂点
- 2 立方骨関節面の外側最下端
- 5 跖骨突起の前端
- 6 跖骨突起の後端
- 10 裁距突起の内端
- 11 中部最大横径を計測する部位での外端
- 12 下端最大幅を計測する部位での内端
- 13 下端最大幅を計測する部位での外端

C. 中手骨

- 1 上端（底）頂点
- 2 下端（頭）最下点
- 3 骨幹部下端の内・外縁
- 4 上端（底）の内縁<第2中手骨については関節面の内縁>
- 5 上端（底）の外縁
- 6 上端（底）の前縁
- 7 上端（底）の後縁
- 8 体中央部の外縁
- 9 体中央部の内縁
- 10 体中央部の前縁
- 11 体中央部の後縁
- 12 下端（頭）の内縁
- 13 下端（頭）の外縁
- 14 下端（頭）の前縁
- 15 下端（頭）の後縁

D. 中足骨

- 1 上端（底）頂点
- 2 下端（頭）最下点
- 3 骨幹部下端の内・外縁
- 4 上端（底）の内縁<ただし、第2・4・5中足骨については関節面の内縁>
- 5 上端（底）の外縁<ただし、第2・4中足骨については関節面の外縁>
- 6 上端（底）の前縁
- 7 上端（底）の後縁
- 8 体中央部の外縁
- 9 体中央部の内縁
- 10 体中央部の前縁
- 11 体中央部の後縁
- 12 下端（頭）の内縁
- 13 下端（頭）の外縁
- 14 下端（頭）の前縁
- 15 下端（頭）の後縁

表 3 東畠犬の同定結果一覧 (1)

表3 東畠犬の同定結果一覧 (2)

資料番号	頭号上1F No.	部位	左右	詳細	備考	計測値	回数 番号
17	05-01	第2胸椎		椎突起、右の横突起は強調、右の横肋骨頭の一部は強調。	椎突起面は丸丸され、肥大化。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表12 椎突筋 の厚さ 39.9、幅 6.35。	回数4
18	05-02	第3胸椎		椎突起、左の横突起頭・後端、右の横突起は強調。	椎突起面の後端は各筋、椎突筋面の後端下端は筋膜により、骨筋膜によって、椎突筋の筋膜、椎突筋頭部と付着している。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表13	回数4
19	05-03	第4胸椎		椎突起、左の横突起頭・上端、右の横突起、右の各側面筋の後端は強調。	椎突起面の後端下端、椎突筋面の後端周囲、椎突筋の筋膜は均一に肥大化により、骨筋膜によって、椎突筋の筋膜、左の筋、椎突筋頭部は筋膜により肥大化している。椎突筋は筋膜によって被覆し、椎突筋面は筋膜で被覆する。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表14	回数4
20	05-04	第5胸椎		椎突起、左右の横突起、右の後側面筋、右の横肋骨上端は強調。	椎突起面の後端内頭、椎突筋面の後端周囲、椎突筋の筋膜は均一に肥大化により、骨筋膜によって、椎突筋の筋膜、左の筋、椎突筋頭部は筋膜により肥大化している。椎突筋は筋膜によって被覆し、椎突筋面は筋膜で被覆する。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表15	回数4
21	05-05	第6胸椎		椎突起、左右の横突起、右の後側面筋は強調。	椎突起面の後端周囲、椎突筋面の後端周囲、椎突筋の筋膜は均一に肥大化により、骨筋膜によって、椎突筋の筋膜、左の筋、椎突筋頭部は筋膜により肥大化している。椎突筋は筋膜によって被覆し、椎突筋面は筋膜で被覆する。右の筋、椎突筋頭部は筋膜により肥大化。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表16	回数4
22	05-06	第4肋骨	左	近位端にて、肋骨頭、肋骨筋頭は強調。	肋骨頭は10倍の変異により、骨増殖によって、外側部に膨らみ、外側部は筋膜により、骨増殖によって、外側部に膨らむ。左の筋、椎突筋頭部は筋膜により肥大化。椎突筋に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表17 46.79	
23	05-07	第5肋骨	右	近位端にて、肋骨頭は強調。	肋骨頭は10倍の変異により、骨増殖によって、外側部。	付表18 45.12	
24	05-08	第6肋骨					
25	05-01	肋骨	左	遠位端は強調。			
26	05-02	肋骨		中央部。			
27	07-01	肩甲骨	左	遠位端。	四肢遠位端は骨的変異により、骨増殖によって、外側部に膨らみ。外側部は筋膜により、骨増殖によって、外側部に膨らむ。筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表30	回数4
28	07-02	上腕骨	左	小結節は強調。	上腕骨頭と上腕骨筋の頭の外側は10倍の変異により、骨増殖によって、膨脹。筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表31	回数4
29	07-03	上腕骨	右	三頭筋頭は強調。	筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表32	回数4
30	07-04	尺骨	左	遠位端は強調。	筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表33	回数4
31	07-05	尺骨	右		筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表34	回数4
32	07-06	橈骨	左		筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表35	回数4
33	07-07	橈骨	右	遠位端は筋膜は強調。	筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表36	回数4
34	07-08	第1手根骨	左		筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表37	回数4
35	07-09	第2手根骨	右		筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表38	回数4
36	07-10	橈橈手根骨	左		筋膜が筋膜に黑色物質が付着(炭化?)している。	付表39	回数4
37	07-11	尺橈手根骨	右	内側の一部は強調。	筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表40	回数4
38	07-12	第3手根骨	右		筋膜が筋膜に黑色物質が付着(炭化?)している。	付表41	回数4
39	07-13	第1中手骨	左		筋膜が筋膜に黑色物質が薄く付着(炭化?)している。	付表42	回数4

表3 東畠犬の同定結果一覧 (3)

資料番号	取り上げ 年	部位	左右	詳細	備考	判定数	回数 番号
40	97-16	頭2中手背	右		骨肉瘤下端の内外縫は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	付着40	回数74
41	97-16	頭3中手背	右		骨肉瘤下端の内外縫は病的皮膚により、骨壘膜によって、おびただしく腫瘍。表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	付着41	回数74
42	97-16	頭4中手背	右	近位端は一部破缺。	表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	付着42	回数74
43	97-17	頭2基節骨	右		近位端の内外縫は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	付着43	回数74
44	97-18	頭3基節骨	右		表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	付着44	回数74
45	97-19	肋骨	左	近位端で、骨壘膜で、	表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。	表面長 22.98	
46	97-20	骨片		近位端。			
47	98	尾導管	左	中位元。	STに結合。	付着33	回数84
48	99-01	第II胸椎		左右の腰突起、棘突起、右の側面筋膜前縫、右の側面筋膜後縫、棘突起の左右縫は破缺。	骨肉瘤の後端肉瘤、椎体部筋の後端肉瘤、椎体部の下、椎体部は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。年代判定実験試料(3)。	付着45	回数4
49	99-02	第III胸椎		左右の腰突起、棘突起、右の側面筋膜外縫、右の側面筋膜、椎突起の左右縫は破缺。	骨肉瘤の後端肉瘤、椎体部筋の後端肉瘤、椎体部の下、椎体部は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状に黑色物質が薄く付着(斑化?)している。年代判定実験試料(4)。	付着46	回数4
50	99-03	第IV胸椎		半代判定試料としてコラーゲン抽出を行ったため、剥離され、複数しない。	半代性皮膚半代性皮膚の結果、1300～1400年。年代判定実験試料(5)。	付着47	回数4
51	99-04	肋骨	左	近位端。			
52	99-05	肋骨	左	近位端で、骨壘膜は一部破缺。		現在長 41.42	
53	99-06	肋骨		骨壘膜のみ遺存。			
54	99-07	骨片					
55	10-01	第I胸椎		左右の腰突起、左の棘突起、棘突起、左右の側面筋膜は破缺。	骨肉瘤の後端の腫瘍、椎体部筋の後端の左、下棘は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。	付着56. 表面筋膜は破 損56.14	回数4
56	10-02	肋骨	左	近位端。	半端の下縫は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。		
57	10-03	肋骨	左	骨壘膜は。		現在長 36.15	
58	11-01	肋骨	左	骨壘膜は。	取り上げFI12の一端が破缺。	現在長 36.39	
59	11-02	肋骨片		近位端。			
60	11-02	肋骨	左	骨壘膜は。		現在長 36.38	
61	11-03	肋骨	左	骨壘膜は。		現在長 36.39	
62	11-04	第II胸椎		左の腰突起、右の側面筋膜は、左の棘突起、棘突起、右の側面筋膜は、右の側面筋膜は、左の側面筋膜は、棘突起の下縫は破缺。	骨肉瘤部の後端の下縫、椎体部筋の後端の左、下棘は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。	付着57	回数4
63	11-04	第III胸椎		左の腰突起、左の側面筋膜は、左の棘突起、棘突起、右の側面筋膜は、左の側面筋膜は、左の側面筋膜は、棘突起の下縫は破缺。	骨肉瘤部の後端の下縫、椎体部筋の後端の左、下棘は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。	付着58	回数4
64	11-05	第IV胸椎		左の腰突起、左の側面筋膜は、左の棘突起、棘突起、右の側面筋膜は、左の側面筋膜は、左の側面筋膜は、棘突起の下縫は破缺。	骨肉瘤部の後端の下縫、椎体部筋の後端の左、下棘は病的皮膚により、骨壘膜によって、腫瘍。表面は皮膚状により、骨壘膜によって、腫瘍。	付着59	回数4

表3 東畠犬の同定結果一覧 (4)

資料 番号	毛色 上げ %	部位	左右	詳細	備考	計画表	回収 番号
63	11-06	第1腰椎		左の乳頭開拓部起上端、右の乳頭開拓部起 端起、左の胸突起起始、左の胸突起終 端。	椎体前面の骨膜の外・下端、椎体側面の骨膜の下 端の骨膜の更端により、骨膜被膜によって、椎体、乳 頭開拓部起上端は内側に立ち、そのために骨膜を支 持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によって強く なっている。	計画24	回収3
64	11-07	第2腰椎		左の乳頭開拓部起上端、右の乳頭開拓部起 端起、左の胸突起起始、左の胸突起終 端。	椎体の前筋肉・外・下端、椎体の後筋肉の下端、椎体 側面開拓部起上端により、骨膜被膜によって、椎体、乳 頭開拓部起上端は内側に立ち、そのために骨膜を支 持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によって強く なっている。	計画25	回収3
65	11-08	第3腰椎		左の乳頭開拓部起上端、胸突起、左の胸突 起終端、右の胸突起終端、左の胸突起終 端。	椎体の前筋肉の外・下端、椎体の後筋肉の外・下端、 椎体側面開拓部起上端により、骨膜被膜によ つて、椎体、乳頭開拓部起上端は内側に立ち、そのために骨 膜を支持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によ って強くなっている。	計画26	回収3
66	11-09	第4腰椎		左の乳頭開拓部起上端・後端、棘突起、左の胸 突起終端、左の胸突起終端の後筋肉起始の外 端、左の副神経起始部は被膜。	椎体側面の骨膜の外・下端、椎体側面の骨膜の外・下端、 椎体側面開拓部起上端より、骨膜被膜によ つて、椎体、乳頭開拓部起上端は内側に立ち、そのために骨 膜を支持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によ って強くなっている。	計画27	回収3
67	11-10	第5腰椎		左の乳頭開拓部起上端・後端、棘突起、左の胸 突起終端、左の胸突起終端15個。	椎体側面の骨膜の外・下端、椎体側面の骨膜の外 ・下端の骨膜の更端により、骨膜被膜によ つて、椎体、乳頭開拓部起上端は内側に立ち、そのために骨 膜を支持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によ って強くなっている。	計画28	回収3
68	11-11	第6腰椎		左の乳頭開拓部起上端・後端、棘突起、左の胸 突起終端、左の胸突起終端は被膜。	椎体側面の骨膜の外・下端は骨膜の更端により、骨 膜被膜によつて、椎体、乳頭開拓部起上端は内側に立ち ない、そのために骨膜を支持する前位の骨膜の乳頭開拓部 起始は辺縫によって強くなっている。	計画29	回収3
69	12-01	大脛骨	左	膝蓋面内外側上端、小転子、大転子の外端は被 膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画30	回収6
70	12-02	大脛骨	右	膝蓋面内外側上端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画31	回収6
71	12-03	脛骨	左	遠位端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画32	回収66
72	12-04	脛骨	右	外側頭の外端、胫骨粗面の上端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画33	回収66
73	12-05	脛骨	左	胫骨粗面の二端、胫骨體、胫骨體・近端、胫骨 の後端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画34	回収66
74	12-06	脛骨	右	胫骨粗面の二端、胫骨體、胫骨體・近端、小脛 骨頭部は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画35	回収66
75	12-07	脛骨	左	近位端で、近位端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画36	回収66
76	12-08	脛骨		近位端、近位端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画37	回収74
77	12-09	脛骨		遠位端上うつ延長は被膜、左の前筋肉起始 部、右の後筋肉起始、胸突起、左の筋肉起始は被 膜。		計画38	回収5
78	12-10	第1腰椎		左の乳頭開拓部起上端・後端、左の胸突 起始、左の胸突起終端、左の副神経起始部は被 膜。	乳頭開拓部起上端は内側に反る。そのために骨膜を 支持する前位の骨膜の乳頭開拓部起始は辺縫によ って強くなっている。	計画39	回収3
79	12-11	脛骨				計画40	回収74
80	12-12	脛骨片	左片				
81	12-13	不規					
82	12-14	脛骨	右	近位端で、近位端は被膜。	此處は被膜間に黑色物質が薄く付着(回収?)して いる。	計画41	回収6
83	12-15	尾椎		被膜。			
84	12-16	脛骨	右			回収品 44.22	
85	12-17	脛骨	右			回収品 33.15	
86	12-18	脛骨片					

付録1 イヌの頭蓋骨 計測表 (3-1) (参考資料)

評議項目	審査 基準 満足度%.	実績大 1	電波4号大 電波2号大
1. 基本規制基準	1~5星	102.40	117.45 104.67
2. 調査員	1~5星	—	100.20 145.25
3. 基本規制基準II	1~5星	100.89	115.87 145.63
4. 基本規制基準III	1~5星	100.38	115.50 145.04
5. 基本規制基準III	1~5星	124.77	—
6. 基本規制基準IV	1~5星	100.62	116.00 125.52
7. 基本規制基準V	1~5星	100.82	116.80 143.97
8. 標準化最大幅	1~5星	100.00	102.82 92.70
9. 標準化最小	1~5星	102.61	99.34 88.83
10. 標準化最大	1~5星	—	83.98 78.18
11. 標準化最小	1~5星	98.28	92.34 87.41
12. 標準化基準	1~5星	—	95.81 70.76
13. 標準化基準	1~5星	—	94.49 45.02
14. 上整音表	1~5星	—	94.52 89.80
15. 下整音表	1~5星	—	90.35 82.72
16. 最大上整音量	1~5星	—	93.61 87.14
17. 最小下整音量	1~5星	96.34	87.21 81.03
18. 頻率表III	1~5星	—	100.23 96.07
19. 頻率表IV	1~5星	—	102.02 97.04
20. 頻率一級標準偏差	1~5星	—	92.50 45.01
21. 頻率二級標準偏差	1~5星	—	112.76 126.91
22. 頻率三級標準偏差	1~5星	—	112.87 146.97
23. 頻率四級標準偏差	1~5星	—	43.20 53.41
24. 頻率五級標準偏差	1~5星	—	57.64 54.00
25. 頻率六級標準偏差	1~5星	—	33.83 22.13
26. 頻率七級標準偏差	1~5星	—	48.74 46.64
27. 頻率八級標準偏差	1~5星	—	36.00 26.95
28. 頻率九級標準偏差	1~5星	—	30.67 25.81
29. 頻率十級標準偏差	1~5星	—	23.65
30. 離散度	2~5星	—	30.71 34.21
31. 離散度II	1~5星	—	30.47 21.36
32. 算術平均値	1~5星	—	28.48 27.26
33. 暈度	1~5星	—	58.35 56.21
34. 暈度最大	1~5星	—	66.41 62.24
35. 暈度地盤	1~5星	8.79	—
36. 不齊規則一級標準偏差	1~5星	112.06	100.96 100.56
37. パワード・アーリング	1~5星	—	66.50 62.01
38. 標準偏差	1~5星	—	51.6 47.8
39. 標準高さ	1~5星	—	56.8 52.9
40. 標準差	1~5星	—	70.21 65.21
41. 標準II	1~5星	—	50.58 45.51
42. 標準偏差	1~5星	—	22.93 22.63
43. 破口差異度�	1~5星	—	86.87 82.67
44. 破口差異度�II	1~5星	—	79.72
45. 破口差異度�III	1~5星	—	79.24 77.15
46. 日整音表	1~5星	—	31.32 26.75
47. 日整音表II	1~5星	—	33.79 32.63
48. 日整音表III	1~5星	—	27.37 26.27
49. 日整音表IV	1~5星	—	16.95 14.66***
50. 日整音表V	1~5星	—	86.95 86.16
51. 日上整音表	1~5星	—	29.20 25.94
52. 日整音表VI	1~5星	—	29.63 25.99
53. 上整音表	1~5星	—	50.69 47.95
54. 上整音表II	1~5星	—	100.10 95.71
55. 上整音表III	1~5星	—	57.40 56.73
56. 上整音表IV	1~5星	—	29.16 28.93
57. 上整音表V	1~5星	—	27.92 27.65
58. 上整音表VI	1~5星	—	27.92 27.65
59. 上整音表VII	1~5星	—	27.92 27.65
60. 上整音表VIII	1~5星	—	27.92 27.65
61. 上整音表IX	1~5星	—	27.92 27.65
62. 上整音表X	1~5星	—	27.92 27.65
63. 上整音表XI	1~5星	—	27.92 27.65
64. 上整音表XII	1~5星	—	27.92 27.65
65. 上整音表XIII	1~5星	—	27.92 27.65
66. 上整音表XIV	1~5星	—	27.92 27.65
67. 上整音表XV	1~5星	—	27.92 27.65
68. 上整音表XVI	1~5星	—	27.92 27.65
69. 上整音表XVII	1~5星	—	27.92 27.65
70. 上整音表XVIII	1~5星	—	27.92 27.65
71. 上整音表XIX	1~5星	—	27.92 27.65
72. 上整音表XX	1~5星	—	27.92 27.65
73. 上整音表XXI	1~5星	—	27.92 27.65
74. 上整音表XXII	1~5星	—	27.92 27.65
75. 上整音表XXIII	1~5星	—	27.92 27.65
76. 上整音表XXIV	1~5星	—	27.92 27.65
77. 上整音表XXV	1~5星	—	27.92 27.65
78. 上整音表XXVI	1~5星	—	27.92 27.65
79. 上整音表XXVII	1~5星	—	27.92 27.65
80. 上整音表XXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
81. 上整音表XXIX	1~5星	—	27.92 27.65
82. 上整音表XXX	1~5星	—	27.92 27.65
83. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
84. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
85. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
86. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
87. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
88. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
89. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
90. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
91. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
92. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
93. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
94. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
95. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
96. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
97. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
98. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
99. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
100. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
101. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
102. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
103. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
104. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
105. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
106. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
107. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
108. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
109. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
110. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
111. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
112. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
113. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
114. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
115. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
116. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
117. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
118. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
119. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
120. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
121. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
122. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
123. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
124. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
125. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
126. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
127. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
128. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
129. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
130. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
131. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
132. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
133. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
134. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
135. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
136. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
137. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
138. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
139. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
140. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
141. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
142. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
143. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
144. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
145. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
146. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
147. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
148. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
149. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
150. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
151. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
152. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
153. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
154. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
155. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
156. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
157. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
158. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
159. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
160. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
161. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
162. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
163. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
164. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
165. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
166. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
167. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
168. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
169. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
170. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
171. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
172. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
173. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
174. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
175. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
176. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
177. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
178. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
179. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
180. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
181. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
182. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
183. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
184. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
185. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
186. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
187. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
188. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
189. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
190. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
191. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
192. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
193. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
194. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
195. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
196. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
197. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
198. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
199. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
200. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
201. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
202. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
203. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
204. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
205. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
206. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
207. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
208. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
209. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
210. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
211. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
212. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
213. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
214. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
215. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
216. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
217. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
218. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
219. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
220. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
221. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
222. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
223. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
224. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
225. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
226. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
227. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
228. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
229. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
230. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
231. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65
232. 上整音表XXXX	1~5星	—	27.92 27.65
233. 上整音表XXXI	1~5星	—	27.92 27.65
234. 上整音表XXXII	1~5星	—	27.92 27.65
235. 上整音表XXXIII	1~5星	—	27.92 27.65
236. 上整音表XXXIV	1~5星	—	27.92 27.65
237. 上整音表XXXV	1~5星	—	27.92 27.65
238. 上整音表XXXVI	1~5星	—	27.92 27.65
239. 上整音表XXXVII	1~5星	—	27.92 27.65
240. 上整音表XXXVIII	1~5星	—	27.92 27.65
241. 上整音表XXXIX	1~5星	—	27.92 27.65

第十一章

卷之三

付表2 イヌの種番号 計測値 (3-2)

（三）

〈圖書館編目資料〉

後述の4回被験小
後述の11回被験小大、後述被
験は各回被験の合算値

表2 イヌの下駄骨 計測表

(参考資料)

計測項目	資料 番号	東洋犬		鬼洋1号犬		鬼洋2号犬	
		2 前脚丈 cm	3 後脚丈 cm	1 前脚丈 cm	2 後脚丈 cm	1 前脚丈 cm	2 後脚丈 cm
1 下駄骨全長1	gev-14	122.41**	119.38	126.56	122.83	123.09	
2 下駄骨全長2	gev-12	122.34*	—	126.62	126.25	121.21	
3 下駄骨全長3	gev-13	126.86*	—	122.26	117.66	117.66	
4 下駄骨全長4	gev-29	118.08	—	112.21	105.77	104.04	
5 下駄骨全長5	gev-29	118.29	—	113.53	106.51	106.01	
6 下駄骨全長6	gev-29	119.52**	—	113.52	106.46	107.46	
7 下駄骨全長7	gev-9	113.61	—	107.73	100.72	100.92	
8 下駄骨全長8	gev-11	90.43**	—	85.43	83.91	84.75	
9 下駄骨全長9	gev-10	56.09	—	51.76	52.82	—	
10 下駄骨高1	gev-1	—	—	45.03	44.38	43.58	40.75
11 下駄骨幅	gev-2	25.46	—	22.41	31.64	31.82	
12 吻部骨長	gev-3	36.87	—	35.36	31.53	32.99	
13 頭の長さ	gev-5	36.36	—	36.47	27.09	27.64	
14 頭内部距離1	gev-5	32.17	—	33.32	26.98	29.02	
15 頭内部距離2	gev-5	—	—	47.19	41.62	40.93	
16 頭部斜度	gev-5	25.36	—	22.29	24.48**	26.79	26.81
17 下駄骨高2	gev-6	36.32	—	24.99	—	24.69	
18 下駄骨高3	gev-7	26.87	—	24.59	—	24.62	
19 下駄骨高4	gev-8	26.19	26.29	24.48	—	23.71	
20 下駄骨高5	gev-11	26.15	25.86	22.89	—	22.61	
21 下駄骨高6	gev-12	25.80	25.31	21.89	—	22.27	
22 下駄骨高7	gev-13	22.68	22.34	18.82	—	17.75	
23 下駄骨高8	gev-12	26.89	26.75	16.75	17.35	17.51	
24 門脇骨高	gev-17	—	—	47	53	54.5	
25 下駄骨厚1	gev-18	12.47	14.06	12.00	—	—	
26 眼球周長	gev-19	8.26	—	—	—	—	
27 下駄骨内径	gev-21	44.49	—	42.89	62.58	64.17	
28 下駄骨外径1	gev-20	36.89	36.85	32.85	33.57	33.58	
29 下駄骨外径2	gev-21	31.95	—	30.76	31.01	30.75	
30 下駄骨外径3	gev-21	36.85	—	36.86	67.61	68.82	
31 下乳頭外径	gev-22	—	—	—	—	—	

※記号の意味は、添付表で、添付表

添付表の10号頭骨下

添付表の10号頭骨下

添付表の10号頭骨下

<下駄骨の計測について>

1 下駄骨全長1 (自然状態における下駄骨の全長度)

2 下駄骨全長2 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

3 下駄骨全長3 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

4 下駄骨全長4 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

5 下駄骨全長5 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

6 下駄骨全長6 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

7 下駄骨全長7 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

8 下駄骨全長8 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

9 下駄骨全長9 (頭部斜度を考慮した下駄骨の全長度)

10 下駄骨高1 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

11 下駄骨高2 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

12 下駄骨高3 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

13 下駄骨高4 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

14 下駄骨高5 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

15 下駄骨高6 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

16 下駄骨高7 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

17 下駄骨高8 (頭部斜度を考慮した下駄骨の高さ)

18 下駄骨幅 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

19 下駄骨幅1 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

20 下駄骨幅2 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

21 下駄骨幅3 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

22 下駄骨幅4 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

23 下駄骨幅5 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

24 下駄骨幅6 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

25 下駄骨幅7 (頭部斜度を考慮した下駄骨の幅)

26 下駄骨厚1 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

27 下駄骨厚2 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

28 下駄骨厚3 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

29 下駄骨厚4 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

30 下駄骨厚5 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

31 下駄骨厚6 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

32 下駄骨厚7 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

33 下駄骨厚8 (頭部斜度を考慮した下駄骨の厚さ)

34 下駄骨内径 (頭部斜度を考慮した下駄骨の内径)

35 下駄骨外径1 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

36 下駄骨外径2 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

37 下駄骨外径3 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

38 下駄骨外径4 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

39 下駄骨外径5 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

40 下駄骨外径6 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

41 下駄骨外径7 (頭部斜度を考慮した下駄骨の外径)

付表4 イヌの種類(第1回種) 計測表 (参考資料)

計測項目	資料 30845~	実測大 4	亜成1号犬 亜成2号犬
1 全長	1~2	全长33.90	—
2 頭部背面長さ	3~4	頭部24.35	—
3 体側表面長さ	5~6	27.80	—
4 後脚趾裏面長さ	6~7	27.12	—
5 瞳孔距離	6~7	29.67	—
6 背側毛最大幅	8~9	26.62	—
7 頭部毛最大幅	9~10	16.49	—
8 四脚毛面積	10~11	23.44	—
9 体側毛面積	12~13	24.94	—
10 瞳孔長	13~14	14.03	—
11 瞳孔幅	13~17	16.47	—
12 外脚趾裏面長	18~19	26.85	—
13 頭部皮脂腺	20~21	26.91	—

要領の+10倍値

<種類の計測について>

- 1 全長 (頭部背面の上端鼻孔端～後部腰の背側毛まで) 傾斜に平行に計測
- 2 頭部背面長 (頭部の外側腰毛最大幅)
- 3 体側表面長 (左右の体側表面の外側腰の最大幅)
- 4 後脚趾裏面長 (左右の後脚趾裏面の外側腰の最大幅)
- 5 瞳孔距離 (下顎より計測)
- 6 背側毛最大幅
- 7 頭部毛最大幅
- 8 四脚毛面積
- 9 体側毛面積
- 10 瞳孔長
- 11 瞳孔幅
- 12 外脚趾裏面長 (左右の外脚趾裏面の最小幅)
- 13 頭部皮脂腺 (左右の頭部皮脂腺の最小幅)

付表5 イヌの種類(第2回種) 計測表 (参考資料)

計測項目	資料 30845~	実測大 5	亜成1号犬 亜成2号犬
1 全長I	1~2	全长46.14	52.02~52.17
2 全長II	1~2	全长45.25	50.90~51.03
3 全長III	21.5"	—	53.08~52.76
4 全長IV	22~23	43.93	47.26~44.05
5 頭部背面長さ	3~4	—	26.27~26.51
6 後脚趾裏面長さ	4~5	26.36	28.54~28.82
7 体側表面長さ	5~6	27.49	29.21~29.45
8 瞳孔距離	14~15	26.05	26.16~28.54
9 頭部毛長	10~12	8.57	8.77~4.45
10 瞳孔最小幅	26	18.58	18.97~18.37
11 背側毛最大幅	9~10	14.26	14.34~14.97
12 背側毛最大幅	9~10	13.47	12.52~12.42
13 瞳孔距離	16~18	14.95	14.45~13.16
14 体側毛面積	17~18	9.89	13.15~11.34
15 瞳孔長	17~18	—	20.32~22.76
16 瞳孔長	17~18	33.05	32.94~30.85

要領の+10倍値

<種類の計測について>

- 1 全長I (頭部背面の上端～後脚趾裏面の外側腰まで) 傾斜に平行に計測
- 2 全長II (頭部背面の上端～瞳孔距離の後端まで) 傾斜に平行に計測
- 3 全長III (頭部背面の上端～後脚趾裏面の外側腰までの長さ) 水準的に
- 4 全長IV (頭部背面～後脚趾裏面までの長さ)
- 5 背側表面長 (左右の背側表面の外側腰の最大幅)
- 6 後脚趾裏面長 (左右の後脚趾裏面の外側腰の最大幅)
- 7 体側表面長 (左右の体側表面の外側腰の最大幅)
- 8 瞳孔距離 (瞳孔長の基準での計測)
- 9 瞳孔長
- 10 瞳孔最小幅 (左右の瞳孔距離の基礎範囲)
- 11 背側毛最大幅 (頭部の頭部毛入り口における最大幅)
- 12 背側毛最大幅 (頭部の尾端入り口における最大幅)
- 13 瞳孔距離
- 14 瞳孔長
- 15 体側毛 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)
- 16 瞳孔長 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)

付表6 イヌの第3回種 計測表 (参考資料)

計測項目	資料 30845~	実測大 6	亜成1号犬 亜成2号犬
1 全長	1~2	全长39.42	34.72~35.96
2 頭部背面長さ	2~3	—	46.23~42.15
3 体側表面長さ	4~5	28.26	27.27~28.44
4 後脚趾裏面長さ	5~6	29.11	31.29~29.59
5 瞳孔最小幅	10~11	—	23.92~22.87
6 瞳孔長	11~12	26.04	25.62~26.33
7 瞳孔距離	9~10	25.82	26.00~25.76
8 瞳孔長	8~12	24.47	21.73~21.35
9 体側毛面積	10~14	21.26	20.12~20.23
10 瞳孔距離	10~14	23.27	23.36~23.85
11 体側毛面積	14~14	14.63	13.91~14.25
12 体側毛面積	10~13	8.81	10.58~8.88
13 瞳孔距離	10~18	19.76	19.85~19.72
14 体側毛面積	21~28	11.83	14.28~13.31
15 瞳孔距離	7~17	22.16	24.05~22.19
16 瞳孔長	11~15	—	19.46~18.92
17 瞳孔長	10~17	22.87	20.33~22.31
18 足大	10~20	23.52	23.94~23.92

要領の+10倍値

<第3回種の計測について>

- 1 全長 (頭部背面の上端～後脚趾裏面の外側腰まで) 傾斜に平行に
- 2 背側表面長 (左右の背側表面の外側腰)
- 3 体側表面長 (左右の体側表面の外側腰)
- 4 後脚趾裏面長 (左右の後脚趾裏面の外側腰の最大幅)
- 5 瞳孔最小幅
- 6 瞳孔長
- 7 瞳孔距離 (頭部毛入り口までの頭部毛の長さ)
- 8 瞳孔長
- 9 体側毛面積
- 10 瞳孔距離 (頭部毛入り口までの頭部毛の長さ)
- 11 瞳孔長
- 12 瞳孔長
- 13 瞳孔距離
- 14 瞳孔長
- 15 瞳孔距離 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)
- 16 瞳孔長 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)
- 17 瞳孔長 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)
- 18 足大 (頭部下端～頭部毛入り口までの近中腰上の長さ)

付表7 イスの第4腰椎 計測表

(参考資料)

計測項目	資料 計測点	東洋大 7	龜井1号大 7	龜井2号大
1 全長	1-2	毫23.50	毫26.09/26.75	毫24.29/25.45
2 椎弓根間全幅	3-5	—	毫40.81	毫38.18
3 前腰椎突起間全幅	4-6	毫21.09	毫25.29	毫22.28
4' 後腰椎突起間全幅	4'-6'	—	—	—
4 后腰椎突起間全幅	5-6	毫29.89	毫30.19	毫28.47
5 椎弓根小幅	30-30	毫29.50	毫24.76	毫23.40
6 椎弓根	31-32	毫23.96	毫22.87	毫22.27
7 椎弓根丘	8-9	毫29.00	毫18.96	毫18.37
8 椎弓根丘	8-23	毫12.45	毫9.58	毫10.17
9 椎弓根丘距長	25-26	毫15.99	毫12.96	毫14.42
10 椎弓根	27-37	—	毫27.63	毫26.57
11 椎弓根距	14-14	毫14.09	毫12.81	毫13.89
12 椎弓根距	10-15	毫8.65	毫10.63	毫10.26
13 椎弓根距	16-16	毫14.69	毫15.43	毫15.19
14 椎弓根距	17-18	毫12.86	毫14.83	毫13.29
15 椎弓根丘	7-17	毫1.94	毫23.94	毫22.32
16 椎全高II	11-15	毫18.25	毫18.46	毫17.84
17 椎高前	10-17	毫22.80	毫21.37	毫22.22
18 最大高	15-29	毫22.29	毫26.07	毫25.15

計測の±10範囲小

付表8 イスの第5腰椎 計測表

(参考資料)

計測項目	資料 計測点	東洋大 11	龜井1号大 7	龜井2号大
1 全長	1-2	毫21.12	毫22.28/32.21	毫21.24/31.46
2 椎弓根間全幅	3-5	—	毫36.97	毫36.88
3 椎弓根全幅II	20-25	—	—	毫27.24
4 前腰椎突起間全幅	4-6	毫21.69	毫33.64	毫30.43
4' 後腰椎突起間全幅	4'-6'	—	—	—
5 前腰椎突起間全幅	6-6	毫29.69	毫26.42	毫27.63
6 椎弓根小幅	30-30	毫25.29	毫22.86	毫23.94
7 椎弓根	31-32	毫19.82	毫17.64	毫17.51
8 椎弓根丘	8-9	毫16.33	毫16.58	毫15.17
9 椎弓根丘	8-23	毫9.48	毫7.76	毫7.34
10 椎弓根基部	25-26	毫12.63	毫10.20	毫11.29
11 椎弓根丘	27-37	—	毫22.93	毫22.91
12 椎弓根距	14-14	毫12.76	毫12.61	毫13.27
13 椎弓根距	16-15	毫10.66	毫11.44	毫11.05
14 椎弓根距	16-16	毫14.69	毫14.86	毫14.22
15 椎弓根距	17-18	毫14.16	毫13.93	毫13.84
16 椎全高I	7-17	毫25.33	毫26.99	毫23.81
17 椎全高II	11-15	毫19.45	毫21.34	毫18.56
18 椎高前	10-17	毫22.49	毫19.94	毫19.62
19 最大高	15-24	毫22.65	毫26.99	毫27.25

計測の±10範囲・最高は最低までの差測定

<第4腰椎の計測について>

- 1 全長 (後腰椎突起の前端～後腰椎突起の後端まで) 脊輪に平行に
- 2 椎弓根間全幅 (左右の椎弓根の各端部)
- 3 前腰椎突起間全幅 (左右の前腰椎突起の外端部の最大幅)
- 4' 後腰椎突起間全幅 (左右の後腰椎突起の外端部の最大幅)
- 5 椎弓最小幅
- 6 椎弓長
- 7 椎弓根丘 (椎弓前部の外端部より後椎孔の後端の外端)
- 8 椎弓孔
- 9 椎弓起始部
- 10 椎弓起始部
- 11 椎弓根距
- 12 椎弓高幅
- 13 椎弓根距
- 14 椎弓高幅
- 15 椎全高I (椎弓の最後方点中央～椎底下端まで)
- 16 椎全高II (椎弓の最初前方点中央～椎底下端まで)
- 17 椎高前 (椎底下端～椎底下端までの正中線上の長さ)
- 18 最大高 (椎底下端～椎弓起始部) 椎骨下端に直角

<第5腰椎の計測について>

- 1 全長 (後腰椎突起の前端～後腰椎突起の後端まで) 脊輪に平行に
- 2 椎弓根間全幅 (左右の椎弓根の各端部)
- 3 後腰椎突起全幅 (左右の後腰椎突起の外端部の最大幅)
- 4' 前腰椎突起間全幅 (左右の前腰椎突起の外端部の最大幅)
- 5 後腰椎突起間全幅 (左右の後腰椎突起の外端部の最大幅)
- 6 椎弓最小幅
- 7 椎弓長
- 8 椎弓根丘 (椎弓前部の外端部より後椎孔の後端の外端)
- 9 椎弓孔
- 10 椎弓起始部
- 11 椎弓根距
- 12 椎弓高幅
- 13 椎弓根距
- 14 椎弓高幅
- 15 椎弓高幅
- 16 椎全高I (椎弓の最後方点中央～椎底下端まで)
- 17 椎全高II (椎弓の最初前方点中央～椎底下端まで)
- 18 椎高前 (椎底下端～椎底下端までの正中線上の長さ)
- 19 最大高 (椎底下端～椎弓起始部) 椎骨下端に直角

付表9 イヌの第6腰椎 計測表

(参考資料)

計測項目	資料 No.801	裏腰大 13	亀井1号大 亀井2号大
1 全長	1~2	27.27~27.54	27.07~27.70
2 痢孔距全幅	3~5	—	37.63±
3 痢孔距全幅II	29~28	—	29.18
4 痢孔距全幅III	29~28	—	29.58
5 前開腹腔起始全幅	8~4	32.76±	31.78
6 後開腹腔起始全幅	5~5	29.02	29.05
7 痢孔距小幅	30~30	24.34	22.27
8 痢孔距	11~7	12.85±	14.46
9 痢孔距	9~9	21.58	21.41
10 痢孔距長	8~23	25.32	20.35
11 痢孔距最短長	25~26	—	21.75
12 痢孔距長	27~16	—	29.16
13 痢孔距深	14~14	12.70	11.75
14 痢孔距深	19~13	12.41	11.92
15 痢孔距深	18~18	13.45	13.55
16 痢孔距深	17~19	12.45±	13.36
17 痢孔距	2~2	25.41	24.51
18 痢孔距II	31~35	21.11	22.55
19 痢孔距	15~17	26.77	17.18
20 痢孔距	19~19	—	32.22
			30.25

数値の±は筋幅・筋肉群の変動範囲

<第6腰椎の計測について>

- 1 全長 (前開腹腔起始の後端～後開腹腔起始の後端まで) 骨骼に平行に
- 2 痢孔距全幅 (左左の瘻孔起始の外縫幅)
- 3 痢孔距全幅II (左左の瘻孔起始の外縫幅)
- 4 痢孔距全幅III (左左の瘻孔起始の外縫幅)
- 5 前開腹腔起始全幅 (左左の前開腹腔起始の外縫幅の最大幅)
- 6 後開腹腔起始全幅 (左左の後開腹腔起始の外縫幅の最大幅)
- 7 痢孔距小幅
- 8 痢孔距
- 9 痢孔距 (瘻孔距外側の外縫距加点より後端孔の後端の外縫)
- 10 痢孔距長
- 11 痢孔距深
- 12 痢孔距深 (瘻孔距後内筋の最深部)
- 13 痢孔距深
- 14 痢孔距深
- 15 痢孔距深
- 16 痢孔距深
- 17 痢孔距 (瘻孔の最深点加点から後端下端まで)
- 18 痢孔距II (瘻孔の最深点加点から後端下端まで)
- 19 痢孔距 (瘻孔下端～瘻孔下端までの正中線上の長さ)
- 20 痢孔距 (瘻孔下端～瘻孔起始距離) 瘻孔下端に凸面に計測

付表10 イヌの第7腰椎 計測表

(参考資料)

計測項目	資料 No.801	裏腰大 14	亀井1号大 亀井2号大
1 全長	1~2	27.96~29.24	26.75~27.28
2 痢孔距全幅	3~5	—	41.91
3 前開腹腔起始全幅	4~4	29.73	28.75
4 後開腹腔起始全幅	5~5	27.99	24.18
5 痢孔距深	21~22	15.94	—
6 痢孔距小幅	20~20	24.15	29.01
7 痢孔距	11~7	32.32±	13.67
8 痢孔距	9~9	20.36	—
9 痢孔距最短長	25~26	21.32	20.09
10 痢孔距	27~27	—	21.70
11 痢孔距深	14~14	13.26	13.95
12 痢孔距深	19~15	11.98	11.66
13 痢孔距深	18~18	16.15	19.93
14 痢孔距深	17~18	11.92	12.11
15 痢孔距	2~2	23.49	24.15
16 痢孔距	11~13	22.02	22.38
17 痢孔距	15~17	14.47	13.74
18 痢孔距	19~20	—	46.97
			38.89

数値の±は筋幅・筋肉群の変動範囲

<第7腰椎の計測について>

- 1 全長 (前開腹腔起始の後端～後開腹腔起始の後端まで) 骨骼に平行に
- 2 残存距全幅 (左左の瘻孔起始の外縫幅)
- 3 前開腹腔起始全幅 (左左の前開腹腔起始の外縫幅の最大幅)
- 4 後開腹腔起始全幅 (左左の後開腹腔起始の外縫幅の最大幅)
- 5 痢孔距深 (瘻孔距後内筋の最小幅)
- 6 痢孔距深
- 7 痢孔距
- 8 残存距 (瘻孔距外側の外縫距加点より後端下端まで)
- 9 残存距長
- 10 残存距深
- 11 痢孔距深
- 12 残存距深
- 13 痢孔距深
- 14 残存距深
- 15 残存距 (瘻孔の最深点加点から後端下端まで)
- 16 残存距 (瘻孔の最深点加点から後端下端までの正中線上の長さ)
- 17 残存距 (瘻孔下端～瘻孔起始距離) 瘻孔下端に凸面に計測
- 18 最大高 (瘻孔下端～瘻孔起始距離) 瘻孔下端に凸面に計測

付表11 イヌの第1脚骨 計測図

(参考資料)

計測項目	資料 P100% の高さ	更復元 15	龜井1号犬
1 小頭	1~2	—	46.23, 41
2 頭部前脚小脛	3~4	—	38.54
3 前脚前脚趾骨小脛	4~5	26.42	25.73
4 前脚前脚趾骨小脛	4~5	—	—
5 前脚前脚趾骨小脛	5~6	—	—
6 犬頭部	21~22	18.27	17.43
7 犬頭部	5~6	—	—
8 犬頭部前脚	22~23	26.49	—
9 犬頭部前脚	23~25	—	11.88
10 犬頭部	10~14	12.56	12.87
11 犬頭部	10~15	11.26	11.91
12 犬頭部	10~18	14.43	14.74
13 犬頭部	17~18	10.58	11.26
14 犬頭部後脚大脛	26~28	23.06	—
15 犬頭部	3~7	—	24.51
16 犬頭部II	11~13	23.77	23.50
17 犬頭部	10~17	12.31	12.76
18 犬頭部	7~9	—	25.82
19 犬頭部	10~20	—	38.49
20 犬頭部前脚大脛	27~28	—	12.82
21 犬頭部上顎骨後脚	29~30	—	14.95
22 犬頭部上顎骨内外脛	31	—	9.56
23 犬頭部後脚大脛	32	23.14	24.18

<脚骨の計測について>

- 1 全長 (頭部前脚趾骨小脛と後脚趾骨小脛端まで) 骨骼に平行に計測
- 2 頭部前脚小脛 (左右の頭部前脚の外脛脛)
- 3 前脚前脚趾骨小脛 (左右の前脚前脚趾骨の外脛脛の最大幅)
- 4 前脚前脚趾骨小脛 (左右の前脚前脚趾骨の外脛脛の最小幅)
- 5 前脚前脚 (頭部前脚趾骨+4)
- 6 犬頭部
- 7 犬頭部前脚 (上面から計測)
- 8 犬頭部前脚
- 9 犬頭部
- 10 犬頭部
- 11 犬頭部
- 12 犬頭部
- 13 犬頭部後脚大脛
- 14 犬頭部 (頭部の最高点舌中央より後脚下脛まで)
- 15 犬頭部II (頭部の最高点舌中央より後脚下脛まで)
- 16 犬頭部 (頭部下脛より後脚下脛までの正中脛上の最も)
- 17 犬頭部 (頭部上脣の中央より後脚下脛までの後脚端までの垂直)
- 18 犬頭部 (頭部下脣より後脚下脛の最高点まで) 頭部下脣に直角に計測
- 19 犬頭部の最大前脚径
- 20 犬頭部の上顎骨後脚
- 21 犬頭部上顎骨の内外脛脛
- 22 犬頭部後脚大脛

付表12 イヌの第2脚骨 計測図

(参考資料)

計測項目	資料 P100% の高さ	更復元 17	龜井1号犬	龜井2号犬
1 小頭	1~2	26.24, 20	26.24, 26	26.22, 21
2 犬頭部前脚小脛	3~5	—	25.15	33.23
3 前脚前脚趾骨小脛	4~6	23.51	23.46	22.81
4 前脚前脚趾骨小脛	4~6	—	—	—
5 犬頭部前脚小脛	5~6	26.26	14.97	12.62
6 犬頭部	23~25	18.03	18.57	18.23
7 犬頭部	8~9	—	—	—
8 犬頭部	22~23	26.12	26.32	26.00
9 犬頭部	18~25	26.97	18.81	26.49
10 犬頭部	14~14	13.21	13.07	12.42
11 犬頭部	10~15	10.12	10.66	10.50
12 犬頭部	10~14	12.64*	14.98	14.07
13 犬頭部	13~18	8.34	10.77	10.35
14 犬頭部後脚大脛	26~28	26.64*	26.57	26.21
15 小頭	2~7	26.45	22.48	20.13
16 犬頭部II	11~13	26.45	21.35	19.45±
17 犬頭部	10~17	14.56	13.31	12.95
18 犬頭部	7~9	—	12.48	26.46
19 犬頭部	10~10	—	15.79	58.18
20 犬頭部前脚大脛	27~29	—	12.81	21.18
21 犬頭部上顎骨後脚	29~30	—	19.44	9.17
22 犬頭部上顎骨内外脛	31	—	6.28	5.21
23 犬頭部後脚大脛	32	23.70	22.05	20.67

<脚骨の計測について>

- 1 全長 (頭部前脚趾骨小脛より後脚前脚趾骨小脛端まで) 骨骼に平行に計測
- 2 犬頭部前脚小脛 (左右の頭部前脚の外脛脛)
- 3 前脚前脚趾骨小脛 (左右の前脚前脚趾骨の外脛脛の最大幅)
- 4 前脚前脚趾骨小脛 (左右の前脚前脚趾骨の外脛脛の最小幅)
- 5 前脚前脚 (頭部前脚趾骨+4)
- 6 犬頭部
- 7 犬頭部前脚 (上面から計測)
- 8 犬頭部前脚
- 9 犬頭部
- 10 犬頭部
- 11 犬頭部
- 12 犬頭部
- 13 犬頭部後脚大脛
- 14 犬頭部 (頭部の最高点舌中央より後脚下脛まで)
- 15 犬頭部II (頭部の最高点舌中央より後脚下脛まで)
- 16 犬頭部 (頭部下脛より後脚下脛までの正中脛上の最も)
- 17 犬頭部 (頭部上脣の中央より後脚下脛までの後脚端までの垂直)
- 18 犬頭部 (頭部下脣より後脚下脛の最高点まで) 頭部下脣に直角に計測
- 19 犬頭部の最大前脚径
- 20 犬頭部の上顎骨後脚
- 21 犬頭部上顎骨の内外脛脛
- 22 犬頭部後脚大脛

参考のための計測

参考のための計測

参考のための計測

付表12 イヌの第2脚骨 計測値

(参考値)

計測項目	条件 平均値 (%)	実験大 きさ	亜井1号犬	亜井2号犬
1. 全長	1~2	25.47	42.25	42.19
2. 頭頂部幅小船	2~3	—	22.88	30.34
3. 狂頭部幅中間	3~4	—	12.50	13.51
4. 狂頭部幅大船	4~5	18.47	—	—
5. 頭頂部中間小船	5~6	15.47	14.25	11.06
6. 頭頂部	11~12	18.58	18.00	17.63
7. 頭頂部	8~9	—	8.14	8.75
8. 頭頂部後面	12~13	—	8.74	8.77
9. 頭頂部	14~15	—	10.55	9.33
10. 頭頂部	16~17	—	12.42	12.95
11. 頭頂部	18~19	—	18.41	18.34
12. 頭頂部	20~21	—	14.04	14.17
13. 頭頂部後面大船	22~23	18.52	18.73	18.66
14. 頭頂部	23~24	—	23.82	23.63
15. 頭頂部	25~26	—	18.71	17.53
16. 頭頂部	27~28	18.47	13.36	12.79
17. 頭頂部	29~30	—	40.64	34.64
18. 大きさ	30~31	—	63.68	58.46
19. 頭頂部大船後部	37~38	—	18.84	9.82
20. 頭頂部上端内側部	39~40	—	8.77	7.42
21. 頭頂部上端内側部	31~32	—	5.91	5.69
22. 頭頂部後面大船	33~34	18.16	21.26	18.25

単位はミリメートル、頭頂部は頭頂部での計測値

付表14 イヌの第4脚骨 計測値

(参考値)

計測項目	条件 平均値 (%)	実験大 きさ	亜井1号犬	亜井2号犬
1. 全長	1~2	25.47	42.42	42.41
2. 頭頂部幅小船	2~3	—	30.81	29.48
3. 狂頭部幅中間	3~4	—	12.45	11.72
4. 狂頭部幅大船	4~5	18.47	—	—
5. 頭頂部中間小船	5~6	—	—	12.49
6. 頭頂部	11~12	—	18.58	17.02
7. 頭頂部	8~9	—	8.19	8.12
8. 頭頂部後面	10~11	—	8.02	8.43
9. 頭頂部	12~13	—	12.02	11.77
10. 頭頂部	14~15	—	9.89	9.19
11. 頭頂部	16~17	—	12.48	13.67
12. 頭頂部	18~19	—	10.36	9.84
13. 頭頂部	20~21	—	14.21	13.93
14. 頭頂部	22~23	—	10.54	9.99
15. 頭頂部後面大船	24~25	21.82	18.77	18.21
16. 頭頂部	25~26	—	22.41	22.28
17. 頭頂部	27~28	—	17.87	17.63
18. 頭頂部	29~30	18.47	13.27	12.47
19. 頭頂部	31~32	—	—	—
20. 頭頂部	33~34	—	21.24	22.91
21. 大きさ	35~36	—	60.83	59.39
22. 頭頂部大船後部	37~38	—	8.95	9.21
23. 頭頂部上端内側部	39~40	—	8.87	8.11
24. 頭頂部上端内側部	31~32	—	5.58	5.82
25. 頭頂部後面大船	33~34	18.65	18.70	17.86

単位はミリメートルでの計測値

付表15 イヌの第5脚骨 計測値

(参考値)

計測項目	条件 平均値 (%)	実験大 きさ	亜井1号犬	亜井2号犬
1. 全長	1~2	25.47	42.93	42.91
2. 頭頂部幅小船	2~3	—	20.70	33.27
3. 狂頭部幅中間	3~4	—	12.48	22.81
4. 狂頭部幅大船	4~5	18.47	—	—
5. 頭頂部中間小船	5~6	—	14.21	12.92
6. 頭頂部	11~12	17.48	18.75	18.25
7. 頭頂部	8~9	富10.98	8.81	—
8. 頭頂部後面	10~11	—	8.73	10.08
9. 頭頂部	12~13	—	3.31	9.49
10. 頭頂部	14~15	12.38	—	12.43
11. 頭頂部	16~17	18.47	—	10.56
12. 頭頂部	18~19	—	—	14.07
13. 頭頂部	20~21	—	—	10.35
14. 頭頂部後面大船	22~23	—	20.21	—
15. 頭頂部	23~24	21.7	—	20.13
16. 頭頂部	25~26	—	—	19.45a
17. 頭頂部	27~28	19.99	—	—
18. 頭頂部	29~30	18.47	—	12.95
19. 頭頂部	31~32	—	—	28.46
20. 頭頂部	33~34	—	—	58.16
21. 頭頂部大船後部	35~36	—	—	11.16
22. 頭頂部上端内側部	37~38	—	—	9.17
23. 頭頂部上端内側部	31~32	—	—	5.21
24. 頭頂部後面大船	33~34	18.35	18.42	20.57

単位はミリメートルでの計測値

単位はミリメートルでの計測値

<脚部の計測について>

1. 全長 (頭頂部先端の前脚止と後脚止までの距離)
2. 頭頂部後面 (三石の頭頂部の後脚止)
3. 頭頂部中間後面 (三石の前頭部後面との各脚部の最大距離)
4. 頭頂部中間正面 (三石の前頭部正面との各脚部の最大距離)
5. 頭頂部中間側面 (三石の各頭部側面との各脚部の最大距離)
6. 頭頂部中間小船 (三石の各頭部小船との各脚部の最大距離)
7. 頭頂部
8. 頭頂部後面大船
9. 頭頂部
10. 頭頂部
11. 頭頂部
12. 頭頂部
13. 頭頂部
14. 頭頂部
15. 頭頂部
16. 頭頂部
17. 頭頂部
18. 頭頂部
19. 頭頂部
20. 頭頂部
21. 頭頂部
22. 頭頂部

表表16 イヌの第6胸椎 計測表

(参考資料)

計測項目	実寸 mm	更進大 21	亜井1号犬 622.48	亜井2号犬 622.29
1 全長	2~3	—	—	—
2 横穿起立小幅	3~5	—	36.76	30.03
3 前脚跡と前足小幅	4~5	—	13.47	13.36
4* 前脚跡と前足大幅	4~5*	—	—	—
5 前脚跡と前足中幅	5~6	ME. 16	12.76	11.64
6 横穿起立幅	11~13	12.82	16.57	16.21
7 横穿起立高	9~10	—	83.01	83.08
8 横穿起立低	9~10	ME. 16	82.87	81.35
9 横穿起立前後差	10~12	—	—	—
10 横穿起立側面	14~15	—	83.26	—
11 横穿起立	14~15	12.77	12.62	12.45
12 横穿起立高	14~15	8.54	16.04	12.04
13 横穿起立	14~15	ME. 16	12.76	13.44
14 横穿起立	14~15	8.47	8.81	8.47
15 横穿起立最大幅	14~16	18.29	17.73	17.73
16 横穿起立最小幅	2~3	28.81	—	21.73
17 横穿起立	12~13	18.81	18.92	17.96
18 横穿起立	15~17	ME. 16	12.62	13.05
19 横穿起立	7~8	—	24.23	22.94
20 横穿起立	13~15	—	48.14	45.05
21 横穿起立最大差	27~28	—	11.02	9.36
22 横穿起立上端の後脚	29~30	—	18.48	11.05
23 横穿起立上端の内側	31	—	—	5.76
24 横穿起立最大幅	32	ME. 16	17.72	17.72

表表16の参考資料

表表16の参考資料

表表16の参考資料

表表16の参考資料

表表17 イヌの第7胸椎 計測表

(参考資料)

計測項目	実寸 mm	更進大 49	亜井1号犬 622.72	亜井2号犬 623.01
1 全長	3~5	—	—	—
2 横穿起立小幅	3~5	—	30.22	28.46
3 前脚跡と前足小幅	4~5	—	11.70	10.98
4* 前脚跡と前足大幅	4~5*	13.06	—	—
5 前脚跡と前足中幅	5~6	—	12.06	11.06
6 横穿起立	21~23	—	16.34	15.92
7 横穿起立高	8~9	ME. 16	83.62	83.32
8 横穿起立差	22~23	—	9.06	9.07
9 横穿起立	24~25	—	83.67	83.58
10 横穿起立	14~15	11.97	12.37	11.61
11 横穿起立	14~15	8.18	10.21	8.56
12 横穿起立	14~15	14.03	14.19	12.83
13 横穿起立	17~18	9.29	9.35	9.59
14 横穿起立最大幅	20~20	18.05	18.05	17.61
15 横穿起立	7~12	—	—	—
16 横穿起立	11~15	17.08	19.18	18.15
17 横穿起立	15~17	ME. 16	13.06	13.41
18 横穿起立	17~19	—	18.01	20.54
19 横穿起立最大差	19~20	—	42.06	40.71
20 横穿起立上端の後脚	27~28	—	7.09	8.55
21 横穿起立上端の内側	31	—	2.71	12.98
22 横穿起立最大幅	32	ME. 16	17.12	18.11

表表17の参考資料

表表17 イヌの第7胸椎 計測表

(参考資料)

計測項目	実寸 mm	更進大 49	亜井1号犬 622.72	亜井2号犬 623.30
1 全長	3~5	—	—	—
2 横穿起立小幅	3~5	—	30.46	28.73
3 前脚跡と前足小幅	4~5	—	12.86	10.88
4* 前脚跡と前足大幅	4~5*	14.07	—	12.09
5 前脚跡と前足中幅	5~6	—	—	13.25
6 横穿起立	21~23	16.86	—	16.32
7 横穿起立高	8~9	ME. 16	83.41	83.35
8 横穿起立	24~25	—	—	83.64
9 横穿起立	14~15	12.32	—	12.21
10 横穿起立	19~20	9.24	—	9.35
11 横穿起立	18~19	13.16	—	13.51
12 横穿起立	17~18	8.80	—	8.76
13 横穿起立最大幅	28~28	18.38	—	17.73
14 横穿起立	7~17	—	—	21.27
15 横穿起立	12~15	17.52	—	18.97
16 横穿起立	18~17	22.79	—	12.65
17 横穿起立	7~18	—	—	23.12
18 横穿起立	18~19	—	—	20.54
19 横穿起立	18~19	—	—	44.83
20 横穿起立最大差	27~28	—	—	9.42
21 横穿起立上端の後脚	29~30	—	—	10.29
22 横穿起立上端の内側	31	—	—	4.71
23 横穿起立最大幅	32	ME. 16	17.10	17.11

表表17の参考資料

表表17の参考資料

表表17の参考資料

<胸椎の計測について>

- 1 全長 (前脚跡と前足の後端より後脚跡と前足の後端まで) 本輪に平行に計測
- 2 横穿起立小幅 (3石の横穿起立の外縫幅)
- 3 前脚跡と前足小幅 (左右の前脚跡と前足の外縫幅の最大幅)
- 4* 前脚跡と前足大幅 (左右の前脚跡と前足の外縫幅の最大幅)
- 5 前脚跡と前足中幅 (左右の横穿起立の外縫幅)
- 6 横穿起立 (横穿起立の外縫幅)
- 7 横穿起立高 (横穿起立の高さ)
- 8 横穿起立
- 9 横穿起立
- 10 横穿起立
- 11 横穿起立
- 12 横穿起立
- 13 横穿起立
- 14 横穿起立 (横穿起立の最奥方から中央より横穿起立の範囲まで)
- 15 横穿起立 (横穿起立の中央より横穿起立の範囲まで)
- 16 横穿起立 (横穿起立の後端より横穿起立の範囲まで)
- 17 横穿起立 (横穿起立の後端より横穿起立の範囲まで)
- 18 最大高 (横穿起立の最高点より横穿起立の最低点までの高さ)
- 19 横穿起立 (横穿起立の最高点)
- 20 横穿起立 (横穿起立の上端)
- 21 横穿起立 (横穿起立の内縫幅)
- 22 横穿起立 (横穿起立の外縫幅)

付表1 イスの第1回場 計測表

(参考値)

計測項目	資料 平均値	実験大 きさ	亀井1号大 きさ	亀井2号大 きさ
1 重量	1~2	—	423.39	423.31
2 横幅前脚上端	2~3	—	29.67	26.96
3 前脚後脚距離	4~5	—	11.69	10.74
4* 前脚後脚距離小幅度	4~5	—	—	—
5* 前脚後脚距離大幅度	5~6	—	—	—
6 前脚後脚距離(2脚)	5~6	—	12.46	10.54
7 横幅後脚	21~22	—	17.15	16.49
8 横幅後脚	8~9	—	8.73	8.96
9 横幅後脚	22~23	—	9.40	8.83
10 横幅後脚	24~25	—	11.03	11.08
11 横幅後脚	14~15	—	11.77	11.74
12 横幅後脚	17~18	—	13.29	9.44
13 横幅後脚	18~19	—	14.61	13.03
14 横幅後脚	17~18	—	9.95	9.45
15 横幅後脚最大幅度	18~19	—	18.34	18.34
16 体重(重2)	7~8	—	—	—
17 体重(重2)	11~12	—	19.64	18.17
18 体重(重2)	18~19	—	14.09	13.82
19 体重(重2)	7~8	—	—	10.62
20 体重(重2)	10~11	—	27.46	26.04
21 体重(重2)	27~28	—	8.47	7.44
22 体重(重2)足部後脚	29~30	—	7.91	7.08
23 体重(重2)足部後脚	30	—	4.78	3.19
24 体重(重2)足部後脚	32	—	—	16.36

付表2 イスの第2回場 計測表

(参考値)

計測項目	資料 平均値	実験大 きさ	亀井1号大 きさ	亀井2号大 きさ
1 令	2~3	—	—	—
2 横幅前脚上端	2~3	—	—	—
3 前脚後脚距離	4~5	—	—	—
4* 前脚後脚距離小幅度	4~5	—	—	—
5* 前脚後脚距離大幅度	5~6	—	—	—
6 体重(重2)	21~22	—	17.24	17.38
7 横幅後脚	9~10	—	12.20	13.03
8 横幅後脚	22~23	—	—	10.83
9 横幅後脚	24~25	—	14.56	11.95
10 横幅後脚	13~14	14.56~15.46	14.16~12.46	—
11 横幅後脚	19~20	—	10.46	9.79
12 横幅後脚	30~31	—	17.67	17.79
13 横幅後脚	17~18	8.52	8.24	8.96
14 体重(重2)足部後脚	20~21	—	—	—
15 体重(重2)	7~8	—	29.42	28.44
16 体重(重2)	11~12	—	18.11	18.09
17 体重(重2)	13~14	—	14.24	14.06
18 体重(重2)	7~8	—	—	—
19 体重(重2)	10~11	—	33.18	30.46
20 体重(重2)足部後脚	27~28	—	—	—
21 体重(重2)足部後脚	29~30	—	—	6.99
22 体重(重2)足部後脚	31	—	2.46	3.39
23 体重(重2)足部後脚	32	—	—	—

差額の+は後脚小

付表3 イスの第3回場 計測表

(参考値)

計測項目	資料 平均値	実験大 きさ	亀井1号大 きさ	亀井2号大 きさ
1 重量	1~2	—	425.41	424.82
2 横幅前脚上端	2~3	—	28.77	27.72
3 前脚後脚距離	4~5	—	17.40	13.79
4* 前脚後脚距離小幅度	4~5	—	—	—
5* 前脚後脚距離大幅度	5~6	—	—	—
6 体重(重2)	21~22	—	18.31	18.31
7 横幅後脚	9~10	—	12.20	13.03
8 横幅後脚	22~23	—	—	10.83
9 横幅後脚	24~25	—	14.56	11.95
10 横幅後脚	13~14	14.56~15.46	14.16~12.46	—
11 横幅後脚	19~20	—	10.46	9.79
12 横幅後脚	30~31	—	17.67	17.79
13 横幅後脚	17~18	8.52	8.24	8.96
14 体重(重2)足部後脚	20~21	—	—	—
15 体重(重2)	7~8	—	29.42	28.44
16 体重(重2)	11~12	—	18.11	18.09
17 体重(重2)	13~14	—	14.24	14.06
18 体重(重2)	7~8	—	—	—
19 体重(重2)	10~11	—	33.18	30.46
20 体重(重2)足部後脚	27~28	—	—	—
21 体重(重2)足部後脚	29~30	—	—	6.99
22 体重(重2)足部後脚	31	—	2.46	3.39
23 体重(重2)足部後脚	32	—	—	—

<実験の計測について>

- 1 令 (被験者頭部の高さ2.0倍前脚上端位置までの高さ) 各脚に平行に計測
 - 2 横幅前脚上端 (左右の前脚上端の外側端)
 - 3 前脚後脚距離 (左右の前脚後脚距離の外端間の最大幅)
 - 4* 前脚後脚距離小幅度 (左右の前脚後脚距離の内端間の最小幅)
 - 5* 前脚後脚距離大幅度 (左右の前脚後脚距離の外端間の最大幅)
 - 6 横幅後脚 (横幅後脚を構成する各脚)
 - 7 横幅後脚 (左脚から計算)
 - 8 横幅後脚 (右脚から計算)
 - 9 体重(重2)
 - 10 体重(重2)
 - 11 体重(重2)
 - 12 体重(重2)
 - 13 体重(重2)足部後脚
 - 14 体重(重2)
 - 15 体重(重2)
 - 16 体重(重2)
 - 17 体重(重2)
 - 18 体重(重2)
 - 19 体重(重2)
 - 20 体重(重2)
 - 21 体重(重2)足部後脚
 - 22 体重(重2)足部後脚
- 差額の+は後脚小、-は前脚小
- 参考計測表での計測

付表22 イヌの第12脚骨 計測値

計測項目	資料番号 計測点	測定次元 mm	(参考値)	
			亜井1号犬	亜井2号犬
1 全長	1-2	—	628.00	627.90
2 頭骨部骨頭	3-3	—	27.90	26.00
3 前頭部骨頭	4-4	—	18.50	19.20
4' 前頭部骨頭	4'-4'	—	—	—
4 各頭部骨頭	5-5	—	19.20	19.90
5 頭骨部骨頭	23-23	62.80	27.90	17.40
6 頭骨部	9-9	62.47	27.90	17.40
7 頭骨部骨頭	23-23	—	19.37	19.90
8 頭骨部	23-23	—	27.82	26.57
9 頭骨部	14-14	17.80	18.20	17.50
10 頭骨部	19-19	—	19.20	9.40
11 頭骨部	19-19	18.50	18.30	17.90
12 頭骨部	17-18	8.70	9.30	8.80
13 頭骨部骨頭	20-20	62.80	—	—
14 頭骨部	7-7	19.82	39.14	29.90
15 頭骨部骨頭	11-11	—	18.40	17.80
16 頭骨部	15-15	22.80	14.00	14.70
17 頭骨部	7-7	—	—	—
18 最大高	15-20	—	32.45	29.70
19 頭骨部骨頭	27-28	—	—	—
20 頭骨部骨頭	29-30	—	10.20	8.90
21 頭骨部上端内外幅	31	—	5.15	3.90
22 頭骨部骨頭	31	—	—	—

頭部のテリ位置: 頭骨部骨頭までの距離

付表23 イヌの第13脚骨 計測値

計測項目	資料番号 計測点	測定次元 mm	(参考値)	
			亜井1号犬	亜井2号犬
1 全長	1-2	—	626.93	626.46
2 頭骨部骨頭	3-3	—	26.00	24.70
3 前頭部骨頭	4-4	—	22.14	21.91
4' 前頭部骨頭	4'-4'	—	—	—
4 各頭部骨頭	5-5	—	30.02	31.26
5 頭骨部	23-23	62.60	17.40	17.05
6 頭骨部	9-9	62.50	27.90	16.14
7 頭骨部骨頭	23-23	—	19.00	—
8 頭骨部	23-23	—	27.56	—
9 頭骨部	14-14	19.80	18.80	18.70
10 頭骨部	19-19	9.40	9.70	9.74
11 頭骨部	19-19	19.30	18.27	18.01
12 頭骨部	17-18	8.00	9.70	8.20
13 頭骨部骨頭	20-20	—	—	—
14 頭骨部	7-7	—	26.30	26.44
15 頭骨部	11-11	18.60	18.57	18.13
16 頭骨部	19-17	15.70	15.33	15.42
17 頭骨部	7-7	—	—	—
18 最大高	15-20	—	33.60	30.90
19 頭骨部骨頭	27-29	—	—	—
20 頭骨部上端内外幅	29-30	—	11.70	11.95
21 頭骨部上端内外幅	31	—	5.60	4.20
22 頭骨部骨頭	31	—	—	—

付表24 イヌの第14脚骨 計測値

計測項目	資料番号 計測点	測定次元 mm	(参考値)	
			亜井1号犬	亜井2号犬
1 全長	1-2	623.90	630.34	632.54
2 頭骨部骨頭	3-3	—	35.20	38.20
3 前頭部骨頭	4-4	—	22.67	22.18
4' 前頭部骨頭	4'-4'	—	—	—
4 各頭部骨頭	5-5	19.80	13.32	11.90
5 頭骨部	23-23	13.70	18.82	17.15
6 頭骨部	9-9	62.00	27.90	17.20
7 頭骨部	10-10	13.90	17.60	18.34
8 頭骨部	10-10	8.50	10.27	10.44
9 頭骨部	10-10	18.40	18.29	18.23
10 頭骨部	17-18	8.70	10.00	10.00
11 頭骨部	7-7	29.00	23.10	21.20
12 頭骨部	11-11	19.20	18.42	18.37
13 頭骨部	15-17	12.70	18.04	18.52
14 最大高	15-20	—	33.02	36.16

頭部のテリ位置: 頭骨部骨頭までの距離

<脚部の計測について>

1 全長 (頭部骨頭底面線上より後頭部骨頭底面まで) 各輪に平行に計測

2 頭骨部骨頭 (左右の頭骨部骨頭端輪)

3 前頭部骨頭 (左右の前頭部骨頭端輪の最大幅)

4 後頭部骨頭 (左右の後頭部骨頭端輪の最大幅)

5 頭骨部 (頭骨部骨頭)

6 頭骨部

7 頭骨部

8 頭骨部

9 頭骨部

10 頭骨部

11 頭骨部 (頭骨部骨頭より後頭部骨頭までの中央輪との長さ)

12 最大高 (頭骨下端上り前突部最高端まで) 頭骨下端上り前突

付表25 イヌの第2選種 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 部位 (部位%)	実験犬 64	亀井1号犬 亀井2号犬
1 全身	1-2	高34.70	高31.74
2 線状部(左脚)	3-3	—	46.88 38.54
3 前足部(左脚)小脛	4-4	—	22.47 24.68
4 前足部(左脚)膝	4'-4"	—	—
5 各四肢部(左脚)2脚	5-5	12.21	12.21 14.67
6 線状部腰	13-13	16.65	17.11 17.87
7 線状部背	14-14	18.22	17.82 17.54
8 線状部頭	19-19	9.67	10.58 10.70
9 線状部頸	19-19	18.18	18.11 18.31
10 線状部尾	17-17	9.62	10.22 11.12
体表面	7-7	22.01	21.46 21.90
体表面II	13-13	19.06	19.11 18.58
11 線状部	10-17	26.31	17.95 18.11
12 亜太犬	13-13	—	36.64 34.42

数値の(+)は標準偏差を示す。出典は経皮透析での実験結果

付表26 イヌの第3選種 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 部位 (部位%)	実験犬 65	亀井1号犬 亀井2号犬
1 全身	1-2	高34.42	高31.74
2 線状部(左脚)	3-3	—	46.84 38.54
3 前足部(左脚)小脛	4-4	—	26.06 24.88
4 前足部(左脚)膝	4'-4"	—	—
5 各四肢部(左脚)2脚	5-5	13.13	11.87 14.47
6 線状部腰	13-13	18.02	17.62 17.67
7 線状部背	14-14	17.58	17.47 17.54
8 線状部頭	19-19	10.06	12.04 10.75
9 線状部頸	19-19	18.01	18.49 18.31
10 線状部尾	17-17	8.96	11.30 11.12
体表面	7-7	22.26	21.05 21.90
体表面II	13-13	20.58	20.95 18.58
11 線状部	10-17	18.01	18.81 18.11
12 亜太犬	13-13	21.64	40.81 34.42

数値の(+)は標準偏差を示す。出典は経皮透析での実験結果

付表27 イヌの第4選種 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 部位 (部位%)	亀井1号犬 66	亀井2号犬
1 全身	1-2	高33.84	高35.32
2 線状部(左脚)	3-3	—	高32.97
3 前足部(左脚)小脛	4-4	高30.88	24.54
4 前足部(左脚)膝	4'-4"	—	—
5 各四肢部(左脚)2脚	5-5	14.06	12.01
6 線状部腰	13-13	19.24	19.44
7 線状部背	14-14	20.85	20.87
8 線状部頭	19-19	18.26	18.03
9 線状部頸	19-19	11.06	12.43
10 線状部尾	18-18	20.54	18.98
11 線状部腰	17-17	9.71	10.87
12 体表面	7-7	21.32	22.51
13 体表面II	13-13	20.46	21.21
14 線状部	15-17	26.44	26.76
15 亜太犬	13-13	—	43.18

数値の(+)は標準偏差を示す。出典は経皮透析での実験結果

付表28 イヌの第5選種 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 部位 (部位%)	亀井1号犬 67	亀井2号犬
1 全身	1-2	高36.70	高33.98
2 線状部(左脚)	3-3	—	高32.42
3 前足部(左脚)小脛	4-4	高30.75	22.61 23.38
4 前足部(左脚)膝	4'-4"	—	—
5 各四肢部(左脚)2脚	5-5	13.42	12.94 13.38
6 線状部腰	13-13	18.76	20.35 18.87
7 線状部背	14-14	19.94	20.99 20.88
8 線状部頭	19-19	18.34	18.86 17.10
9 線状部頸	19-19	10.15	10.90 11.11
10 線状部尾	18-18	20.04	21.00 19.66
11 線状部腰	17-17	18.4	19.06 21.82
12 体表面	7-7	21.72	21.49 21.92
13 体表面II	13-13	18.52	19.62 18.77
14 線状部	10-17	20.91	28.37 21.34
15 亜太犬	13-13	—	48.99 39.22

数値の(+)は標準偏差を示す。出典は経皮透析での実験結果

付表29 イヌの第6選種 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 部位 (部位%)	亀井1号犬 68	亀井2号犬
1 全身	1-2	高35.44	高32.32
2 線状部(左脚)	3-3	—	高32.22
3 前足部(左脚)小脛	4-4	高31.58	23.24 —
4 前足部(左脚)膝	4'-4"	—	—
5 各四肢部(左脚)2脚	5-5	14.26	12.88 15.91
6 線状部腰	13-13	20.32	21.46 19.98
7 線状部背	14-14	21.82	21.54 21.54
8 線状部頭	19-19	18.11	18.88 17.73
9 線状部頸	19-19	10.81	11.26 11.34
10 線状部尾	18-18	20.75	22.14 21.17
11 線状部腰	17-17	16.18	11.63 16.55
12 体表面	7-7	22.85	21.82 18.95
13 体表面II	13-13	19.88	17.78 17.78
14 線状部	10-17	29.11	19.27 20.29
15 亜太犬	13-13	—	40.46 38.06

数値の(+)は標準偏差を示す。

<選種の基準について>

- 1 会員 (経皮透析装置上での回復率が最も優秀)：会員に平均化計算
- 2 線状部(左脚) (会員の線状部(左脚)の標準偏差が最も小さく、最も正確)
- 3 前足部(左脚)小脛 (会員の前足部(左脚)小脛の範囲が最も狭い)
- 4 前足部(左脚)膝 (会員の前足部(左脚)膝の範囲が最も狭い)
- 5 各四肢部(左脚)2脚 (会員の各四肢部(左脚)2脚の範囲が最も狭い)
- 6 線状部腰 (会員の線状部腰の範囲が最も狭い)
- 7 線状部背 (会員の線状部背の範囲が最も狭い)
- 8 線状部頭 (会員の線状部頭の範囲が最も狭い)
- 9 線状部頸 (会員の線状部頸の範囲が最も狭い)
- 10 線状部尾 (会員の線状部尾の範囲が最も狭い)
- 11 体表面 (会員の体表面の範囲が最も狭い)
- 12 体表面II (会員の体表面IIの範囲が最も狭い)
- 13 線状部 (会員の線状部の範囲が最も狭い)

付書20 イスの第7回線 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 基準 部位	東洋大 76	亀井4号大 亀井2号大
1. 座面	1~2	26.31	—
2. 通常座面高幅	3~4	—	65.00
3. 後腰帶不拘束高幅	4~5	横幅26.65	—
3'. 後腰帶拘束高幅	4'~5'	—	22.54
4. 後腰帶不拘束高幅	5~6	23.72	—
5. 後腰帶拘束高幅	5~6	23.72	25.17
6. 後腰帶	21~22	26.49	—
7. 後腰帶幅	6~9	右16.26	高13.63
7'. 後腰帶幅	10~14	18.51	—
8. 後腰帶高幅	15~19	16.12	—
9. 後腰帶深幅	19~23	21.46	22.20
10. 後腰帶高幅	21~25	16.28	11.54
11. 後腰帶高幅	25~27	16.28	11.54
12. 後腰帶	25~27	16.28	16.45
13. 後腰帶	28~30	—	16.45

<腰帯の計測について>

1. 座面 (後腰帶不拘束端より後腰帶拘束端まで) 垂直に平行に計測
 2. 後腰帶拘束幅 (左右の後腰帶外縫端)
 3. 後腰帶不拘束高幅 (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
 - 3'. 後腰帶拘束高幅 (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
 4. 後腰帶拘束高幅 (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
 5. 後腰帶幅 (腰帯の定位差)
 6. 後腰帶
 7. 後腰帶幅
 8. 後腰帶高
 9. 後腰帶高
 10. 後腰帶
- 体高 (腰帯の最高点から左下2横幅下端まで)
 体高高 (腰帯の最高点から左下2横幅下端までの高さ)
 11. 後腰帶 (腰帯下端より腰帯下端までの左右端上の長さ)
 12. 最大高 (腰帯下端より腰帯起點高幅まで) 腰帯下部に形成

付書21 イスの仙骨 計測表

(参考資料)

計測項目	計測 基準 部位	東洋大 76	亀井4号大
1. 座面	1~2	—	45.32
2. 新骨高幅II	3~5	42.12	41.42
3. 新骨高幅III	3'~3'	—	33.29
4. 新骨高幅IV	3'~3'	—	38.54
5. 新骨高幅V	3~4	坐31.66	坐29.09
6. 背側腰带不拘束I	21~25	—	21.49
7. 背側腰带不拘束II	22~23	—	12.43
8. 背側腰带不拘束III	4~6	—	38.79
9. 背側腰带不拘束IV	23~23	横幅31.65	43.12
10. 背側腰带不拘束V	24~24	横幅22.62	24.42
11. 後腰帶不拘束高幅	5~6	—	9.47
12. 後腰帶	24~24	21.36	21.89
13. 後腰帶高幅	29~33	9.77	10.61
14. 後腰帶外縫の小孔距離	25~25	18.11	20.42
15. 後腰帶幅	26~28	—	10.13
16. 後腰帶高	27~28	—	9.33
17. 後腰帶	25~27	横幅12.99	29.87
18. 後腰帶	28~28	横幅14.61	33.91
19. 最大高	28~28	—	21.61

数値の±10%以内

<仙骨の計測について>

1. 座面 (腰帯端より腰帯上2横幅下端まで) 垂直に平行に計測
2. 仙骨高幅 (新骨高の部位の外縫端の最大幅)
3. 仙骨高幅II (新骨高の部位の外縫端の最大幅)
4. 仙骨高幅III (新骨高の部位の外縫端の最大幅)
5. 仙骨高幅IV
6. 仙骨高幅V (腰帯の腰帯外縫端の内縫端の距離)
7. 仙骨高幅VI (腰帯の腰帯外縫端の内縫端の距離)
8. 後腰帶不拘束高幅II (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
9. 後腰帶不拘束高幅III (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
10. 後腰帶不拘束高幅IV (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
11. 後腰帶不拘束高幅V (左右の後腰帶外縫端の最大幅)
12. 後腰帶
13. 後腰帶高
14. 後腰帶外縫の小孔間の幅 (左右の小孔内縫端の距離)
15. 後腰帶幅
16. 後腰帶高
17. 後腰帶 (腰帯下端～腰帯下端までの正中線上の長さ)
18. 後腰帶 (腰帯内縫～腰帯外縫までの正中線上の長さ)
19. 最大高 (腰帯下端～腰帯起點高幅まで) 腰帯下部に形成

付書22 イスの膝蓋骨 計測表

計測項目	計測 基準 部位	東洋大 76
1. 座面	1~2	横幅4.6
2. 中央屈曲帶	3~4	8.41
3. 中央屈曲帶	5~	8.34

<膝蓋骨の計測について>

1. 座面 (膝盖骨尖端～膝盖骨底まで)
2. 中央屈曲帶 (最大幅)
3. 中央屈曲帶

付表20 イスの第2回帰 計測度

(参考値)

計測項目	前回 測定値 mm	東洋大 T6	亀井4号大	亀井2号大
1 全長	1~2	36.31	—	37.37
2 前頭部外縫合幅	3~4	—	65.00	54.61
3 後頭部外縫合幅	3~4	横幅20.67	—	22.54
4 前頭部外縫合幅	4~5	—	—	—
5 後頭部外縫合幅	3~5	23.72	—	25.17
6 頭体縫合	21~23	29.46	—	19.86
7 頭尾縫合	9~10	右16.26	—	左13.61
8 頭側縫合	10~14	18.51	—	18.58
9 頭底縫合	10~12	16.12	—	16.71
10 頭腹縫合	16~18	21.66	22.31	20.54
11 後体縫合	17~18	18.38	11.54	10.85
12 頭背縫合	2~3	18.63	—	17.34
13 頭耳縫合	11~12	17.28	—	17.18
14 総耳長	10~17	16.96	16.45	16.55
15 大耳長	10~20	—	—	23.53

<部番の計測について>

- 1 全長 (後頭部外縫合端より後頭部内縫合端まで) 垂直に平行に計測
- 2 前頭部外縫合幅 (左志の前頭部外縫合幅)
- 3 後頭部外縫合幅 (左志の後頭部外縫合幅の最大幅)
- 4 前頭部外縫合幅 (左志の後頭部外縫合幅の最小幅)
- 5 後頭部外縫合幅 (右志の後頭部外縫合幅の最大幅)
- 6 頭体縫合 (頭側縫合)
- 7 頭尾縫合
- 8 頭側縫合
- 9 頭底縫合
- 10 頭腹縫合
- 11 頭背縫合 (頭背下縫上より後頭部内縫合端までの正中線上の長さ)
- 12 大耳長 (頭頂下縫上より後頭部外縫合端まで) 垂直下方向に計測

付表21 イスの仙骨 計測度

(参考値)

計測項目	前回 測定値 mm	東洋大 T7	亀井1号大
1 全長	1~2	—	45.32
2 骶骨縫合II	3~5	42.12	41.42
3 骶骨縫合III	3~5	—	33.29
4 骶骨縫合IV	3~5	—	28.34
5 骶骨縫合V	3~5	—	29.09
6 骶骨坐骨外縫合I	23~25	—	21.49
7 骶骨坐骨外縫合II	20~22	—	12.63
8 前腰椎外縫合外縫合	4~6	—	38.79
9 前腰椎外縫合内縫合II	23~25	横幅31.85	43.12
10 前腰椎外縫合内縫合I	24~26	施幅22.62	24.42
11 后腰椎外縫合外縫合	5~6	—	9.67
12 椎間縫合	14~16	21.36	21.89
13 椎間高	9~12	9.77	10.81
14 椎間外縫合の小孔距離	20~25	18.11	20.42
15 椎間縫合	30~36	—	10.13
16 椎間高	17~18	—	5.33
17 椎体長	10~17	施幅12.99	29.87
18 椎体長	10~17	施幅14.61	33.91
19 大耳長	10~20	—	21.61

数値の±10%標準差

<仙骨の計測について>

- 1 全長 (後腰部外縫合2~4腰突起の後端まで) 垂直に平行に計測
- 2 仙骨縫合II (新骨縫合の位置の外縫合の最大幅)
- 3 仙骨縫合III (新骨縫合の位置の外縫合の最小幅)
- 4 仙骨縫合IV (新骨縫合の位置の外縫合の最大幅)
- 5 仙骨縫合V
- 6 骶骨側外縫合II (左右の坐骨外縫合の内縫合の距離)
- 7 坐骨外縫合内縫合II (左右の坐骨外縫合の外縫合の距離)
- 8 前腰椎外縫合外縫合 (左志の前腰椎外縫合外縫合の最大幅)
- 9 前腰椎外縫合内縫合II (左志の前腰椎外縫合内縫合の最大幅)
- 10 后腰椎外縫合外縫合 (左志の后腰椎外縫合外縫合の最大幅)
- 11 后腰椎外縫合内縫合 (左志の后腰椎外縫合内縫合の最小幅)
- 12 椎間縫合
- 13 椎間高
- 14 椎間外縫合の小孔間の幅 (左右の小孔内縫合の距離)
- 15 椎間縫合
- 16 椎間高
- 17 椎体長 (腰頂下縫～腰底下縫までの正中線上の長さ)
- 18 椎体長 (腰頂内縫～腰底内縫までの正中線上の長さ)
- 19 大耳長 (腰頂下縫～腰底外縫合端まで) 垂直下方向に計測

付表22 イスの肱基骨 計測度

計測項目	前回 測定 値mm	東洋大 T6
1 全長	1~2	36.41
2 中央前縫合	3~4	8.11
3 中央後縫合	5~6	8.34

<肱基骨の計測について>

- 1 全長 (腋窩壁皮膚～肱基骨まで)
- 2 中央前縫合 (最大幅)
- 3 中央後縫合

付表23 イヌの篠平骨 計測表

計測項目	単位 mm mm(%)	東洋犬			(参考値)	
		東洋犬			鹿角1号犬	鹿角2号犬
		27~47	47	52		
1 全長	1~2	168.96	169.04	168.75	112.09	
2 頭巾部後端	2~3	—	—	111.76	98.54	
3 頭巾部頭大部	3~4	—	—	126.13	105.51	
4 上顎幅	4~5	—	—	56.11	49.93	
5 眼窓高さ小輪	5~6	—	—	22.58	20.79	
6 下顎幅	12~13	27.83	27.53	26.79	24.81	
7 頭巾部高さ	12~1	23.81	22.94	22.87	21.33	
8 頭巾部幅	14~15	18.87	18.64	16.88	15.87	
9 頭巾部後端高さ	16~17	—	—	12.56	10.93	
10 頭巾部頭大部	18~19	—	—	23.58	31.76	

頭巾部後端までの距離

<篠平骨の計測について>

- 1 全長（頭巾部後端の下端～頭巾部の基部最高点までの長さ）骨盤に平行に計測
- 2 頭巾部頭大部（頭巾部の基部頭部～頭巾部の基部頭部下端までの長さ）
- 3 頭巾部頭大部（頭巾部の基部頭部～頭巾部頭部下端までの長さ）
- 4 上顎幅（頭巾部後端～頭巾部の頭窓までの幅）前下顎の頭窓との差を引く
- 5 眼窓高さ小輪（頭巾部の頭窓～眼窓上端までの距離）
- 6 下顎幅（頭巾部の頭窓～頭巾部の下顎幅までの距離）
- 7 頭巾部高さ（頭巾部の頭窓頭部までの距離）
- 8 頭巾部幅（頭巾部の頭窓～小輪頭の内顎頭までの最大幅）
- 9 頭巾部後端高さ（頭巾部の後端頭部～小輪頭の内顎頭までの最大幅）
- 10 頭巾部頭大部（頭巾部の後端頭部～頭巾部の内顎頭までの長さ）

付表24 イヌの上顎骨 計測表

計測項目	単位 mm mm(%)	東洋犬			(参考値)	
		東洋犬			鹿角1号犬	鹿角2号犬
		28	29	30		
1 全長	1~2	144.44	144.01	145.08	137.36	
2 全長(2)	10~2	140.37	140.94	140.26	132.92	
3 上顎頭の後端	2~3	34.33	34.89	36.83	33.82	
4 上顎頭大部	3~4	24.40	23.88	25.14	23.19	
5 上顎頭の外端	3~4	26.61	26.57	25.66	21.92	
6 大顎頭高さ	3~4	22.89	23.46	12.54	11.44	
7 頭巾部後端	10~11	12.82	12.93	15.88	16.62	
8 頭巾部頭高さ	10~11	16.98	17.00	21.08	21.95	
9 下顎頭大部幅	17~18	29.88	28.81	29.88	27.74	
10 下顎頭下端	19~20	17.87	17.74	17.94	17.73	
11 頭巾部後端	21~22	18.89	19.99	19.71	18.18	
12 内顎頭後端幅	21~22	22.47	21.91	23.82	26.67	
13 外顎頭後端幅	27~28	18.67	19.95	18.63	17.29	
14 境界上顎幅	30~31	7.32	5.88	6.13	7.33	
14 境界上顎高	29~30	5.91	4.62	4.34	5.51	

頭巾部の下端までの距離

<上顎骨の計測について>

- 1 全長（上顎頭の後端頭部～内顎頭の下端までの長さ）骨盤に平行に計測
- 2 上顎頭大部（頭巾部の上端～内顎頭の下端までの長さ）骨盤に平行に計測
- 3 上顎頭後端（上顎頭の後端頭部～上顎頭の後端までの長さ）
- 4 上顎頭幅（上顎頭頭部の外端～小輪頭の内顎頭までの最大幅）
- 5 上顎頭大部（上顎頭の外端頭部～小輪頭の内顎頭までの最大幅）
- 6 大顎頭高さ（大顎頭の下端頭部～小輪頭の内顎頭までの長さ）
- 7 頭巾部後端（頭巾部の下端頭部の外端までの距離）骨盤に直角に計測
- 8 下顎頭大部幅（外端頭部の外端頭部～内顎頭の下端までの最大幅）
- 9 頭巾部後端（頭巾部の下端頭部の外端頭部の直角に内顎頭に近づくらんとする直角～内顎頭までの長さ）
- 10 頭巾部頭高さ
- 11 内顎頭後端（内顎頭頭部の後端～後端までの距離）
- 12 外顎頭後端（外顎頭頭部の後端～後端までの距離）
- 13 境界上顎幅（境界上の頭の内外顎頭間距離）
- 14 境界上顎高（境界上の頭の上顎頭間距離）

頭巾部の下端までの距離

付表25 イヌの椎骨 計測表

計測項目	単位 mm mm(%)	東洋犬			(参考値)	
		東洋犬			鹿角1号犬	鹿角2号犬
		30	33	35		
1 全長	1~2	142.49	141.46	—	132.11	
2 上顎頭大部	3~4	15.49	15.85	16.12	15.13	
3 上顎頭後端	3~4	11.94	10.64	11.36	9.91	
4 下顎頭小輪	9~10	12.40	12.35	12.19	12.29	
5 眼窓厚	10~	6.38	6.48	6.38	5.76	
6 頭巾部後端	12~13	13.47	13.66	—	12.89~a	
7 頭巾部頭	14~	8.12	8.17	—	7.54	
8 下顎頭大部	15~16	21.56	21.32	22.63	19.87	
9 下顎幅	17~18	12.48	11.96	12.68	11.29	

頭巾部の下端までの距離

<椎骨の計測について>

- 1 全長（頭巾部の後端頭部～系状突起頭部下端）骨盤に平行に計測
- 2 上顎頭大部（頭巾部の上端～内顎頭の下端までの長さ）骨盤に直角に計測
- 3 上顎頭後端（上顎頭の後端頭部～上顎頭の後端までの長さ）
- 4 下顎頭大部（頭巾部の外端頭部～小輪頭の内顎頭までの最大幅）
- 5 下顎頭小輪（頭巾部の外端頭部の小輪頭）
- 6 頭巾部後端（頭巾部の後端頭部の外端頭部）
- 7 頭巾部頭（頭巾部の頭の内外顎頭間距離）
- 8 下顎頭大部幅（外端頭部の外端頭部～内顎頭の下端までの距離）
- 9 下顎頭後端（外端頭部の後端～後端までの距離）
- 10 下顎頭大部（外端頭部の後端～後端までの距離）
- 11 下顎頭小輪（外端頭部の後端頭部～後端までの距離）
- 12 下顎頭後端（外端頭部の後端～後端までの距離）
- 13 境界上顎幅（境界上の頭の内外顎頭間距離）
- 14 境界上顎高（境界上の頭の上顎頭間距離）

頭巾部の下端までの距離

付表36 イヌの尺骨 計測表

(参考資料)

計測項目	資料	東北大		東井1号犬	東井2号犬
		30 計測点\	31		
1 全長	1-2	147.18	166.52	173.55	156.11
2 体前後径	3-4	22.06	21.51	23.59	21.23
3 体前後幅	3-6	13.13	13.16	13.25	12.49
4 体前後深	2-6	21.32*	21.03	20.29	18.36
5 体中央前後幅	9-10	8.02★	7.19★	—	6.02★
6 下端最大前後幅	11-12	—	9.29	8.87	7.43
7 縦厚	13-14	10.79	11.32	13.05	10.53
8 深さ切端直徑	3-7	—	15.72	18.09	16.24
9 深さ切端最大厚	19-18	15.34	15.17	18.34	14.87
10 総骨切端直徑	19-7	16.46	15.67		

数値の上は絶対小で、復形類 数値の+は絶対大

両耳は前交叉部での計測値 ★は変化点での計測値

<尺骨の計測について>

- 1 全長 (対側の頭部～茎状突起の下端まで)
- 2 体前後径 (対側の頭部～体前後幅までの前後径)
- 3 体前後幅 (深さ切端の中央縫～体前後幅までの前後幅)
- 4 体前後深 (内側的状況起端～体前後幅までの前後深)
- 5 体中央前後幅 (体中央における前後幅)
- 6 下端最大前後幅 (下端の頭部～外側的状況起端までの直徑)
- 7 縦厚 (対側内外厚径)
- 8 深さ切端直徑 (対側の頭部～内側的状況突起の前端までの直徑)
- 9 深さ切端最大厚 (外側的状況起端～深さ切端の外縫までの最大厚)
- 10 総骨切端直徑 (外側的状況起端～内側的状況起端までの直徑)

付表37 イヌの橈側手根骨 計測表

(参考資料)

計測項目	資料	東北大		東井1号犬	東井2号犬
		36 計測点\	38		
1 最大横径	3-4	19.94	20.71	18.81	

付表38 イヌの第3手根骨 計測表

(参考資料)

計測項目	資料	東北大		東井1号犬	東井2号犬
		38 計測点\	36		
1 最大前後径	1-2	12.91	12.92	12.92	12.06
2 最大横径	3-4	7.21	7.19	6.93	
3 最大高径	5-6	7.98	8.24	7.55	

付表39 イスの第1中手番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	1-2	17.89	17.71	17.15
2. 上端幅	0-0	4.39	4.46	3.92
3. 上端幅後傾	0-7	4.45	4.64	4.48
4. 中端幅	0-0	2.77	2.37	2.88
5. 下端幅前傾	10-15	2.38	2.33	2.38
6. 下端幅	10-15	4.01	4.04	4.12
7. 下端幅後傾	10-15	4.35	4.54	4.42

<第1中手番の計測について>

- 1 全長 (上端点より下端点までの最大長)
- 2 上端幅 (上端内外側面)
- 3 上端幅後傾
- 4 中端幅 (中端点より計測)
- 5 下端幅前傾 (下端内外側面)
- 6 下端幅 (下端内外側面)
- 7 下端幅後傾

付表40 イスの第2中手番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	1-2	47.62	47.62	49.20
2. 上端幅	0-0	5.98	5.98	5.51
3. 上端幅後傾	0-7	5.95	5.95	5.65
4. 中端幅	0-0	6.09	6.09	<5.78>
5. 下端幅前傾	10-15	5.65	5.65	<5.01>
6. 通計座高最大値	2-2	98.79	98.79	—
7. 下端幅	10-15	7.29	7.29	7.26
8. 下端幅後傾	10-15	8.03	8.03	7.35

<第2中手番の計測について>

- 1 全長 (上端点より下端点までの最大長) 各面図より計測
- 2 上端幅 (上端内外側面) 面積法を手順にして上端から計測
- 3 上端幅後傾 (外側面より計測)
- 4 中端幅 (中端点より計測)
- 5 下端幅前傾 (内側面より計測)
- 6 中端幅 (中端点より計測)
- 7 通計座高最大値 (S)
- 8 下端幅 (下端内外側面)
- 9 下端幅後傾

付表41 イスの第3中手番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	1-2	54.95	55.29	—
2. 上端幅	0-0	7.01	7.26	—
3. 上端幅後傾	0-7	10.41	9.46	—
4. 中端幅	0-0	5.79	6.42	—
5. 中端幅後傾	10-15	5.41	<4.89>	—
6. 下端幅前傾	3-3	8.18	7.76	—
7. 下端幅	12-15	7.29	6.76	—
8. 下端幅後傾	14-15	7.81	8.29	—

<第3中手番の計測について>

- 1 全長 (上端点より下端点までの最大長) 本測定より計測
- 2 上端幅 (上端内外側面) 本測定より計測
- 3 上端幅後傾 (内側面を手順にして上端から計測)
- 4 中端幅 (中端点より計測)
- 5 中端幅後傾 (内側面より計測)
- 6 下端幅前傾 (S)
- 7 下端幅 (下端内外側面)
- 8 下端幅後傾

付表42 イスの第4中手番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	1-2	59.21	55.29	52.44
2. 上端幅	0-0	6.01	7.26	5.91
3. 上端幅後傾	0-7	9.88	9.42	8.58
4. 中端幅	0-0	5.79	5.54	5.22
5. 中端幅後傾	10-15	5.77	5.11	4.86
6. 通計座高最大値	3-3	—	7.54	4.79
7. 下端幅	12-15	—	8.03	8.33
8. 下端幅後傾	14-15	—	8.14	7.32

<第4中手番の計測について>

- 1 全長 (上端点より下端点までの最大長)
- 2 上端幅 (上端内外側面) 面積法を手順にして上端から計測
- 3 上端幅後傾 (内側面より計測)
- 4 中端幅 (中端点より計測)
- 5 中端幅後傾 (内側面より計測)
- 6 通計座高最大値 (S)
- 7 下端幅 (下端内外側面)
- 8 下端幅後傾

付表43 イスの第3基部番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	0-0	58.29	18.91	17.87
2. 上端幅	0-0	2.94	6.67	—
3. 上端幅後傾	0-7	2.85	6.94	6.82
4. 中端幅	0-0	5.79	5.22	4.73
5. 中端幅後傾	10-15	5.26	5.21	5.21
6. 下端幅	0-0	6.26	6.34	5.85
7. 下端幅後傾	10-15	5.87	5.19	4.81

<第3基部番の計測について>

- 1 全長 (上・下端点より最大長) 下面に垂直に計測
- 2 上端幅 (上端内外側面)
- 3 上端幅後傾
- 4 中端幅
- 5 中端幅後傾
- 6 下端幅 (下端内外側面)
- 7 下端幅後傾

付表44 イスの第3基部番 計測表 (参考資料)

計測項目	割合 計測点(%)	実測大 きさ	既定1号大 きさ	既定2号大 きさ
1. 全長	1-2	20.94	20.95	20.90
2. 上端幅	0-0	2.98	2.33	6.05
3. 上端幅後傾	0-7	2.88	2.19	6.98
4. 中端幅	0-0	5.69	5.06	4.70
5. 中端幅後傾	10-15	5.08	4.56	4.74
6. 下端幅	10-15	4.29	4.49	5.94
7. 下端幅後傾	10-15	4.05	5.25	4.80

付表45 イスの背骨 計測表

計測項目	資料	実測式		(参考資料)			
		L	R	L	R	L	R
1 実背筋	1-2	122.68	115.48	136.46	136.68	123.56	122.77
2 假背筋	3-4	72.74	65.73	72.38	73.06	67.25	68.53
3 固定頭部の頭上より坐骨筋膜縫までの距離	3-4	—	—	52.24	52.44	43.72	44.56
4 細背筋の長さ	3-4	—	—	42.17	42.17	—	37.67
5 假背筋大筋	7-8	38.58	—	45.49	45.81	42.25	43.16
6 假背筋大筋	6-7	12.97	11.33	10.82	11.56	9.41	9.76
7 假背筋小筋	13-14	18.92	18.01	17.56	17.59	16.45	16.79
8 假背筋頭部縫合部	14-15	8.22	8.04	8.05	8.02	7.77	7.54
9 假背筋頭部縫合部	3-5	18.91	18.87	21.36	21.13	18.59	17.99
10 假背筋頭部縫合部	18-19	19.59	19.02	18.35	18.79	18.05	—
11 假背筋小筋	21-22	17.75	—	15.52	15.87	14.19	14.47
12 固定頭部の坐骨筋膜縫合部	16-17	27.67	29.00	—	28.97	25.31	25.53
13 固定頭部大筋	20-21	—	21.21	22.77	22.49	19.86	20.63
14 假背筋頭部小筋	27-28	—	—	7.26	—	8.40	8.13
15 假背筋頭部小筋	28-29	—	—	7.55	7.64	6.56	5.77
16 假背筋	17-18	—	—	45.22	45.28	42.71	42.95
17 假背筋大筋	8-9	—	—	48.41	48.72	45.25	46.09
18 假背筋内側筋	18-19	—	—	35.91	35.87	32.12	33.01
19 假背筋外側筋	32-33	—	—	10.98	10.24	8.04	8.57
20 假背筋	34-35	—	—	26.69	28.22	25.41	26.16
21 假背筋外側筋	31-32	—	—	29.71	—	29.43	—
22 左右坐骨筋膜縫合部	36-37	—	—	47.51	—	45.72	—
23 左右固定頭部の坐骨筋膜縫合部	3-4	—	—	71.93	—	67.18	—
24 左右坐骨筋膜縫合部	8-9	—	—	85.46	82.49	—	—

< 背筋の計測について >

- 1 実背筋 (固定頭部の頭縫より坐骨筋膜の頭縫後点までの長さ)
- 2 假背筋 (実背筋の頭縫より腰骨筋膜縫まで長さ)
- 3 固定頭部の頭縫より坐骨筋膜縫までの距離 (実背筋の頭縫より坐骨筋膜縫までの距離)
- 4 假背筋大筋 (假背筋の軸骨筋膜縫頭縫より坐骨筋膜縫までの長さ)
- 5 假背筋大筋 (腰骨筋膜縫より腰骨筋膜縫までの最大幅)
- 6 假背筋大筋
- 7 假背筋小筋 (内側筋から計測)
- 8 假背筋小筋 (外側筋から計測)
- 9 假背筋頭部の最小筋
- 10 実背筋頭部 (実背筋頭部縫合部)
- 11 假背筋小筋 (腰骨筋膜縫の中央筋より腰骨筋膜縫までの最小幅)
- 12 固定頭部の頭縫大筋 (腰骨筋膜縫頭縫大筋)
- 13 固定頭部の大筋 (腰骨筋膜縫内側筋大筋)
- 14 固定頭部の最小筋 (腰骨筋膜縫頭縫まで) の最小幅
- 15 实背筋の公差範囲 (腰骨筋膜縫頭縫より腰骨筋膜縫頭縫に沿る最小幅)
- 16 实背筋 (腰骨筋膜の頭縫より坐骨筋膜の頭縫後点までの長さ)
- 17 假背筋大筋 (腰骨筋膜の外縫より腰骨筋膜縫までの最大幅)
- 18 假背筋内側筋 (坐骨筋膜内側筋と腰骨筋膜縫より坐骨筋膜外縫までの距離)
- 19 假背筋外側筋 (腰骨筋膜の外縫より腰骨筋膜縫までの長さ)
- 20 假背筋外側筋 (左の坐骨筋膜の腰骨筋膜縫頭縫)
- 21 假背筋外側筋 (左の坐骨筋膜の腰骨筋膜縫頭縫)
- 22 左右坐骨筋膜縫合部
- 23 左右固定頭部の坐骨筋膜縫合部 (左の坐骨筋膜の腰骨筋膜縫頭縫頭縫)
- 24 左右坐骨筋膜縫合部 (右の坐骨筋膜頭縫頭縫)

付表46 イヌの大腿骨 計測表

計測項目	資料	直径大			毫秒1号尺	毫秒2号尺
		mm	cm	in		
		mm	cm	in	mm	cm
1 全長t	1-2	156.65	15.65	47	156.37	147.75
2 全長日	10-10	157.95	15.79	55	160.26	148.75
3 上端頭大横幅	2-6	24.55*	2.45	95	23.79	21.54
4 働幅	2-6	16.22	1.62	45	17.11	15.71
5 頭幅	3-9	15.62	1.56	59	16.09	15.22
6 下口頭の上端幅	2-5	8.86	0.88	35	8.75	10.58
7 中子点直徑	10-14	12.95	1.29	37	—	—
8 頭中央横幅	10-10	12.64	1.26	49	—	12.94
9 下端頭大幅	17-18	26.13	2.61	97	26.27	25.82
10 内側頭前後幅	21-22	28.52*	2.85	94	21.05	28.48
11 各頭部直徑	10-10	28.66	2.86	94	30.35	29.22
12 物頭頭大幅	29-30	8.94	0.89	36	9.53	9.06

豪秒の+/-は誤差±

<太腿骨の計測について>

- 1 全長 (大軸子直角より外側脚下端までの直距) 骨長軸に平行に計測
- 2 全長日 (大筋頭直角点より内側脚下端までの直距) 骨長軸に平行に計測
- 3 上端頭大横幅 (大筋頭の頭端より大軸子直角までの直距) 骨軸に直角に、後面から計測
- 4 働幅 (大筋頭端より頭端直距) 骨軸上り計測
- 5 頭幅 (大筋頭の頭端直距)
- 6 下口頭の上端幅 (大筋頭直角点より大軸子直角までの直距的幅)
- 7 中子点直徑 (中子点における範囲とより身長直徑)
- 8 頭中央横幅 (頭中央部における直徑)
- 9 下端頭大幅 (内側脚上端より外側脚頭端までの直距) 骨長軸に平行に計測
- 10 内側頭前後幅 (内側脚頭端より外側脚頭端までの直距) 骨長軸に平行に計測
- 11 内側頭直徑 (内側脚頭端より外側脚頭端までの直距)
- 12 物頭頭大幅 (内側脚頭端より外側脚頭端における頭端直距最大幅)

付表47 イヌの脛骨 計測表

計測項目	資料	直径大			毫秒1号尺	毫秒2号尺
		mm	cm	in		
		mm	cm	in	mm	cm
1 全長	1-2	76.15	7.60	71	157.18	146.21
2 上端頭大横幅	6-7	29.53	3.0	36	32.82	29.39
3 上端頭	6-9	26.86*	2.68	95	26.11	26.26
4 頭中央横幅	10-12	—	—	—	12.45	13.58
5 頭中央	10-13	12.06	1.20	49	—	11.89
6 下端頭大幅	10-10	—	—	—	20.31	19.35
7 下端頭大横幅	17-18	—	—	—	14.44	13.82

豪秒の+/-は誤差±

豪秒の+/-は誤差±

<脛骨の計測について>

- 1 全長 (内側脚頭端の直角～内側下端) 骨長軸に平行に計測
- 2 上端頭大横幅 (頭部の頭端～外側頭の後端までの直距) 上端の後面に平行に計測
- 3 上端頭大横幅 (内側頭の内側頭～外側頭の内側頭までの直距)
- 4 頭中央横幅
- 5 頭中央
- 6 下端頭大幅 (内側の内側頭～骨を切離す外側頭頭端までの直角直距) 骨長軸に平行に計測
- 7 下端頭大横幅 (下端の内側頭頭端～骨を切離す外側頭頭端までの直距) 下端の前面に平行に計測

付表48 イヌの腓骨 計測表

計測項目	資料	直径大			毫秒1号尺	毫秒2号尺
		mm	cm	in		
		mm	cm	in	mm	cm
1 全長	1-2	744.46	74.44	19	146.97	134.94
2 上端幅	2-5	—	—	—	8.41	8.41
3 上端頭	3-5	—	—	—	4.66	4.54
4 頭中央横幅	6-7	—	—	—	2.22	4.00
5 頭中央	6-7	—	—	—	—	2.81
6 頭中央	6-7	—	—	—	—	2.71
7 下端頭	7-8	—	—	—	2.01	2.36
8 下端幅	9-10	—	—	—	9.65	8.45
9 下端頭	11-12	—	—	—	—	—

<腓骨の計測について>

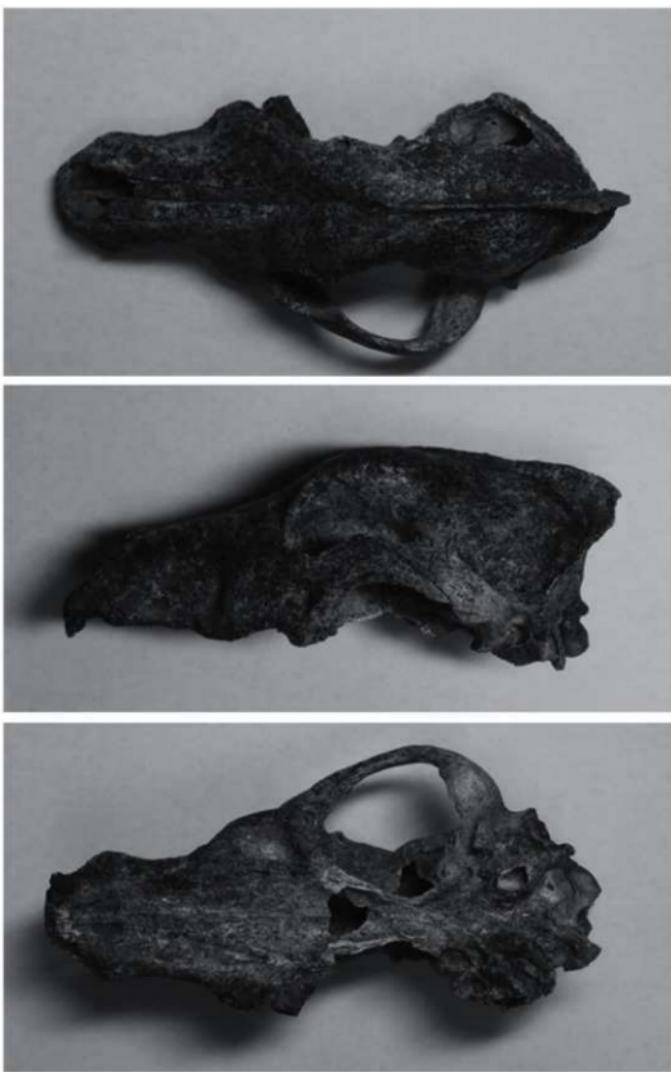
- 1 全長 (頭部の直角～遠位端の直角までの直角直距) 骨長軸に平行に計測
- 2 上端幅 (上端頭大横幅)
- 3 上端頭 (上端頭大横幅)
- 4 頭中央横幅
- 5 頭中央 (頭部と遠位端の変化点での)
- 6 頭中央
- 7 下端頭 (近位頭と遠位端の変化点での)
- 8 下端幅 (下端頭大横幅)
- 9 下端頭 (下端頭大横幅)

付表49 イヌの髕骨 計測表

計測項目	資料	直径大			毫秒1号尺	毫秒2号尺
		mm	cm	in		
		mm	cm	in	mm	cm
1 最大頭	1-2	14.70	1.47	55	15.24	14.70
2 最大幅	3-4	9.24	0.92	36	9.59	9.24
3 最大厚	5-6	6.64	0.66	26	7.22	6.64

<髕骨の計測について>

- 1 最大 (1頭端より下端までの最大直距)
- 2 最大幅 (中央部より外縫間頭最大幅)
- 3 最大厚 (中央中心点直距)



頭蓋骨 (1) 上面、左側面、底面 (約 2/3)

図版 1 東畠犬 頭蓋骨

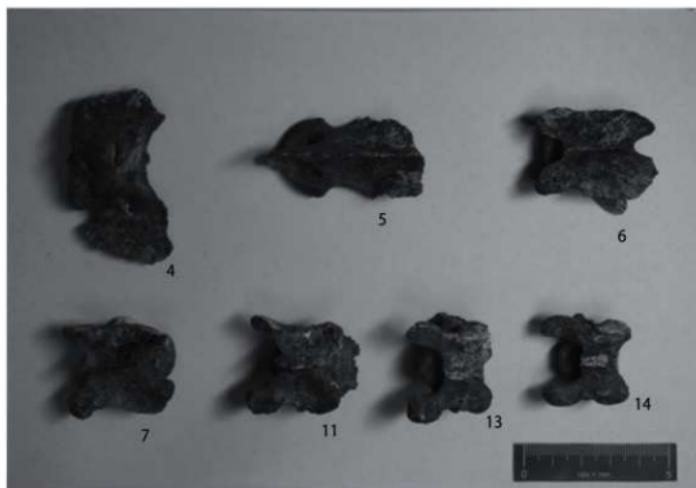


(a) 下顎骨 LR (2、3) 外側面 (約 2/3)



(b) 同上 内側面 (約 2/3)

図版 2 東細犬 下顎骨

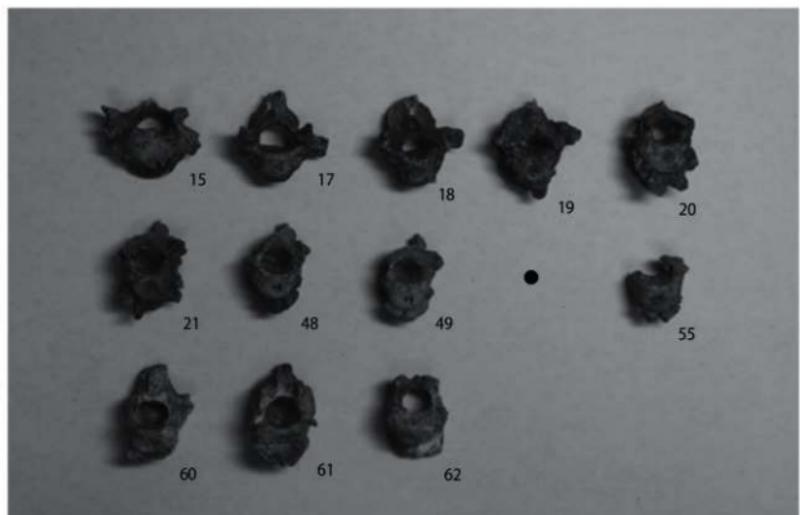


(a) 第1頸椎～第7頸椎 (4～7、11、13、14) 背側面 (約2/3)



(b) 第1頸椎、第3頸椎 尾側面 (4、6、7、11、13、14)、
第2頸椎 (5) 左側面 (約2/3)

図版3 東畠犬頸椎

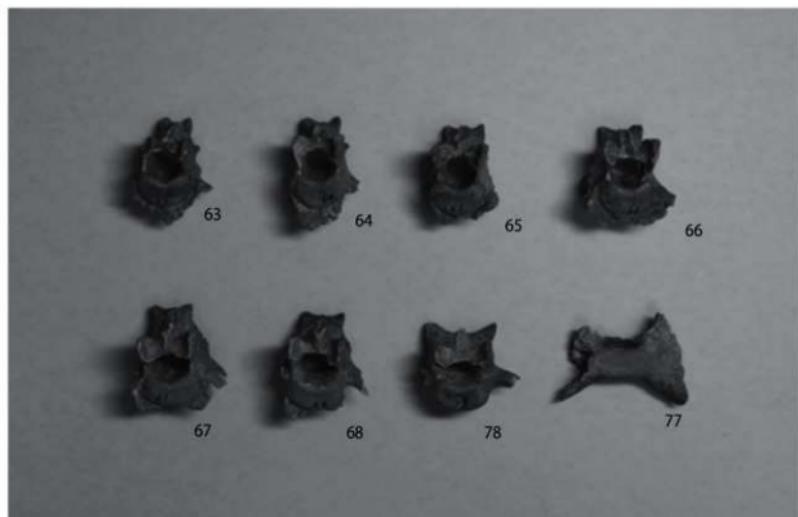


(a) 第1胸椎～第13胸椎 (15、17～21、48、49、55、60～62) 頭側面 (約2/3) 第9胸椎はなし



(b) 同上 尾側面 (約2/3) 第9胸椎はなし

図版4 東畑犬 胸椎



(a) 第1胸椎～第7腰椎、仙骨(63～68、78、77)頭側面(約2/3)



(b) 同上 尾側面(約2/3)

図版5 東畠犬 腰椎、仙骨

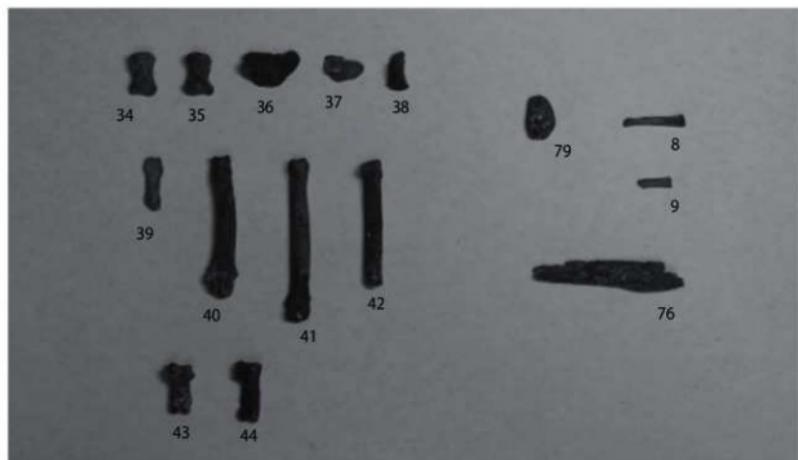


(a) 肩甲骨 LR (16・27・47, 12) 外側面、上腕骨 LR (28, 29) 外側面、
橈骨 LR (32, 33) 前面、尺骨 LR (30, 31) 外側面 (約 1/2)



(b) 寬骨 LR (73, 74) 腹側面、大腿骨 LR (69, 70) 前面、脛骨 LR (71, 72) 前面
腓骨 LR (75, 82) (約 1/2)

図版 6 東畠犬 前肢、後肢



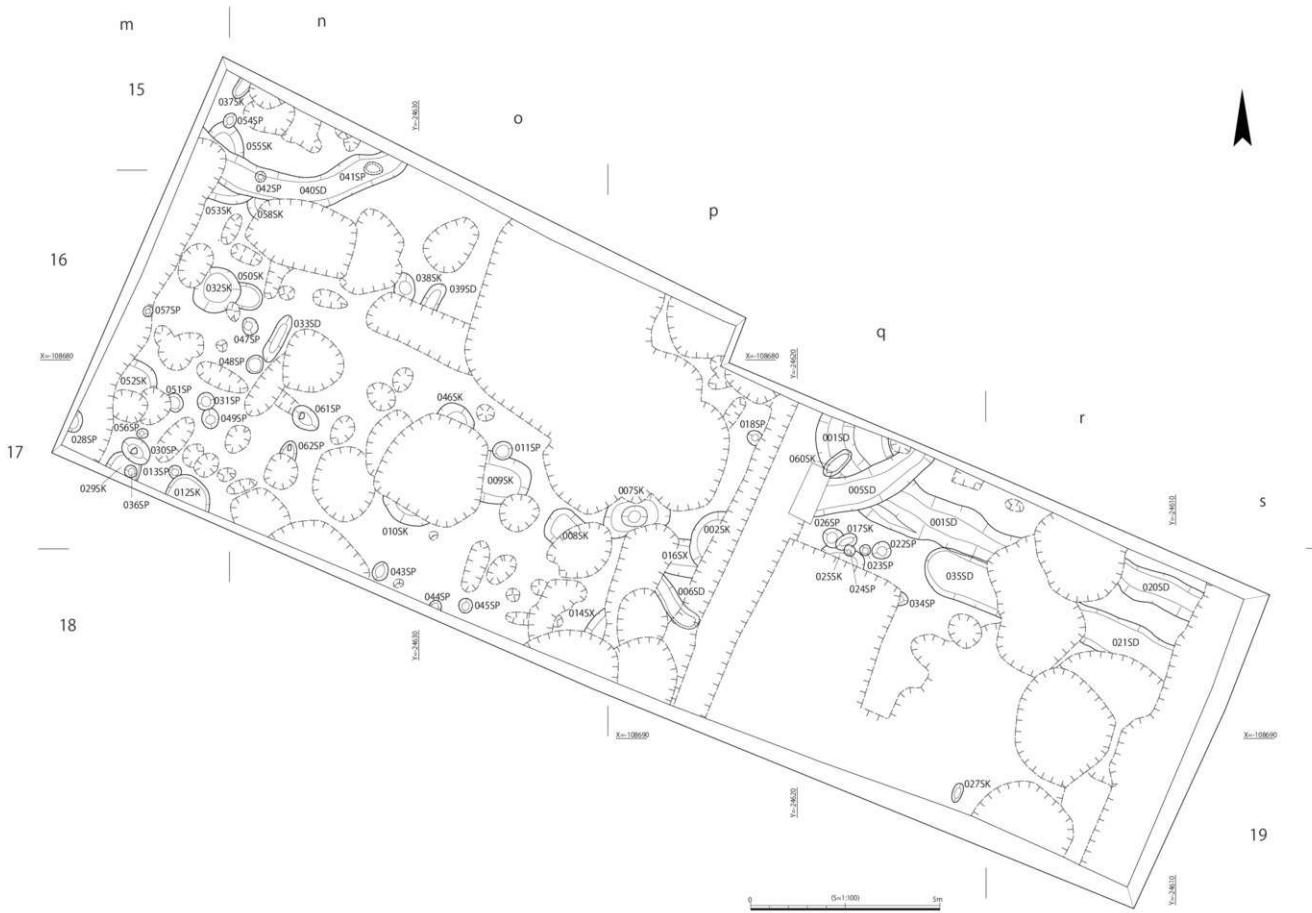
(a) 副手根骨 LR (34、35)、橈側手根骨 R (36)、尺側手根骨 R (37)、第3手根骨 R (38)、
第1～4中手骨 R (39～42)掌側面、第2・3基節骨 R (43、44)掌側面、膝蓋骨 (79)頭側面、
舌骨 (8、9)、陰莖骨 (76) (約2/3)



(b) 東晉犬 全身骨格 (体高約45cm)

図版7 東晉犬 前肢肢端、膝蓋骨、舌骨、陰莖骨、全身骨格

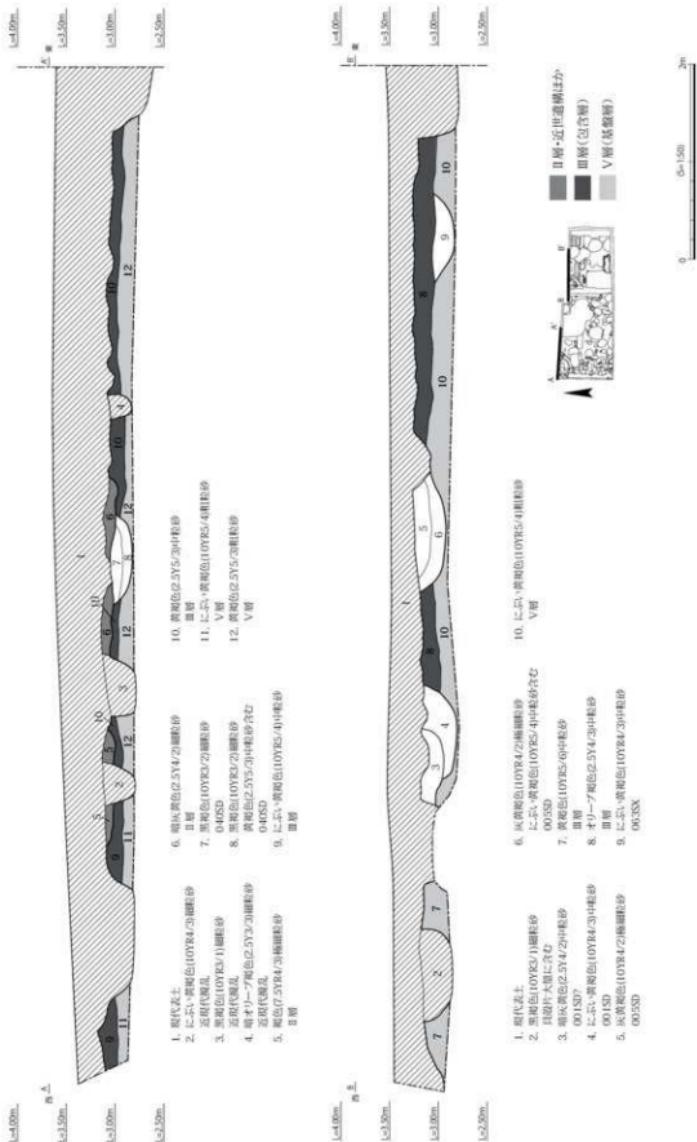
図版

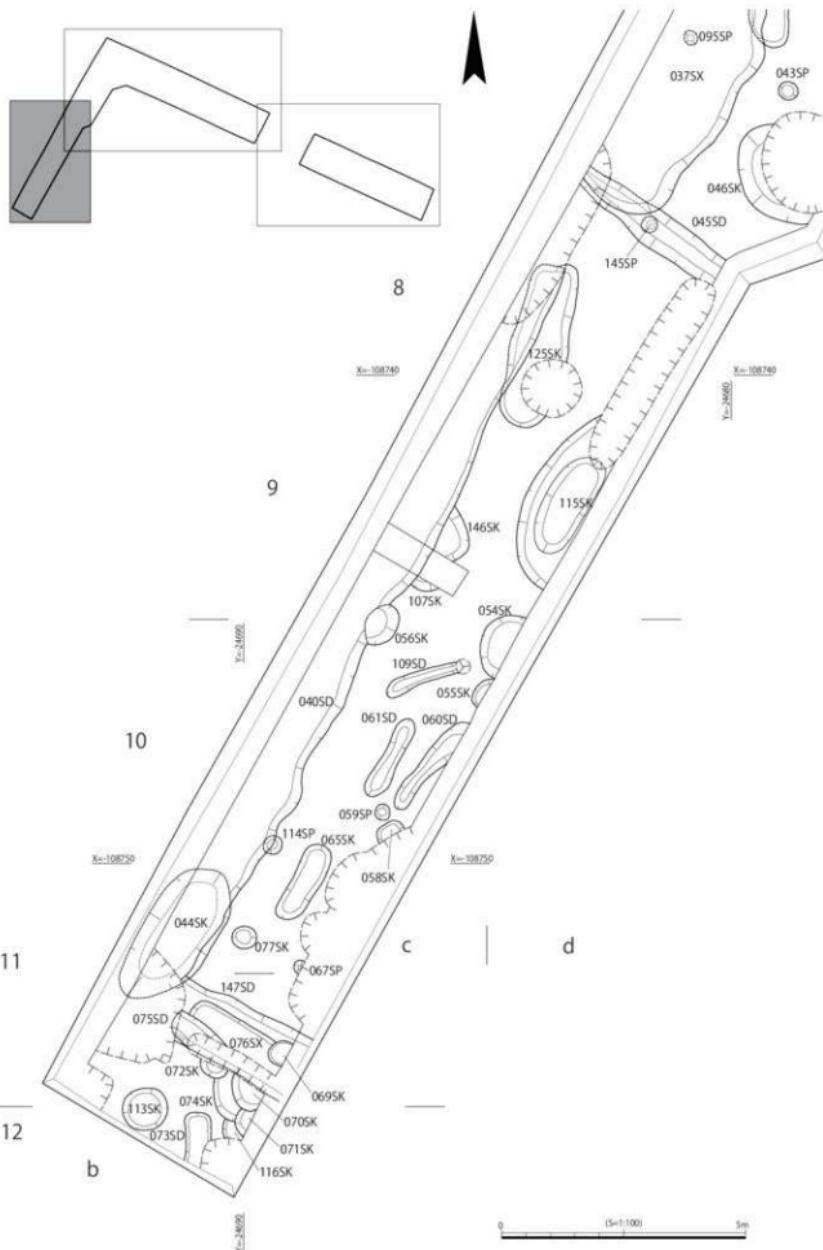


郷中遺跡 平面図 (S=1/100)

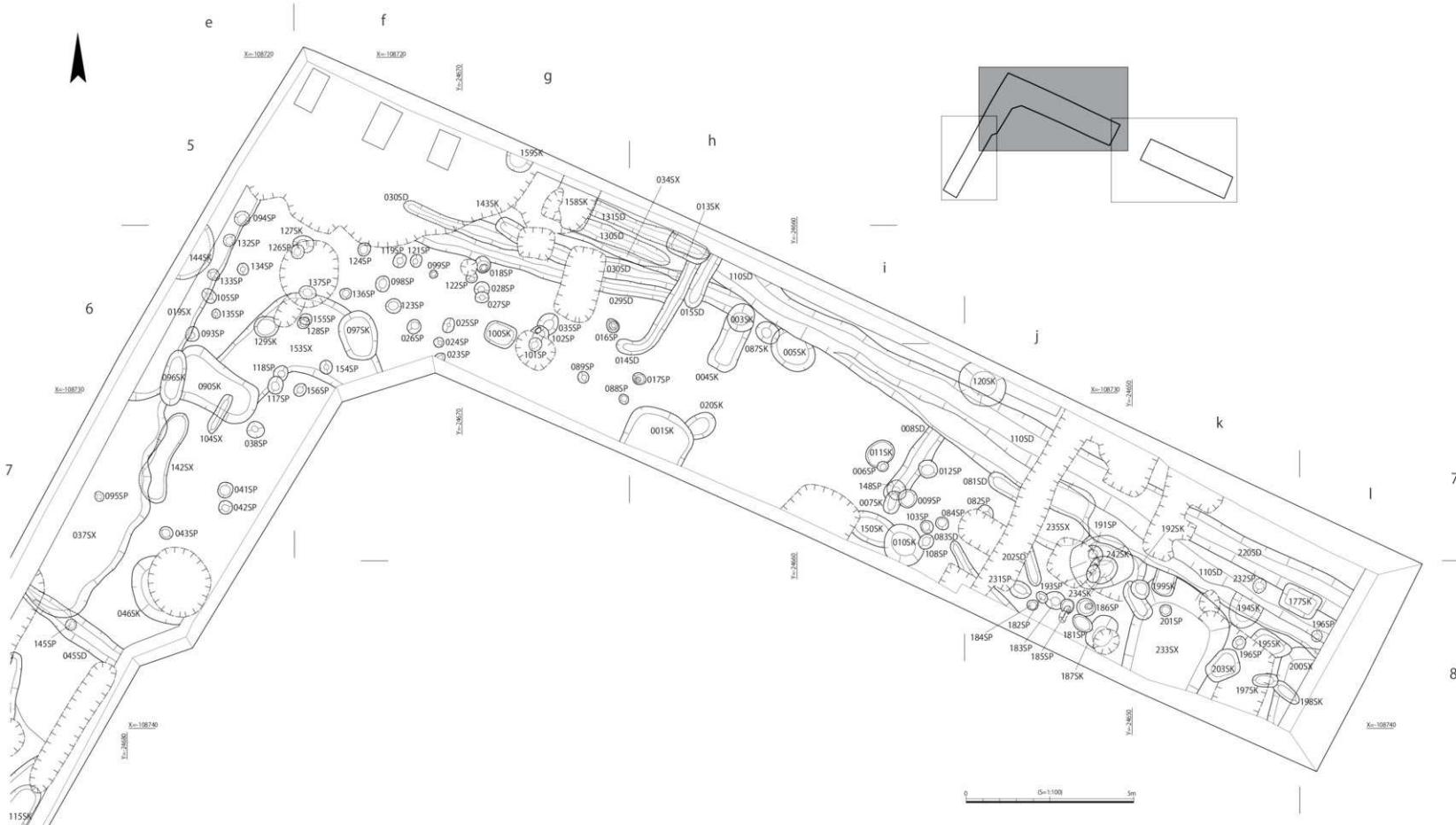
図版2 遺構 郷中遺跡(点一) 地点

郷中遺跡 断面図 (S=1/50)

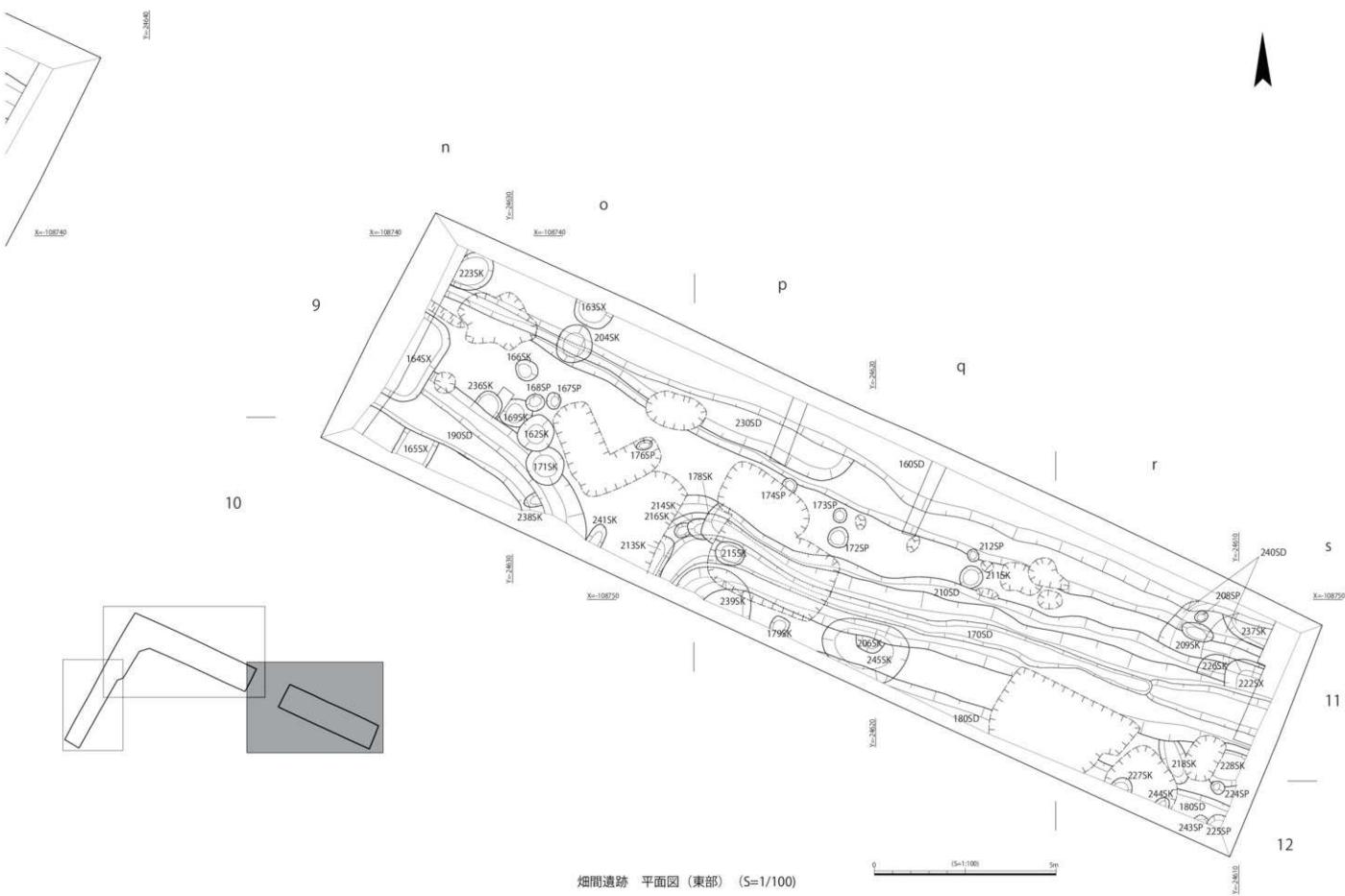


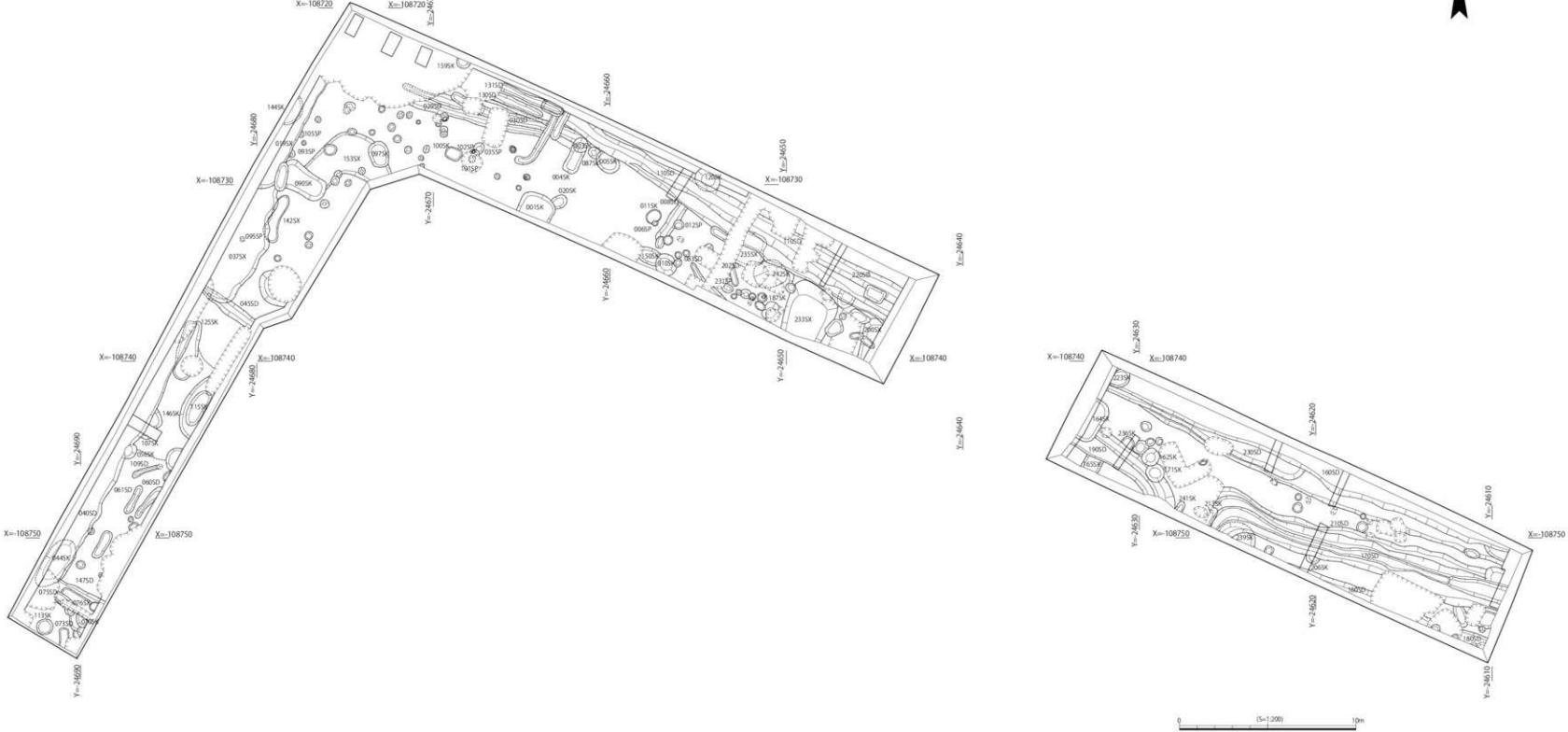


煙間遺跡 平面図（南西部）(S=1/100)



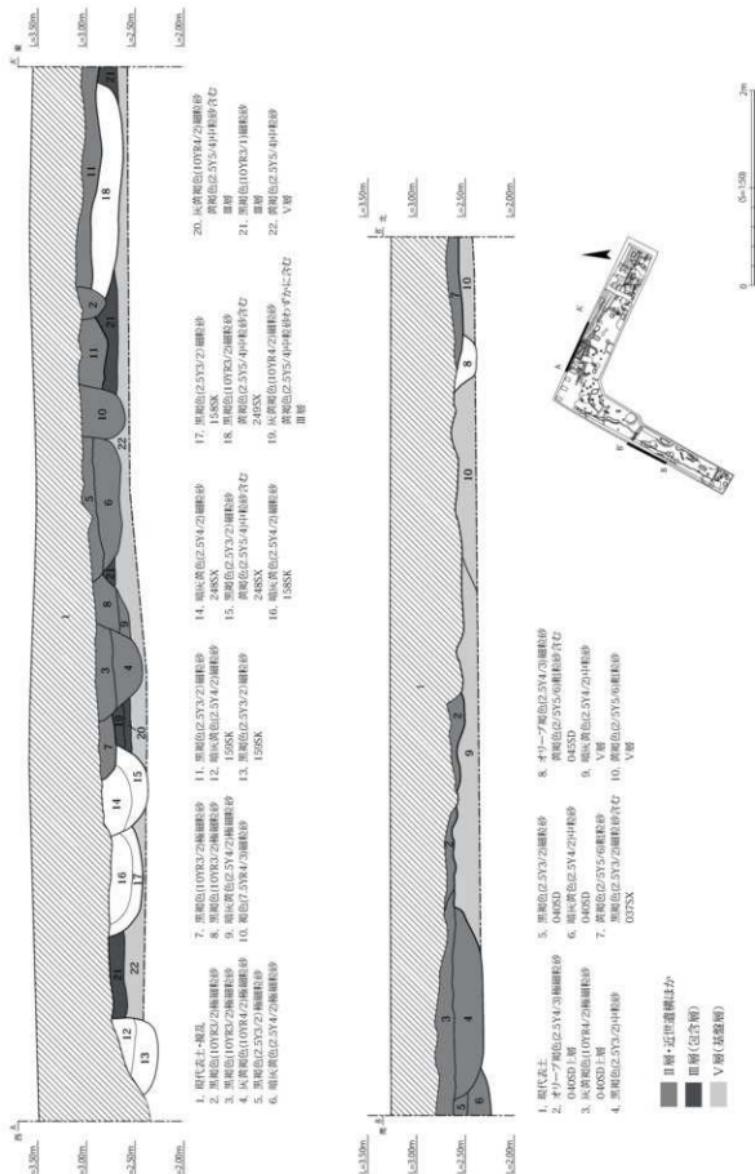
畠間遺跡 平面図（北西部）(S=1/100)

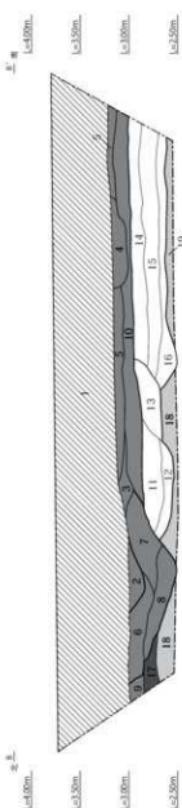
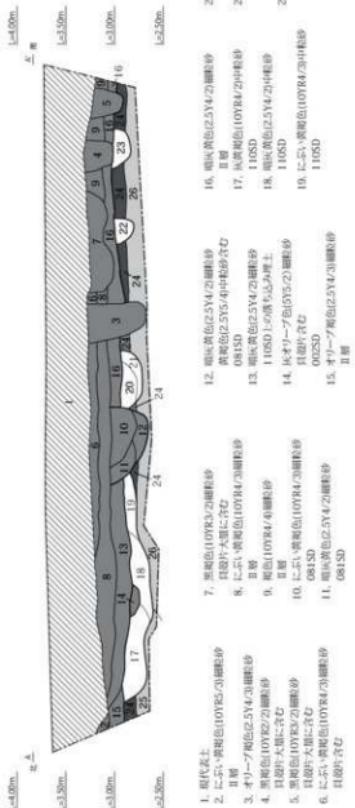




煙間遺跡 平面図 (S=1/200)

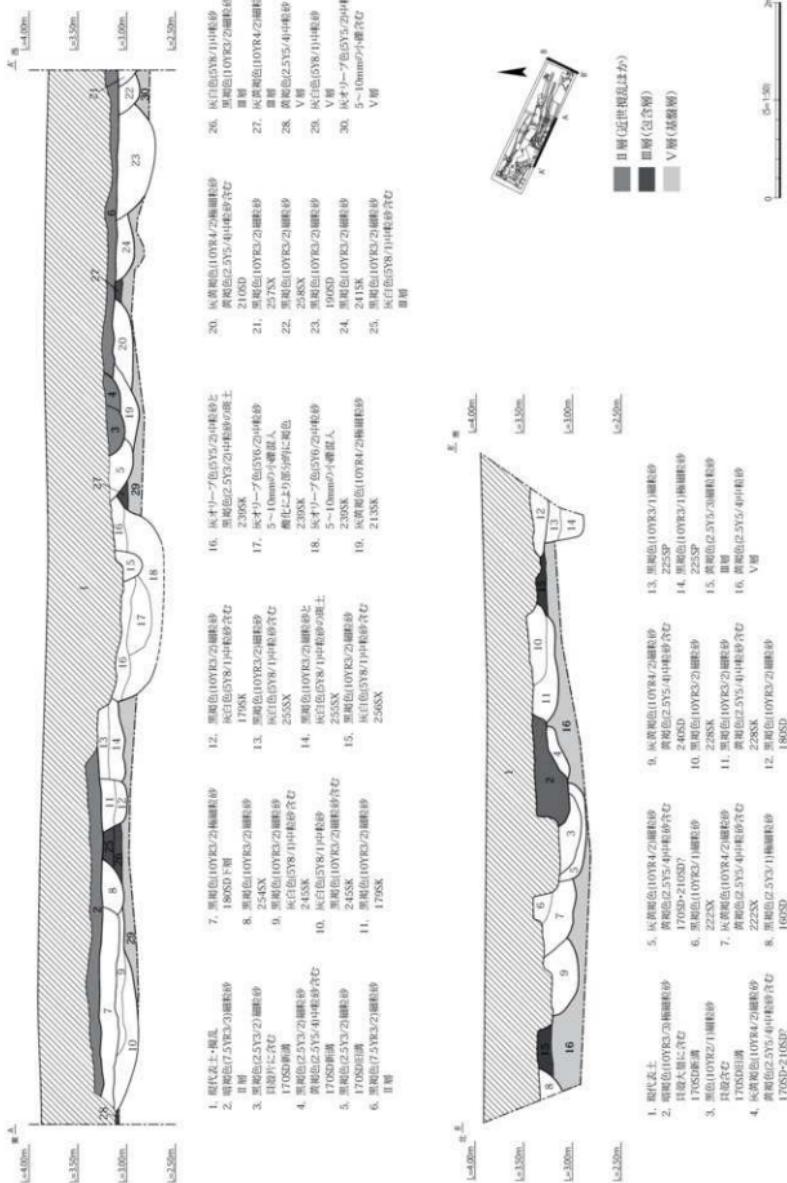
煙間遺跡 断面図 1 (5=1/50)





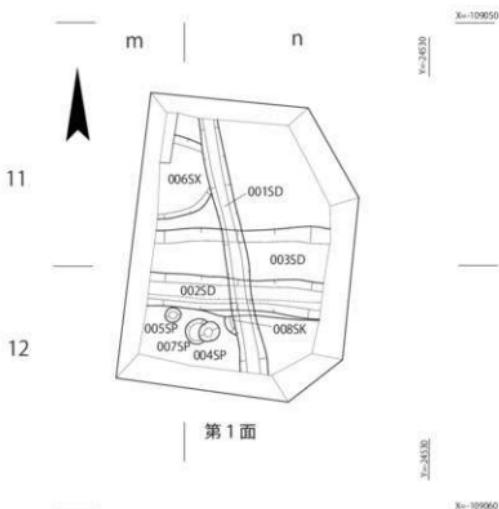
番間遺跡 断面図2 (S=1/50)

煙間遺跡 断面図 3 (5=1/50)

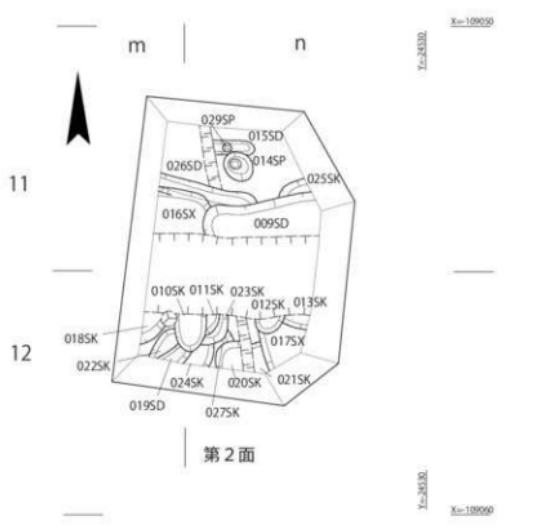


図版 10

遺構 東烟遺跡（3地点）



第1面

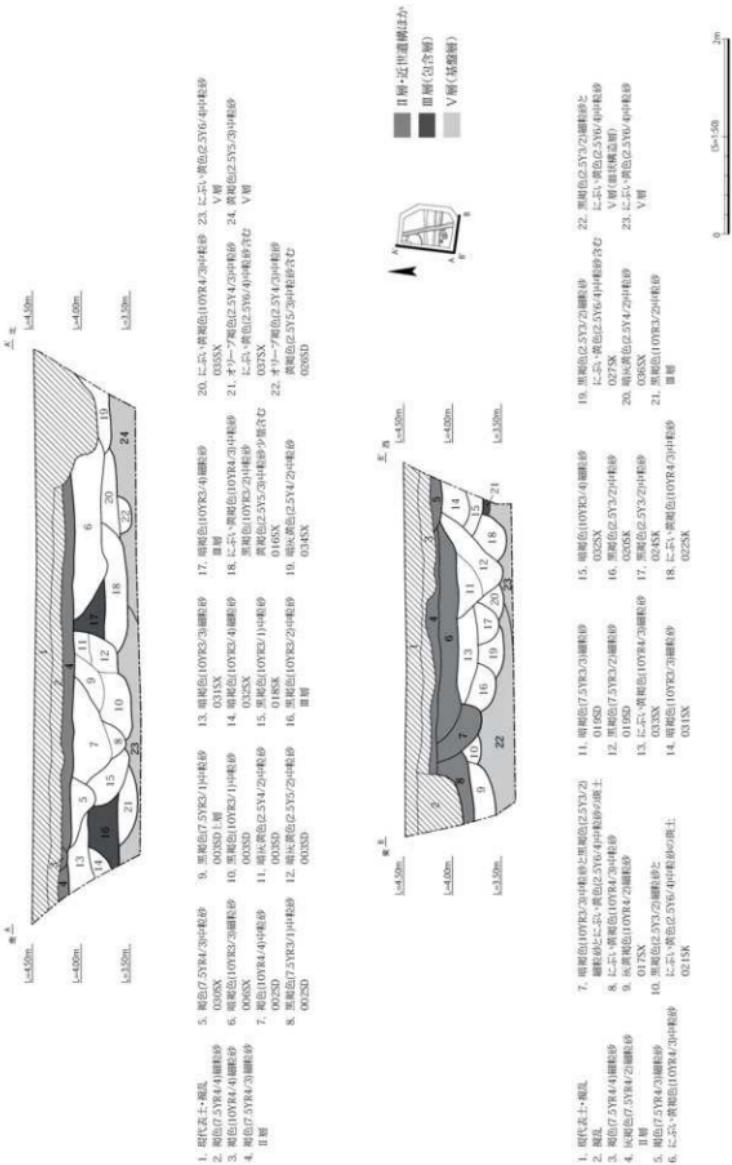


第2面

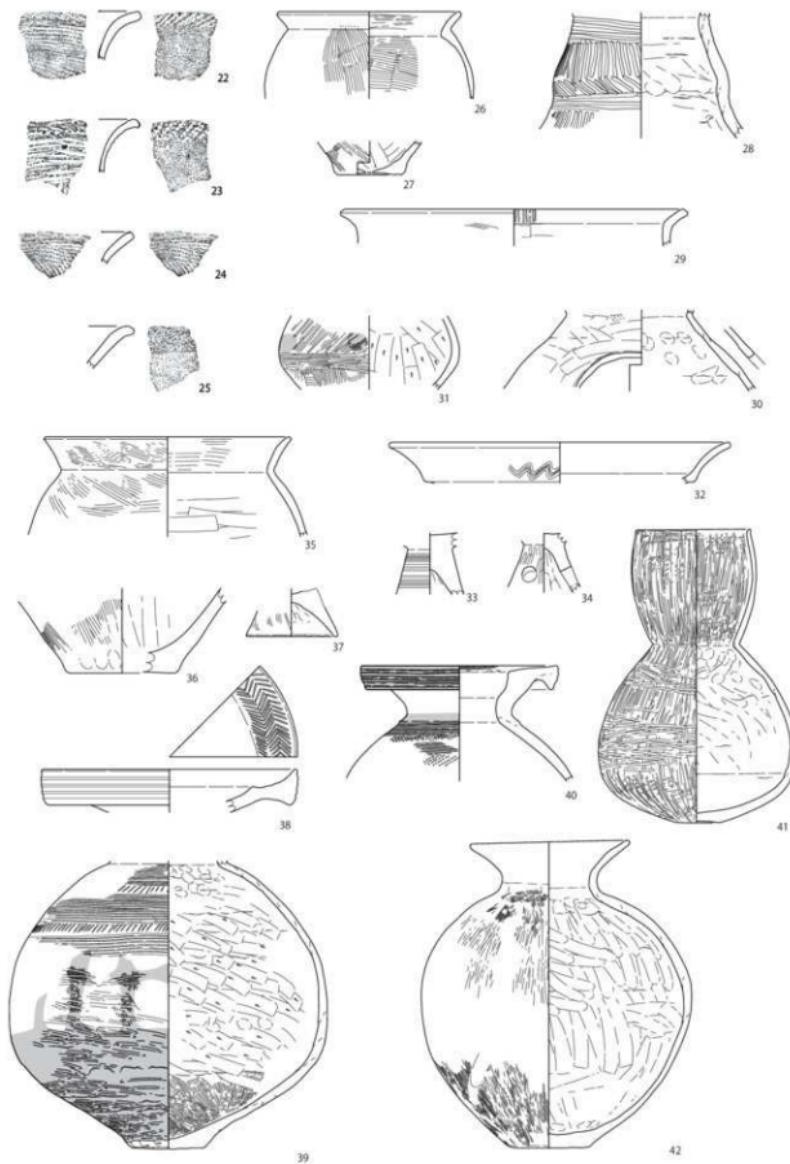
0 (S=1/100) 5m

東烟遺跡 平面図 (S=1/100)

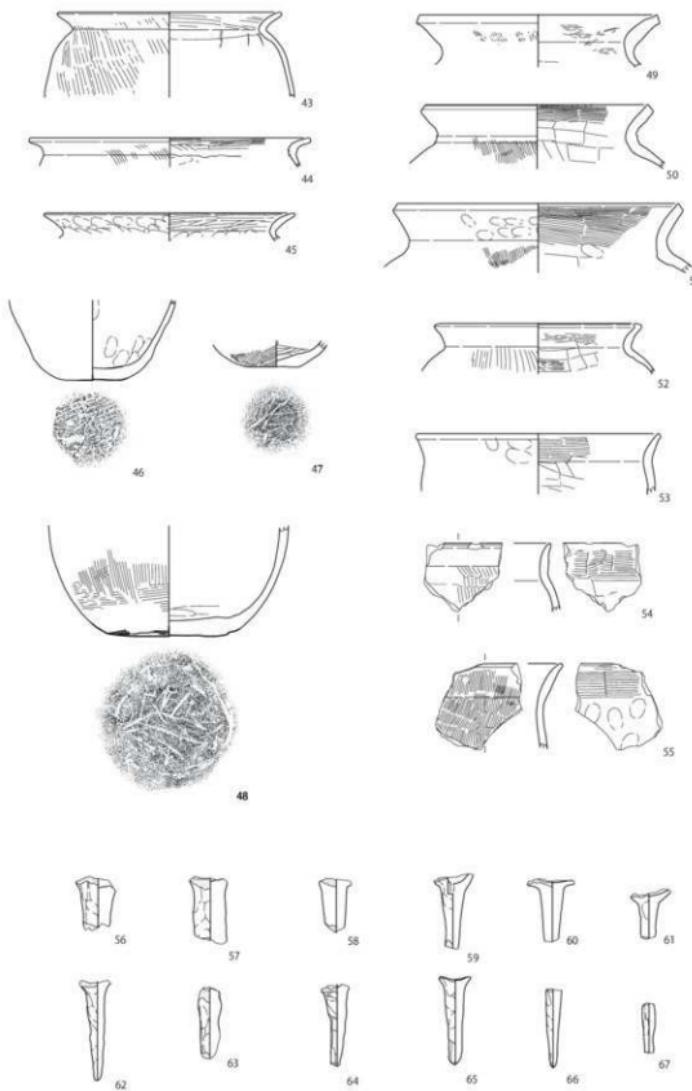
東烟遺跡 断面図 (S=1/50)



図版 12
遺物
弥生時代の土器

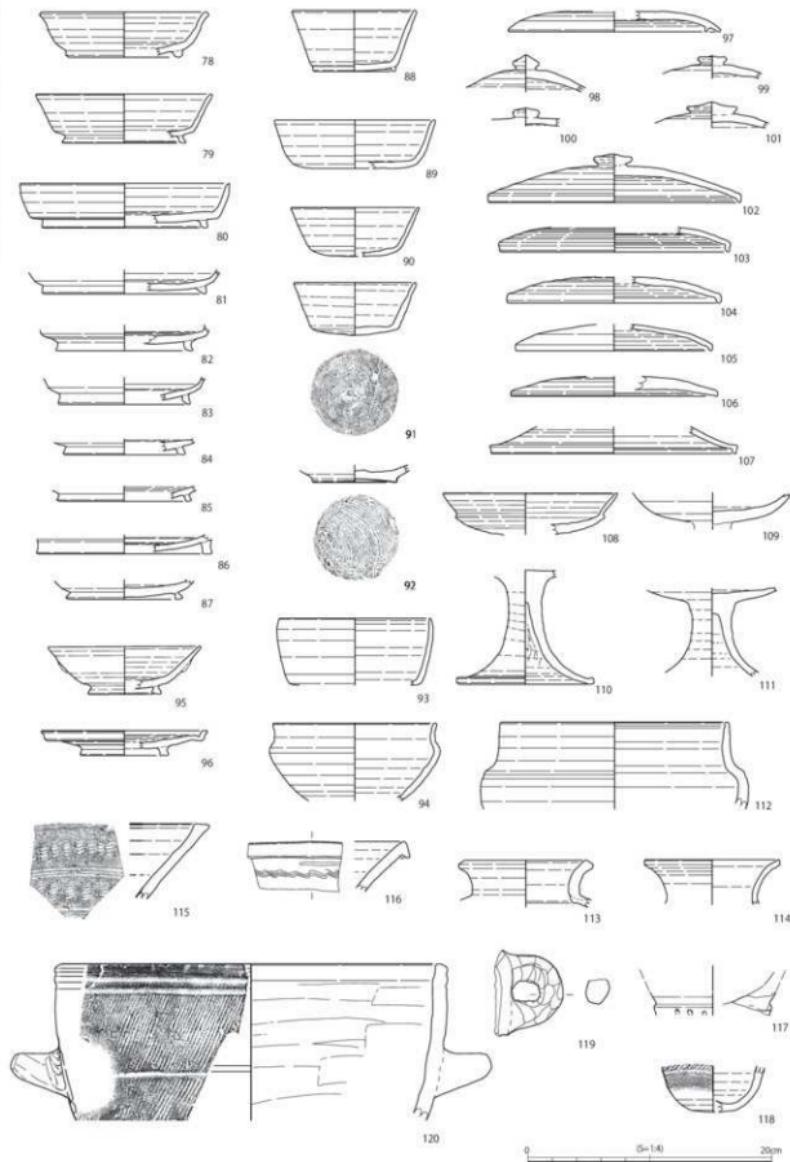


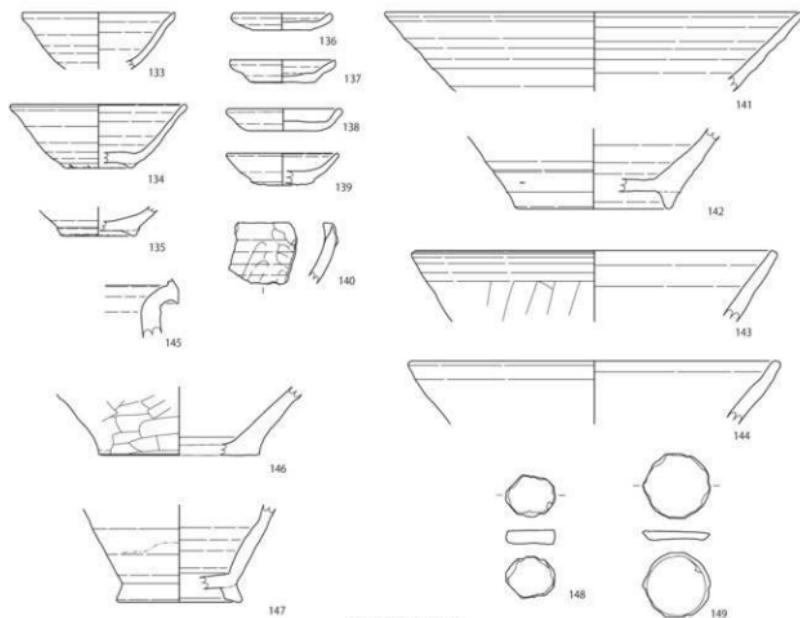
0 (5=1:4) 25cm



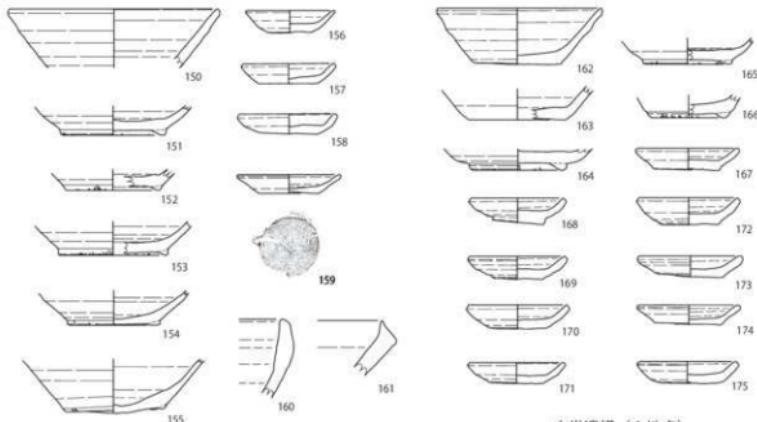
0 (5=1:4) 20m

図版 14
遺物 古代の須恵器





044SK (2地点)

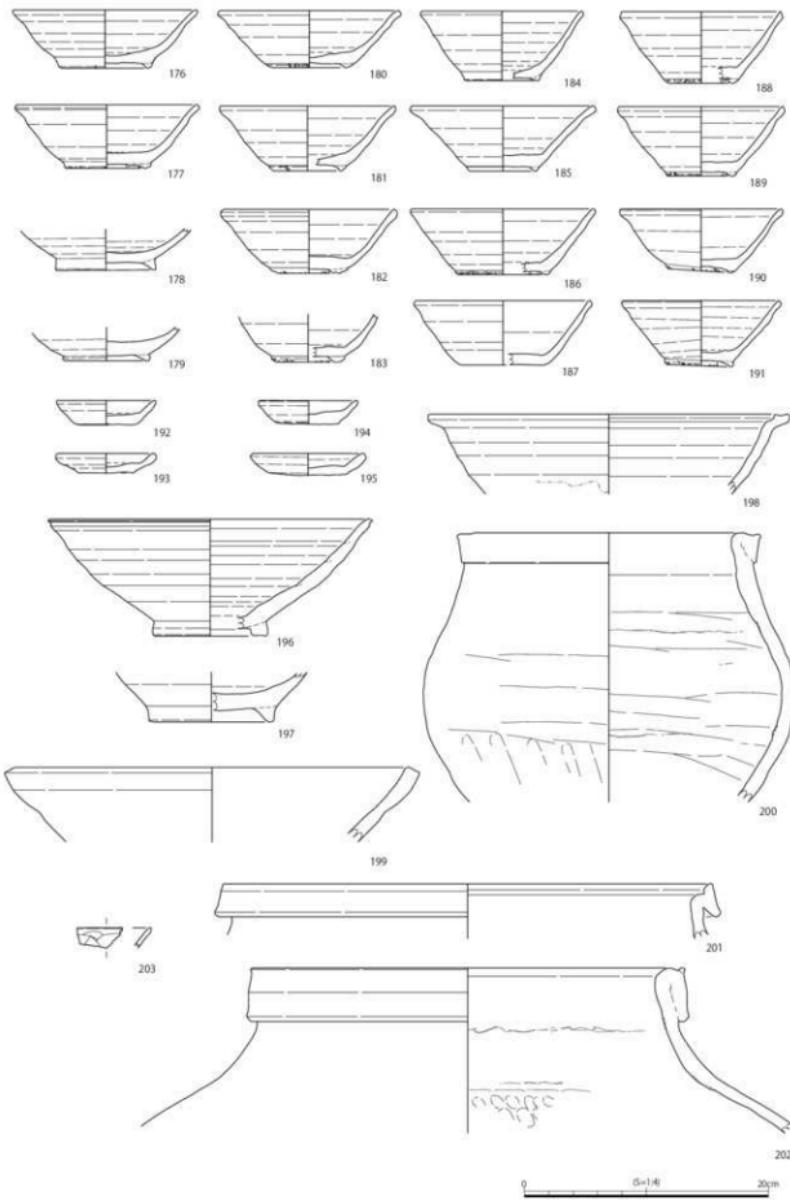


中世遺構 (1地点)

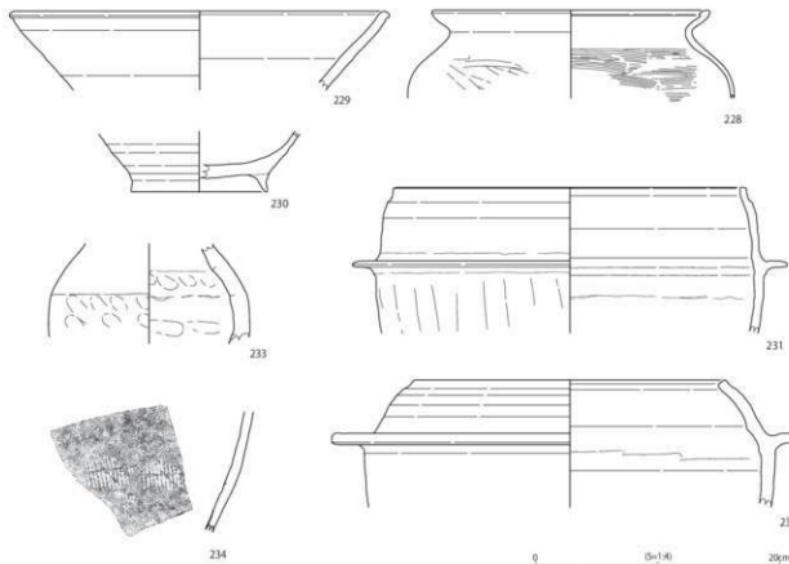
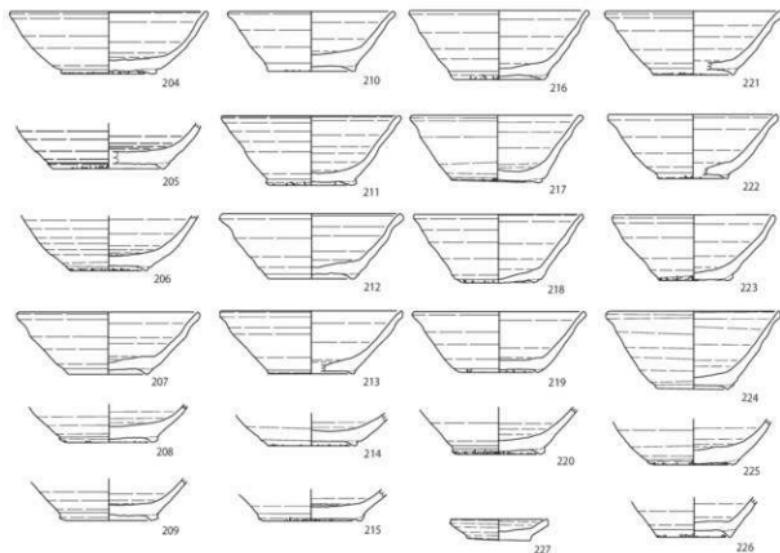
110・190SD (2地点)

0 (S=1:6) 20cm

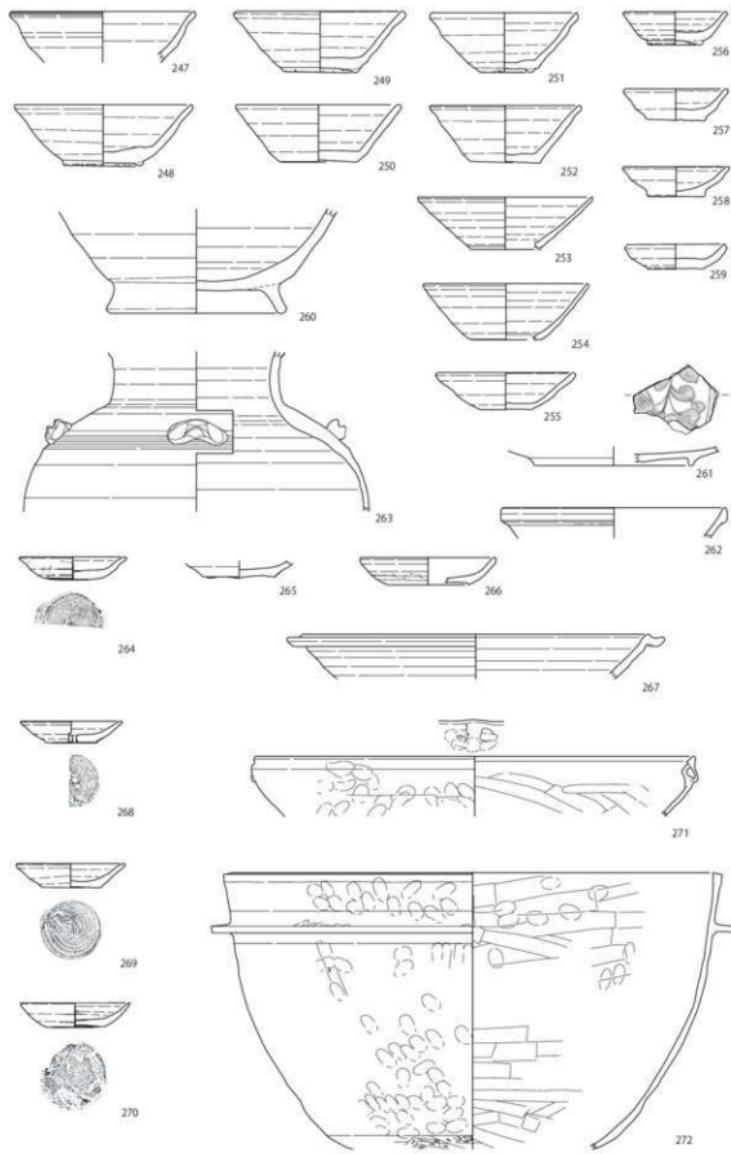
図版 16
遺物 中世の土器・陶磁器2 (160・230SD)



0 (5=14) 20cm



図版 18
遺物 中世の土器・陶磁器 4



0 (5=1:6) 25m

写真図版

写真図版 1 遺構 郷中遺跡（1 地点）



1 郷中遺跡全景（西北から）



2 郷中遺跡東部（東から）



1 郷中遺跡北壁断面（西側）



2 郷中遺跡北壁断面（中央）



3 郷中遺跡北壁断面（東側）

写真図版3
遺構 郷中遺跡（1地点）



1 001SD、005SD、035SD 検出（東から）



2 001SD、005SD、035SD（西北から）

写真図版 4
遺構
郷中遺跡（1地点）



1 035SD、001SD 断面（東南から）



2 021SD、020SD 断面（東南から）

写真図版5 遺構 郷中遺跡（1地点）



1 040SD（西から）



2 040SD 断面（西南から）

写真図版 6
遺構
郷中遺跡（1地点）



1 040SD 検出（東から）



2 002SK（東から）



3 007SK（東から）



4 009SK（南から）



5 060SK（南から）

写真図版7 遺構 煙間遺跡（2地点）



1 煙間遺跡西区全景南西部（北東から）



2 煙間遺跡西区全景北東部（西北から）

写真図版 8
遺構
烟間遺跡（2地点）



1 烟間遺跡東区全景（西北から）



2 烟間遺跡中区全景（西北から）

写真図版9 遺構 煙間遺跡（2地点）



1 煙間遺跡西区北東部検出（西北から）



2 煙間遺跡西区南西部検出（西から）



1 煙間遺跡西区西壁断面



2 煙間遺跡西区北東部東壁断面

写真図版 11
遺構 煙間遺跡（2地点）



1 煙間遺跡中区北壁断面



2 煙間遺跡東区南壁断面



3 煙間遺跡東区東壁断面

写真図版12
遺構 煙間遺跡（2地点）



1 110SD（西北から）



2 110SD 断面（西北から）



1 190SD 検出（東南から）



2 190SD 断面（西から）

写真図版 14
遺構 煙間遺跡（2地点）



1 160・230SD 検出（東から）



2 160・230SD（西から）

写真図版 15
遺構 煙間遺跡（2地点）



1 160・230SD 断面（西南から）



2 160・230SD 断面（東から）



1 170・210SD (東から)



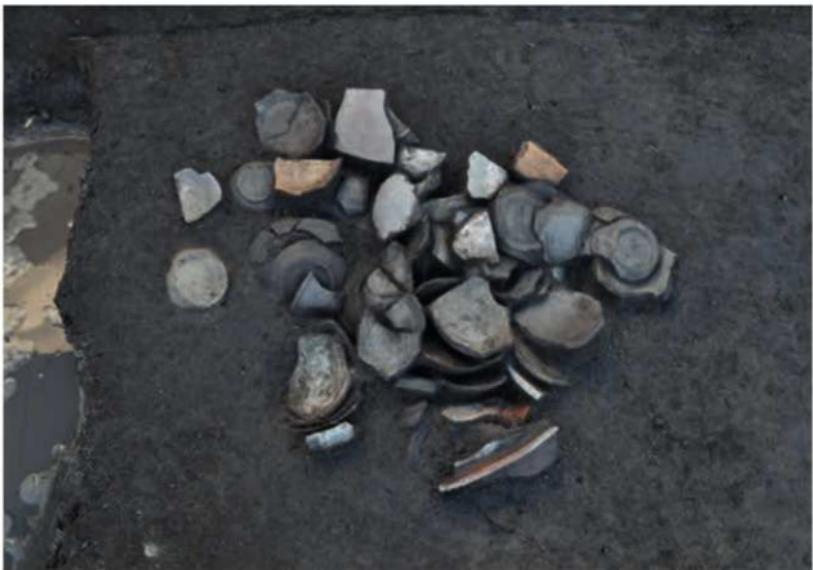
2 170・210SD 断面 (西北から)



1 170SD 下層検出西側屈曲部（東から）



2 170SD 下層検出東側（東から）



1 223SK 遺物出土状況（南から）



2 233SX（南東から）



1 010SK（東北から）



2 010SK 出土土器（北から）



3 146SK 出土土器（南西から）



4 146SK（南西から）



1 東烟遺跡第1面全景（西から）



2 東烟遺跡第1面検出（北東から）



1 東烟遺跡第2面全景（西から）



2 東烟遺跡第2面検出（北東から）

写真図版22
遺構
東烟遺跡（3地点）



1 東烟遺跡南壁断面



2 東烟遺跡西壁断面



1 002・003SD（西から）



2 002・003SD 断面（西から）

写真図版 24
遺物
須恵器・山茶碗ほか



91



204



88



162



102



190



120



191



270



249



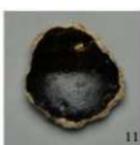
260



251



255





1 縄文晚期から弥生前期の土器



2 弥生中期の土器



3 弥生中期～終末期の土器



1 土師器甕



2 製塙土器



3 須恵器杯 H



4 須恵器碗杯と蓋



1 須恵器鉢、甕ほか



2 灰釉陶器



1 044SK 出土遺物



2 110・190SD、170・210SD、180SD、233SX 出土遺物



223SK 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はたま・ひがしはた・ごうちゅういせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成25年度 煙間・東畠・郷中遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻 次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	宮澤浩司 中村 豪 安部みき子 宮崎泰史						
編集機関	株式会社アコード 名古屋営業所						
所在地	〒 498-0021 愛知県弥富市平島町大脇 12-3-202 TEL 0567-65-6082						
発行機関	愛知県東海市教育委員会						
所在地	〒 476-8601 愛知県東海市中央町1丁目1番地 TEL 052-603-2211						
発行年月日	2015年(平成27年)3月31日						
所収遺跡名	所在地	市町村 コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
煙間遺跡	愛知県 東海市 大田町	23222 43050	35° 1' 11"	136° 53' 42"	2013年 8月26日 ～ 2014年 1月21日	630.17m ²	土地区画 整理事業
東畠遺跡	愛知県 東海市 大田町	23222 43052	35° 0' 59"	136° 53' 50"		25.52m ²	
郷中遺跡	愛知県 東海市 大田町	23222 43122	35° 1' 13"	136° 53' 47"		313.73m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代と遺構	主な遺物		特記事項		
煙間遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器ほか				
東畠遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・中世陶器・石器ほか				
郷中遺跡	集落	弥生時代～中世の柱穴・土坑・溝	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器ほか				

愛知県東海市
平成25年度
畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書

平成27年3月10日印刷
平成27年3月31日発行

編 集 株式会社アコード名古屋営業所
〒498-0021 愛知県弥富市平島町大脇12-3-202
Tel.0567-65-6082

発 行 愛知県東海市教育委員会
〒476-8601 愛知県東海市中央町1丁目1番地
Tel.052-603-2211

印刷・製本 株式会社明新社
〒630-8141 奈良県奈良市南京終町3丁目464番地
Tel.0742-63-0661
